



畿 央 大 学

学生ハンドブック

Handbook for Students

2014





C 棟

エントランスホール、図書館を中心にして、事務室等大学の管理機能と健康栄養学科の実験・実習室を備えた建物です。

L 棟

大中小の講義室と一部実験・実習室もあります。

E 棟

教育学部の実習室や研究室、模擬授業用のオープン教室、講義室を備えています。

D 棟

人間環境デザイン学科用の製図室や実習室、研究室があります。

K 棟

看護医療学科の実習室や研究室、地階には4つの講義室が並んでいます。

P 棟

理学療法学科の実習室、大小の講義室、研究室を備えた建物になります。

R 棟

食堂・売店などがあります。増築により、講義室、人間環境デザイン学科の実習室などを備えた建物になります。食堂の席数も増加します。

G 体育館

アリーナ・小体育室などがあります。

H 棟

冬木記念ホールを中心とした建物で、地階にはキャリアセンターがあります。

畿央大学

学生ハンドブック

Handbook for Students

2 0 1 4

2014年度 授業日カレンダー

注：※印のついた日はキャンパスに入ることできません。■は休講日

4月			5月			6月			7月			8月			9月		
日	曜	内 容	日	曜	内 容	日	曜	内 容	日	曜	内 容	日	曜	内 容	日	曜	内 容
1	火		1	木	③	1	日		1	火	⑪	1	金	⑮	1	月	前期成績・後期学 納金振込票発送
2	水		2	金	④	2	月	⑦	2	水	⑪	2	土	⑮	2	火	
3	木	入学式	3	土	憲法記念日	3	火	⑦	3	木	⑫	3	日	終	3	水	
4	金		4	日	みどりの日	4	水	⑦	4	金	⑬	4	月	⑮	4	木	
5	土	前期オリエンテーション期間	5	月	こどもの日	5	木	⑧	5	土	⑫	5	火	⑮	5	金	
6	日		6	火	振替休日	6	金	⑨	6	日		6	水	⑮	6	土	
7	月		7	水	④	7	土	⑧	7	月	⑫	7	木	⑮	7	日	
8	火		8	木	④	8	日		8	火	⑫	8	金		8	月	
9	水		9	金	⑤	9	月	⑧	9	水	⑫	9	土		9	火	
10	木		10	土	④	10	火	⑧	10	木	補講日	10	日		10	水	
11	金	①授業開始	11	日		11	水	⑧	11	金	補講日	11	月		11	木	
12	土	①	12	月	④	12	木	⑨	12	土	⑬	12	火	追 再 試 期 間		12	金
13	日		13	火	④	13	金	⑩	13	日		13	水			13	土
14	月	①	14	水	⑤	14	土	⑨	14	月	⑬	14	木			14	日
15	火	①	15	木	⑤	15	日		15	火	⑬	15	金		15	月	敬老の日
16	水	①	16	金	⑥	16	月	⑨	16	水	⑬	16	土		16	火	
17	木	①	17	土	⑤	17	火	⑨	17	木	⑬	17	日		17	水	
18	金	②履修登録 変更メ切	18	日	履 修 取 消 期 間	18	水	⑨	18	金	⑭	18	月		18	木	前期卒業式
19	土	②	19	月		19	木	⑩	19	土	⑭	19	火		19	金	
20	日		20	火		20	金	⑪	20	日		20	水		20	土	
21	月	②前期学納金 納入期日	21	水		21	土	⑩	21	月	⑭授業日 (海の日)	21	木		21	日	
22	火	②	22	木	⑥	22	日		22	火	⑭	22	金		22	月	後 期 オ リ エ ン テ ー シ ョ ン 期 間
23	水	②	23	金	⑦	23	月	⑩	23	水	⑭	23	土		23	火	
24	木	②	24	土	⑥	24	火	⑩	24	木	⑭	24	日		24	水	
25	金	③	25	日		25	水	⑩	25	金	⑮	25	月		25	木	
26	土	③	26	月	⑥	26	木	⑪	26	土	⑮	26	火		26	金	①授業開始
27	日		27	火	⑥	27	金	⑫	27	日	終	27	水		27	土	①
28	月	③	28	水	⑥	28	土	⑪	28	月	⑮	28	木		28	日	
29	火	③授業日 (昭和の日)	29	木	⑦	29	日		29	火	⑮	29	金		29	月	①
30	水	③	30	金	⑧	30	月	⑪	30	水	⑮	30	土		30	火	①
			31	土	⑦				31	木	⑮		31	日			

大学での授業は、前期・後期各15回行われます。①～⑫は授業曜日ごとの授業週数を表わしています。⑬⑭週の最終授業期間は、定期試験、平常授業、補講が組まれます。ふだんの時間割と異なることもありますので、この期間の時間割は、前期は7月中旬、後期は1月中旬までに掲示します。

注：補講はふだんの授業曜日・時限に関わりなく6時限目や土曜日、祝日などに実施される場合があります。

10月		11月		12月		1月		2月		3月	
日曜	内 容	日曜	内 容	日曜	内 容	日曜	内 容	日曜	内 容	日曜	内 容
1 水	①	1 土	⑤	1 月	⑨	1 木	元日 ※	1 日	最終授業期間	1 日	
2 木	①	2 日	指定校推薦入試※	2 火	⑩	2 金	※	2 月		2 月	
3 金	②	3 月	⑤ 授業日 (文化の日)	3 水	⑩	3 土	※	3 火		3 火	
4 土	②	4 火	⑥ 履修取消期間	4 木	⑩	4 日		4 水		4 水	
5 日		5 水	⑥	5 金	⑩	5 月	⑬	5 木		5 木	
6 月	②	6 木	⑥	6 土	⑨	6 火	⑬	6 金		6 金	
7 火	② 履修登録 変更メ切	7 金	⑥	7 日		7 水	⑬	7 土		7 土	
8 水	②	8 土	公募推薦入試	8 月	⑩	8 木	⑬	8 日	大学院入試	8 日	
9 木	②	9 日	公募推薦入試	9 火	⑪	9 金	⑬	9 月	追 再 試 験 期 間	9 月	
10 金	③	10 月	⑥	10 水	⑪	10 土	⑬	10 火		10 火	一般入試
11 土	③	11 火	⑦	11 木	⑪	11 日		11 水		11 水	授業日 (建国記念日)
12 日	AO入試 ※	12 水	⑦	12 金	⑪	12 月	成人の日	12 木		12 木	
13 月	③ 授業日 (体育の日)	13 木	⑦	13 土	⑩	13 火	⑭	13 金		13 金	
14 火	③	14 金	⑦	14 日		14 水	⑭	14 土		14 土	
15 水	③	15 土	⑥	15 月	⑪	15 木	⑭	15 日		15 日	
16 木	③	16 日	公募推薦入試	16 火	⑫	16 金	試験会場設営 (休講日)	16 月		16 月	卒業式リハーサル
17 金	歳旦祭準備	17 月	⑦	17 水	⑫	17 土	大学入試センター 試験 ※	17 火		17 火	卒業式・卒業バ ンデー
18 土	歳旦祭	18 火	⑧	18 木	⑫	18 日	大学入試センター 試験 ※	18 水		18 水	
19 日	歳旦祭	19 水	⑧	19 金	⑫	19 月	⑭	19 木	一般入試	19 木	
20 月	グリーンキャンパス 後期学納金納入期日	20 木	⑧	20 土	⑪	20 火	補講日	20 金		20 金	
21 火	④	21 金	⑧	21 日		21 水	一般入試	21 土		21 土	春分の日
22 水	④	22 土	⑦	22 月	⑫	22 木	一般入試	22 日		22 日	
23 木	④	23 日		23 火	⑫ 授業日(天皇誕生日) ☆土曜日の授業	23 金	⑭	23 月		23 月	
24 金	④	24 月	⑧ 授業日 (勤労感謝の日)	24 水	補講日	24 土	⑭	24 火		24 火	後期成績・次年度前期 学納金振込票発送
25 土	④	25 火	⑧	25 木	補講日	25 日	一般入試	25 水		25 水	
26 日		26 水	⑨	26 金		26 月	⑮	26 木		26 木	
27 月	④	27 木	⑨	27 土		27 火	⑮	27 金		27 金	
28 火	⑤	28 金	⑨	28 日		28 水	⑮ 最終 授業 期間	28 土		28 土	
29 水	⑤	29 土	⑧	29 月		※ 29 木	⑮			29 日	
30 木	⑤	30 日		30 火		※ 30 金	⑮			30 月	
31 金	⑤			31 水		※ 31 土	⑮			31 火	

目 次

授業日カレンダー	2
はじめにー学長挨拶ー	6
冬木学園の沿革	7
建学の精神・大学の理念・教育目標	8

<大切なこと>

1. 大学の組織図と窓口受付時間	12
2. 学籍	13
学籍番号	13
学籍情報変更の届出	13
修業年限	13
3. 学籍の異動	14
休学・復学・退学	14
除籍・再入学・転学部・転学科	15
留学	15
4. 学納金	16
授業料等	16
納入方法	17
5. 大学からの連絡・情報提供	18
掲示板、Web掲示、メールを必ずチェック	18
KITss、CEAS/Sakaiによる情報サービス	18
畿央大学HP・KIO Smile Blog・KIO キャリアナビ・各種広報誌	19

<畿央大学での学び>

1. 大学で学ぶということ	22
授業科目の構成	22
特色あるカリキュラム	24
科目の必修と選択	25
資格必修科目	25
セメスター制	26
単位制度と学修時間	26
履修登録制限（CAP制）	26
2. 履修登録	28
履修登録の注意点	28
シラバス	28
履修の変更・履修の取消	29
履修の変更と取消の手續と注意	29
3. 授業	31
授業時間	31

受講上の注意	31
出席・欠席・遅刻・早退・欠課	32
学生証による出席確認	32
公欠・忌引	33
欠席連絡	35
休講、補講、集中講座、教室変更	35
暴風・特別警報発令、交通機関不通の 場合の授業（試験）の取り扱い	36
4. 学外実習について	38
学外実習履修の条件	38
実習交通費の補助	38
学外実習スケジュール	39
5. 試験	41
平常試験	41
定期試験	41
追試験	42
再試験	44
追試験・再試験受験申請についての注意	44
レポート・作品	45
6. 成績	46
成績評価	46
GPA	46
成績通知	47
成績に関する申し立て	47
7. 卒業要件	48
卒業要件	48
既修得単位の認定について	48
放送大学との単位互換	48

<畿央大学での暮らし>

1. 学生生活	52
学生証	52
証明書発行	53
通学方法について	54
学生旅客運賃割引証	55
奨学金	55
学生保険制度	59
貸ロッカー	62
郵便物・電話・学内放送	63
拾得物・盗難	63

アルバイト	64
下宿紹介・借り上げ女子マンション	64
悪徳商法などの被害について	65
カルト集団に注意	65
2. キャンパスライフを快適に	66
ルールを守り、マナーを大切に	66
ネットコミュニケーションの注意点	68
ハラスメントの防止	69
3. 課外活動	71
畿友会	71
畿央祭実行委員会	72
KiPT (Kio Performance Team)	72
クラブ・サークル	72
ボランティア活動(ボランティアセンター)	73
4. 施設の使用	75
施設の使用について	75
申し込みが不要な施設	76
申し込みが必要な施設	76

<畿央大学の学生サポート>

1. サポート体制	80
2. 学修支援	80
図書館	82
ラーニングサポートセンター	86
3. 進路支援	89
進路支援の流れ	89
キャリアセンター	90
教採・公務員対策室	94
資格対策講座	96
4. 健康支援	97
健康支援センター	97
定期健康診断	98
健康支援システム	98
AEDの設置	99

<カリキュラム表>

カリキュラム表	102
理学療法学科	102
看護医療学科	114
健康栄養学科	127
人間環境デザイン学科	143
現代教育学科	159

<取得できる資格とその要件>

取得できる資格とその要件	184
理学療法学科	184
看護医療学科	186
健康栄養学科	196
人間環境デザイン学科	203
現代教育学科	224

<規程集>

畿央大学学則	272
理学療法学科 内規	281
看護医療学科 内規	282
健康栄養学科 内規	283
人間環境デザイン学科 内規	284
現代教育学科 内規	286
履修に関する規則	290
授業に関する規則	291
試験に関する規則	294
学納金納入規則	297
転学部及び転学科に関する規則	298
再入学規則	298
学生懲戒規程	299
図書館規則	302
情報ネットワークシステム利用規則	305
情報セキュリティ実施細則	306
ハラスメントの防止等に関する指針	309
ハラスメントの防止等に関する規則	313
畿友会 会則	316
畿桜会 会則	319
<学歌・応援歌>	
学歌	322
応援歌	324

はじめに

学 長

冬 木 智 子



大和し美わしと詠まれたこの地に、晴れの入学を果たした畿央大学の皆さんに
ひとことご挨拶申し上げます。

「表情」とは、人間の心が表面の顔としてあらわれていることを示す言葉ではない
でしょうか。文字にはそれなりの意味があると考ええると、改めて興味深いもの
です。涙を浮かべた悲しい表情、嬉しい笑顔、怒りを秘めた暗い目、そのどれも
が動物にはない、人間にのみ与えられた様相であります。ソチオリンピックが開
催されていた最中は恐らく世界中に、選手たちの歓喜とそして無念の涙を流す表
情が放映されていたわけですが、それは改めて、動物の中でも人間にのみ
与えられている崇高な姿であったと思います。

以前、ある機会に「人間の遠吠え」という話を聞いたことがあります。森林の
中で捨てられていた人間の子供が動物によって育てられ、そのまま幼児期になっ
た時、動物の遠吠えを発していたとのことです。人間としての身体を備えていて
も、育ち方によっては心を伝える方法を知らずに終わることもあることを思うと、
そのことを学ぶことが如何に大切であるかが端的に理解出来るのであります。人
間として生まれている以上、社会生活を豊かに構成するための知識や技術を修得
する必要性を痛感せざるを得ないのであります。

本学園創立以来の歴史を築きつつある畿央大学生の皆さんには、人間として生
きる甲斐のある人格を形成するのは豊かな学生生活であることを強く意識し、努
力を重ねて頂きたいと思います。建学の精神を遵守し、社会に貢献し得る実力を
養って頂くことを希望しております。

冬木学園の沿革

1946年	5月	冬木文化服装学院開校
1964年	1月	学校法人冬木学園設立
	4月	桜井女子高等学校開校
1966年	4月	桜井女子短期大学（家政科）開学
1967年	4月	桜井女子短期大学児童教育科開設
		家政科を服飾専攻と食物栄養専攻に分離、栄養士養成課程を設置
1979年	4月	桜井女子短期大学附属幼稚園開園
1982年	4月	家政科を生活科学科に、児童教育科を児童教育学科に改称し、コース制を採用
1992年	4月	生活科学科・服飾専攻を生活科学科・生活科学専攻に改称
1993年	4月	専攻科（生活科学専攻）開設
1999年	4月	桜井女子高等学校を関西中央高等学校に校名変更
2000年	11月	保育士養成校認可
2003年	4月	畿央大学（健康科学部）開学
		桜井女子短期大学を畿央大学短期大学部に校名変更し、生活科学科募集停止
2006年	4月	畿央大学教育学部現代教育学科開設
2007年	3月	畿央大学短期大学部廃止
	4月	健康科学部健康生活学科健康栄養専攻を健康栄養学科に、健康生活学科人間環境デザイン専攻を人間環境デザイン学科に改組
		畿央大学大学院健康科学研究科修士課程開設
		畿央大学健康科学研究所開設
2008年	4月	畿央大学健康科学部看護医療学科開設
2009年	4月	畿央大学大学院健康科学研究科博士後期課程開設
2012年	4月	畿央大学助産学専攻科開設
		畿央大学現代教育研究所開設
2013年	4月	ニューロリハビリテーション研究センター開設
2014年	4月	畿央大学大学院教育学研究科修士課程開設

❖ 建学の精神・大学の理念・教育目標 ❖

1. 畿央大学の建学の精神とその展開

学校法人冬木学園は建学の精神として「徳をのぼす」「知をみがく」「美をつくる」の3つの理念を掲げていますが、畿央大学の建学の精神も同じです。これは、豊かな人間性を追究することこそが教育の最終目標であるとする考え方に立ち、創立以来一貫して精神的支柱とし、すべての教育活動の中で大切にしてい取り組んできたものです。

徳をのぼす

住みよい社会をつくるためには、まず個々に敬愛の念をもち、お互いの幸せを願い、恵みを与えあう心を養わなければならない。すなわち小さい徳を積み、社会を潤していく精神を養う。

知をみがく

人間の進歩向上とは、自己の才能を最大限に練磨することである。知識欲を失えばただ退歩あるのみである。私達はあくことなく頭脳を磨き、励まし合い、研究的な態度を養う。

美をつくる

すべての優れた技術はこの世の中にすばらしい美の贈り物をすることができる。美しいものは見る者の心を澄まし、喜びとやすらぎを与えてくれる。私達の手で、ひとつでも多く、日々新しいものを創造していく。

この建学の精神をもとに、具体的な教育目標としては次のように掲げています。
「徳をのぼす」 豊かな人間性、コミュニケーション力と思いやりの心を身につけます。

「知をみがく」 科学的認識に支えられた知性とたゆまぬ探究心を培います。

「美をつくる」 豊かな感受性をもち創造する力を磨きます。

そして畿央大学では、開設以来「やさしさをチカラに変える」というキャッチフレーズを使用していますが、これは建学の精神を基盤としながら畿央大学のめざすところを表現したもので、畿央大学の社会への約束として今後も大切にしていきたいと考えています。

2. 教育理念と教育目標

健康科学部

健康とは「単に病気でない、虚弱でないというだけでなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも健全な状態であること」と定義されています。つまり健康はすぐれた医療による身体的健康、精神的な健康と、衣・食・住に代表される生活環境が整って初めて成立するものなのです。健康科学部では人間の身体と健康についての科学的視点や高い専門的技術を養うことと合わせて、建学の精神に則り、豊かな人間性をもち、人の心の痛みに共感することができる人材を育むことを目標としています。

理学療法学科

理学療法の深い専門的知識と高い技術を修得すると同時に、医療従事者として人間の尊厳、生命への畏敬を理解し、人間を総合的に理解できる幅広い教養と倫理観を持った徳性のある理学療法士を育成します。

看護医療学科

理学療法学科、健康栄養学科、人間環境デザイン学科とのコラボレーションによって、幅広い視点で健康を支える看護師および保健師を育成し、乳幼児から高齢者までの健康な暮らしの実現に貢献します。

健康栄養学科

食物と食生活を取り巻く問題を総合的にとらえ、健康のために望ましい食生活と、ライフスタイルの在り方を解明する教育研究を行い、高度な専門知識を有し、総合的な問題解決型の人材を育成します。

人間環境デザイン学科

幼児や高齢者、障がい者をはじめすべての人間が健康で豊かに生活できる環境を創造する人材を育成します。

教育学部 現代教育学科

現代的教育課題への対応を背景として、個人、家庭、学校および職域を含む地域社会全体の教育力の向上発展に寄与することをめざします。1年次において、教育学の基礎理論および教育対象である人間の心身の発達について基礎的な諸学を学ぶとともに、現代的教育課題の基本的認識について学修します。教育に携わる者に必要な基本的内容を学んだ上で、教員をはじめ各種教育関係の専門的資格の取得とともに、現代的教育課題に対して取り組む専門的な知識とスキ

ルを持つ教育専門家としての人材育成を行い、「専門職業人」を養成する機能を重点的に果たすことをねらいとします。また併せて、教育の現代的課題に取り組むその実践において地域社会を教育・研究のフィールドとし、地域社会と連携することにより「社会貢献機能」を果たしていきます。

3. 畿央大学の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

畿央大学は生命の尊厳を基盤に、豊かな人間性と徳性を培い、専門的知識と的確な技術をもって地域社会及び国際社会に貢献する人材を養成することを目指とする。そこで、畿央大学での学びで以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した者に学士の学位を授与する。

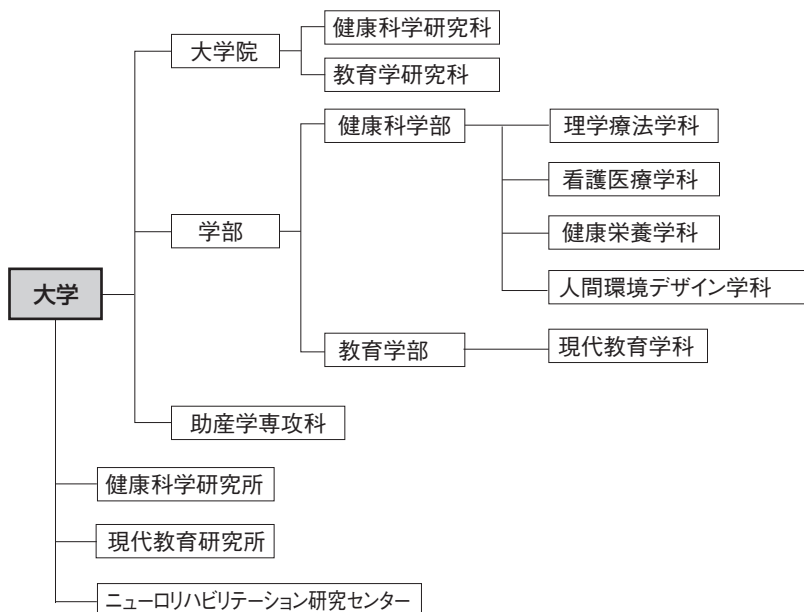
1. 生命に対する深い畏敬の念と倫理観をもち、幅広く豊かな教養を備え、社会で活動できる。
2. 人間を総合的に理解し、修得した専門的知識と技術をもって健康と教育に関する諸課題に適切に対応できる。
3. 地域の特性に主体的に対応し、地域の諸機関と連携・協力して地域の諸資源を活用できる。
4. 健康と教育に関する諸課題を分析評価し、問題解決を図ることができる。
5. 国際化に対応した視野をもって、健康問題・教育問題を科学的・創造的に研究できる。

「畿央大学」という名称について

畿央大学の畿とは、中国の古語で帝都より500里以内の地域を意味し、わが国においては古くより大和・山城・和泉・河内・摂津の五国を指し、「近畿」、「畿内」等の語源となりました。本大学はまさしくその地域の中央部に位置します。「大和は国のまほろば」と詠われたように日本人の心のふるさとして親しまれてきたところであり、長らく日本の政治・経済の中心としてアジアとの交流の歴史を有するところでもあります。このような歴史的、文化的条件を生かし、高等教育機関として地域の要となる内容を持ち、広く日本および世界に羽ばたく人材を養成したいという意味が、畿央大学という名前にこめられているのです。

大切なこと

1. 大学の組織図と窓口受付時間



大 学	事務室	学生支援センター	(月～金) 8:40～18:00 (土) 8:40～17:00
		ボランティアセンター	
		入学センター	
		企画部	
		総務部	
		キャリアセンター	(月～金) 8:40～18:00 (土) 8:40～17:00
		健康支援センター	(月～金) 10:00～18:00
		キャンパスコラボレーションセンター「ここらぼ」	(月～金) 10:00～18:00
		図書館	(月～金) 9:00～20:00 (土) 9:00～18:00 授業がない期間は異なります。
		ラーニングサポートセンター	(月～金) 8:40～18:00 (土) 8:40～17:00

2. 学 籍

学籍は本学の学生としての身分を意味します。学籍は所定期日までに入学手続きをすることによって発生し、学費を納入することによって継続し、通常は卒業により終了します。

■学籍番号

学籍番号とは学生証（ICカード）に記載されている7桁の数字です。この番号は試験や諸届等、すべての手続きに必要となりますので正確に覚えておきましょう。学籍番号は次のような仕組みになっています。

14 21 321

① ② ③

① 入学年度 西暦の下2桁

② 学科コード2桁

理学療法学科 11 看護医療学科 14

健康栄養学科 12 人間環境デザイン学科 13

現代教育学科 21

③ 個人番号3桁

■学籍情報変更の届出

学生または保証人の住所など、以下の事項に変更があった場合は、速やかに学生支援センターに申し出て変更の手続きをしてください。

学 生：氏名・住所・電話番号・帰省先・下宿先

保証人：氏名・住所・電話番号

■修業年限

修業年限は4年とし、在学年数は8年を超えることはできません。3年次編入の修業年限は2年とし、在学年数は4年とします。

3. 学籍の異動

休学・退学等を願い出る場合は、必ず担任に相談のうえ、学生支援センターで申請手続を行ってください。

■休学

疾病その他やむを得ない事由により3カ月以上修学できない場合、学長の許可を得て休学することができます。

学生支援センターで休学願を受け取り、必要事項を記入し、下記の申請期日までに必要書類を添えて学生支援センターに提出してください。許可されれば「休学許可書」「復学願」等を保証人宛に送付します。

休学を許可された場合の在籍料は授業料の半額とし、前期は4月20日まで、後期は10月20日までに納入しなければなりません。ただし、入学年度の前期に休学した場合は、授業料等は返還しません。また、申請期日以降、当該学期中においての休学も認められますが、その場合は授業料等を納めなければなりません。

事 由	必要書類	休学申請期日	休学の認められる期間
病 気	医師の診断書	3月31日	前 期(4月1日～9月15日)
大学が必要と認めた場合	大学から指示された証明書	9月15日	後 期(9月16日～3月31日)

[留意点]

- ・休学期間が満了しても休学事由が解消しない場合は、休学期間の延長を願い出ることができます。ただし、連続して1年以内に限りです。
- ・休学期間は通算して3年以内です。なお、休学期間は在学期間に算入しません。

■復学

休学中の者が復学を願い出る場合は、復学願に必要事項を記入し、下記の手続期間内に学生支援センターに提出してください。許可されれば「復学許可書」を保証人宛に送付します。

復学の時期は、学期始めとします。なお、当該学期中においての復学も認められますが、その場合は授業料等を納めなければなりません。

復学手続期間

前期復学（3月1日～3月15日） 後期復学（9月1日～9月15日）

■退学

事情により退学を願い出る場合は、まず担任に相談のうえ、学生支援センターで退学願を受け取り、退学願に必要事項を記入し学生証を添えて学生支援セン

ターに提出してください。許可されれば「退学許可書」を保証人宛に送付します。

■除籍

除籍とは以下の事由により学籍を失うことです。

事 由	内 容
学費未納	学費納入期日を超えても納入されないとき
在学年数超過	在学年限を超えても卒業できないとき（学長が認めた者を除く）
休学期間満了	休学期間満了までに、休学の延長、復学、退学の手続のないとき
休学期間超過	休学期間が通算して3年を超えるととき
その他	死亡及び長期にわたり行方不明のとき

■再入学

再入学を希望する者は、所定の期日までに再入学願を提出すれば、選考の上、教授会の議を経て、入学を許可されることがあります。再入学を出願できる学部・学科は原則として在籍していた学部・学科とします。

再入学出願期日

前期への再入学の場合 前年度の1月31日まで

後期への再入学の場合 当該年度の7月31日まで

再入学には、入学金の納入が必要です。

■転学部・転学科

転学部・転学科を希望する者は、転学部・転学科願を提出し、審査を受けることができます。転学部・転学科に関する詳細については、転学部・転学科に関する規則（P.298）をご覧ください。

転学部・転学科の時期は4月1日とし、出願期間は前年度の10月1日から10月31日までです。なお、転学科した場合の転入年次は、理学療法学科、看護医療学科、健康栄養学科は1年次、人間環境デザイン学科、教育学部は1年次または2年次を基本とします。

■留学

本学が協定または認定した外国の大学または短期大学で学修することを希望する場合は、留学願に必要事項を記入し、学生支援センターに提出してください。許可を得て留学した期間は、修業年限に含めることができます。

4. 学納金

学納金とは、入学金、授業料、教育充実費、その他の納付金を指します。それぞれの額は学則にて定められており、このうち授業料及び教育充実費（授業料等）を納入しない場合は、除籍の対象となり学生の身分を失うことになります。その他の納付金は、証明書手数料などの諸費用、手数料等でその都度に納入する必要があります。

前期・後期の2回に分けて納入する授業料等と諸会費（後援会費等）の金額と納入方法は次のとおりです。

■授業料等

平成25・26年度入学生

〔前期〕

学 部	学 科	前期納付額	授業料	教育充実費	諸会費
健康科学部	理学療法学科	800,000	430,000	340,000	30,000
	看護医療学科	800,000	430,000	340,000	30,000
	健康栄養学科	660,000	430,000	200,000	30,000
	人間環境デザイン学科	585,000	430,000	125,000	30,000
教育学部	現代教育学科	585,000	430,000	125,000	30,000

〔後期〕

学 部	学 科	後期納付額	授業料	教育充実費
健康科学部	理学療法学科	770,000	430,000	340,000
	看護医療学科	770,000	430,000	340,000
	健康栄養学科	630,000	430,000	200,000
	人間環境デザイン学科	555,000	430,000	125,000
教育学部	現代教育学科	555,000	430,000	125,000

平成21～24年度入学生

〔前期〕

学 部	学 科	前期納付額	授業料	教育充実費	諸会費
健康科学部	理学療法学科	785,000	425,000	330,000	30,000
	看護医療学科	760,000	425,000	305,000	30,000
	健康栄養学科	645,000	425,000	190,000	30,000
	人間環境デザイン学科	565,000	425,000	110,000	30,000
教育学部	現代教育学科	565,000	425,000	110,000	30,000

〔後期〕

学 部	学 科	後期納付額	授業料	教育充実費
健康科学部	理学療法学科	755,000	425,000	330,000
	看護医療学科	730,000	425,000	305,000
	健康栄養学科	615,000	425,000	190,000
	人間環境デザイン学科	535,000	425,000	110,000
教育学部	現代教育学科	535,000	425,000	110,000

■納入方法

前期分は3月24日に、後期分は9月1日に、保証人宛に納付書を送付します。
送付された納付書を用いて以下の納入期限までに所定の銀行へ振り込んでください。
納付書を紛失したり、到着しない場合は学生支援センターにお申し出ください。

納入期限	前期分	4月20日まで
	後期分	10月20日まで

納入期限までに納入することができない場合は、事前に「延納許可願」を学生支援センターに提出してください。延納を許可された場合は、次の期日まで延納することができます。

延納期限	前期分	6月30日まで
	後期分	12月20日まで

また、事情により一部を納入できない場合は「分納許可願」を学生支援センターに提出してください。分納を許可された場合は、次の期日までに納入することができます。(2回均等分割)

分納期限 前期分（第1回）5月31日（第2回）6月30日
後期分（第1回）11月20日（第2回）12月20日

※延納または分納手続を行わず、納入期限をすぎても未納の場合、除籍となります。必要な場合は、必ず期日までに所定の手続を行ってください。

5. 大学からの連絡・情報提供

■ 掲示板、Web掲示、メールを必ずチェック

大学から学生への重要な伝達・連絡は学内に設置された掲示板への掲示とKiTss（総合支援システム）のトップページへの掲示により行います。掲示事項を見なかったために受ける不都合は自分の責任になるので十分注意してください。

なお、学生への便宜をはかるため、内容によっては大学が学生に付与したアカウントにメールを送ることによって連絡し

ます。また、授業に関する授業担当教員からの連絡は、CEAS/Sakai（授業支援システム）のトップページへの掲示または、メールによって行ないます。1日1回は、必ずチェックしましょう。



■ KiTss、CEAS/Sakaiによる情報サービス

畿央大学では大学からの連絡や情報をいつでも見ることができるようWebシステムのKiTss（総合支援システム）、CEAS/Sakai（授業支援システム）による情報提供を行なっています。大学ホームページのトップページからアクセスすることができます。

[KiTss]

KiTssでは、大学事務局からの重要な連絡事項をトップページの掲示板で確認できるほか、次のような情報を見ることができます。

メニュー	内容
履修	履修登録、時間割の確認ができます。
成績	現在の成績の状況を確認できます。
休講・補講・教室変更	休講・補講・教室変更を確認できます。メールでも案内します。
出欠管理	授業への出欠の状況を確認できます。
シラバス	学科ごとの科目一覧からシラバスを閲覧できます。
試験情報	定期試験の実施科目、試験時間割などが掲示されます。
就職支援情報	大学への求人情報を検索できます。

オフィスアワー・教員紹介	各教員のオフィスアワーを案内しています。教員の紹介も閲覧できます。
施設・設備予約状況	学内施設・設備の予約状況を確認できます。(申し込みは窓口)
ボランティア情報	ボランティアセンターからのお知らせ、ボランティア情報を案内します。
畿友会・クラブ	畿友会、クラブ・サークルの紹介や連絡を確認できます。
IT使いこなしガイド	KiTss、CEAS/Sakai、学内のIT機器などの利用方法を掲載しています。
学生ハンドブック	学生ハンドブックのPDFファイルを見れます。
アルバイト情報	アルバイト求人情報を閲覧できます。

[CEAS/Sakai]

CEAS/Sakaiを使って、次のようなことができます。

- ・授業担当教員、担任からの連絡事項の確認（トップページの掲示板、内容によってはメールにも配信されます。）
- ・担当教員からの授業資料の提供
- ・授業での課題等の提出
- ・教員が出したアンケートへの回答



■畿央大学HP・KIO Smile Blog・KIOキャリアナビ

畿央大学ホームページ（<http://www.kio.ac.jp>）では大学の行事のお知らせやその結果についての情報を随時更新して掲載しています。KIO Smile Blog(<http://www.kio.ac.jp/information>)・KIOキャリアナビ(http://www.kio.ac.jp/job_blog/)では授業やクラブ・サークル活動の様子、就職活動や教員採用試験経験者の生の声を随時掲載しています。

■各種広報誌

畿央大学図書館だより

大切な1冊を教員が推薦する巻頭エッセイをはじめ、教員著作物の紹介、図書館を活用するための特集、貸出ベスト10、図書館からのお知らせなどを掲載し、新鮮さにもこだわる読みやすいものとなっています。大学ホームページの

畿央大学図書館のTOPページからバックナンバーもご覧いただけます。

ボランティアセンター NEWS

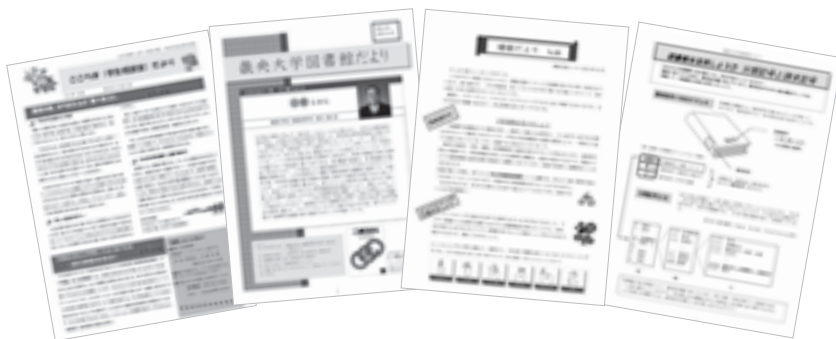
学生のボランティア活動の様子を紹介、ボランティア情報の紹介などを通じてボランティアセンターの取り組みを学内向けに発信しています。

健康だより

「健康情報」「身近な話題」「保健行事の連絡・保健指導の資料」など、自分の身体や健康について関心を持ち、健康な生活を送ることができる内容を伝えるのが目的です。何かあったらいつでも、一緒に考えましょう。

こころばだより

メンタルヘルスに関するコラムでは、キャンパススケジュールや季節に応じた身近な話題をテーマに、自分らしく充実した学生生活を応援する情報をお届けします。また、こころばの利用状況やニュース、相談員の紹介や利用案内など、こころばをより身近に感じていただけるような内容を発信しています。



畿央大学での学び

1. 大学で学ぶということ

畿央大学では、建学の精神を身につけ、専門的能力と豊かな人間性をかねそなえた人材を社会に送り出したいと考えています。それを可能にする4年間の学びのプログラムを教育課程（カリキュラム）と言います。ここでは畿央大学の教育課程について紹介します。

■ 授業科目の構成

人間力をつける 教養科目

これからの時代に求められるのは自らより良い生き方を実現しようという意志と、そのために必要な知識、判断力、行動力です。その基盤となる教養を身につけるために、畿央大学では「人間と社会」「歴史と文化」「自然・科学と人間」「言語と情報」「健康とスポーツ」についての教養科目を用意しています。合わせて基礎的な学びのスキルを学修する「教養実践プログラム」を設けています。



基礎をきたえる 専門基礎科目

それぞれの学科の専門的な内容を理解するために必要な基礎知識や実験手法、技術を身につけるための科目群です。一部の科目を除いては1年次、2年次に開講されます。畿央大学ではどの学科も、高度なスキルを持ったスペシャリストの養成をめざしていますが、そのためにはこの専門基礎の内容をしっかりと理解することが必要です。



スペシャリストになる 専門科目

専門基礎科目で得た知識・技術をもとに、各学科の専門領域の知識・技術を身につけます。一部の科目は1年次から始まりますが、主に2年次・3年次に開講されます。卒業後、それぞれの分野で専門家として働くときに必要とされる知識・技術であると同時に、国家試験、採用試験合格のためにも完全マスターすることが求められるものです。



学外実習（健康科学部）

理学療法学科、看護医療学科、健康栄養学科では主に3年次・4年次に病院や福祉施設、学校等での実習を行い、人間環境デザイン学科ではインターンシップに取り組みます。専門科目で学んだ知識・技術が試され、またプロになるということはどういうことかを実感します。



学外実習（教育学部）

教員免許状や保育士資格を取得するために学校、幼稚園、保育所、福祉施設等での実習に取り組みます。大学で学んだことが現場で試されることになります。



がんばりが花開く

卒業研究

対象を科学的にとらえる態度、洗練された技術を身につけるために、4年間の学びの集大成として取り組みます。3年次から指導教員を決め、その個別指導のもとにテーマを設定し、実験やデータ分析を繰り返し、論文作成や作品制作、プレゼンテーションの準備を進めます。11月～2月にかけて学科ごとに研究発表会を行い、また成果物を提出します。

畿央大学教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

畿央大学では「徳をのばす」「知をみがく」「美をつくる」を教育の基本理念に置き、高潔な人格と幅広く高度な専門的知識・技術を身につけ、以て地域社会及び国際社会に貢献できる有為な人材を育成するために必要な授業科目を精選し、体系的に学修できるように編成している。教育課程編成の方針は以下のとおりである。

1. 4年間を8セメスターに分け、セメスターごとに評価をすることで、体系的に修得させる。
2. 教育課程を大きく教養科目群と専門科目群に分ける。
3. 教養教育において生命の尊さやその在り方について基本的な認識と価値意識を培うため、「生命倫理」を全学必修科目とする。
4. 専門科目群は「専門基礎科目」「専門科目」からなり、それぞれの学科の人材養成の目的を達成できるよう体系的に科目を配置する。
5. 専門科目群の理解を深め実践力を養うため、実験・実習・演習を重視し数多く配置する。
6. 理論と実践の一体的理解を図るため、学外実習・インターンシップ・ボランティア活動を充実させる。
7. 長期休暇を利用し、フィールドワークや集中講義を実施する。

■特色あるカリキュラム

【初年次教育】

大学での学び方を知るために「ベーシックセミナー」を1年次に開講します。自分でテーマを設定して、調べ、まとめて、発表するという参加型の授業です。「日本語と表現」では、文章表現力をみがきます。また専門科目に必要な基礎学力を身につけるために「看護へのベーシックサイエンス」などの専門準備科目を設置しています。

【キャリア教育】

キャリア形成とは単に自分に合った職業につくだけでなく、自分の一生の生き方を見つけることです。畿央大学では1年次から「キャリア入門セミナー」「キャリア形成セミナー」で社会生活をおくる上で必要なルールやマナー、コミュニケーション力を身につけ、そして、現職の社会人の話を聞いたり職場訪問をするなど、職業についての理解を深めます。一方、キャリアセンターが提供する多彩なプログラムで希望の進路先への就職を実現すると同時に、大学のすべての授業、課外活動を通じて人生の生き方・ものごとの考え方を学びます。

【語学教育】

「英語コミュニケーション」では基礎的な英語力を、「オーラルコミュニケーション」ではネイティブスピーカーから実践的な語学力を学びます。「短期語学留学」では夏季休暇期間にイギリスへの短期留学を実施しています。

卒業研究に向けて英語論文を読みこなすことも必要です。そのために「科学英語論文講読法」「外書講読」などを設置しています。第二外国語としては、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、韓国語等を放送大学との単位互換で学ぶことができます。

【情報教育】

「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」を必修科目として設置し、情報の仕組み（システム）や情報モラルについて学びます。また人間環境デザイン学科には「コンピュータグラフィック」や「建築CAD」、教育学部には「DTP（コンピュータでの印刷物編集）実践」などがあり、専門分野の情報スキルを学びます。

■科目の必修と選択

<必修科目>

必ず履修し、単位を取得しなければならない科目です。その年次に配当されている必修科目の単位を落とすと、上回生になってからは、時間割上受講できなかったり、専門の勉強に集中しなくてはなりませんので、必修科目は配当年次に単位を取ることが大原則だと思ってください。

<選択必修科目>

選択必修科目は、複数の科目群の中からある単位数以上を取ることが義務付けられているものです。たとえば教養科目群についていうと、2014年度入学生は「人間と社会」や「歴史と文化」などの6区分で各1科目以上を取得し、合計で26単位以上を取得することが卒業要件となっています。合計の単位数を超えていても、各区分ごとの最低単位数という条件も満たさないと卒業できませんので注意が必要です。

<選択科目>

選択科目は、自由に履修することができます。必修科目と選択必修科目、選択科目を合わせて全部の単位数が卒業要件単位数（学科によって124～132単位）以上になるように履修してください。

<推奨科目>

卒業要件からいうと必修ではありませんが、本学としてぜひ履修して欲しい科目を推奨科目と呼んでいます。

■資格必修科目

卒業するために必要な必修科目・選択必修科目以外に、資格や免許取得のために必須とされている科目があります。

理学療法学科と看護医療学科では卒業要件を満たせば自動的に、理学療法士、看護師の国家試験の受験資格を得ることになります。言い換えれば、国家試験受験資格の取得が卒業要件の一つなのです。健康栄養学科では同じく栄養士資格取得が卒業要件になっています。人間環境デザイン学科と現代教育学科は、資格や免許を取らなくても卒業することができます。しかし希望する資格・免許状を取得するために必要な科目は、その学生にとっては必修科目ということになります。

P.184からは各資格・免許ごとに必要な科目のリストが掲載されています。よく調べた上で履修登録をしてください。特に、卒業要件としては選択科目、資格取得には必修科目という場合をチェックすることが重要です。

■セメスター制

セメスター制とは、一つの授業を学期（セメスター）ごとに完結させる制度のことです。畿央大学では、1年を前学期・後学期の2学期に分け、学期ごとに学修を完結させ単位を認定します。半年で集中して勉強ができること、半年ごとに学修成果の確認と新たな目標設定ができるのが、セメスター制の大きなメリットです。学則では前学期は4月1日～9月15日、後学期は9月16日～3月31日まで、となっていますが曜日の関係や学外実習の都合もあって、実際の授業開始日は毎年異なります。詳細は授業日カレンダーを参照してください。

■単位制度と学修時間

大学では、毎週90分授業（講義・演習）を半年で15回受講すると2単位が与えられるというのが一般的ですが、科目によっては1単位の場合もあります。実験・実習・実技科目は1単位が原則です。

大学の授業で「1時間」と言えば実際は、45分をさしています。1コマ90分（2時間分）の授業を半年（15回）受けて成績が「可」以上だと2単位取得できる科目が標準的です。一方、大学設置基準には「1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもつて構成すること」が標準だという定めもあります。これはどういう意味でしょうか。

＜講義＞ 45分（1時間）×2＝90分（2時間）を15回（30時間）で2単位

＜大学設置基準＞ 2単位には本来45時間×2＝90時間の学修が必要

＜必要な授業外の学修時間＞ 90時間 — 授業時間の30時間 ＝ 60時間

つまり、事前・事後の授業以外の学修をしていることが前提で2単位が取得できるということです。「レポート提出が多いのでバイトができない」「時間外に調べたりまとめたりする作業があるので自由時間が少なくなる」という声もあります。が授業時間以外での学びがあってこそ単位が取得できるということを認識してください。

最近大学教育において「主体的な学修」「質を伴った学修時間の確保」がうたわれています。学生の本分は学修にあることをわきまえて、学びを最優先する大学生活を送ってください。

■履修登録制限（CAP制）

大学では、学生が受講しようと思う科目を履修登録して授業を受けることになります。履修登録制限（CAP制）とは「1学期に履修登録できる単位の上限を決

めて抑制する制度」のことで、事前・事後に十分な学修ができるように時間の余裕をもって、4年間で計画的に学びを深めようとするものです。

畿央大学では、「履修に関する規則」で、1学期あたり30単位以内の履修に制限することを定めています。30単位を超えて履修する必要がある場合には申請が必要です。学修の計画をたてて無理のないように履修してください。

2. 履修登録

大学での学びは「学習」ではなく「学修」であるといわれます。これは「学生が学びの主体であり、能動的に学ぶことが求められている」ということを意味しています。将来の目標や自分の考えに基づいて科目を選択し、学修計画を立て、学生一人ひとりが、自分にあった時間割を作ります。そして、自分が決めた時間割にしたがって大学に「私はこの授業を受けます」と届けることを履修登録といいます。

■履修登録の注意点

- ・履修登録は各学期始めのオリエンテーション時にKiTssへのWeb入力によって行います。
- ・履修登録をしていない科目は、いかなる理由があっても単位は認定されません。
- ・カリキュラムの年次配当に従って該当する年次、学期の開講科目を履修登録してください。
- ・履修登録は自分自身でしっかり責任を持ち、卒業要件や自分が目指す資格取得要件を十分チェックしながら行ってください。
- ・当該学期の卒業必修科目は、原則としてすべて履修登録してください。次年度以降には時間割の関係で履修できない場合があります。
- ・クラス指定のある科目は、指定されたクラスの科目を履修登録してください。
※やむをえず異なるクラスの履修を希望する場合は申請が必要です。
※当該科目の配当年次を超える年次の学生は指定クラスに関係なく履修できません（たとえば2回生が1回生配当の科目を履修する場合など）。
- ・同一曜日、時限においては原則として1科目しか履修登録できません。
- ・単位修得済の科目の再履修はできません。
- ・病気その他やむを得ない理由により所定の期間内に履修登録ができない場合は、事前に学生支援センターへ申し出てください。
- ・授業科目によっては定員を設けている場合があります。また、教室定員を超えた履修者がある場合は履修者数を絞る場合があります。この場合は選考または抽選により受講者を決定します。

■シラバス

シラバスとは各授業科目の授業計画のことです。授業名、担当教員名、講義目

的、各回の授業内容、成績評価方法・基準、授業外学修の指示、教科書・参考図書、履修条件等が記されており、皆さんが各授業科目の履修・準備学修等を進めるための基本となるものです。履修登録前にその授業が「どんな授業か」、「学びの到達目標が何か」などを知っておく必要があり、また前もって知っておくことでより高い学修成果が期待できます。

本学のシラバスはホームページ、KiTss等で閲覧ができます。

■履修の変更（開講直後）

定められた期間内に申請をすることで、当初計画から履修科目を変更することができます。削除した科目は成績通知書には表示されず、GPA（P.46参照）の計算対象外になります。

- ・追加した科目は登録されるまでに数日かかる場合があります。その間に授業がある場合は、学生証での出席確認はできませんので授業担当者に各自で報告してください。
- ・履修変更終了時点で、履修者数が2名以下の授業は非開講になります（資格必修科目を除く）。

【履修変更の条件】

- ・履修変更できる科目は各セメスターで追加3科目、削除3科目までです。

【申請期間】

前期：4/11～18 後期：9/26～10/7

■履修の取消（開講約5週間後）

合理的な理由があって履修科目を取り消したい時は、定められた期間内に申請をすることができます。許可された場合、取消科目は成績通知書には表示されず、GPAの計算対象外になります。

【履修の取消の条件】

- ・履修の取消ができる科目は各セメスターで2科目までです。

【申請期間】

前期：5/16～20 後期：11/3～6

■履修の変更・取消の手続きと注意

- ・所定の用紙に必要事項を記入し、期間内に学生支援センターに提出してください。

(月～金) 9:00～18:00、(土) 9:00～17:00、(日祝) 受付不可

- ・申請できるのは、それぞれ1回のみです。提出後の再変更はできません。
- ・実習等で期間内に手続きできない場合や忌引・学校感染症等で期間中に申請できなくなった場合は、申請期間前または期間中に学生支援センターに相談してください。期間後の申し出には対応できません。
- ・代理申請はできません。必ず本人が責任を持って手続きを行ってください。
- ・通年科目の履修変更、履修の取消は前期にのみ可能です。

3. 授業

■授業時間

本学の授業は1コマ（授業を数える単位です）90分で実施されます。実験・実習などは2コマ続き、3コマ続きの授業もあります。

時 限	I	II	III	IV	V	VI
時間帯	9:00~10:30	10:40~12:10	13:00~14:30	14:40~16:10	16:20~17:50	18:00~19:30

■受講上の注意

授業は大学教育の基本です。事前にシラバスをチェックし、必要な準備をしておきましょう。授業に集中して取り組むことは当然として、事後学修も大切です。

真剣勝負ともいえる授業を、私語等で妨害することは許されません。また居眠りをしていたのでは時間の無駄遣いになってしまいます。良い意味で緊張した、熱気ある授業でこそ学ぶ喜びを感じることができるでしょう。授業環境は教員と学生が協力して作り上げていくものです。

【受講マナー】

- ・講義授業は静粛に集中して受講してください。私語は厳禁です。他人の迷惑となる場合には退出を命じ欠席扱いにする場合があります。
- ・実験・実習は教員の指示に従って参加してください。遅刻は実験・実習の進捗を乱します。絶対に遅れないようにしてください。
- ・授業中は携帯電話の電源を切ってください。
- ・授業中の飲食は禁止します。（パソコンルームは常に飲食厳禁です）
- ・授業中に無断で退出することは禁止です。

【教室内のマナー】

- ・最後の退室者は不要な照明・冷暖房を切ってから退室してください。
- ・電源を私に使用することは禁止です。
- ・机・椅子を移動した場合は元の状態に戻してください。

【授業アンケート】

各学期の授業期間に、全授業科目についてアンケートを実施します。良かった点、改善してほしい点、その他授業について感じたこと、率直な意見を自由

に書いて提出してください。今後の授業を充実させるための参考としますので、ご協力ください。

■出席・欠席・遅刻・早退・欠課

出席、欠席、遅刻、早退、欠課は次のように定められています。

出席：授業開始時から終了時まで受講した者

欠席：出席確認時に出席を確認できず、かつ受講しなかった者および講義開始後20分を経過した以降に入室した者。

遅刻：出席確認時に出席を確認できなかった者で講義開始後20分以内に入室した者。ただし、授業担当者により一切の遅刻を認めない場合がある。

早退：やむを得ない理由により授業中に受講を中断した者。ただし、授業時間の3分の2を超えてからであることを原則とする。

欠課：遅刻、早退あわせて2回になった場合、欠席1回とみなす。

出席の確認については学生証の読み取りによる方法と、授業担当教員独自の方法によるものとがあります。授業開始時にはその授業の出席確認の方法について連絡します。

■学生証による出席確認

出席確認の方法のひとつに学生証の読み取りによる方法があります。各講義室・パソコンルームに設置されたICカード読み取り機に学生証をかざすことによって出席したことを確認します。正常に学生証を読み取ると緑色のランプが点灯し氏名が画面に表示されますから、必ず確認してください。学生証による出席確認は必ず自分自身でおこなってください。他人に学生証を預ける行為は不正行為となります。

【学生証を忘れた場合】

授業前に学生支援センター備え付けの「出席確認票」を受け取り、授業担当教員の証明を受けてください。授業日を含め3日以内（休業日を除く）に学生支援センターに提出してください。

【出席データの変更申請】

学生証をICカード読み取り機にかざし、画面を確認したにもかかわらず、KiTssの出欠画面に正しく反映されていない場合は、申請により変更を願い出る

ことができます。当該授業から一週間以内に学生支援センターに「出席データ変更願」を提出してください。

【出席データの取消申請】

学生証による出席確認を行ってから、事情により早退（授業時間の3分の2を過ぎてから）にならないうちに授業を退出した場合は、出席データの取消を申請することができます。当該授業の当日のうちに（やむをえない事情がある場合のみ翌日午後1時まで）に学生支援センターに「出席取消申請書」を提出してください。

【学生証を不正に利用した場合】

出席確認時において次のような学生証の不正利用を行った者は、学部長による嚴重注意処分となります。不正利用が同一科目で複数回に及んだ者は、当該の科目が失格となります。また、学則第57条に基づき懲戒処分を行うことがあります。

- (1) 出席確認後、授業担当教員の許可無く退室し、かつ所定の届け出をしていない者
- (2) 出席確認を目的とし、他人に学生証を貸与した者
- (3) 代人として他人の学生証を出席確認に使用した者
- (4) 以上に準ずる行為として授業担当教員もしくは大学が認めた者

■公欠・忌引

下表の事由により、授業を欠席する（した）場合は学生支援センターに「公欠届」もしくは「忌引届」と必要な証明書を添えて提出してください。

公欠・忌引の場合は、該当の授業日を15回の授業回数から減じて、その学生の出席率を算定します。

・所定の期限までに手続きをしない場合は、通常の欠席の扱いになります。やむを得ない理由で期限内の提出ができない場合は、期限までに学生支援センターに相談してください。

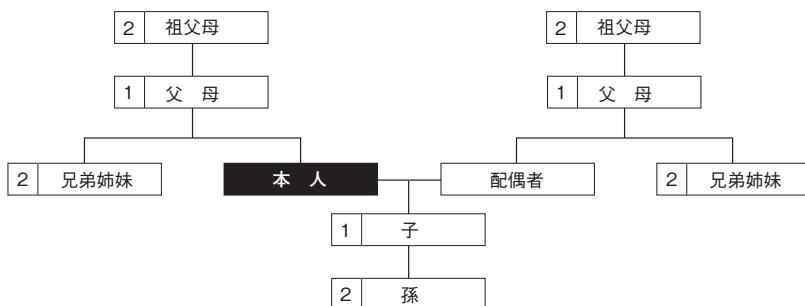
【公欠・忌引の扱いになる事由】

	事 由	必要書類	日数	手続期間※
公 欠	公欠の対象となる実習科目	公欠届	各実習や体験に要する日程ならびに実習事前（または事後）訪問1日	事前申請 公欠処理は実習の出席確認後事務局で行なう.
	学校保健安全法施行規則第19条に定められた感染症	公欠届＋医師の診断書等	医師の診断による治療に要する期間	登学可能日から3日以内
	裁判員選任	公欠届＋裁判所からの呼出状	裁判所から指定された期間	事前申請
	学科長の申請により教務委員会が特別に認める場合	公欠届＋事情を証明する書類	教務委員会が認めた期間	事前申請
忌 引		忌引届＋死亡に関する公的証明書または会葬礼状等証明となるもの	一親等：告別式または通夜の日を含み連続した5日間以内（本学の休業日を含む） 二親等：告別式または通夜の日を含み連続した3日間以内（本学の休業日を含む）	登学可能日から3日以内

※申請は学生支援センターにて受付ける。窓口の受付終了時刻を期限とする。（月～金：18時まで、土：17時まで、本学の休業日を除く。）

※申請期限には本学の休業日は含まない。

※親等図 数字が親等の度数を示します



【公欠の対象となる学外実習】

学 科	実習名
理学療法学科	チーム医療ふれあい実習
	臨床指導
	臨床評価実習
	総合臨床実習
看護医療学科	チーム医療ふれあい実習
	基礎看護学実習
	看護学実習（急性期・慢性期・老年・精神・母子・在宅）
	公衆衛生看護学実習
	離島・へき地医療体験実習
	地域看護活動論実習
健康栄養学科	病院インターンシップ
	チーム医療ふれあい実習
現代教育学科	臨地実習
	幼稚園見学実習
	小学校（または幼稚園）一日見学
	保育実習
教 職	養護臨床実習
	教育実習（小学校／幼稚園／養護／特別支援／中・高英語／中・高家庭／栄養教諭）
	介護等体験

■欠席連絡

公欠・忌引以外の理由で授業を欠席する（した）際は、事前もしくは登学可能日から3日以内に所定の「欠席連絡届」を学生支援センターに提出してください。「欠席連絡届」は授業担当教員や担任に欠席とその理由を連絡するためのものであり、扱いは「欠席」です。

■休講、補講、集中講座、教室変更

【休講】大学や教員の都合により授業を休講することがあります。事前に掲示板への掲出ならびにKiTss掲示板への表示、大学支給アドレスへのメールにより通知します。休講の掲示がなく、授業開始後10分を経過しても授業が行われない場合は学生支援センターで確認してください。

※授業当日や前日の急な休講の場合には、メールで連絡することがあります。

【補講】 休講があれば補講をすることが原則となっています。また、進度調整のために実施される場合もあります。曜日・時限は普段の時間とは関係なく、土曜日や6限目などの時間を使って実施される場合もあります。連絡は事前に掲示板へ掲出し、KiTss掲示板への表示、大学支給アドレスへのメールでもお知らせしています。

【集中講座】 曜日時限を固定せず、授業を一定期間に集中して行う形態のことで、該当の授業は時間割表で示します。日程詳細の連絡は掲示板によりおこないます。

【教室変更】 都合により授業の教室が変更になることがあります。変更が発生した場合は、事前に掲示板へ掲出し、KiTss掲示板への表示、大学支給アドレスへのメールでもお知らせしています。

■ 暴風警報・特別警報発令、交通機関不通の場合の授業（試験）の取扱い

＊ 奈良県北葛城郡広陵町を含む地域に暴風警報または特別警報（その他の警報は対象外）が発令された場合

暴風警報または特別警報の解除時刻	授業の取扱い
6：00以前に解除された場合	平常通り 1 時限から授業を実施する
8：00以前に解除された場合	2 時限から授業を実施する
10：00以前に解除された場合	3 時限から授業を実施する
12：00以前に解除された場合	4 時限から授業を実施する
12：00の時点で解除されていない場合	全日休講とする

- ※ 授業開始後に暴風警報が発令された場合は、その時限終了までは授業を実施します。
- ※ 授業開始後に特別警報が発令された場合は、直ちに授業を中止します。
- ※ 連続時限で実施している授業については、途中時限からの授業開始は行ないません。

* 自然災害、事故等で交通機関が不通になった場合の授業の取扱い

対象とする交通機関	近鉄大阪線の鶴橋駅～大和八木駅間が全面的に不通の場合	
交通機関の運行再開に伴う授業の実施	1. 対象交通機関が運行を再開した場合は、次のとおりの運行再開時刻にもとづき、授業を開始します。	
	運行再開時刻	授業の取扱い
	6：00以前	平常通り 1 時限から授業を実施する
	8：00以前	2 時限から授業を実施する
	10：00以前	3 時限から授業を実施する
	12：00以前	4 時限から授業を実施する
	12:00を過ぎても再開していない場合	全日休講とする
	2. 連続時限で実施している授業については、途中時限からの授業開始は行ないません。	

4. 学外実習について

畿央大学では健康と教育の分野で活躍できる専門的職業人の養成をめざしており、その教育課程では現場での実習を重視しています。学外実習では病院や保健所、小学校や幼稚園等で直接に患者さんや子どもたちに向き合い、医療や教育の一端を担わせて頂くことになります。そのためには大学において、現場に立つことができるだけの知識と技術力を身につけておく必要があります。

■学外実習履修の条件

学外実習の科目を履修するための条件は、各学科の内規によって定められています。必ず内規（P.281～289）を確認してください。

■実習交通費の補助

本学では学外実習の交通費の補助をおこなっています。

畿央大学 学外実習 交通費補助マニュアル

2011年8月2日

（目的）

学外実習交通費補助は、本学が指定した学外実習施設（以下「実習施設」という。）で実習を行う学生について、実習用通学定期券の申請及び交通費の補助を行うことにより、学生の交通費負担とその学生間格差の減少をはかることで、当該学外実習を支援するものです。

（対象となる実習）

5日以上の実習日数となる実習を対象とします。同一科目であれば複数の実習先の場合も対象とし、担当教員が認めた実習にともなう事前事後の実習施設訪問日を日数に含みます。

（対象となる交通機関）

交通機関は、鉄道、バス等の公共交通機関の利用を原則とします。鉄道における交通費は普通乗車券代を対象とし、特急券・急行券・指定席券等にかかる費用は対象としません。

（実習日数の確認）

各学生の実習日数（事前事後の実習施設訪問を含む）と実習施設については、学生支援センターが実習担当教員に確認するものとします。

（交通費補助の申請）

交通費補助の申請は、利用開始日の一か月前までに学生支援センターに申請するものと、通

学定期券を利用した方が安い場合は、学生支援センターを通じて、交通機関に対して実習用通学定期券（通常の通学定期券と同額）の発行申請をおこないます。ただし、早い時期に行われる事前の実習施設訪問を除きます。

（交通費の補助）

実習期間中、生活の場としている居住地（自宅または借家等）から実習施設までの往復交通費（事前事後の訪問の場合に大学から出発する場合を含む）について、学生支援センターがその経路、方法について妥当性を確認した上で、1日あたり1,000円を超える金額について補助します。通学定期券の購入が可能な場合は、交通費総額から実習日数に1,000円を乗じた金額を差し引いた金額を補助するものとします。学生本人の事情により通学定期券を購入できなかった場合も同様とします。

宿泊をともなう実習の場合は、実習施設までの交通費についての全額を補助します。ただし、宿舍と実習先の間の交通費は補助の対象となりません。

（補助金の支給）

交通費補助金の支給は、学生本人名義の銀行口座に、実習終了後に振込むものとします。

■学外実習スケジュール（予定）

理学療法学科

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1回生					→ チーム医療ふれあい実習 (1 週間)							
2回生											→ 臨床指導 (1 週間)	
3回生											→ 臨床評価実習 (3 週間)	
4回生	→ 総合臨床実習 (前期)(8 週間)		→ 総合臨床実習 (後期)(8 週間)									

看護医療学科

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1回生					→ チーム医療ふれあい実習 (1 週間)						→ 基礎看護学実習 (2 週間)	
2回生												
3回生						→ 臨地実習(急性期・慢性期・母子・精神・老年・在宅看護) (各2～4 週間、計17 週間)						
4回生	→ 臨地実習 (離島・へき地医療・地域看護・病院インターンシップ)					→ 臨地実習(公衆衛生看護学) (3 週間)						
		→ 看護教育実習 (2 週間)				→ 看護教育実習 (2 週間)						

健康栄養学科

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1回生												
2回生					→ チーム医療ふれあい実習 (1 週間)							
3回生					→ 臨地実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ (各1 週間)							
4回生		→ 栄養教諭教育実習 (1 週間)				→ 臨地実習Ⅳ (1 週間)						

人間環境デザイン学科

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
4回生		介護等体験 (特別支援学校2日間+合同オリエンテーション1日+社会福祉施設5日間)										
		家庭科教諭教育実習(中) (4週間)										
		家庭科教諭教育実習(高) (2週間)										

現代教育学科

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1回生						幼稚園見学実習A (1週間または1日見学)						
										小学校1日見学		
2回生		幼稚園見学実習B (1週間)				保育実習Ⅰ (保育所・施設各10日間)					保育実習ⅡA・ⅡB (いずれか10日間)	
											養護臨床実習 (2週間)	
3回生						幼稚園教育実習 (4週間)						
						小学校教育実習 (4週間)						
						介護等体験 (特別支援学校2日間+合同オリエンテーション1日+社会福祉施設5日間)						
		中学校英語1日見学										
		養護教育実習 (前半2週間)				養護教育実習 (後半2週間)						
4回生						幼稚園教育実習 (2週間)※注						
						小学校教育実習 (2週間)※注						
		中学校英語教育実習 (4週間)				特別支援学校教育実習 (2週間)						

注)幼稚園と小学校の免許取得を両方希望し、主免許の教育実習を3回生時に済ませた学生が対象。

5. 試験（平常試験・定期試験・追試験・再試験）

■平常試験

授業中に実施する試験です。実施時期や方法はすべて授業担当教員に一任されていますので、指示にしたがってください。

■定期試験

学期末に実施される試験で、その方法には筆記試験・実技試験・レポート試験・成果物の提出などさまざまな形態があります。

[受験資格]

- ・当該科目が正しく履修登録されていない者には、定期試験の受験は認められません。
- ・出席した授業回数が定期試験前の授業回数の3分の2に満たない場合は、原則としてその授業科目の試験を受けることができません。また、演習科目・実習科目等については「全授業回数の5分の4の出席が必要」など、各学科が必要条件を定めている場合がありますので、所属学科の内規を参照してください。
- ・定期試験開始前に「受験資格のない者」の学籍番号を掲示します。疑問のある場合は授業担当教員に確認してください。

受験上の注意

- ・試験時間中は学生証を机上に置いてください。
学生証を忘れた場合は、学生支援センターで仮学生証（当日限り有効）の交付を受けてください。
- ・試験開始時刻に20分を超えて遅刻した場合は受験できません。
- ・試験に使用を許可されたもの以外は、机には置けません。携帯電話は電源を切りかばんの中に入れてください。
- ・試験監督者の指示に従わないときは、退室を命ずることがあります。
- ・試験開始後40分を経過するまでは退室できません。ただし試験により途中退出を認めない場合もありますので監督者の指示にしたがってください。
- ・答案の提出方法は監督者の指示にしたがってください。
- ・氏名記入漏れなど個人が特定できない答案は無効になります。

【試験時間・時間割】

- ・前期・後期とも13週目の授業を開始する日までに定期試験の時間割を発表します。通常授業時とは曜日・時限・教室が異なる場合がありますので注意してください。また、受験科目が同じ時間に重複している場合は学生支援センターに相談してください。

【不正行為】

不正行為とは、次のような行為をいいます。

- ・持ち込みを許可されていない資料を試験中に使用する行為。
- ・机、壁、所持品等へ書き込みをする行為。その他、許可されていない情報源を利用する行為。
- ・他人の答案から盗み書きする行為。または、他人に答案を見せて書かせる行為。
- ・他人の答案を作成する行為。または、他人に答案を作成してもらう行為。
- ・答案作成・提出に関して試験監督の指示にしたがわない行為。
- ・不正行為をする目的をもっての準備行為。
- ・その他公正な試験の実施を阻害すると認められる行為。

上記のような行為があった場合は、当該期間中の全履修科目を失格処分とします。また学則第57条にもとづき懲戒処分を行うことがあります。

■追試験

次に示すやむを得ない理由で定期試験を受験できなかった場合、当該セメスター期間内に各科目1回限り追試験の受験を申請することができます。追試験の成績評価基準は、定期試験の成績に準じます。

※追試験該当事項と手続き方法は次頁。

追試験該当事項と手続き方法

試験欠席の事由	必要な書類	申請期間※
病気・負傷・不慮の事故等	追試験願＋医師の診断書等	当該科目の定期試験実施日の翌日まで
二親等内親族の死亡	追試験願＋死亡に関する公的証明書または会葬礼状等証明となるもの 一親等：告別式または通夜の日を含み連続した5日間以内（本学の休業日を含む） 二親等：告別式または通夜の日を含み連続した3日間以内（本学の休業日を含む）	
公共交通機関の延着	追試験願＋事故・延着証明（20分以上の延着時間が記載されたもの）	当該科目の定期試験実施日の当日中
本学の正課授業との重複（学外実習・介護等体験を含む）	追試験願	当該科目の定期試験実施日の前日まで
就職試験・教員採用試験	追試験願＋試験日を証明する書類（追試験願にキャリアセンターの認印を受けること）	
裁判員選任	追試験願＋裁判所からの呼出状	
その他やむをえない事由	追試験願＋事由を証明できるもの（届出により教務委員長が判断する）	当該科目の定期試験実施日の翌日まで

【注意】

- ・ 追試験の受験を許可された者の学籍番号、試験日等はKiTssおよび掲示板で発表します。再試験対象者と同時に発表する場合もありますので注意してください。
- ・ 追試験予定日に学校保健安全法施行規則第19条に定められた感染症になり受験できなかった場合のみ授業担当教員の判断で再度の追試験が実施される場合があります。その他の理由での追試験の再度の追試験は実施しません。
- ・ 追試験による不合格科目についての再試験は行いません。

■再試験

単位取得に必要な成績評価が得られなかった場合、当該セメスター期間内に各科目1回に限り再試験の受験を申請することができます。ただし再試験を実施するか否かは授業担当教員の判断によります。再試験実施科目及び対象者の学籍番号はKITssおよび掲示板で発表します。

【注意】

- ・定期試験の欠席者には再試験の受験資格はありません。
- ・定期試験の成績が著しく悪かった場合は再試験受験対象から外れることがあります。
- ・再試験の欠席者にはいかなる理由があっても単位は与えられません。
- ・再試験（レポート、実技等による再試験を含む）の手数料は1科目1,500円です。
- ・再試験に合格した場合の成績評価はすべて「可」（60点）となります。

■追試験・再試験受験申請の方法

追試験・再試験の受験を希望する時は、以下の要領で申請してください。

【手続きの流れ】

- (1) 事務室内に設置している「証明書発行機」で「申込書」を発行。

⇒発行には学生証が必要です！

手数料の納付は証明書発行機で行います。

（追試験は無料、再試験は1科目につき1,500円）

- (2) 「申込書」に受験科目と時限を記入して学生支援センター窓口に提出。

⇒受付印を押印した「申込書控」を受け取ってください（受付印の押された「申込書控」は、当日必ず携帯し、机上に学生証を提示して受験して下さい。「申込書控」は教員の指示があれば提示してください）。

【注意事項】

- ・学生証を持っていなければ「申込書」の発行はできません。
- ・再試験は試験日程別に申込書が異なります。いつのどの科目を受験するかをあらかじめ確認してください。
- ・「証明書発行機」の稼働時間は月～金曜日は18時まで、土曜日は17時までです。それ以降は、たとえ再試験前日であっても「申込書」の発行ができなくなりますので、必ず日程・時間に余裕を持って手続きを済ませるようにしてください。なお、休業日は証明書発行機を使用することができません。追試

験・再試験の受験申請はできませんので注意してください。

■レポート・作品

筆記試験を実施せず、レポートまたは作品の提出によって単位認定を行う科目もあります。提出先および提出期限については、授業担当教員の指示に従ってください。

【提出先が学生支援センターの場合の注意】

- ・事務局に置いてある「レポート提出票」に必要事項を記入の上、レポートとともにホッチキスでとめて提出してください。
- ・提出者にはレポート受領書を交付します。レポート受領書は成績が発表されるまで大切に保管してください。
- ・事務局の窓口受付時間（月～金は18時、土は17時まで）外や提出期限を過ぎたレポート・作品などは、一切受理できません。
- ・代理人による提出はできません。やむを得ない事情により提出できない場合は、~~ズ~~切りまでに授業担当教員に相談してください。
- ・一旦提出されたレポート・作品は返却できません。
- ・レポート・作品提出により成績評価される科目には追試験はありません。

6. 成績

成績評価の方法は科目や授業担当教員によって異なります。

各科目の成績評価の方法はシラバスに示されていますので必ず確認してください。

■成績評価

成績は点数により評価する科目と、合否により評価する科目の2種類の評価方法があります。

評価方法	評点	評価	合否	GPA対象の有無	GPAのポイント
点数による評価	100～90 89～80 79～70 69～60 59～0	秀 優 良 可 不可	合格 合格 合格 合格 不合格	GPA計算対象	4 3 2 1 0
合否による評価	なし なし	合 否	合格(単位のみ認定) 不合格	GPA計算対象外	なし なし
その他	なし なし	失格 欠席・放棄	不合格 不合格	GPA計算対象	0 0

「失格」は欠席過多のため定期試験の受験資格を失った者、「欠席・放棄」は定期試験を無断で欠席した者に対する評価です。

なお、他大学等(放送大学を含む)で修得した単位を本学が認定した科目は「認」と表示されます。

■GPA (Grade Point Average)

GPAとは履修登録をした全授業科目の成績の平均を数値化したものです。学習の質を評価する成績評価のひとつの世界標準となっており、留学や就職の際に一定以上の数値を求められることもあります。また、本学における奨学生選考の評価項目となっています。自分のGPAは、KiTssの成績照会のページや成績通知書で確認できます。

合格した科目だけではなく、不合格となった科目も平均点に影響しますので、履修登録の際には必要な科目をよく考え、必要以上に多くの授業を取りすぎないように注意することが大切になってきます。

なお合否による評価の科目、他大学で取得した単位を本学の単位として認めた

科目はGPAの計算の対象にはなりません。

●「GPA」の算出式

$$\frac{\text{秀の単位数} \times 4 + \text{優の単位数} \times 3 + \text{良の単位数} \times 2 + \text{可の単位数} \times 1 + \text{不可} \cdot \text{失格} \cdot \text{欠の単位数} \times 0}{\text{秀} \sim \text{不可} \cdot \text{失格} \cdot \text{欠の単位数の合計}}$$

●「GPA」の計算例

秀の成績を得た科目の単位数の合計	—————12単位 × 4 ポイント = 48
優の成績を得た科目の単位数の合計	—————10単位 × 3 ポイント = 30
良の成績を得た科目の単位数の合計	—————20単位 × 2 ポイント = 40
可の成績を得た科目の単位数の合計	—————12単位 × 1 ポイント = 12
不可・失格・欠の成績を得た科目の単位数の合計	—————2 単位 × 0 ポイント = 0
合計 56単位	合計 130ポイント
G P A = 130 / 56 = 2.32	

【注意】

- ・成績通知書には入学時からのすべての履修科目の成績を対象に算出した累積 GPAを表示して通知します。

■成績通知

前期終了後（9月初旬）と後期終了後（3月下旬）に、保証人宛に成績通知書を発送します。学生は発送日以降、KiTssで確認することも可能です。なお、成績は重大な「個人情報」ですので、電話・メールによる照会には一切応じられません。

4 回生の卒業判定結果は2月末～3月初旬に行われる卒業判定会議のあと、KiTssおよび掲示板で卒業者の学籍番号を発表します。成績は卒業判定会議の翌日からKiTssで確認できます。

■成績に関する申し立て

成績について質問があれば、成績通知後1ヶ月以内に「成績確認申立書」を学生支援センターに提出すれば、授業担当教員から成績判定の理由、経緯等が回答されます。なお、成績の申し立てができるのは学生本人のみです。

7. 卒業要件

■卒業要件

大学のあり方について定めた「大学設置基準」では、大学を卒業するのに必要な条件は「大学に4年以上在学し、124単位以上を取得すること」となっています。畿央大学では124～132単位(学科・年次によって異なります)を卒業要件単位数(卒業に必要な単位数)としています。

ただし、総単位数を満たしたとしても学科・年次ごとに決められた卒業要件を満たさないと卒業はできません。『領域・区分ごとに必要な単位数をクリアすること』『必修科目の単位をすべて修得すること』『選択必修科目の中から必要な単位数を修得すること』などです。必修科目の単位を修得できなかったら、翌年度以降に再履修しなければなりません。

※卒業要件単位数や卒業に必要な条件は学科・年次により異なります。カリキュラム表(P.102～P.182)を参照してください。

■既修得単位の認定について

教育上有益と認める場合は、入学前に他の大学、短期大学、高等専門学校または専修学校専門課程で修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができます(編入学等の場合は学科により認定単位数が異なります)。

認定を希望する場合は入学後2週間以内に下記の書類を学生支援センターまで提出してください。

- ・既修得単位等認定申請書(用紙は事務局にあります)
- ・(単位を修得した大学等の)成績証明書および当該科目のシラバス

■放送大学との単位互換

畿央大学では放送大学との単位互換により第二外国語の以下の科目の履修および単位修得を可能にしています。

【受講方法】

曜日・時間の制限はなく、放送教材を利用しての自己学修が基本になっています。

【単位認定】

- ・学期途中に1回課題が出され「通信指導」で添削を受けます。これに合格し

ないと単位認定試験の受験資格を得られません。

- ・単位認定試験日は放送大学より指定されます。指定された日時に受験（会場は申請時に選択）し、合格すると本学教養科目「言語と情報」（4回生以上は「コミュニケーションスキル」）の区分にて単位認定されます。

【履修可能科目】

※2014年度前期の場合

ドイツ語	ドイツ語入門Ⅰ	ドイツ語入門Ⅱ
フランス語	フランス語入門Ⅰ	フランス語入門Ⅱ
中国語	中国語Ⅰ	中国語Ⅱ
韓国語	韓国語入門Ⅰ	韓国語入門Ⅱ
スペイン語	初歩のスペイン語	
アラビア語	初歩のアラビア語	

【出願期間】 前期：前年12月下旬 後期：7月上旬

※1回生前期、4回生後期は履修できません。

※出願時に1科目につき11,000円が必要です。ただし単位修得できた場合教材費を除く授業料分の金額8,000円を返金します（金額は2013年度実績）。

※学修・試験等で必要になる交通費等はすべて自己負担となります。

※申し込み方法等詳細は出願時期に学生支援センターから掲示連絡をしますの
で注意してください。

畿央大学エコキャンパス推進方針

本学では、建学の精神のもと、学生教職員による環境負荷低減に向けた取り組みとして、「省エネルギー」「廃棄物削減」「環境貢献活動」の3つのエコアクションを推進します。

健康で豊かな生活の源である地球環境への畏敬の念を忘れず、徳をのばし、心くばりにあふれたキャンパスの醸成を目標に、教育・研究活動をはじめ、学内において使用するエネルギーや資源の効率的な利用方法と再利用の可能性をひとりひとりが考え、知をみがき、環境意識の構築を積極的に推進します。そして、自発的な活動の芽を育み、社会や地域への輪を広げ、美しい環境の継承を目指します。

■省エネルギーへのエコアクション

教育・研究活動においてエネルギー使用は必要不可欠ではありますが、様々な活動に気を配り、エネルギー使用の省力化と健康な身体づくりを推進します。

- 1) 空調エネルギー負荷低減を推進します。過剰温度設定はエネルギー負荷が高くなるとともに、室内外温度差による健康への影響も懸念されるため、冷暖房の適正な温度設定を図ります。
- 2) 待機エネルギーの省力化を推進します。教育・研究活動において使用する各種機器や設備に対し、未使用時の省力化に配慮し、待機エネルギー削減を図ります。
- 3) 動力エネルギーの省力化を推進します。エレベーターや自動車等の使用を抑えることは適度な運動となり、健康な身体づくりと移動に関わるエネルギーの省力化に寄与します。
- 4) 高効率機器の導入を推進します。設備機器等更新時に高効率型機器を導入することで、機器稼働時におけるエネルギーの省力化を図ります。

■廃棄物削減へのエコアクション

教育・研究活動や学校生活における各活動や業務内容を見直し、資源の有効活用と分別回収の徹底により廃棄物の削減を推進します。

- 1) 廃棄物量の抑制を推進します。各活動や業務の改善や見直しにより、使用資源の抑制および廃棄物削減を図ります。
- 2) 資源や製品のリユース・リサイクルを推進します。各活動や業務により排出される廃棄物の分別回収を徹底し、資源や製品の再使用・再利用の可能性を検討します。

■環境貢献活動へのエコアクション

教育・研究機関に所属する一員として、環境負荷低減に向けた実践可能な取り組みを自ら考え、学び、活動する意義を認識し、持続可能な社会の実現に貢献することを推進します。

エコキャンパス推進委員会

畿央大学での暮らし

1. 学生生活

■学生証



学生証はあなたが本学の学生であることを証明する大切なものですので、常に携帯してください。そして次のような場合には必ず提示しなければなりません。

- ・ 本学教職員から求められた時
- ・ 定期試験受験時
- ・ 学割・各種証明書交付時
- ・ 通学定期券や学割乗車券等購入時、乗車船時に係員から求められた場合

【学生証を使う学内サービス】

- ・ 出席確認

講義室の入口に設けられた、あるいはポータブルのICカードリーダーに学生証をかざすことで授業への出席を確認します（出席確認は学生証読み取り以外の方法もあります）。

- ・ 図書館の入館、図書貸し出し

図書館の入館、図書の貸し出しには学生証が必要です。忘れた際は図書館窓口に申し出てください。

- ・ 証明書発行機の利用

学生支援センターに設置されている証明書発行機を利用する際に必要です。

【注意事項】

- ・ 学生証は他人に貸与または譲渡してはいけません。
- ・ 紛失や盗難にあった場合は学生支援センターに届け出て、再発行の手続きをしてください。
- ・ 新たな学生証の交付を受けたとき、または卒業・退学等で学籍を失ったときは、直ちに学生支援センターに返還してください。

【通学定期乗車券発行控の更新】

学生証裏面の、通学定期券発行控の有効期限は、入学時から卒業年の3月31日までの期間です。記入欄がなくなったときや、通学区間が変更になったときは、学生支援センターに申し出てください。

【仮学生証】

試験期間中に学生証を忘れた場合は、試験開始前に学生支援センター窓口で「仮学生証」の交付を受けてください。「仮学生証」は当日のみ有効です。

■証明書の発行

各種証明書が必要なときは、本人が学生支援センターカウンター前にある証明書発行機で発行手续をするか、窓口に備え付けの申請用紙に、必要事項をボールペン（黒）で記入の上、手数料を添えて申請してください。

内 容	申込	交付日	手数料
在学証明書 [和文]	証明書発行機	即時	100円
卒業見込証明書 [和文]			
成績証明書 [和文]			
健康診断証明書 [和文] ☆			
学割証			—
卒業証明書 [和文]	窓口	申込日の2日後	100円
単位取得見込証明書			
資格取得見込証明書			
学生証（再交付）			1,500円

※英文証明書が必要な場合は窓口申請・手数料500円とし、申込日の7日後に交付します。

※本学の休業日の発行業務はおこないません。窓口で金曜日に申し込んだ場合は月曜日、土曜日に申し込んだ場合は火曜日の発行になります。

※代理申請、代理人への交付はできません。窓口での交付時は学生証を提示してください。

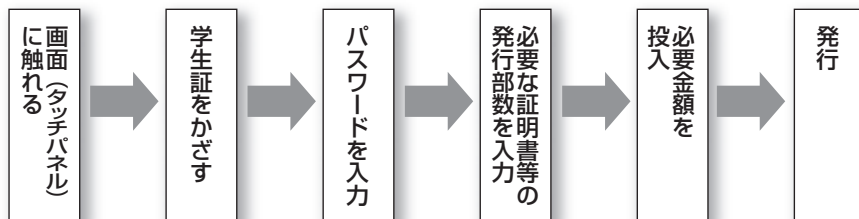
☆発行機で発行される健康診断証明書以上の診断項目が必要な場合は窓口で申請をしてください。

【証明書発行機】

証明書発行機では前記の証明書及び学割証に対応しています。使用には学生証とパスワード（学内PCログインパスワード）が必要になります。

【稼働時間】（月～金）8：40～18：00 （土）8：40～17：00 ※本学休業日は稼働しません。

◆使用手順



※模擬試験等の代金も証明書発行機で徴収する場合があります。

■通学方法について

通学については、公共交通機関の利用を心掛け、安全に十分配慮しましょう。本学では、バイク・自転車による通学は、届け出て許可をうけたものについて認めています。交通法規とマナーを守り、安全運転を心掛けてください。また、自動車による通学は全面的に禁止しています。

【通学定期券の購入】

通学定期券は、現住所から大学までの最短区間について購入できます。関西の交通機関であればほとんどの場合、直接手続きができますので、下記の方法で購入してください。

- 1) 学生証の裏面に「通学定期券乗車券発行控」が貼付されています。そこに学籍番号、氏名、現住所、通学区間を記入してください。
- 2) 各交通機関に設置してある「通学定期券購入申込書」に必要事項を記入します。
- 3) 上記申込書に「(裏面に必要事項を記入した) 学生証」を添えて、発売窓口で購入してください。

なお長期にわたる学外実習で、通学定期券を購入の方が経済的な場合、定期券購入が可能なように便宜を図っています。事前に案内しますので、ご利用ください。

【バイク・自転車による通学】

- ・バイク・自転車による通学を希望する学生は、学生支援センターに申請して許可を受け、登録証を必ず車両に貼ってください。バイクは排気量400CC以下で自賠責・任意保険（対人賠償額は無制限が条件）のコピーの提出が必

要です。

- ・バイクは必ず東門から入出門し、東門横の駐輪場に置いてください。
- ・自転車は大学内の指定された駐輪場に置いてください。
- ・バイク、自転車の駅周辺、大学周辺、大学内の指定された駐輪場以外などへの迷惑駐輪は絶対にしないでください。迷惑駐輪が確認された場合、懲戒処分の対象となる場合があります。

【自動車による通学の禁止と例外】

- ・自動車での通学は「全面禁止」です。大学周辺での駐車は、近隣地域の方々に迷惑をかけます。自動車通学が確認された場合、懲戒処分の対象となる場合があります。

怪我などで自動車通学を必要とする場合、卒業作品の搬入・搬出等担当教員が必要と認めた場合など、特別に自動車による通学を認める場合があります。2日前までに学生支援センターに相談・申請してください。

■学生旅客運賃割引証

学生旅客運賃割引証（学割証）は片道100キロメートルを超える場合に限り使用でき、乗車券を2割引で購入することができます。

- ・学割証は、証明書発行機で即時発行可能です。各自で出力してください。
- ・学割証発行の際には、学生証とパスワード（学内PCログオンパスワード）が必要です。
- ・同時に発行できるのは4枚までですが、学割証1枚で往復乗車券を購入できます。ただし乗車券の有効日数に気をつけてください。
- ・学割証は、記名本人に限り使用することができます。使用上の注意は学割証の裏面に記載されているので、必ず読んでください。
- ・学割証の有効期間は発行日から3ヶ月です。
- ・学割証を他人に貸与したり、その他不正に使用したときは、本人に対し交通機関から多額の追徴金が課せられるのはもちろん、本学が学割証を発行することができなくなりますので注意してください。

■奨学金

経済的に就学困難な学生や学業成績が優秀な学生に対し、奨学金制度があります。本学における各種奨学生の募集は、入試・学業成績によるもの以外は毎年度

4月以降に行います。特に「日本学生支援機構」の奨学金制度については説明会を4月中旬に実施しますので、奨学金の貸与を希望する学生は、機会を逃すことのないよう、掲示板（奨学金情報）・KiTssによる学生支援センターからの連絡に気をつけてください。

【畿央大学独自の奨学金（在学生対象）】

I 冬木智子特別奨励賞（給付）

学業成績・人物ともに他学生の模範となる学生の更なる努力を促すため、年間20万円を給付します。選考は学科長の推薦によるものとし、2回生以上を対象に奨学生選考委員会において各学科1名、全学で5名を選出します。

II 畿央大学特別奨励賞（給付）

学業成績・人物ともに優秀な学生を奨励するため、年間10万円を給付します。選考は学科長の推薦によるものとし、2回生以上を対象に奨学生選考委員会において各学科各学年1名（教育学部各学年2名）、全学で18名を選出します。

III 畿央大学特別奨学金（給付）

経済的理由により就学が困難で、かつ学業成績優秀、明朗活発な学生に年間20万円を給付します。申請のあった者の中から2回生以上を対象に全学で40名を奨学生選考委員会において選出します。

【地方自治体（都道府県市区町村等）の奨学金制度】

都道府県市区町村に住所（あるいは本籍）を有する者に貸与または給付される奨学金で、出願資格、金額、返還の要否等条件は様々です。各自で地方自治体の教育委員会等へ問い合わせして下さい。なお、本学が窓口になっているものについては掲示により募集します。

【日本学生支援機構の奨学金】

日本学生支援機構の奨学金は貸与奨学金で経済的理由により修学に困難がある優れた学生等に対して貸与されます。奨学金貸与終了後は、返還の義務が生じ、必ず返還しなければなりません。学業に必要な金額、家庭の経済状況や自分の人生・生活設計に基づいて、十分考慮のうえ申込をしてください。

1) 奨学金の種類と貸与期間

奨学金の種類	採用の種類	募集時期	貸与始期	貸与終期
第一種 無利子貸与	定期採用	4 月	4 月	卒業予定期
	緊急採用	随時	※	※
第二種 有利子貸与	定期採用	4 月	4 月～9 月の希望する月	卒業予定期
	応急採用	随時	※	※

※緊急採用・応急採用とは、主たる家計支持者の失業、破産、事故、病気もしくは死亡など、または火災、風水害等の災害により家計が急変し、奨学金を緊急に必要とする場合、随時奨学生の募集を行っています。貸与始期・貸与終期についての詳細は、申請時に説明します。

2) 奨学金の申込条件（学力基準の目安）

奨学金の種類	学力基準（目安）
第一種	<1 年次> 高校 2・3 年生の成績 3.5 以上 <2 年次> 本人の属する学部（学科）の上位 1 / 3 以内
第二種	出身高校または在籍する学校における成績が平均水準以上と認められる者、特定の分野で特に優れた資質能力を有すると認められる者、学修に意欲があり学業が確実に修了できる見込みがあると認められる者など

※学力基準および家計基準についての詳細は、日本学生支援機構発行のパンフレットを必ず参照してください。

3) 奨学金の貸与月額

奨学金の種類	自宅	自宅外
第一種 無利子貸与	54,000円	64,000円
	30,000円	
第二種 有利子貸与	30,000円、50,000円、80,000円、100,000円、120,000円から選択できます。	
入学時特別増額 貸与奨学金 有利子貸与	100,000円、200,000円、300,000円、400,000円、500,000円 から選択できます。（入学時特別増額貸与のみを申込むことはできません。）	

4) 保証制度……日本学生支援機構の奨学金では、次の 2 つの保証制度のいずれかを選択することになります。

人的保証制度（連帯保証人と保証人を選任）

機関保証制度（保証料を支払うことにより、保証機関が連帯保証する）

5) 奨学金の交付日 (2014年 4月～2015年 3月)

4月分	4月21日(月)	5月分	5月16日(金)	6月分	6月11日(水)
7月分	7月11日(金)	8月分	8月11日(月)	9月分	9月11日(木)
10月分	10月10日(金)	11月分	11月11日(火)	12月分	12月11日(木)
1月分	1月9日(金)	2月分	2月10日(火)	3月分	3月11日(水)

6) 奨学金に関するスケジュール

時期		内容	対象
4月	初旬	大学予約採用に関する説明会	1回生
	中旬	進学届入力	1回生
	中旬～下旬	大学在学採用(定期採用)に関する説明会	希望者全員
5月	初旬	大学在学採用(定期採用)の申請に必要な書類の提出	希望者全員
6月	初旬	採用決定者に対する説明会	1回生(大学予約採用)
	初旬～下旬	返還誓約書などの提出	
	下旬	採用決定者に対する説明会	該当奨学生全員(大学在学採用(定期採用))
7月	初旬～下旬	返還誓約書などの提出	
11月	初旬	返還に関する説明会	4回生(3月満期奨学生)
12月	中旬～下旬	継続願に関する説明会	奨学生全員(1～3回生)
1月～2月中旬		継続願の提出(入力)	奨学生全員(1～3回生)

※詳細日程は、奨学金掲示板などでお知らせします。

7) 奨学金貸与開始の奨学生へ

高等学校で予約採用決定の者・大学で新たに採用決定した者は、日本学生支援機構より返還誓約書の関係書類が届き次第、掲示板などで通知します。

- ・人的保証を選択した者は、5種類の書類が必要です。

返還誓約書、奨学生本人の住民票、連帯保証人の印鑑証明書、
連帯保証人の所得に関する証明書、保証人の印鑑証明書

- ・機関保証を選択した者は、3種類の書類が必要です。

返還誓約書、奨学生本人の住民票、保証依頼書(兼保証委託契約書)

8) 在学届

高等学校または大学等で、日本学生支援機構の奨学金の貸与を受けていた者および奨学金の満期までに途中辞退した者は、「在学届」を学生支援センターまで提出してください。この「在学届」を提出することにより修業年限まで返還期限が猶予されます。

9) 適格認定

奨学金の貸与期間中は、毎年1回（12月下旬～2月中旬）「奨学金継続願」をWeb上で提出（入力）していただきます。「奨学金継続願」を提出した者について適格認定を行いますので、くれぐれも学業成績不振などの状況により奨学金の廃止または停止等の処置を取られることのないように勉学に励んでください。また期間内の「継続願」の提出を怠ると奨学生の資格を失い奨学金の交付が打ち切られますのでくれぐれも注意してください。

10) 異動・休止・辞退

奨学生の資格に変動（住所変更、改氏名、連帯保証人・保証人の変更または転居、休学、復学、退学、辞退など）があった場合および月額を変更（増額・減額）したい場合は、学生支援センターまで申し出てください。

11) 返還

奨学金は貸与であり卒業後返還する義務があります。返還金は新たな奨学生に貸与する奨学金の財源となるので、定められた期間内に月賦等の方法により必ず返還しなければなりません。なお、卒業後に失業・疾病・災害などの諸事情により返還が困難になった場合は、願い出ることにより返還期限を猶予されることもあります。

■ 学生保険制度

〔学生教育研究災害傷害保険（学研災）〕

本学学生が災害にあったときのために、学生保険に加入しています。保険期間は在籍期間中で、保険料は大学が負担しています。詳細は、「加入のしおり」で確認してください。

1) 保険金が支払われる事故の範囲

1. 正課中

講義、演習、実験、実習または実技による授業中の事故

2. 学校行事中

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式等の学校行事に参加している間の事故

3. 学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している学校施設内にいる間の事故

4. 学校施設外で大学に届け出た課外活動中

大学公認の学生団体の管理下で行う文化活動、体育活動等または、大学が認めたボランティア活動をしている間の事故

5. 通学中

大学の授業等、学校行事又は課外活動への参加の目的で、合理的な経路および方法により、住居と学校施設等との間を往復する間の事故

2) 保険金の種類と金額

補償範囲	死亡保険金	後遺障害保険金	医療保険金	入院加算金 (日額)	*接触感染 予防保険金
正課・ 学校行事中	1,200万円	傷害の程度に応じて 54万円～1,800万円	治療日数1日以上 3千円～30万円	1日につき 4,000円	—
学校施設内・ 課外活動中	600万円	傷害の程度に応じて 27万円～900万円	治療日数14日以上 3万円～30万円	1日につき 4,000円	—
通学中	600万円	傷害の程度に応じて 27万円～900万円	治療日数4日以上 6千円～30万円	1日につき 4,000円	—
臨床実習中	—	—	—	—	1事故につき 1.5万円 (定額払い)

*接触感染予防保険金については、2011年度生から（理学・栄養・看護のみ）加入しています。
臨床実習中の事故で感染症予防措置を受けた場合に支給されます。

3) 保険金が支払われない場合

故意、闘争行為、犯罪行為、疾病、自殺行為、無資格運転、酒酔運転、心神喪失、地震、噴火、津波、戦争、内乱、暴動、放射線照射、放射能汚染、むちうち症、腰痛などで医学的他覚所見のないもの、施設外の課外活動で危険なスポーツを行っている間の事故、または飲酒による急性アルコール中毒症など。

4) 保険金の給付手順

1. 事故が発生したら

応急処置をした後、病院で手当てを受けた後は、必ず領収証、診察券をもらってください。そしてすぐに学生支援センターに連絡してください。

2. 治療が終わったら

治療がすべて終了したら、保険金請求の手続き（申請書類の作成）をしますので学生支援センターに申し出てください。その際は、「印鑑」「診察券」「領収書」を必ず持参してください。

3. 保険金の受領

保険会社から直接本人名義の口座に振り込まれます。なお、支払われる保険金および詳細は「学生教育研究災害傷害保険のしおり」を見てください。

【学研災付帯賠償責任保険（学研賠）】

本学学生が正課中、学校行事中及びその往復途中で、他人に怪我をさせたり、他人の物を損壊したことによる損害賠償を補償するために、学生保険に加入しています。保険期間は在籍期間中で、保険料は大学が負担しています。詳細は、「加入のしおり」で確認してください。

1) 補償の対象となる事故例

1. 正課中の賠償事故
2. 学校行事中の賠償事故
3. 通学中での賠償事故
4. 大学が認める課外活動中の賠償事故

2) 保険金

対人・対物賠償共通	1名1年あたり1事故1億円限度（免責金額0円）
-----------	-------------------------

3) 保険金が支払われない場合

故意による事故、地震・噴火・津波による事故、戦争・変乱・暴動による事故、自転車・バイク等の所有・使用・管理に起因する事故、他人からの借り物や預かり物の損壊、紛失、盗難などによる損害など。

4) 保険金の給付手順

1. 事故が発生したら

学生支援センターに自分の氏名、学籍番号、事故の発生場所、原因、発生日時、被害の程度などを連絡してください。同時に事故現場の写真を撮っておいてください。

2. 保険金の請求

学生支援センターにて申請書類を受け取り、記入して提出してください。

【看護医療学科生のための総合補償制度will】

看護医療学科の病院実習では、上記保険が傷害しか担保されず、病院での感染が不安です。したがって、実習期間中における、接触感染や院内感染の予防措置費用、検査費用等に対応するための保険に本学負担で加入しています。

【学研災付帯学生生活総合保険（付帯学総）】

学研災及び学研賠では補償されない正課・学校行事の枠を超えた活動中も補償（学内外を問わず学生生活を24時間補償）される保険です。学内外における怪我や病気の治療費用を補償する他、加害事故時の賠償責任などを補償します。

この保険は任意加入で保険料は個人負担となります。（保険料は団体割引（30％割引）が適用されます。）在学途中であっても、残りの在学期間に応じた保険料を納めることにより加入できます。詳細は、案内リーフレットなどで確認してください。

問い合わせ先

株式会社 東京海上日動パートナーズ奈良

電話 0742-33-0523 F A X 0742-35-7353

■貸ロッカー

E棟地下1階とK・L棟1階に学生用ロッカーを用意して貸し出しています。4月に案内しますので利用したい人は申し込んでください。翌年度更新の場合は1月末に手続きをしてください。

使用料 大サイズ：年間2,000円（初年度のみ5,000円）

小サイズ：年間1,000円

- ・利用できる期間は、4月から2月までとします。
- ・施錠等管理については、使用者の責任で行ってください。

- ・収納している物品の損傷や紛失については、大学はその責を負いません。

■郵便物・電話・学内放送

[郵便・宅配物]

- ・大学に配達された各団体あての郵便物は学生支援センターで預かります。各団体が大学をあて先として商品の発注を希望する場合は、必ず発注前に学生支援センターに相談してください。発注前に相談のないものは受け取りません。また、量や内容物によっては預かれない場合があります。
- ・個人に対する学内外からの郵便物・注文品等の取り次ぎは一切行いません。
- ・現金・有価証券の類は、団体・個人にかかわらず一切預かりません。

[電話]

- ・個人に対する私的な電話の取り次ぎ、呼び出しは、緊急かつ重要性のある場合を除き一切取り扱いませんので家族等に周知してください。

[学内放送]

- ・公的な用件（大学行事・正課授業など）以外での使用はできません。

■拾得物・盗難

[拾得物]

- ・学内で金品を紛失した時、拾得した時は学生支援センターまで届けてください。
- ・定期券・財布・学生証など速やかに返却する必要があると判断した場合のみ、KiTssで個人あてに連絡することがあります。
- ・預かったものは学生支援センター前に陳列しています。貴重品・USBは別に預かっていますので声を掛けてください。
- ・預かる期間は遺失物法に準拠します。

[盗難]

- ・盗難の疑いがあるときは学生支援センターに相談してください。
- ・キャッシュカードやクレジットカードは悪用される場合があります。停止の手続き、警察への届けを速やかにおこなってください。また、身に覚えのない請求が来た場合はカード会社に相談をしてください。

【自己管理に努めましょう】

- ・教材など持ち物にははっきり名前を書くこと。
- ・不要な金品はキャンパス内に持ち込まないこと。
- ・貴重品は目の届く範囲に置くこと。ロッカー使用時は必ず施錠すること。

■アルバイト

【畿央大学アルバイト紹介システム】

アルバイトの紹介は、畿央大学が業務委託をしている(株)ナジック・アイ・サポートが運営する求人情報提供サイト「畿央大学アルバイト紹介システム」で紹介しています。

<http://www.aines.net/kio/>

このシステムは、本学が発行するメールアドレス（○△□@kio.ac.jp）を使ってログインし、ID とパスワードを取得すればすぐ利用できます。

- ・このサイトに掲載している求人は、職種が危険な仕事、人体に有害とされる仕事、法令に違反する仕事、教育上好ましくない仕事、労働条件が不明確なもの、出来高払い、違約金や損害賠償を予定するもの、就労中の事故に対して対象学生に負担を負わせるものなどは取り扱っていません。自身でアルバイトを探す場合もこのことには十分注意してください。

【留意事項】

- ・学生の本分は学業です。無理な計画で学業を疎かにしたり、また健康を害したりすることのないよう自己管理をして就労してください。
- ・高賃金に惑わされないこと。労働内容・条件は就労前に確認すること。
- ・畿央大学の学生としての自覚・責任を持つこと。遅刻、無断欠勤、突然の退職などモラルやマナーに反する行為はしないようにしてください。
- ・トラブルに巻き込まれたら学生支援センターに相談してください。アルバイト中の怪我は大学が一括加入している学生教育研究災害傷害保険は適用されません。

■下宿紹介・借り上げ女子マンション

自宅から通学が困難な学生のためにマンション、下宿等を扱う業者の紹介を学生支援センターで行っています。また本学の女子学生専用の借り上げマンション

を用意しています。必要な学生は学生支援センターにご相談ください。

■悪徳商法などの被害について

近年、「マルチ商法」「インターネット取引」「訪問販売」「キャッチセールス」「デート商法」「架空請求などの振込め詐欺」による被害が増えています。これらの悪徳商法などの被害に遭わないように十分に注意をしてください。「きっぱり断る」「その場で安易に契約はしない」「個人情報をお安易に教えない」ことです。もし万一被害に遭った場合は、速やかに次の公的機関に相談してください。

- | | |
|-------------------|-----------------|
| ・ 奈良県消費生活センター | 電話 0742-26-0931 |
| ・ 奈良県警察本部悪質商法110番 | 電話 0742-24-9441 |
| ・ 香芝市消費生活相談窓口 | 電話 0745-76-2001 |
| ・ 広陵町消費生活相談窓口 | 電話 0745-55-1001 |

■カルト集団に注意

カルト集団（宗教など）は、「サークル（団体）」を装うなどして正体を隠して巧妙に勧誘活動を行っています。勧誘を受けた場合は、きっぱりと断る勇気を持ってください。何かおかしい勧誘を受けた場合は、すぐに学生支援センターに相談してください。

2. キャンパスライフを快適に

■ルールを守り、マナーを大切に

キャンパスライフを健康に、安全に、そして快適に過ごすためにはルールを守り、互いにマナーをわきまえた人間関係を築くことが大切です。

[禁煙を守りましょう]

- ・健康増進法第25条の定めにより、大学敷地内及び周辺道路、住宅地内等での喫煙を禁止します。
- ・喫煙は本人にとって害となるだけでなく、周りの人の健康にも悪影響を与えます。畿央大学で学び、将来は健康や教育にかかわる仕事に従事する者として、喫煙の習慣はやめましょう。
- ・他人の迷惑とならないところでの喫煙であっても、吸い殻のポイ捨てなどの街を汚す行為は重大なマナー違反です。

[飲酒の禁止]

- ・大学の行事等で特別に許可された場合を除いて、大学敷地内での飲酒は禁止しています。
- ・学外でのコンパなどでも一気飲みなどの危険な飲酒や飲酒を強要するような行為は許されません。

未成年者の飲酒・イッキ飲みは厳禁!!

アルコールは少量なら気持ちをリラックスさせたり会話を増やしたりする効果がありますが、大量になると麻酔薬のような効果をもたらし、運動機能を麻痺させたり意識障害の原因になります。

急性アルコール中毒は、体内のアルコール濃度が高まって、意識レベルが低下し、嘔吐、血圧低下、呼吸数低下などを来します。短時間に大量摂取する時に発症しやすく、その典型例が一気飲みで、死に至ることもあります。その危険を知り、一気飲みしない・させないが必要です。

未成年者の飲酒は法律で禁じられています。絶対に飲酒を勧めないでください。

[学内や教室でのマナー]

- ・授業中のむだ話は厳禁です。他人の迷惑となる場合には退出を命じる場合があります。

- ・教室内での飲食は禁止です。ただし、昼休み時間内に限って許されますが、PCルーム、PC講義室では一切厳禁です。
- ・携帯電話は場所をわきまえて使用しましょう。授業中・試験中は電源を切ってください。
- ・公共の場所で騒いだり、床に座り込んでたむろすることは慎んでください。
- ・学内の美化・整頓に努めましょう。ゴミの分別収集にもご協力をお願いします。

【学内での遊び】

キャンパス内のスケートボード・キックボード・フリスビー・球技などは周囲の人にとっては危険な行為ですので禁止しています。通学时も同様です。

【服装について】

- ・実験・実習、体育の服装は、担当教員の指示のあるものを着用してください。特に学外での実習については先方に不快なイメージを与えないよう、髪型や服装は教員の指示を守ってください。

【自転車のルール】

自転車は「車両」です。自転車も交通事故を起こせば責任を問われます。ルールを守らずに起こした事故の責任はさらに重大です。

◆次のことは厳禁です。

- ・信号無視 ・一旦停止の無視 ・二人乗り ・併進
- ・走行中の携帯電話 ・ヘッドホン等の使用 ・夜間の無燈走行
- ・前輪および後輪にブレーキがない自転車の運転 ・飲酒運転

◆車道通行の原則

自転車は、歩道と車道の区別のある道路では、車道を通行するのが原則です。また車道では左側端を通行しなければなりません。

◆歩道を通行する場合

歩道を通行する場合は、歩道の中央から車道寄りの部分を徐行し、歩行者の通行を妨げることになる時は一時停止しなければなりません。

◆交通事故の場合の措置

交通事故があったときは、直ちに負傷者を救護し、道路の危険を防止する等、必要な措置を講じ、警察に連絡しなければなりません。

マナー・ルール違反に対する処分の基準

(2011.10.20 教授会決定)

- 学内及び大学周辺で喫煙した場合には「誓約書」の提出を求め、3回目で懲戒処分の対象とします。
- 自家用車で通学した場合は、「誓約書」の提出を求めると同時に保護者に連絡し、2回目で懲戒処分の対象とします。
- 無届での自転車通学及び指定された駐輪場以外への駐輪を行った場合には「誓約書」の提出を求め、4回目で懲戒処分の対象とします。
- その他、近隣への迷惑行為など、公序良俗に反する行為が発覚した場合は、上記に準じてしかるべき処分を行います。
- 上記処分対象者に対しては、クリーンボランティアなどの奉仕活動を課すことがあります。
- クラブ・サークル等、本学公認団体の活動中に上記の違反が行われた場合は、その団体に対し活動制限等の処分を行う場合があります。

■ネットコミュニケーションの注意点

インターネットは、情報の発信、収集の手段にとどまらず、コミュニケーションのツールとして急速に発展しています。しかし、一方では、コンピュータウイルスやフィッシング詐欺など、様々な問題を抱えています。コミュニケーションツールとして急速に普及したSNSの活用にも十分な注意が必要です。

◆セキュリティソフトを導入する

コンピュータウイルスに侵されると自分だけではなく、他人にも大きな被害を及ぼします。また、フィッシング詐欺などの被害にあうことのないように、必ずセキュリティソフトを導入しましょう。

◆メールを送る前には必ず内容や宛先の確認を

メールは、相手の反応を見ることができません。そのため、自分では何気ない一言が、相手を傷つけてしまったり不快な気持ちにさせたりすることがあります。相手の立場に立った適切な表現を使うようにしましょう。また、間違った宛先に送ったメールも取り返しがつきません。必ず確認してから送信しましょう。

◆SNS利用には十分な注意を

・SNSへの投稿は、独り言やおしゃべりではありません。

独り言や友人とおしゃべりのつもりでも、SNSへの投稿は、全世界に情報発信しているのと同じことです。アクセス制限していない場合は

もちろんのこと、システムのトラブルや知人のミス、悪意による漏えいなどにより、どこに拡散するかわかりません。あなたに悪意がなかったとしても、個人情報の漏えいや守秘義務違反、名誉棄損やプライバシー侵害、著作権の侵害などの問題に発展することもあります。

- ・匿名の書き込みも個人が特定されます。

投稿の内容や写真のGPS情報、IPアドレスなどによって、発信場所や住所を特定することは可能です。不用意な投稿で事件に巻き込まれるようなことがないように注意しましょう。

- ・ネット上の情報の削除は不可能

一度投稿してしまった内容は、様々なところで記録され、それを完全に削除することは不可能です。将来、あなたの過去の発言が問題にされて苦しむようなことがあるかもしれません。

- ・責任ある投稿でネットの有効活用を

投稿する前に「人を傷つけたり、迷惑をかける内容ではないか」「人前で話しても問題のないものか」を考えて利用しましょう。そうすれば、SNSは素晴らしいコミュニケーションツールとなります。ネットの向こう側には、必ず相手がいるのですから。

■ハラスメントの防止

セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント及びその他のハラスメントは許されません。畿央大学のすべての学生は公正、安全で快適な環境の下に、学修、研究を行う権利を保障されています。畿央大学では教職員や学生などすべての構成員が互いの立場を尊重しあう人間関係を作りあげ、維持することをめざしますが、もしハラスメントが発生した場合は厳正、迅速な手続きによって公正かつ適正に対処します。

詳しくは「ハラスメントの防止等に関する指針 (P.309)」「ハラスメントの防止等に関する規則 (P.313)」をご覧ください。

ハラスメントについての相談は学生支援センター、「ここらぼ」、もしくは別途ご案内する相談員に気軽に声をかけてください。

下宿生活の注意点

下宿生活では、同入居者や家主にはもちろん近隣住民にも迷惑をかけないように、ルールを守り、良識ある行動を心がけて下さい。なお、大学は契約には関与しませんので、入居決定時には契約条項をよく理解してから契約を行ってください。

・健康管理

下宿生は自分の健康は自分で管理しなければなりません。特に食生活には注意し、不規則な生活は慎みましょう。万一に備えて、健康保険証（遠隔地被扶養者証）を取り寄せておきましょう。

・防火・防犯

火災の原因となる暖房器具やタバコの後始末など、火気には十分注意して下さい。また外出時は必ず戸締りをして盗難に気をつけましょう。

・騒音・無断駐輪駐車

他人の迷惑となる騒音は下宿内外で気をつけて下さい。特に深夜に窓を開けて騒ぐのはやめましょう。また家主に無断で駐輪や駐車をして迷惑をかけないように、集まる時には友人同士お互いに注意しましょう。

・家主や隣人との人間関係

下宿生活では家主や隣人と良好な人間関係を築くことが重要です。トラブルが生じた場合は双方が誠意を持って解決にあたきましょう。

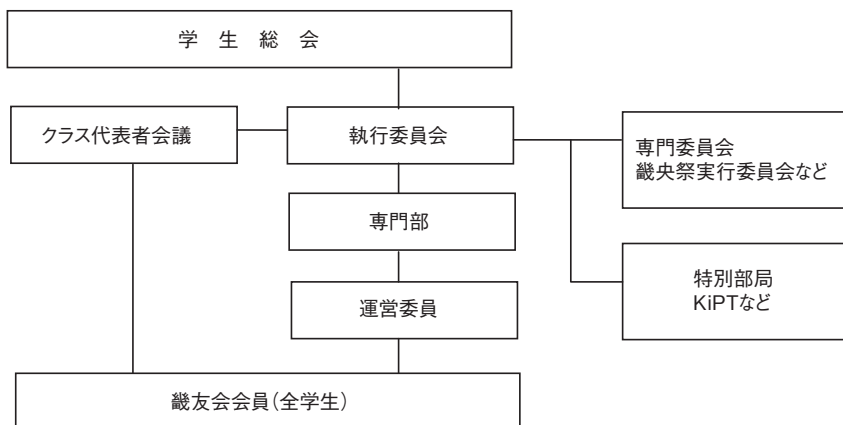
3. 課外活動

■ 畿友会

本学の学生によって組織、運営される学生自治会であり、会員の自治と自主的な諸活動により会員相互の親睦をはかり、学生生活の発展向上と畿央大学の発展に寄与することを目的としています。積極的に活動に参加して仲間をつくり、人間性豊かな成長の場としてください。

畿友会は、会費と畿央大学後援会からの補助金を財源として、学生生活の充実のために畿央祭をはじめとした各種行事を開催し、クラブ・サークルへの補助や活動の調整などを行っています。

【畿友会組織図】

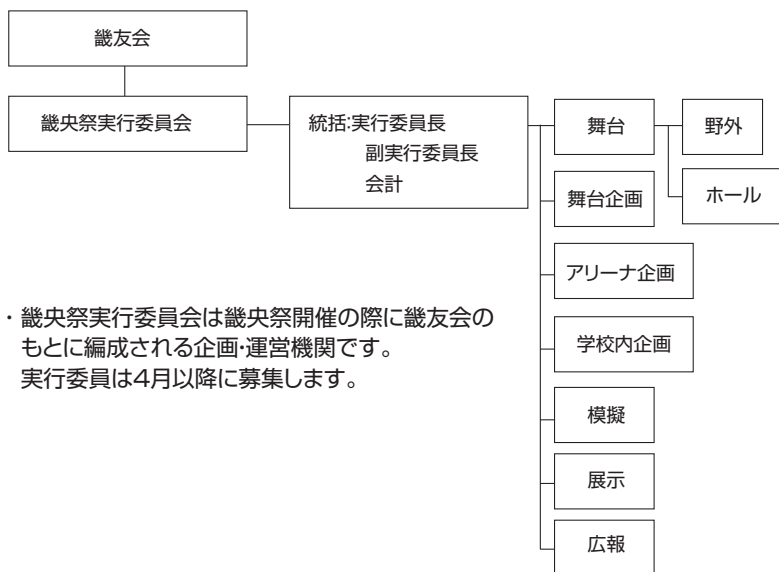


【年間行事】

昨年は次のような畿友会主催の行事を行いました。学生からの提案で、毎年新しい行事が増えています。畿友会からの情報を見逃さずに、積極的に参加してください。

- | | |
|-------|----------------|
| 3 月末 | キャンパス歓迎会・クラブ勧誘 |
| 4 月 | 学科毎の新入生歓迎会 |
| 5～6 月 | 球技大会 |
| 6 月 | サマーフェスティバル |
| 10月 | 畿央祭・クリーンキャンペーン |
| 12月 | クリスマス会 |

■畿央祭実行委員会



■KiPT (Kio Performance Team)

- ・ イベント企画・運営の専門団体。Summer Festivalの運営のほか、各イベントの企画、運営、司会等を行います。学外からの依頼も受け付けています。

■クラブ・サークル

[サークルの設立]

新しくサークルを設立する場合、必要書類すべてを学生支援センターへ提出してください。申請にあたっては、5名以上の同意者および顧問（専任教員）の承諾が必要です。畿友会・学生支援センターで検討のうえ承認されます。

[サークルからクラブへの昇格]

サークルのメンバーが10名を超え、週2回以上の活動を1年以上安定して継続し、その活動内容がクラブとしてふさわしいと認められる場合は、クラブへ昇格を申請することができます。畿友会・学生支援センターで検討のうえ承認されます。

[クラブ・サークル等の継続]

引き続き団体として活動する場合、前年度のクラブ・サークル活動の状況報告

や次年度計画などの必要書類を学生支援センターに提出してください。審査のうえ、承認されます。提出しない場合、解散したものとみなします。なお、活動の継続が不可能になった場合は、「クラブ・サークル解散届」を提出してください。

【クラブ室の使用】

クラブ室には限りがあり、クラブのすべてに提供することはできないこと、また1つのクラブ室を複数の団体で共用してもらうことをお願いしています。使用にあたっては、以下の行為は謹んでください。

- (1) 団体として学則・諸規則に反する行為
- (2) 室内での暴力行為
- (3) クラブ室の改造または改築
- (4) 火災・盗難の危険性のある行為

※常に清潔に保ち、いつでも団体活動の場にふさわしい使用を心がけてください。

【クラブ・サークルによる施設使用】

大学の施設の使用については、団体ごとに予定表を作成し、顧問・畿友会・学生支援センター・施設の管理責任者と相談の上使用してください。ただし、各施設とも正規の授業が優先されます。また施設使用後は美化・整頓に留意し、戸締り、火の元に十分注意してください。

■ボランティア活動（ボランティアセンター）

ボランティア活動に参加したり、ボランティア活動について学習したりできるように、本学ではボランティアセンターを開設しています。情報提供や相談、活動交流などを通して学生のボランティア活動を支援していますので、いつでも遠慮なくセンターにお越しください。

【ボランティア活動中の保険】

ボランティア活動中の自身の事故やけが、活動先の人にけがをさせたり物を壊してしまったりした場合は、大学で加入している「学研災」「学研賠」にて保障されます。

但し保障の対象は、大学が承認した活動に限ります。大学が承認した活動を行うためには、4月中に「エントリーカード」を、各活動前に「参加予定カード」、

活動後に「活動報告カード」を提出する必要があります。

大学に承認を得ない活動については保障の対象外となり、個人でボランティア保険に加入する必要があります。ボランティアセンターに相談してください。

【ボランティア活動への参加】

1) 活動登録

今年度ボランティア活動を予定している学生は、4月中にボランティアセンターへ「エントリーカード」を提出してください。エントリーの内容に応じたボランティア情報をお届けします。

2) 情報収集

ボランティア募集掲示板、閲覧ファイル等でボランティア情報を紹介しています。また、KiTssの「ボランティア情報」のページにも掲載しています。希望するボランティアが見つからない場合は、スタッフに相談してください。

3) 参加申込

参加を決めたら、「参加申込カード」を提出してください。ボランティアの内容や詳細（場所・時間・服装・準備物等）は、事前に各自で確認をしましょう。

個人で見つけたボランティアについても、大学が承認した場合は「学研災」「学研賠」の保障の対象となりますので、活動の1週間前までにボランティアセンターに届け出てください。

ボランティア活動には責任が伴います。安易に欠席したり、体調不良で休むことのないよう体調管理に気をつけましょう。

4) 活動報告

参加した活動を振り返り、「ボランティア活動報告カード」を提出してください。活動の交流、紹介に役立てるほか、自身の記録として保管します。

※「エントリーカード」「参加予定カード」「活動報告カード」はいずれもKiTssの「ボランティア情報」にフォーマットを用意しています。

volunteer@kio.ac.jpまでメールに添付して送信して頂いても結構です。

【ボランティアに関する疑問、相談】

「活動内容が当初のものと不本意に変わってきた」「活動先から不当なハラスメントを受けた」「コミュニケーションがうまくいけなくなり活動を続けられない」等、疑問や困ったことがある時は、ボランティアセンターに相談してください。

4. 施設の使用

■施設の使用について

【施設使用についての考え方】

大学の施設・設備は教育研究に活用するためにあり、正当な理由によって使用したいと希望する学生に貸し出しを行っています。合理的かつ公平に、また安全に使用するための基本ルールを定めていますので、ルールの範囲内で使用してください。

【施設使用の申し込み方法】

大学施設の使用状況はKiTssの「施設・設備予約状況」のページで見ることができます。希望する日時に予約が入っていないことを確かめたうえで、学生支援センターの窓口で「大学施設使用願」に必要な事項を記入して申し込んでください。ただし、自習の場合は自習室、グループ学習の場合はグループ学習室を用意していますので、施設使用の申し込みは不要です。

◆施設の使用は3時間を限度とします。3時間を超えて使用する必要がある場合、当日に予約が入っていなければ、再度手続きをして使用することができます（実験・実習室及びコンピュータールームは3時間を限度とせず使用できます）。

◆クラブ、サークル、ゼミで使用する場合

1カ月先までの予約ができます。クラブ・サークルの場合は顧問の、ゼミの場合は担任の許可（押印）が必要です（ただし体育施設については不要）。また、実験・実習室等施設によっては担当学科教員の許可（押印）が必要になります。

◆任意のグループで使用する場合

当日に当該施設の予約が入っていない場合に限り受け付けます。

大学休業日の施設利用申請について

- ・大学休業日（日曜日および授業のない祝日）に当日の申し込みはできません。個人・グループでの使用の場合は、3日前から予約申請を受け付けます。（日曜の予約は直前の木～土、月曜日が祝日の場合の施設使用の受付は、その前週の金曜、土曜です。）
- ・原則として3時間以内で申請をしてください。ただし使用理由により3時間を超えての申請を可とします。

■申し込みが不要な施設

【自習室】

大学が指定した講義室等を自習室として開放しています。教室・時間については掲示板やKiTssの「施設・設備予約状況」のページに掲載します。共同使用となりますので、ルールとマナーを守って利用してください。また国家試験対策や教員採用試験対策専用の自習室を一定期間設けています。

【グループ学習室】

特定の講義室をグループ学習室にしていますので、グループワークなど討議を伴うグループ学習に利用してください。共同使用となりますので1グループでの独占はできません。

【ゼミ室】

一部のゼミ室を8:00～18:00まで開放しています。少人数での学習など自由に利用して下さい。なお、18:00以降の使用には施設使用の申し込みが必要です。

【食堂・RBラウンジ】

食事の提供は1階が10:00～14:00、地下売店では8:40～18:00ですが、施設は21:00まで開放しています。

最終授業(試験)期間中の自習室・グループ学習室等について

- ・最終授業（試験）期間中には通常より多くの講義室等を自習室、グループ学習室として設定します。個別に申し込んでの講義室等の貸し出しは行いません。
- ・当該期間の一部のゼミ室は23:00まで自習室として開放しています。

■申し込みが必要な施設

※申し込みは学生支援センター（月～金8:40～18:00、土8:40～17:00）

【ゼミ室】 18:00～23:00

【講義室】 原則として8:00～23:00

※貸出は原則L棟講義室だけになります。

※講義室の使用はクラブ、サークル等の公認団体だけになります。

【実験・実習室】 原則として8:00～23:00

※C3音楽室は20:00、E3音楽室は21:00まで

※健康栄養学科関連施設（調理実習室、基礎実験室等）は、教員の監督がないと使用できません。担当教員に相談してください。

【ピアノ練習室】 原則として9:00～23:00

※ピアノの練習以外の目的では利用できません。

※18:00（土曜日は17:00）までは学生支援センターで鍵と学生証を交換して利用してください。1回の使用は30分または60分です。連続して使用を希望する場合は混雑していなければ部屋をかえて利用できます。

※上記以降の時間帯や休業日に使用を希望する場合はC棟の練習室に限り利用できますので「施設使用願」で申し込んでください。

【体育施設】（グラウンド・テニスコート・体育館など）

第2キャンパス（グラウンド、テニスコート）…9:00～20:00

第2キャンパス（クラブハウス・体育室）…9:00～20:30

体育館（アリーナ、小体育室）…9:00～21:00

畿央大学の学生サポート

1. サポート体制

畿央大学では学生の学びや暮らしのサポートをするために、次のような体制を整えています。積極的に利用して充実した学生生活を送ってください。

	こんなとき	
担任	本学では学生全員がクラス、ゼミもしくはコースに所属し、それぞれに専任の教員が担任として配置されています。履修登録指導などを行うとともに、年2回、全員を対象とした個別面談も行います。何か困ったことがあったり、進路に迷ったり、学習に行き詰ったときには積極的に担任に相談して下さい。	
オフィスアワー	専任の教員は、質問や相談を受けるため、毎週決まった時間帯に研究室で待機しています。学修上のこと、進路のことなど、気軽に訪問して相談してください。どの学部・学科の教員を訪問しても結構です。各教員のオフィスアワーは研究室前の掲示やKiTssのメニュー「オフィスアワー・教員紹介」で確認してください。	
学生支援センター (月～金) 8:40～18:00 (土) 8:40～17:00	授業関係	履修・成績等について相談したい
		病気・事故等により授業を欠席する(した)
		「事務室に提出」と指定されたレポートの提出
		実習について相談したい
		障がいがあるので授業での支援を受けたい
	証明書	成績証明書・在学証明書等が必要
		学生証・仮学生証の発行が必要
		健康診断証明書が必要
		学割の発行
	学生生活	休学・復学・退学・再入学について
		本人・保証人の氏名・住所・電話番号の変更
		奨学金についての相談
		バイク・自転車通学の届け出
		落とし物・拾い物をした
		クラブを設立したい、課外活動について知りたい
		大学の施設や器材を借りたい
		ロッカーを申し込みたい
		掲示をしたい
		授業中や通学中にけがをしたので学生保険の手続きをしたい

	こんなとき
ボランティアセンター (月～金) 8:40～17:00	ボランティアに関心のある人はボランティアセンターへ。様々な団体や学校・病院等からのボランティアの募集情報を提供しています。またボランティアについての相談も受け付けています。
図書館 (月～金) 9:00～20:00 (土) 9:00～18:00 授業がない期間は異なります。	本を借りたい、電子ジャーナルを利用したい、調べたいことがあるけどどうしたら良いか分からないときは図書館カウンターへ。本学にない書籍は他の図書館から取り寄せることも含めて相談にのります。
ラーニングサポートセンター (月～金) 8:40～18:00 (土) 8:40～17:00	パソコンや情報ネットワークを使う際に困ったことや分からないことがあれば情報センターへ。課外活動などでカメラやビデオなどの機材が必要な際は貸し出します。(担当の教員の承認が必要) プリンタ印刷枚数の追加申し込みも受け付けます。
キャリアセンター (月～金) 8:40～18:00	就職に関すること、進路に関することはなんでもキャリアセンターへ。各学科ごとの担当者において、就職についての情報収集・提供に努めています。キャリアセンター内の「教採・公務員対策室」では、教員や公務員をめざす人をサポート。就職活動間際ではなく、早い時期からの相談、利用をお勧めします。
健康支援センター (月～金) 10:00～18:00	けがをした時、身体の調子が悪い時はすぐに健康支援センターへ。専任のスタッフが対応します。また健康について不安を感じるがあれば相談することもできます。
キャンパスコラボレーションセンター「こころぼ」 (月～金) 10:00～18:00	人間関係で悩んだり、勉強や進路のことで不安になったとき、相談に乗ってもらえるのが「こころぼ」です。「どうしたらいいんだろう」と思ったら、まず「こころぼ」に来てください。臨床心理士の専門相談員があなたの相談を受け止め、一緒に解決方法を探ります。

■こころぼ（キャンパスコラボレーションセンター）の予約

メールアドレス cocolabo@kio.ac.jp

相談を希望する日時の候補をいくつかお書きください。受付担当より、日程調整の連絡をします。お急ぎの方は受付時間内にお電話または直接ご来室ください。

直通電話 080-2527-0062（対応時間 月～金 10:00～18:00）

■なんでも相談メール

メールアドレス nandemo@kio.ac.jp

学生生活で困ったことや学校への要望など、なんでも相談できるメールによる窓口です。相談にかかわる秘密は守ります。

2. 学修支援

社会におけるグローバル化や情報化の進展はめまぐるしく将来の予測は困難です。このような時代を生きるためには生涯学び続け、主体的に考える力を身に付けることが求められています。そのためには、みずから問題意識を持って調べたり、考えたり、双方向で意見を交わしてより理解を深めたりという、能動的な学び（アクティブラーニング）が大切です。畿央大学では充実した図書館や最先端の情報環境を用意して、みなさんの積極的な学修をサポートしています。

■図書館

本学の図書館は、図書・雑誌の他、オンラインデータベースや電子ジャーナル等の電子情報やDVD・CD等の視聴覚資料などさまざまな媒体での情報を提供しています。学習、研究のためだけでなく、知的好奇心を満たすためにも積極的にご利用ください。

【開館時間】

	授業日	授業日以外
月～金	9:00～20:00	9:00～18:00
土曜日	9:00～18:00	9:00～18:00

- ・マルチメディアルームは、閉館時間の30分前に閉室します。
- ・休館日：日曜・祝日（授業日以外）・夏期及び冬期休業中の一定期間・館内整理日等

※臨時休館を含め休館日は、その都度、図書館HP・館内掲示でお知らせします。

【入退館方法】

▼入館

図書館の入口には入退館システムのゲートがあります。入館システムの読み取り部に学生証をスキャンさせ、認証されればゲートが開きますので、一人ずつ入館してください。学生証を忘れた場合は、カウンターへお申し出ください。

▼退館

出口に設置されているゲートを通して退館してください。

貸出手続が済んでいない資料を持って退館しようとする、無断持出防止装置が作動して、ブザーが鳴りゲートがロックされます。まれに、携帯電話や他館で借りた資料、その他金属製品等に反応し、誤作動することがあります。その際には所持品の確認にご理解とご協力をお願いいたします。

— レファレンス・サービス —

探している資料が見つからない、どのように探したらいいのかわからない、など、図書館の利用や資料についての質問や相談を受け付けています。図書館を利用するにあたってわからないことや、困ったことについては、カウンターまでお気軽にご相談ください。

【閲覧】

閉架閲覧室の資料は自由に閲覧できます。地階の閉架書庫へは入庫することができません。

閉架書庫の資料を利用したい場合は、「閉架書庫出庫申込書」に必要事項を記入の上、カウンターへお申込みください。職員が閉架書庫より資料を持ってきます。

【貸出】

借りたい図書と学生証をカウンターへ持参し、手続きをしてください。

図書の貸出上限冊数及び貸出最長期間は、次の通りです。

冊数	期間
5冊	2週間

▼以下の資料は館外貸出できません。

- ・禁帯出ラベルの貼られている資料（辞書・辞典・年鑑・白書等）
- ・雑誌・新聞などの逐次刊行物
- ・視聴覚資料（DVD・CD・ビデオ等）

※視聴覚資料の閲覧はマルチメディアルームでしかできません。

▼自分が借りた資料は他人に又貸ししないでください。

▼貸出期間の延長

- ・貸出期間の延長を希望する場合は、返却期限までに期間を延長したい図書と学生証をカウンターへ持参し、手続きしてください。ただし、他の利用者からの予約が入っている場合や他に借りている図書が1冊でも延

滞している場合は延長できません。

- ・1回に限り、図書を持参しなくても、手続きの日から2週間の期間延長ができます。返却期限までにカウンターへお申し出ください。
- ・長期実習へ行く場合に限り、事前の申し出により貸出期間を延長することができます。その場合、実習開始日の1週間前より手続きができます。
- ・夏期休業等の長期休業中は貸出期間が延長されます。延長期間については、事前に図書館HP・館内掲示にてお知らせします。

▼予約

借りたい図書が貸出中の場合は、予約をすることができます。「予約申込書」に必要事項を記入の上、カウンターへお申し込みください。予約した図書が返却され次第、ご連絡します。

▼紛失・汚損

借りている図書を無くしたり、汚してしまった場合は、すぐにカウンターへお申し出ください。現物（または時価）による弁償を原則としています。

[返却]

借りた図書は、書架に戻さず、期限までに必ず借りた本人がカウンターへ返却に来てください。

▼延滞・貸出停止

期限を過ぎて返却した場合、延滞した日数分だけ貸出停止となります。延滞日数57日目から未返却図書の再購入金額を請求いたします。また、延滞日数71日目以降からは懲戒の対象となります。

※延滞中の図書がある場合には、貸出・延長・予約の手続きはできませんのでご注意ください。

[資料の複写]

図書館所蔵の資料は、著作権法で認められた範囲内で複写できます（有料）。「文献複写申込書」に必要事項を記入の上、カウンターへお申し込みください。複写はセルフサービスです。ノートやプリント等の私物は複写できません。

[リクエスト]

図書館で所蔵していない図書をリクエストすることができます。「リクエスト申込書」に必要事項を記入の上、カウンターへお申し込みください。購入の可否

については、選定の上決定されます。

[学術データベース・電子ジャーナル]

健康科学や教育学、心理学等、畿央大学の教育研究に関連する分野の学術データベースや電子ジャーナルを利用できます。

学内からのみ利用できるものと、学外からも利用できるものがあります。大学HPの図書館ページにアクセスし、データベースリンク集からご利用下さい。利用については個人認証が必要であったり、ダウンロード数に制限のあるものがあります。ルールを守って、しかし積極的に利用しましょう。

[相互利用サービス]

探している資料が本学図書館や本学で利用できる電子ジャーナル、データベースにない場合、所蔵している他の図書館に複写・貸借・閲覧の依頼をすることができます。

▼文献複写

資料の複写物（コピー）の取り寄せができます。※複写料と郵送料が必要です。

▼図書貸借

図書の現物を借りることができます。※送料が必要です。

借りた図書は、館内閲覧のみに限られています（館外持出不可）。また、雑誌は借りることができませんので、文献複写をご利用ください。

▼訪問利用

必要な資料を閲覧するために他の大学図書館を直接訪問し、利用することができます。

※利用したい資料（本や雑誌）と訪問希望日時をお申し出ください。本学図書館より訪問先へ連絡します。

図書館によっては紹介状等の発行など手続きに数日かかりますので、余裕をもってカウンターへお申し込みください（基本的に自習目的の利用はできません）。

[マルチメディアルームの利用]

図書館中央部にあるガラス張りのマルチメディアルームには、パソコン（46台）・カラーレーザプリンタ・スキャナ等を設置しています。オンラインデータ

ベースや電子ジャーナルの利用、CD・DVD・VHSなど視聴覚資料の鑑賞など多目的に利用できます。イヤフォン、ヘッドフォンは、各自でご用意ください。

【図書館利用上の注意】

- ・館内では飲食はできません。飲食物の持ち込みはご遠慮ください。
- ・本学は敷地・建物内、すべて禁煙です。
- ・館内では私語や雑談、騒音の出る行為はつつしんでください。
- ・携帯電話、スマートフォン等の音の出る機器はマナーモードに設定し、通話をご遠慮ください。
- ・私物や図書を机の上に放置しないようにしてください。貴重品は必ず各自で管理してください。
- ・図書館資料は大切に扱ってください。切り抜きや書き込みなどはしないでください。
- ・その他、館内では職員の指示に従ってください。

■ラーニングサポートセンター

ラーニングサポートセンターでは教育活動や学生の学びを支援するために、情報システムの利用サービスを行っています。パソコンがうまく動かない、メールがうまく届かないなどの困ったことがあったり、PCやネットワークの活用の仕方についての質問があればラーニングサポートセンターへ。情報システムに精通したスタッフが、みなさんの質問にお応えします。

【ノートPC・カメラ等の貸し出し】

ノートPCの1回の貸し出しは3時間で、最大6時間まで使用可能です。学内には無線LANのアクセスポイントを整備していますので一部を除きインターネットへの接続も可能です。また、ビデオカメラ・デジタルカメラ等の情報機器も担当教員の許可があれば貸し出しできます。

【パソコン施設の開放】

授業等で使っていない時間帯は、学修活動のために開放しています。利用できる時間帯は以下のとおりです。ただし学校行事のある際には利用できない場合もあります。

	台数	開放時間	備 考
C 2 コンピュータルーム 1	48	8:00～20:00	左記の時間帯で、授業で使わない時間は大学施設使用願なしで利用できます。時間を延長して使用したい場合は18:00（土曜日は17:00）までに施設使用願を学生支援センターまで提出してください。
C 2 コンピュータルーム 2	48	8:00～20:00	
L 2 コンピュータルーム 3	48	8:00～18:00	
L201 PC講義室	48	8:00～18:00	
E103 PC講義室	119	8:00～23:00	
E104 PC講義室	78	8:00～23:00	延長不可
マルチメディアルーム	46	9:00～19:30（月～金） 9:00～17:30（土）	

▼日曜日・授業のない祝日の扱い

授業日にはすべてのPC室を授業時間以外は手続きなしで使うことができますが、日曜日や祝日には自由に使えるPC室と事前申請が必要なPC室があります。KiTssの「施設・設備予約状況」で自習室・グループ学習室と表示されている部屋は手続きなしで利用できます。それ以外の部屋を使用したい場合は、学生支援センター窓口で事前申請してください。

【プリンタ使用枚数の制限】

プリンタ印刷は自由にできますが、卒業までの4年間に無料で印刷できる枚数は1600枚です。この枚数を超えて印刷したい場合は有料となります（1枚10円）。追加申請はラーニングサポートセンターで行ってください。

情報ネットワークシステム利用のマナー

情報ネットワークを利用することは大変便利で、教育研究活動を進めるためには必要不可欠のものになっています。しかし一方では、その利用方法次第では個人情報情報の漏えい、人権の侵害、著作権法違反など、様々な問題を起こす可能性があるのも現実です。本学では「情報セキュリティポリシー」を定めて、ルールにのっとった利用をお願いしています。

情報ネットワークシステムの利用にあたっては特に、次のような行為を禁止しています。

- (1) 他人のプライバシーを侵害する行為
- (2) 他人を誹謗・中傷する行為
- (3) 著作権法等の関連法規に違反する行為
- (4) 本学のシステムに損害または不利益を与える行為
- (5) 営利及び売買行為を目的とした行為

- (6) 本学及び他のネットワークに対する不正アクセス行為
- (7) 違法行為を支援、助長する行為
- (8) ユーザID及びパスワードの譲渡・貸与及び第三者への開示行為
- (9) 公序良俗、建学の精神に反する行為
- (10) 法令、学則、学内規則に反する行為
- (11) その他本学が不適当と判断する行為

以上のような行為を行った場合には情報ネットワークシステムの利用を停止することがあります。巻末に掲載した「情報セキュリティ実施細則（P.284）」ではメールの利用やWebアクセス、ファイル転送、ウィルス対策などについてのマニュアルを定めていますので遵守してください。

3. 進路支援

「〇〇になりたい、〇〇に就職したい」という目標が決まっている人、「こんな仕事につきたいというイメージはある人」、「自分が何をしたいか、何ができるかわからない人」。それぞれに違いはあっても4年間の学生生活の中で、卒業時には自分の人生についての見通しを持ち、社会人としての一步を踏み出すことができるよう、畿央大学では充実した進路支援のシステムと体制を整えています。

■進路支援の流れ

- 1回生

キャリア入門セミナー・キャリア形成セミナーを行います。

↓
- 2回生

各種インターンシップ・実習が始まります。

↓
- 3回生

進路希望登録・キャリアガイダンス・教育実習や病院実習が本格化

↓
- 4回生

採用試験、国家試験対策と就職活動にフル回転
- それぞれめざす進路によって就職活動や試験対策は多様ですが、畿央大学ではそれぞれの内容に専門スタッフをおき、担任教員と協力して一人一人の学生の希望進路を実現します。

		1年次		2年次		3年次		4年次			
共通	ボランティア活動						就職活動支援プログラム				
	プレ・キャリアガイダンス						キャリアガイダンス				
	理学療法 看護医療 健康栄養 人間環境デザイン 現代教育	キャリア入門 セミナー				病院合同説明会	医療マナー講座		就職対策講座	病院合同説明会	キャリア形成セミナー
			チーム医療 発展セミナー	病院・施設 ボランティア活動			医療マナー講座		就職対策講座	病院合同説明会	
			キャリア発展 セミナー	企業インターン シップ	企業インターン シップ		医療マナー講座				
学校インターンシップ											

■キャリアセンター

キャリアセンターは進路支援の総合窓口です。進路についての悩み・相談は何でも受け付けます。必要な学年、時期にキャリアガイダンスや就活パワーアップ講座を企画・実施して、企業就職、病院施設、私立幼稚園・保育所への進路を希望する学生をサポートしています。キャリアセンターの中に設置された「教採・公務員対策室」では、学部・学科を問わず教員や公務員をめざす学生をサポートします。先輩たちの就職活動を成功させてきたベテランスタッフによる個別面談、個別指導も繰り返し行い、内定を獲得するまでバックアップします。畿央大学のキャリア支援は卒業で終わるわけではありません。卒業後も困ったり、悩んだりすることがあれば相談に応じています。

企業就職までのサポート

対象	実施時期	プログラム	テーマ・内容
1 回 生	6月	キャリアデザインセミナー	キャリアセンターの紹介
	10月	キャリア発展セミナー	現場訪問・キャリアガイダンス
	2月	ポートフォリオ講座	グラフィックソフト操作の基礎 ※希望者のみ
2 回 生	4月	企業インターンシップ説明会	企業インターンシップの概要と申込方法 ※希望者のみ
	7月	企業インターンシップ事前研修	
	10月	奈良インターンシップ事後研修	
	10月	海外インターンシップ説明会	
	1月	海外インターンシップ直前研修	
	2月	ポートフォリオ講座	グラフィックソフト操作の基礎 ※希望者のみ
3 回 生	4月	適職診断テスト	自己分析と職業適性診断のためのヒントを探す
		企業インターンシップ説明会	企業インターンシップの概要と申込方法 ※希望者のみ(3D参加推奨)
		第1回キャリアガイダンス	今日からスタート！就職活動基礎ガイダンス
		第2回キャリアガイダンス	就活リアル体験！～スタートから内定までのドキュメント
	5月	第3回キャリアガイダンス	意外と知らない社会人の常識①～生活設計：給料・ボーナス・年金！
		第4回キャリアガイダンス	成功する就職活動とは？ ※『適職診断テスト』フォローアップガイダンス
		第5回キャリアガイダンス	リクルートスーツの選び方とカラーコーディネート
		第6回キャリアガイダンス	就職ナビと就活最新動向
	6月	第7回キャリアガイダンス	初めてでもできる業界研究のススメ方
		第8回キャリアガイダンス	学科担当が語る！先輩の就職先と目指す業界
		第9回キャリアガイダンス	学科担当が語る！業界別の仕事内容と企業研究
		第10回キャリアガイダンス	第1回就職模試（一般常識対策編）

(注) 日程・内容は変更する場合があります

対象	実施時期	プログラム	テーマ・内 容
3 回 生	7月	第11回キャリアガイダンス	いよいよ就職活動へ！採用試験の傾向と対策～筆記試験編
		第12回キャリアガイダンス	第2回就職模試（SPⅠー3対策編）
		第13回キャリアガイダンス	意外と知らない社会人の常識②～労働法：働く権利と義務！
		第14回キャリアガイダンス	自己分析とエントリーシートの実例～インパクトのあるエピソードとは！
		第15回キャリアガイダンス	女子学生限定！第一印象が良くなるメイクとフェイスクア ※女子限定
		就活パワーアップ講座	SPⅠー3（90分×15回）
		企業インターンシップ事前研修会	
	9月	就活パワーアップ講座	エントリーシート・面接対策①
		第16回キャリアガイダンス	内定率に差が出る履歴書・ビジネスレター・メールの書き方 ※添削指導
		畿央インターンシップ事後研修	
	10月	奈良インターンシップ事後研修	
		就活パワーアップ講座	エントリーシート・面接対策②
		第17回キャリアガイダンス	性格適性検査攻略法
		就活パワーアップ講座	論作文対策
		海外インターンシップ説明会	
		第18回キャリアガイダンス	就職ナビ徹底活用法と情報収集のコツ
		就活パワーアップ講座	プレゼンテーション力講座①
		第19回キャリアガイダンス	内定した4回生に聞く：成功する就職活動の進め方！
		第20回キャリアガイダンス	業界研究セミナー PART1 企業人事担当の業界・会社説明 ※スーツ着用
		就活パワーアップ講座	エントリーシート・面接対策③
	11月	第21回キャリアガイダンス	業界研究セミナー PART2 企業人事担当の業界・会社説明 ※スーツ着用
		第22回キャリアガイダンス	業界研究セミナー PART3 企業人事担当の業界・会社説明 ※スーツ着用
		第23回キャリアガイダンス	業界研究セミナー PART4 企業人事担当の業界・会社説明 ※スーツ着用
	12月	第24回キャリアガイダンス	学科担当が語る！おススメ企業の案内と各業界の最新採用情報 PART1
		就活パワーアップ講座	ビジネスマナー
		第25回キャリアガイダンス	学科担当が語る！おススメ企業の案内と各業界の最新採用情報 PART2
		第26回キャリアガイダンス	就活直前アドバイス② エントリーシート対策～自由記述欄攻略法
	1月	ポートフォリオ講座	グラフィックソフト操作の基礎から応用まで
		履歴書用写真撮影会	履歴書・エントリーシート用の顔写真の撮影（有料：ヘアメイクつき）
		グループ面接練習会	グループ面接・グループディスカッションの模擬体験・事後指導
		第27回キャリアガイダンス	第3回就職模擬試験（一般常識＋SPⅠー3対策）
		第28回キャリアガイダンス	就活直前アドバイス③ポイント総復習＆キャリアセンター活用法
		就活パワーアップ講座	プレゼンテーション力講座②
		海外インターンシップ直前研修	
	2月	給食会社説明会	大手給食会社による企業説明会
4回生	4月	健康栄養学科キャリアガイダンス	栄養士職ガイダンス～給食会社・病院・施設・保育園

（注）日程・内容は変更する場合があります

病院・施設就職までのサポート

	対象	実施時期	プログラム	テーマ・内容
理学療法学科	2回生	11月		公務員資格職、国公立病院希望者対象ガイダンス
	3回生	11月		公務員資格職、国公立病院希望者対象ガイダンス
		1月	医療接遇講座	病院で必要とされるマナーについての講座
	4回生	8月	夏期就職対策講座	就職活動の進め方、病院合同説明会について
			夏期就職対策講座	自己紹介書の書き方と自己PR①②
			夏期就職対策講座	論作文の書き方と課題作成①②
			夏期就職対策講座	面接マナーとビジネスマナー ※スーツ着用
			夏期就職対策講座	履歴書の書き方とルール
			夏期就職対策講座	面接試験の攻略法、履歴書返却と講評
			病院合同説明会	※スーツ着用
看護医療学科	3回生	6月	医療接遇講座	病院で必要とされるマナーについての講座
		1月	就職ガイダンス	看護師就職希望者のためのガイダンス
		3月	病院合同説明会	※スーツ着用
			就職対策講座	履歴書の書き方とルール
			就職対策講座	自己紹介書の書き方と自己PR①②
			就職対策講座	面接試験の攻略法、履歴書返却と講評
			就職対策講座	面接マナーとビジネスマナー ※スーツ着用
			就職対策講座	論作文の書き方と課題作成①②③
	4回生	5月	グループ面接指導	グループ面接指導
栄養	3回生	7月	医療接遇講座	病院で必要とされるマナーについての講座

(注) 日程・内容は変更する場合があります

進路希望登録とは？

進路希望登録とは

3回生になった時点で「進路・求職登録書」を全員提出してもらいます。この届は就職希望者に対する情報の提供、相談、連絡、応募に際しての証明書の作成・交付等の基礎資料となります。またこの届を提出しないと大学からの就職斡旋や推薦書の発行ができません。この届は部外秘資料として扱われ、成績にも一切関係しませんので、自己分析の第一歩と思って正確に記入してください。

幼稚園・保育所就職までのサポート

実施時期	プログラム	テーマ・内容
3 回 生	5月 第1回幼保施設キャリアガイダンス	成功する就職活動とは？ ※『適職診断テスト』フォローアップガイダンス
	第2回幼保施設キャリアガイダンス	リクルートスーツの選び方とカラーコーディネート
	6月 第3回幼保施設キャリアガイダンス	公立園の採用試験（公務員試験：資格職）について Part 1
	第4回幼保施設キャリアガイダンス	公立園の採用試験（公務員試験：資格職）について Part 2
	7月 第5回幼保施設キャリアガイダンス	幼保就職の基礎知識とスケジュール、私立園採用試験について、等
	11月 第1回幼・保・施設ガイダンス	【講演】私立幼稚園の教諭として求められるもの、採用試験について
	第2回幼・保・施設ガイダンス	【講演】私立保育園の保育士として求められるもの、採用試験について
	第3回幼・保・施設ガイダンス	第一印象が良くなるメイクアップとフェイスクア※女子限定
	12月 第4回幼・保・施設ガイダンス	【講演】児童福祉施設の仕事、やりがいについて、求められる人物とは？
	第5回幼・保・施設ガイダンス	今後の幼・保・施設の就職活動について
4 回 生	4月 第1回幼保施設キャリアガイダンス	就職活動のまとめ、就活スケジュール確認
	第2回幼保施設キャリアガイダンス	自己分析と自己PRについて①
	5月 第3回幼保施設キャリアガイダンス	自己分析と自己PRについて②
	第4回幼保施設キャリアガイダンス	履歴書とビジネスレターの書き方と注意点①
	6月 第5回幼保施設キャリアガイダンス	マナー対策講座（社会人の常識、面接対策） ※スーツ着用
	第6回幼保施設キャリアガイダンス	グループ面接指導 ※スーツ着用
	7月 第7回幼保施設キャリアガイダンス	履歴書とビジネスレターの書き方と注意点②
	第8回幼保施設キャリアガイダンス	就活直前アドバイス

（注）日程・内容は変更する場合があります

ガイダンスに出よう！

ガイダンスへの出席がカギ

進路について必要なことはすべて各種ガイダンスで説明をします。企業就職者向けのキャリアガイダンス、教員をめざす学生のための教職ガイダンス、病院就職をめざす学生のためのガイダンスなど、志望に応じて、必要な時に必要な情報を詳しく提供しています。ガイダンスには必ず出席しましょう。

■ 教採・公務員対策室

教員や公務員を希望する本学学生や卒業生が希望進路を実現するためのさまざまな活動を支援しています。教員・公務員をめざすためのガイダンスから始まり、採用試験合格まで各種対策講座や模擬試験の実施、模擬面接、実技指導の企画、個別相談などを行っています。

教員採用試験・保育士採用試験対策の流れ

	1年次	2年次	3年次	4年次
採用試験合格力養成	ガイダンス 一般教養勉強会	ガイダンス 一般教養対策勉強会 教職教養対策講座	ガイダンス 個別面談 一般教養対策講座 教職教養対策講座 専門教養対策講座 公務員試験対策講座 論文文、面接・集団討議対策講座 各府県別教採説明会の実施 各府県別教師塾説明会の実施	ガイダンス 個別面談 一般・教職・専門教養、公務員試験等 確認テスト・対策講座 面接・集団討論、論文文対策講座 受験地ごとの2次試験対策集中講座 願書・エントリーシートの指導 実技指導（ピアノ・水泳・図画工作・体育） 個別指導（面接・集団討議、論文文、 模擬授業・模擬保育） 各府県別教採説明会の実施
	模試 (8月)	模試 (4月) 模試 (12月)	模試 (4月) 模試 (5月) 模試 (12月)	模試 (4月) 模試 (5月) 模試 (6月)
実践力養成	幼稚園・小学校 見学実習	保育 実習 学校インターンシップ	教育実習 (幼稚園・小学校・ 養護・中高英語)	幼稚園 実習※
	ボランティア活動			

※小・幼両方の免許希望者のみ

■ インターンシップ（担当窓口：キャリアセンター）

畿央大学では実践的な学びを重視していますが、その一環として、実際に現場を体験することのできるインターンシップの機会を学生のみなさんに幅広く提供しています。学科・学年によっては単位を取得することができます。

【企業インターンシップ】

夏期休暇期間に企業や官公庁、各種団体等で就業体験を行います。マナー指導を含めた事前研修、体験発表等の事後研修を実施し、キャリア教育の一環として単位も認定しています。一般企業就職者の多い人間環境デザイン学科では、3回生の70%以上が企業インターンシップに参加しています。

畿央大学インターンシップ	大学が依頼して受け入れを了解してくれた企業で行います。建築関連業界が多いのが特色です。
奈良県大学連合インターンシップ	奈良県下のさまざまな業種・業界が受け入れ先としてノミネートされています。
オープンデスク制度	設計事務所や建築事務所などで、実務を経験させてもらいます。
自己開拓型インターンシップ	インターネット等で希望する企業を探し申し込みます。



【学校インターンシップ】（担当窓口：学生支援センター）

近隣12市町教育委員会と協定を結び、大学から近く、通いやすい小学校や幼稚園などで毎週1回、現場研修を行う取り組みです。教員免許取得に欠かせない教育実習では先生の立場から子どもを教えますが、学校インターンシップには先生と子どもの間に立つ「補助教員」として参加することが特色です。授業はもちろん、運動会、社会見学など1年を通して参加できるため、教育実習ではできないことが体験できます。

学校インターンシップ中は日誌をつけて担当教員に提出します。「叱り方が分からない」「子ども同士のケンカにどうしたら？」というような疑問に教員が丁寧なコメントを書いて返却。現場のさまざまな課題に実際に直面し、その解決方法を知っていくことで大きく成長することができます。



【海外インターンシップ】（担当窓口：キャリアセンター）

アメリカ・オセアニアへの短期留学の中で小学校や企業などのインターンシップ（就業体験）を行うプログラムを予定しています。

■資格対策講座

TOEIC (Test Of English for International Communication)

グローバル化する社会で英語力は必須スキルです。どんな職場でも活躍できる人材になる基礎作りとしてTOEICの受験を推奨し学内での受験を可能にしています。またeラーニング講座を利用することが出来ます。

TOEICは90カ国で500万人が受験しているグローバルなテストです。合否ではなく点数で結果が分かるため、実力や努力の結果が分かりやすいのが特徴です。内容はリスニングとリーディングで、マークシート方式で行われます。

ITパスポート

ITパスポート試験は経済産業省が認定する、国家試験です。「ITパスポート試験」では、「パソコン操作ができる」、「表計算ソフトを使ってデータを処理できる」というレベルには留まらず、これからの社会人にとって必要な、ITを正しく理解し、積極的に活用する知識を身につけます。本学ではeラーニング講座の利用を可能にして試験対策をサポートしています。

5. 健康支援

■健康支援センター

大学生活を有意義に過ごすには、心身ともに健康であることが大切です。健康支援センターには、学内や通学途中のけがや、身体の調子が悪い時の手当、健康状態についての相談など学生の健康についてのサポートをしています。また、皆さんの健康保持増進をはかるため、定期健康診断を実施し、健康状態を把握して、病気の予防や早期発見につとめています。健康便りを発行して、健康に関する情報を伝えるのも重要な役割です。みなさんも充実した学生生活ができるように、心とからだの健康づくりを自ら実践するよう心がけてください。

【健康相談】

身体の調子がおかしい、痛いところがある、食欲がない、夜眠れないなど、健康についての不安があれば、どんなことでも相談してください。必要に応じて専門の医療機関を紹介することもできます。

【応急処置】

講義、課外活動、実習中、登下校中などに、けがをしたり体の調子が悪くなった時は応急処置を行い、状況によっては医療機関への連絡や紹介をしています。

【救急カバンの貸し出し】

課外活動や学校行事に対して救急カバンを貸し出しています。事前に申し込みをしてください。

【健康教育】

『健康だより』を定期的に発行し、身近な健康に関する情報を提供しています。また、健康に関するセミナーなどを開催しています。

【禁煙サポート】

今までの喫煙状況や禁煙についての意志等をうかがい、禁煙に向けてのアドバイスや禁煙治療に保険が使える医療機関を紹介するなど、禁煙成功に向けてのお手伝いをしています。

■定期健康診断

4月に定期健康診断を実施します。学校保健安全法により健康診断の受診が義務付けられていますので、必ず受診してください。受診できなかった場合は、医療機関で受診し、診断書を提出しなければなりません。この場合の検査費用は自己負担となります。

定期健康診断の受診結果に基づいて「健康診断証明書」を発行します。学外実習や就職活動の際、健康診断の結果が必要となりますが、健康診断を受けておかないと「健康診断証明書」を発行できません。

また、健康診断の結果は、各自にお知らせしますので、面談時に担任から受け取ってください。再検査が必要な場合は、病院などの医療機関で検査や相談を受け、必ず再検査の結果を健康支援センターに報告してください。その報告をもとに保健指導も行っています。

■健康支援システム

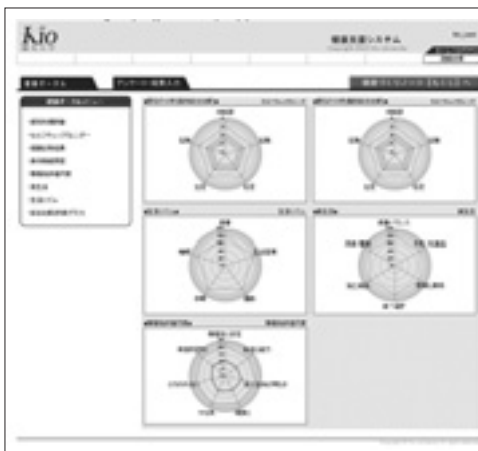
畿央大学では健康と教育のスペシャリストを養成したいと考えていますが、自分自身のこととなると、おろそかになりがちという人もいることでしょう。本学では、学生が自分自身の健康や食事（栄養）、身体機能（運動）、生活のリズムを客観的データとして把握・分析し、あるべき生活の姿を追求できる健康支援システムを構築しています。これは健康診断結果や体組成、身体機能、心理健康検査、健康意識チェック（食生活リズム）などのデータを健康支援システムで管理し、生活を改善しようというものです。

- ①健康支援センターではいつでも身長・体重・体組成計（体脂肪・筋肉量等）・

骨密度・血圧・視力・モイスチャーチェッカー（肌水分）・末梢血管モニタリング（ヘモグロビン量・血管幅）などの測定ができます。

- ②測定した体組成計や血圧のデータは自動的にシステムに取り込まれ、一覧表および折れ線グラフで見ることができます。

- ③運動や食事、生活リズム等の



改善による数値の変化を確かめ、健康支援センターのスタッフの助言も受けて、健康状態を維持・増進することができます。

④この経験から学び、将来の仕事に生かすことが大切です。

この畿央大学の健康支援システムは、大学における学生生活支援のすぐれた取り組みの一つです。皆さんもぜひこのシステムを自らの健康と学びに役立ててください。

■AED（自動体外式除細動器）の設置

本学では、「エントラスホール」「グランドのクラブハウス内」に設置しています。AEDは、電気ショックによって心臓の働きを正常なリズムに戻すための医療機器で、操作方法を音声でガイドしてくれますので落ち着いて指示に従ってください。

心肺停止患者の生存の鍵を握るのは、「病院での処置を開始するまでの時間」で、蘇生の成功率を高めるためには救命の連鎖が重要です。1. 早く通報（119番）2. 早く心肺蘇生 3. 早く除細動（AED）4. 早く救急隊・病院での治療をすることの4つの鎖がつながっていることが大切なのです。万が一の場合に備え、設置場所を確認しておきましょう。

1 回生を対象に救命講習会を実施しています。詳細は掲示板などでお知らせしますので、是非受講してください。

合法ドラッグなんてありません！

「合法ハーブ」「お香」「アロマオイル」などと称して違法（脱法）ドラッグが販売されています。これらは使用すると、一時的に気分が高揚したり、多幸感が得られるようですが、呼吸困難、意識消失を起こしたり、異常行動を起こして他人に危害を加えるなど大変危険なものです。また、死亡することもあります。

インターネットや繁華街の店頭、自動販売機などで販売されているなど、販売手口は巧妙になり、だれでも接触してしまう可能性のある問題となってきました。

薬物依存に陥ってしまえば、「治す」特効薬は、残念ながらいまだにありません。いったん異常となった神経系は、半永久的に元には戻らない可能性があると考えられています。

「やせられる」「自信がつく」「気分爽快になる」などの文句に魅せられ、危険な薬物であることを知らずに、薬物依存に陥るケースも少なくありません。騙されないように注意してください。

カリキュラム表

カリキュラム表

学科ごとに1年次から4年次まで、開講されるすべての科目を示したものがカリキュラム表です。畿央大学では毎年カリキュラム改革を進めているため、入学年度によって開講される科目や卒業までに単位修得しなければならない科目の扱いが異なります。

健康科学部

理学療法学科 1回生用(2014年度入学生)

区分		授業科目の名称	配当 年次	資格必修 理学療法士	単位数			開 講 時 期								卒業 要件	指定規則		
					必修	推奨	選択	1回生 前	1回生 後	2回生 前	2回生 後	3回生 前	3回生 後	4回生 前	4回生 後		教育 内容	単位数	
教養科目	人間と社会	西洋哲学	2			2				2							△		
		東洋思想	2			2					2						△		
		心理学概論	1				2	2									△		
		人間関係論	2				2		2								△		
		法学概論	1				2	2									△		
		日本国憲法	2				2			2							△		
		経済学概論	1				2	2									△		
		人権教育	1				2	2									△		
		◆社会学	1				2	2									△		
	歴史と文化	国際社会論	2				2			2							△		
		歴史学入門	2				2			2							△		
		科学史	2				2				2						△		
		文化芸術論	1				2		2								△		
		日本文芸の世界	1				2	2									△		
	自然・科学 と人間	生命科学入門	1				2	2									○		
		生命倫理	2		2					2							○		
		地球環境論	2				2			2							○		
		数理科学入門	1				2	2									○		
	言語と情報	英語コミュニケーションⅠ	1	○	2			2									△		
		英語コミュニケーションⅡ	1	○	2				2								△		
		オーラルコミュニケーションⅠ	2				2			2							△		
		オーラルコミュニケーションⅡ	2				2				2						△		
		短期語学留学	1				1	①									△		
		情報処理演習Ⅰ	1	○	1			1									△		
		情報処理演習Ⅱ	1	○	1				1								△		
		健康とス ポーツ	運動の科学	1				2		2							△		
	教養実践 プログラム	スポーツ実習Ⅰ	1				1		1								△		
		スポーツ実習Ⅱ	1				1		①								△		
		ベーシックセミナー	1	○	1			1									○		
		キャリア入門セミナー	1	○	1			1									△		
		キャリア形成セミナー	4	○	1								1				△		
		日本語と表現	1			1		1									△		
	海外インターンシップ		2				1				①						△		
	教養科目単位数合計					11	5	40											14

[表中の記号等について]

◆…今年度非開講

開講時期欄の丸数字は、集中講義形式で授業実施予定

健康科学部

理学療法学科 1 回生用(2014年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	理学 療法士 資格必修	単位数			開 講 時 期								卒業 要件	指定規則	
				必修	推奨	選択	1 回 生		2 回 生		3 回 生		4 回 生			教育 内容	単位数
							前	後	前	後	前	後	前	後			
専門基礎科目	共通科目	健康管理論	1	○	2			2						【卒業に必要な最低単位数】 教養科目で26単位、 専門基礎科目・専門科目で90単位、 上記以外に修得した10単位、 合計126単位とする。 *いくつか1単位選択必修	－	－	
		精神保健学	1				2		2								
		障害者心理学	1				2		2								
		高齢者心理学	1				2	2									
		児童心理学	1				2	2									
		自立生活支援論	2				2		2								
		社会福祉論	1				2		2								
	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学（骨格・筋・神経）Ⅰ	1	○	1			1							人体の構造と機能及び心身の発達	12	
		解剖学（骨格・筋・神経）Ⅱ	1	○	1				1								
		解剖学（内臓）	1	○	1			1									
		解剖学実習	1	○	1				1								
		分子生物学	1	○	1			1									
		生理学Ⅰ	1	○	1			1									
		生理学Ⅱ	1	○	2				2								
		生理学実習	1	○	1				1								
		運動学 A	2	○	1					1							
		運動学 B	2	○	1					1							
		運動学実習	2	○	1						1						
		病理学	1	○	1				1								
	臨床心理学	2	○	1						1							
	人間発達学	2	○	1							1						
	ハビリテーションの理念	チーム医療論	1	○	1			1							リハビリテーションの理念	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	2
		チーム医療ふれあい実習	1	○	1			①									
		保健医療福祉概論	2	○	1						1						
		リハビリテーション概論	1	○	1			1									
		科学英語論文講読法	2	○	1							1					
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション医学	1	○	1				1						疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	12	
		内科学	1	○	1				1								
		老年医学	3	○	1							1					
		整形外科Ⅰ	2	○	1					1							
		整形外科Ⅱ	2	○	1						1						
		神経内科学	2	○	2					2							
		小児科学	2	○	1						1						
		一般臨床医学	1	○	1				1								
		精神医学	2	○	1					1							
		医療画像学	2	○	1						1						
		救急医学	3		*							1					
		栄養学	1		*			1	1								
		公衆衛生学	1		*			1	1								
専門基礎科目単位数合計				33	0	15											26

健康科学部
理学療法学科 1 回生用(2014年度入学生)

区分		授業科目の名称	配当 年次	資格 必修 理療 療法士	単位数				開 講 時 期								卒業 要件	指定規則	
					必修	推奨	選択		1 回生 前 後	2 回生 前 後	3 回生 前 後	4 回生 前 後	教育 内容	単位数					
専門科目	基礎理学療法学	理学療法概論	1	○	1				1						【卒業に必要な最低単位数】 教養科目で 26 単位、専門基礎科目・専門科目で 90 単位、上記以外に修得した 10 単位、合計 126 単位とする。	基礎理学療法学	6		
		臨床理学療法学	3	○	1							1							
		管理運営学	3	○	1						1								
		理学療法総合演習	4	○	1								1						
		卒業研究	4	○	2								②						
	理学療法評価学	理学療法評価学演習	2	○	1				1							理学療法評価学	5		
		臨床解剖学演習	2	○	1				1										
		理学療法評価学実習	2	○	1					1									
		理学療法研究法	3	○	1					1									
		理学療法研究法演習	3	○	1							①							
	理学療法治療学	物理療法学	2	○	1					1						理学療法治療学	20		
		物理療法学実習	3	○	1						1								
		運動療法学総論	1	○	1			1											
		運動系理学療法学Ⅰ	2	○	1					1									
		運動系理学療法学Ⅱ	3	○	1						1								
		運動系理学療法学実習	3	○	1							1							
		神経系理学療法学 A	3	○	1						1								
		神経系理学療法学 B	3	○	1						1								
		神経系理学療法学実習	3	○	1							1							
		循環呼吸系理学療法学 A	2	○	1					1									
		循環呼吸系理学療法学 B	3	○	1							1							
		循環呼吸系理学療法学実習	3	○	1						1								
		代謝系理学療法学	3	○	1							1							
		発達系理学療法学Ⅰ	2	○	1				1										
		発達系理学療法学Ⅱ	2	○	1					1									
		生活技術学	3	○	1						1								
		生活技術学実習	3	○	1							1							
		義肢装具学	3	○	1							1							
		義肢装具学実習	3	○	1								1						
		理学療法技術実習 A	3	○	1							1							
	理学療法技術実習 B	3	○	1								1							
	スポーツ系理学療法学	3	○	1								1							
	地域理学療法学	生活環境学	3	○	1						1				地域理学療法学	4			
		レクリエーション理論	1	○	1			1											
		レクリエーション実技	1				1	1											
		老年系理学療法学	3	○	1						1								
		地域理学療法学	3	○	1							1							
	臨床実習	地域理学療法学演習	3	○	1							1			臨床実習	18			
		臨床指導	2	○	1					①									
		臨床評価実習	3	○	3							③							
		総合臨床実習	4	○	16								⑬						
専門科目単位数合計					58		1								53				

専門準備科目	PTへのベーシックサイエンス	1				0	0						卒業単位には含まれません
	PTへの物理	1				0	0						

健康科学部

理学療法学科 2回生用(2013年度入学生)

区分		授業科目の名称	配当 年次	資格 必修 理学療法士	単位数				開 講 時 期								卒業 要件	指定規則		
					必修	推奨	選択	1回生 前 後	2回生 前 後	3回生 前 後	4回生 前 後	教育 内容	単位数							
教養科目	人間と社会	西洋哲学	2			2					2						△	科学的思考の基盤 (○)・人間と生活(△)	14	
		東洋思想	2			2						2					△			
		心理学概論	1				2	2												△
		人間関係論	2				2			2							△			
		法学概論	1				2	2									△			
		日本国憲法	2				2					2					△			
		経済学概論	1				2	2									△			
		人権教育	1				2	2									△			
		◆社会学	1				2	2									△			
	歴史と文化	国際社会論	2				2				2						△			
		歴史学入門	2				2				2						△			
		科学史	2				2					2					△			
		文化芸術論	1				2	2									△			
		日本文芸の世界	1				2	2									△			
	自然・科学 と人間	生命科学入門	1				2	2									○			
		生命倫理	2		2						2						○			
		地球環境論	2				2				2						○			
		数理学入門	1				2	2									○			
	言語と情報	英語コミュニケーションⅠ	1	○	2			2									△			
		英語コミュニケーションⅡ	1	○	2				2								△			
		オーラルコミュニケーションⅠ	2				2				2						△			
		オーラルコミュニケーションⅡ	2				2					2					△			
		短期語学留学	1				1	①									△			
		情報処理演習Ⅰ	1	○	1			1									△			
		情報処理演習Ⅱ	1	○	1				1								△			
		運動の科学	1				2			2							△			
	健康とス ポーツ	スポーツ実習Ⅰ	1				1	1									△			
		スポーツ実習Ⅱ	1				1	1									△			
教養実践 プログラム		ベーシックセミナー	1	○	1			1									○			
	キャリア入門セミナー	1	○	1			1									△				
	キャリア形成セミナー	4	○	1									1			△				
	日本語と表現	1				1	1									△				
	海外インターンシップ	2				1					①					△				
教養科目単位数合計						11	4	41											14	

26単位以上選択必修(ただし、各区分2単位以上修得のこと)

科学的思考の基盤(○)・人間と生活(△)

[表中の記号等について]

◆…今年度非開講

開講時期欄の丸数字は、集中講義形式で授業実施予定

健康科学部
理学療法学科 2回生用(2013年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	資格必修	理学療法士 必修	単位数		開 講 時 期								卒業 要件	指定規則			
					推奨	選択	1 回 生		2 回 生		3 回 生		4 回 生			教育 内容	単位数		
							前	後	前	後	前	後	前	後					
共通科目	健康管理論	1	○	2			2							【卒業に必要な最低単位数】 教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で90単位、上記以外に修得した10単位、合計126単位とする。	－	－			
	精神保健学	1				2	2												
	障害者心理学	1				2	2												
	高齢者心理学	2				2			2										
	児童心理学	2				2			2										
	自立生活支援論	2				2		2											
専門基礎科目	社会福祉論	1				2	2								人体の構造と機能及び心身の発達	12			
	解剖学（骨格・筋・神経）Ⅰ	1	○	1			1												
	解剖学（骨格・筋・神経）Ⅱ	1	○	1				1											
	解剖学（内臓）	1	○	1			1												
	解剖学実習	1	○	1				1											
	分子生物学	1	○	1			1												
	生理学Ⅰ	1	○	1			1												
	生理学Ⅱ	1	○	2				2											
	生理学実習	1	○	1				1											
	運動学A	2	○	1					1										
	運動学B	2	○	1					1										
	運動学実習	2	○	1						1									
	病理学	1	○	1				1											
	臨床心理学	2	○	1						1									
	人間発達学	2	○	1						1									
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	チーム医療論	1	○	1			1										保健医療福祉とリハビリテーションの理念	2
		チーム医療ふれあい実習	1	○	1			①											
		保健医療福祉概論	2	○	1					1									
		リハビリテーション概論	1	○	1			1											
科学英語論文講読法		2	○	1						1									
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション医学	1	○	1				1						疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	12				
	内科学	1	○	1				1											
	老年医学	3	○	1						1									
	整形外科Ⅰ	2	○	1					1										
	整形外科Ⅱ	2	○	1						1									
	神経内科学	2	○	2					2										
	小児科学	2	○	1						1									
	一般臨床医学	1	○	1				1											
	精神医学	2	○	1					1										
	画像診断学	2	○	1						1									
	救急医学	3		*		1					1								
	栄養学	1		*		1	1												
	公衆衛生学	1		*		1	1												
	専門基礎科目単位数合計				33	0	15										26		

健康科学部

理学療法学科 2回生用(2013年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当年次	理学療法士資格必修	単位数				開 講 時 期								卒業要件	指定規則	
				必修	推奨	選択		1回生		2回生		3回生		4回生			教育内容	単位数
								前	後	前	後	前	後	前	後			
基礎理学療法学	理学療法概論	1	○	1			1								基礎理学療法学	6		
	臨床理学療法学	3	○	1							1							
	管理運営学	3	○	1						1								
	理学療法総合演習	4	○	1									1					
	卒業研究	4	○	2									2					
理学療法評価学	理学療法評価学演習	2	○	1				1							理学療法評価学	5		
	臨床解剖学演習	2	○	1				1										
	理学療法評価学実習	2	○	1					1									
	理学療法研究法	3	○	1						1								
	理学療法研究法演習	3	○	1							①							
理学療法治療学	物理療法学	2	○	1					1						理学療法治療学	20		
	物理療法学実習	3	○	1						1								
	運動療法学総論	1	○	1			1											
	運動系理学療法学Ⅰ	2	○	1					1									
	運動系理学療法学Ⅱ	3	○	1						1								
	運動系理学療法学実習	3	○	1							1							
	神経系理学療法学A	3	○	1						1								
	神経系理学療法学B	3	○	1						1								
	神経系理学療法学実習	3	○	1							1							
	循環呼吸系理学療法学A	2	○	1					1									
	循環呼吸系理学療法学B	3	○	1							1							
	循環呼吸系理学療法学実習	3	○	1						1								
	代謝系理学療法学	3	○	1							1							
	発達系理学療法学Ⅰ	2	○	1				1										
	発達系理学療法学Ⅱ	2	○	1					1									
	生活技術学	3	○	1							1							
	生活技術学実習	3	○	1								1						
	義肢装具学	3	○	1							1							
	義肢装具学実習	3	○	1								1						
	理学療法技術実習A	3	○	1								1						
	理学療法技術実習B	3	○	1									1					
	スポーツ系理学療法学	3	○	1									1					
地域理学療法学	生活環境学	3	○	1						1					地域理学療法学	4		
	レクリエーション理論	1	○	1			1											
	レクリエーション実技	1			1		1											
	老年系理学療法学	3	○	1							1							
	地域理学療法学	3	○	1								1						
地域理学療法学演習	3	○	1									1						
臨床実習	臨床指導	2	○	1						①					臨床実習	18		
	臨床評価実習	3	○	3								③						
	総合臨床実習	4	○	16									⑬					
	専門科目単位数合計			58		1												
																	53	

専門準備科目	PTへのベーシックサイエンス	1				0	0									卒業単位には含まれません
	PTへの物理	1				0	0									

区分		授業科目の名称	配当 年次	理学系 資格必修	単位数				開 講 時 期								卒業 要件	指定規則	
					必修	推奨	選択	1 回生 前	1 回生 後	2 回生 前	2 回生 後	3 回生 前	3 回生 後	4 回生 前	4 回生 後	教育 内容		単位数	
教養科目	人間と社会	西洋哲学	2			2				2							△	科学的思考の基盤（○）・人間と生活（△）	14
		東洋思想	2			2					2						△		
		心理学概論	1				2	2								△			
		人間関係論	2				2		2								△		
		法学概論	1				2	2									△		
		日本国憲法	2				2				2						△		
		経済学概論	1				2	2									△		
		人権教育	1				2	2									△		
		◆社会学	1				2	2									△		
	国際社会論	2				2			2							△			
	歴史と文化	歴史学入門	2				2			2							△		
		科学史	2				2				2						△		
		文化芸術論	1				2		2								△		
		日本文芸の世界	1				2	2									△		
	自然・科学 と人間	生命科学入門	1				2	2									○		
		生命倫理	2		2					2							○		
		地球環境論	2				2			2							○		
		数理科学入門	1				2	2									○		
	言語と情報	英語コミュニケーションⅠ	1	○	2			2									△		
		英語コミュニケーションⅡ	1	○	2				2								△		
		オーラルコミュニケーションⅠ	2				2			2							△		
		オーラルコミュニケーションⅡ	2				2				2						△		
		短期語学留学	1				1	①									△		
		情報処理演習Ⅰ	1	○	1			1									△		
		情報処理演習Ⅱ	1	○	1				1								△		
	健康とス ポーツ	運動の科学	1				2		2								△		
		スポーツ実習Ⅰ	1				1	1									△		
		スポーツ実習Ⅱ	1				1	1									△		
	教養実践 プログラム	ベーシックセミナー	1	○	1			1									○		
		キャリアデザインセミナー	1	○	1			1									△		
		キャリア発展セミナー	4	○	1									1			△		
		日本語と表現	1				1	1									△		
		◆会話とマナー入門	1			1	1										○		
海外インターンシップ		2				1				①						△			
教養科目単位数合計					11	5	41											14	

[表中の記号等について]

◆…今年度非開講

開講時期欄の丸数字は、集中講義形式で授業実施予定

健康科学部

理学療法学科 3回生用(2012年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当年次	理学療法士資格必修	単位数			開 講 時 期								卒業要件	指定規則	
				必修	推奨	選択	1 回 生		2 回 生		3 回 生		4 回 生			教育内容	単位数
							前	後	前	後	前	後	前	後			
共通科目	健康管理論	1	○	2			2								【卒業に必要な最低単位数】 教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で90単位、上記以外に修得した10単位、合計26単位とする。	－	－
	精神保健学	1				2		2									
	障害者心理学	1				2		2									
	高齢者心理学	2				2				2							
	児童心理学	2				2				2							
	自立生活支援論	2				2			2								
	社会福祉論	1				2		2									
人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学（骨格・筋・神経）Ⅰ	1	○	1			1								人体の構造と機能及び心身の発達	12	
	解剖学（骨格・筋・神経）Ⅱ	1	○	1				1									
	解剖学（内臓）	1	○	1			1										
	解剖学実習	1	○	1				1									
	分子生物学	1	○	1			1										
	生理学Ⅰ	1	○	1			1										
	生理学Ⅱ	1	○	2				2									
	生理学実習	1	○	1				1									
	運動学A	2	○	1					1								
	運動学B	2	○	1						1							
	運動学実習	2	○	1						1							
	病理学	1	○	1				1									
	臨床心理学	2	○	1						1							
	人間発達学	2	○	1						1							
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	チーム医療論	1	○	1			1								保健医療福祉とリハビリテーションの理念	2	
	チーム医療ふれあい実習	1	○	1			①										
	保健医療福祉概論	2	○	1						1							
	リハビリテーション概論	1	○	1			1										
	科学英語論文講読法	2	○	1					1								
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション医学	1	○	1				1							疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	12	
	内科学	1	○	1				1									
	老年医学	3	○	1							1						
	整形外科Ⅰ	2	○	1					1								
	整形外科Ⅱ	2	○	1						1							
	神経内科学	2	○	2					2								
	小児科学	2	○	1						1							
	一般臨床医学	1	○	1				1									
	精神医学	2	○	1					1								
	画像診断学	2	○	1						1							
	救急医学	3		*		1					1						
	栄養学	1		*		1		1									
	公衆衛生学	1		*		1	1										
	専門基礎科目単位数合計				33	0	15										

健康科学部
理学療法学科 3回生用(2012年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	資格 必修 理 療 法 士	単位数		開 講 時 期								卒業 要件	指定規則	
				必修	推奨 選択	1 回生		2 回生		3 回生		4 回生			教育 内容	単位数
						前	後	前	後	前	後	前	後			
基礎理学療法学	理学療法概論	1	○	1			1							基礎理学療法学	6	
	臨床理学療法学	3	○	1							1					
	管理運営学	3	○	1						1						
	理学療法総合演習	4	○	1									1			
	卒業研究	4	○	2									2			
理学療法評価学	理学療法評価学演習	2	○	1				1						理学療法評価学	5	
	臨床解剖学演習	2	○	1				1								
	理学療法評価学実習	2	○	1					1							
	理学療法研究法	3	○	1						1						
	理学療法研究法演習	3	○	1							①					
理学療法治療学	物理療法学	2	○	1					1					理学療法治療学	20	
	物理療法学実習	3	○	1						1						
	運動療法学総論	1	○	1			1									
	運動系理学療法学Ⅰ	2	○	1					1							
	運動系理学療法学Ⅱ	3	○	1						1						
	運動系理学療法学実習	3	○	1							1					
	神経系理学療法学A	3	○	1							1					
	神経系理学療法学B	3	○	1						1						
	神経系理学療法学実習	3	○	1								1				
	循環呼吸系理学療法学A	2	○	1					1							
	循環呼吸系理学療法学B	3	○	1							1					
	循環呼吸系理学療法学実習	3	○	1						1						
	代謝系理学療法学	3	○	1								1				
	発達系理学療法学Ⅰ	2	○	1				1								
	発達系理学療法学Ⅱ	2	○	1					1							
	生活技術学	3	○	1							1					
	生活技術学実習	3	○	1								1				
	義肢装具学	3	○	1							1					
	義肢装具学実習	3	○	1								1				
	理学療法技術実習A	3	○	1								1				
	理学療法技術実習B	3	○	1									1			
	スポーツ系理学療法学	3	○	1									1			
地域理学療法学	生活環境学	3	○	1						1				地域理学療法学	4	
	レクリエーション理論	1	○	1			1									
	レクリエーション実技	1				1	1									
	老年系理学療法学	3	○	1							1					
	地域理学療法学	3	○	1								1				
臨床実習	地域理学療法演習	3	○	1								1		臨床実習	18	
	臨床指導	2	○	1					①							
	臨床評価実習	3	○	3							③					
	総合臨床実習	4	○	16								⑩				
	専門科目単位数合計				58	1									53	

専門準備科目	PTへのベーシックサイエンス	1				0	0						卒業単位 には含ま れません
	PTへの物理	1				0	0						

健康科学部

理学療法学科 4回生用(2011年度入学生)

※科目名称の は過年度科目

区分	授業科目の名称	配当 年次	理学療法士 資格必修	単位数			開 講 時 期								卒業 要件	指定規則			
				必修	推奨	選択	1 回生 前 後	2 回生 前 後	3 回生 前 後	4 回生 前 後	教育 内容	単位数							
教養科目	社会の理解	くらしと法律	1			2	2									△	科学的思考の基盤（○）・人間と生活（△）	14	
		くらしと経済	1			2	2								△				
		◆くらしと技術	2			2		2							△				
		日本国憲法	2			2			2						△				
		国際社会と日本	2			2			2						△				
	自然の理解	自然・科学と人間	1			2	2								○				
		地球環境論	2			2		2							○				
	人間・文化の理解	心理学入門Ⅰ	1			2	2									△			
		◆心理学入門Ⅱ	1			2	2									△			
		◆人格と発達	2			2			2							△			
		人間関係論	2			2		2								△			
		◆大和の歴史と文化	1			2	2									△			
		短期語学留学	1・2			2	②	②								△			
		◆くらしと音楽	2			2			2							△			
		◆くらしと美術	2			2			2							△			
	コミュニケーションスキル	英語コミュニケーションⅠ	1	○	2		2									△			
		英語コミュニケーションⅡ	1	○	2			2								△			
		オーラルコミュニケーション	2			2		2								△			
		情報処理演習Ⅰ	1	○	2		2									△			
		情報処理演習Ⅱ	1			2	2									△			
		◆情報処理演習Ⅲ	2			2		2								△			
	スポーツと健康	運動の科学	1			2	2									△			
		スポーツ実習Ⅰ	1			1	1									△			
スポーツ実習Ⅱ		1			1	1									△				
ガイダンス教育	基礎ゼミ	1	○	2		2									○				
	◆会話とマナー入門	1			2	2									○				
	日本語と表現	1			2	2									○				
	◆物理学入門	1				2	2								○				
	◆生物学入門	1				2	2								○				
キャリア教育	キャリアデザインセミナー	1	○	1		1									△				
	キャリア発展セミナー	4	○	1								1			△				
教養科目単位数合計					10	4	44												14

〔表中の記号等について〕

◆…今年度非開講

開講時期欄の丸数字は、集中講義形式で授業実施予定

健康科学部
理学療法学科 4回生用(2011年度入学生)

区分		授業科目の名称	配当年次	資格必修 理学療法士	単位数				開 講 時 期								卒業要件	指定規則	
					必修	推奨	選択	1回生		2回生		3回生		4回生		教育内容		単位数	
								前	後	前	後	前	後	前	後				
専門基礎科目	共通科目	健康管理論	1	○	2			2							【卒業に必要な最低単位数】教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で90単位、上記以外に修得した10単位、合計126単位とする。	—	—		
		精神保健学	1				2		2										
		障害者心理学	1				2		2										
		高齢者心理学	2				2			2									
		児童心理学	2				2			2									
		自立生活支援論	2				2		2										
		社会福祉論	1				2		2										
	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学（骨格・筋・神経）Ⅰ	1	○	1			1								人体の構造と機能及び心身の発達	12		
		解剖学（骨格・筋・神経）Ⅱ	1	○	1				1										
		解剖学（内臓）	1	○	1			1											
		解剖学実習	1	○	1				1										
		分子生物学	1	○	1			1											
		生理学Ⅰ	1	○	1			1											
		生理学Ⅱ	1	○	2			2											
		生理学実習	1	○	1				1										
		運動学A	2	○	1					1									
		運動学B	2	○	1					1									
		運動学実習	2	○	1						1								
		病理学	1	○	1				1										
	臨床心理学	2	○	1						1									
	人間発達学	2	○	1						1									
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	チーム医療論	1	○	1			1								保健医療福祉とリハビリテーションの理念	2		
		チーム医療ふれあい実習	1	○	1			①											
		生命倫理	3				2				2								
		保健医療福祉概論	2	○	1					1									
		リハビリテーション概論	1	○	1			1											
		科学英語論文講読法	2	○	1					1									
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション医学	1	○	1				1							疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	12		
		内科学	1	○	1				1										
		老年医学	3	○	1						1								
		整形外科Ⅰ	2	○	1					1									
		整形外科Ⅱ	2	○	1						1								
		神経内科学	2	○	2				2										
		小児科学	2	○	1						1								
		一般臨床医学	1	○	1				1										
		精神医学	2	○	1					1									
		画像診断学	2	○	1						1								
		救急医学	3		*		1					1							
		栄養学	1		*		1		1										
		公衆衛生学	1		*		1	1											
専門基礎科目単位数合計				33	17													26	

健康科学部

理学療法学科 4回生用(2011年度入学生)

区分		授業科目の名称	配当 年次	理学療法士 資格必修	単位数			開 講 時 期				卒業 要件	指定規則		
					必修	推奨	選択	1回生	2回生	3回生	4回生		教育 内容	単位数	
専 門 科 目	基礎理学療法学	理学療法概論	1	○	1			1						基礎理学療法学	6
		臨床理学療法学	3	○	1						1				
		管理運営学	3	○	1					1					
		理学療法総合演習	4	○	1							1			
		卒業研究	4	○	2							2			
	理学療法評価学	理学療法評価学演習	2	○	1				1					理学療法評価学	5
		臨床解剖学演習	2	○	1				1						
		理学療法評価学実習	2	○	1				1						
		理学療法研究法	3	○	1					1					
		理学療法研究法演習	3	○	1						①				
	理学療法治療学	物理療法学	2	○	1					1				理学療法治療学	20
		物理療法学実習	3	○	1						1				
		運動療法学総論	1	○	1			1							
		運動系理学療法学Ⅰ	2	○	1			1							
		運動系理学療法学Ⅱ	3	○	1					1					
		運動系理学療法学実習	3	○	1						1				
		神経系理学療法学A	3	○	1					1					
		神経系理学療法学B	3	○	1					1					
		神経系理学療法学実習	3	○	1						1				
		循環呼吸系理学療法学A	2	○	1				1						
		循環呼吸系理学療法学B	3	○	1						1				
		循環呼吸系理学療法学実習	3	○	1					1					
		代謝系理学療法学	3	○	1						1				
		発達系理学療法学Ⅰ	2	○	1			1							
		発達系理学療法学Ⅱ	2	○	1				1						
		生活技術学	3	○	1					1					
		生活技術学実習	3	○	1						1				
		義肢装具学	3	○	1						1				
		義肢装具学実習	3	○	1							1			
		理学療法技術実習A	3	○	1							1			
		理学療法技術実習B	3	○	1							1			
		スポーツ系理学療法学	3	○	1							1			
	地域理学療法学	生活環境学	3	○	1						1			地域理学療法学	4
		レクリエーション理論	1	○	1			1							
		レクリエーション実技	1			1		1							
		老年系理学療法学	3	○	1					1					
		地域理学療法学	3	○	1						1				
		地域理学療法学演習	3	○	1							1			
	臨床実習	臨床指導	2	○	1					①				臨床実習	18
		臨床評価実習	3	○	3						③				
		総合臨床実習	4	○	16							⑯			
専門科目単位数合計				58		1							53		

〔卒業に必要な最低単位数〕 教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で90単位、上記以外に修得した10単位、合計126単位とする。

健康科学部

看護医療学科 1 回生用(2014年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	指定規則対応科目		単位数			開 講 時 期								備 考		
			看護師 課程 実習 地	保健師 課程 実習 地	必修	推奨	選択	1 回生		2 回生		3 回生		4 回生				
								前	後	前	後	前	後	前	後			
教養科目	人間と社会	西洋哲学	2	△				2			2						26 単位選択必修 (ただし、各区分1科目以上修得のこと)	
		東洋思想	2	△				2				2						
		心理学概論	1	○				2			2							
		人間関係論	2	○				2				2						
		法学概論	1	△					2	2								
		日本国憲法	2	△					2				2					
		経済学概論	1	△					2	2								
		人権教育	1	△					2	2								
		◆社会学	1	△					2	2								
	歴史と文化	国際社会論	2	△					2				2					
		歴史学入門	2	△					2				2					
		科学史	2	△					2					2				
		文化芸術論	1	△					2	2								
	自然・科学 と人間	日本文芸の世界	1	△					2	2								
		生命科学入門	1	△					2	2								
		生命倫理	2	○				2				2						
		地球環境論	2	△					2				2					
	言語と情報	数理科学入門	1	△					2	2								
		英語コミュニケーションⅠ	1	○				2			2							
		英語コミュニケーションⅡ	1	○				2				2						
		オーラルコミュニケーションⅠ	2	△					2				2					
		オーラルコミュニケーションⅡ	2	△					2					2				
		短期語学留学	1	△					1		①							
		情報処理演習Ⅰ	1	○				1			1							
	健康とス ポーツ	情報処理演習Ⅱ	1	△				1				1						
		運動の科学	1	○				2				2						
		スポーツ実習Ⅰ	1	○				1				1						
	教養実践プログラム	スポーツ実習Ⅱ	1	△					1			①						
		ベーシックセミナー	1	○				1			1							
		キャリア入門セミナー	1	○				1			1							
		チーム医療発展セミナー	1	○				1				1						
		日本語と表現	1	△					1	1								
		企業インターンシップ	3・4	△					1					①		①		
		海外インターンシップ	2	△					1				①					
		学校インターンシップ	4	△					1							①		
		病院・施設ボランティア活動	2	△					1				①					
	教養科目単位数合計							18	4	37								
専門基礎科目	共通科目	健康管理論	1	△					2	2							(選択科目から4単位以上 25 単位選択必修)	
		精神保健学	1	△					2		2							
		障害者心理学	2	△					2				2					
		高齢者心理学	1	△					2	2								
		児童心理学	1	△					2	2								
		自立生活支援論	1	○				2			2							
		社会福祉論	1	○				2			2							
		感情体験の脳科学	2	△					2			2						
		外書講読	3	△					2					2				

【表中の記号等について】

◆…今年度非開講

開講時期欄の丸数字は、集中講義形式で授業実施予定

指定規則対応科目欄

○…資格必修科目 △…資格選択必修科目

健康科学部

看護医療学科 1 回生用(2014年度入学生)

区分		授業科目の名称	配当 年次	指定規則対応科目				単位数			開 講 時 期								備 考	
				看護師 課程	実習地	保健師 課程	実習地	必修	推奨	選択	1 回生		2 回生		3 回生		4 回生			
											前	後	前	後	前	後	前	後		
専門基礎科目	人体の構造と機能	人体構造・機能学Ⅰ	1	○				2			2								25単位選択必修（選択科目から4単位以上）	
		人体構造・機能学Ⅱ	1	○				2			2									
		脳科学入門	1	△					2		2									
		生命活動と代謝	1	○			1			1										
		病理学	2	○			1				1									
		人間工学入門	1	△				2		2										
	疾病の成り立ちと回復の促進	感染・免疫学	1	○				2			2									
		病態医学Ⅰ	2	○				2				2								
		病態医学Ⅱ	2	○				2					2							
		薬と健康	2	○				2				2								
		食と栄養	1	△					2		2									
		生活とリハビリテーション	2	△					2			2								
	社会のしくみと健康	ヒトの遺伝学	2	△					2			2								
		チーム医療論	1	○				1			1									
		生活科学論	1	△					2		2									
		保健行動学	1	○				2			2									
			人間発達学	1	△					2		2								
	専門基礎科目単位数合計								21	0	28									
専門科目	専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学原論	1	○				2			2							81単位選択必修（選択科目から5単位以上 かを履修すること） ただし地域看護学実習または病院インターンシップのいずれかを履修すること	
			看護倫理	3	○				2						2					
			看護技術基礎論	1	○				1			1								
			療養生活援助技術	1	○				2				2							
			診療過程援助技術	2	○				1					1						
			フィジカルアセスメント	1	○				1				1							
			看護過程基礎論	2	○				2					2						
			チーム医療ふれあい実習	1		○			1			①								
	成人看護学	基礎看護学実習	1		○			2				②								
		成人看護学対象論	2	○				2					2							
		急性期看護学援助論Ⅰ	2	○				1					1							
		急性期看護学援助論Ⅱ	3	○				1						1						
		慢性期看護学援助論Ⅰ	2	○				1					1							
		慢性期看護学援助論Ⅱ	3	○				1						1						
		急性期看護学実習	3		○			3								③				
		慢性期看護学実習	3		○			3								③				
	母子看護学	小児看護学対象論	2	○				2					2							
		小児看護学援助論Ⅰ	2	○				1						1						
		小児看護学援助論Ⅱ	3	○				1							1					
		母性看護学対象論	2	○				2				2								
		母性看護学援助論Ⅰ	2	○				1					1							
		母性看護学援助論Ⅱ	3	○				1						1						
		母子看護学実習	3		○			4								④				
		老年看護学対象論	2	○				2					2							
	老年・精神看護学	老年看護学援助論Ⅰ	2	○				1						1						
		老年看護学援助論Ⅱ	3	○				1							1					
		老年看護学実習	3		○			4								④				
		精神看護学対象論	2	○				2				2								
		精神看護学援助論Ⅰ	2	○				1					1							
		精神看護学援助論Ⅱ	3	○				1						1						
		精神看護学実習	3		○			2								②				

健康科学部

看護医療学科 1 回生用(2014年度入学生)

区分		授業科目の名称	配当 年次	指定規則対応科目		単位数			開 講 時 期								備 考	
				看護師 課程 実習 地	保健師 課程 実習 地	必修	推奨	選択	1 回生		2 回生		3 回生		4 回生			
									前	後	前	後	前	後	前	後		
専門科目	地域看護学 専門分野Ⅱ	地域看護学概論	2	○	○		2				2						81単位選択必修（選択科目から5単位以上を履修すること） ただし地域看護学実習または病院インターンシップのいずれか	
		公衆衛生看護学概論	2		○			2			2							
		保健医療福祉システム論Ⅰ	4	○	○		1							1				
		保健医療福祉システム論Ⅱ	4		○										2			
		疫学	2		○			2			2							
		保健統計	2		○			2			2							
		公衆衛生看護学方法論Ⅰ	3		○			2				2						
		公衆衛生看護学方法論Ⅱ	4		○			2							2			
		公衆衛生看護学方法論Ⅲ	4		○			1								1		
		公衆衛生看護学活動論Ⅰ	3		○			2				2						
		公衆衛生看護学活動論Ⅱ	4		○			2							2			
		公衆衛生看護学活動論Ⅲ	4		○			1								1		
		健康学特論	4		○			2							②			
		公衆衛生看護学管理論	4		○			2							2			
	地域看護学実習	4		△		○	2							②				
	公衆衛生看護学実習	4			○		3								③			
	統合・発展科目 専門分野Ⅲ	在宅リハビリテーション	4	△				2								2		
		終末期ケア論	3	△				2					2					
		国際看護論	4	○			2									2		
		学校保健	2					2			2							
		養護概説	2					2				2						
		健康相談	4					2								2		
		医療安全論	3	○			2						2					
		災害看護論	4	△				2										2
		看護管理論	4	○			2									2		
		在宅看護学概論	2	○			2					2						
		ケアマネージメント論	3	○			2						2					
		在宅看護学実習	3		○		2							②				
		医療コミュニケーション演習	3				1							1				
		事例カンファレンス	4				1											1
		基礎医学総合演習	3				1							1				
		看護研究基礎論	3				2							2				
		卒業研究	4				2											2
		離島・へき地医療体験実習	4		○		2									②		
		病院インターンシップ	4		○	△		2								②		
		専門科目単位数合計						76	0	41								
教育職員免許状に関する科目（養護）		養護実習指導	4					1									1	卒業単位に含まれません
		養護実習	4					4									④	
	教職概論	2					2			2								
	教育原理	2					2			2								
	教育史	1					2		2									
	教育心理学	2					2			2								
	発達心理学	2					2				2							
	教育法制論	1					2		2									
	教育課程論（中等）	3					2					2						
	道徳・特別活動論（中等）	3					2					2						
	教育方法・技術論（中等）	2					2					2						
	生徒指導論	3					2						2					
	教育相談（学校カウンセリングを含む）	2					2				2							
	教職実践演習（養護教諭）	4					2									2		
専門準備科目	看護へのベーシックサイエンス	1					0	0								卒業単位には含まれません		

健康科学部

看護医療学科 2回生用(2013年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	指定規則対応科目				単位数			開 講 時 期								備 考	
			看護師 課程 実習 地	保健師 課程 実習 地	必修	推奨	選択	1 回 生		2 回 生		3 回 生		4 回 生					
								前	後	前	後	前	後	前	後				
教養科目	人間と社会	西洋哲学	2	△				2			2								26 単位選択必修（ただし、各区分2 単位以上修得のこと）
		東洋思想	2	△				2				2							
		心理学概論	1	○				2			2								
		人間関係論	2	○				2				2							
		法学概論	1	△					2	2									
		日本国憲法	2	△					2				2						
		経済学概論	1	△					2		2								
		人権教育	1	△					2		2								
	歴史と文化	◆社会学	1	△					2	2									
		国際社会論	2	△					2			2							
		歴史学入門	2	△					2			2							
		科学史	2	△					2				2						
	自然・科学 と人間	文化芸術論	1	△					2		2								
		日本文芸の世界	1	△					2		2								
		生命科学入門	1	△					2	2									
		生命倫理	2	○				2				2							
		地球環境論	2	△					2			2							
		数理科学入門	1	△					2		2								
		英語コミュニケーションⅠ	1	○				2			2								
		英語コミュニケーションⅡ	1	○				2				2							
		オーラルコミュニケーションⅠ	2	△					2			2							
		オーラルコミュニケーションⅡ	2	△					2				2						
		短期語学留学	1	△					1	①									
		情報処理演習Ⅰ	1	○			1			1									
		情報処理演習Ⅱ	1	△			1				1								
		健康とス ポーツ	運動の科学	1	○				2				2						
スポーツ実習Ⅰ	1		○				1			1									
スポーツ実習Ⅱ	1		△						1		1								
教養実践プ ログラム	ベーシックセミナー		1	○				1			1								
	キャリア入門セミナー	1	○				1				1								
	チーム医療発展セミナー	1	○				1				1								
	日本語と表現	1	△						1	1									
	企業インターンシップ	3・4	△						1					①		①			
	海外インターンシップ	2	△						1					①					
	学校インターンシップ	4	△						1							①			
	病院・施設ボランティア活動	2	△						1			①							
教養科目単位数合計							18	4	37										
専門基礎科目	共通科目	健康管理論	1	△					2		2							25 単位選択必修 （選択科目から4 単位以上）	
		精神保健学	1	△					2			2							
		障害者心理学	2	△					2				2						
		高齢者心理学	2	△					2				2						
		児童心理学	2	△					2				2						
		自立生活支援論	1	○				2			2								
		社会福祉論	1	○				2			2								
		感情体験の脳科学	2	△					2			2							
		外書講読	3	△						2				2					

【表中の記号等について】

◆…今年度非開講

開講時期欄の丸数字は、集中講義形式で授業実施予定

指定規則対応科目欄 ○…資格必修科目 △…資格選択必修科目

健康科学部

看護医療学科 2回生用(2013年度入学生)

区分		授業科目の名称	配当 年次	指定規則対応科目		単位数			開 講 時 期								備 考	
				看護師 課程 実習地	保健師 課程 実習地	必修	推奨	選択	1 回 生		2 回 生		3 回 生		4 回 生			
									前	後	前	後	前	後	前	後		
専門基礎科目	人体の構造と機能	人体構造・機能学Ⅰ	1	○			2			2							25単位選択必修 (選択科目から4単位以上)	
		人体構造・機能学Ⅱ	1	○			2			2								
		脳科学入門	1	△				2		2								
		生命活動と代謝	1	○			1			1								
		病理学	2	○			1				1							
		人間工学入門	1	△				2		2								
	疾病の成り立ちと回復の促進	感染・免疫学	1	○			2			2								
		病態医学Ⅰ	2	○			2				2							
		病態医学Ⅱ	2	○			2					2						
		薬と健康	2	○			2				2							
		食と栄養	1	△				2		2								
		生活とリハビリテーション	2	△				2			2							
	社会のしくみと健康	ヒトの遺伝学	2	△				2		2		2						
		チーム医療論	1	○			1			1								
		生活科学論	1	△				2		2								
保健行動学		1	○			2				2								
		人間発達学	1	△				2		2								
専門基礎科目単位数合計							21	0	28									
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学原論	1	○			2			2						81単位選択必修 (選択科目から5単位以上 ただし地域看護学実習または病院インターンシップのいずれかを履修すること)		
		看護倫理	3	○			2						2					
		看護技術基礎論	1	○			1			1								
		療養生活援助技術	1	○			2			2								
		診療過程援助技術	2	○			1				1							
		フィジカルアセスメント	1	○			1				1							
		看護過程基礎論	2	○			2				2							
		チーム医療ふれあい実習	1		○		1			①								
	成人看護学	基礎看護学実習	1		○		2				②							
		成人看護学対象論	2	○			2				2							
		急性期看護学援助論Ⅰ	2	○			1					1						
		急性期看護学援助論Ⅱ	3	○			1						1					
		慢性期看護学援助論Ⅰ	2	○			1					1						
		慢性期看護学援助論Ⅱ	3	○			1						1					
		急性期看護学実習	3		○		3							③				
母子看護学	慢性期看護学実習	3		○		3							③					
	小児看護学対象論	2	○			2				2								
	小児看護学援助論Ⅰ	2	○			1					1							
	小児看護学援助論Ⅱ	3	○			1						1						
	母性看護学対象論	2	○			2				2								
	母性看護学援助論Ⅰ	2	○			1					1							
	母性看護学援助論Ⅱ	3	○			1						1						
	母子看護学実習	3		○		4							④					
	老年・精神看護学	老年看護学対象論	2	○			2				2							
		老年看護学援助論Ⅰ	2	○			1					1						
老年看護学援助論Ⅱ		3	○			1						1						
老年看護学実習		3		○		4							④					
精神看護学対象論		2	○			2				2								
精神看護学援助論Ⅰ		2	○			1					1							
精神看護学援助論Ⅱ		3	○			1						1						
	精神看護学実習	3		○		2							②					

健康科学部

看護医療学科 2回生用(2013年度入学生)

区分		授業科目の名称	配当 年次	指定規則対応科目		単位数			開 講 時 期								備 考
				看護師 課程 実習地	保健師 課程 実習地	必修	推奨	選択	1 回 生		2 回 生		3 回 生		4 回 生		
									前	後	前	後	前	後	前	後	
専門科目	地域看護学 専門分野Ⅱ	地域看護学概論	2	○	○		2			2						81単位選択必修 選択科目から5単位以上 を履修すること） ただし地域看護学実習または病院 インターンシップのいずれか	
		公衆衛生看護学概論	2		○		2			2							
		保健医療福祉システム論Ⅰ	4	○	○	1								1			
		保健医療福祉システム論Ⅱ	4		○			2							2		
		疫学	2		○			2			2						
		保健統計	2		○			2			2						
		公衆衛生看護学方法論Ⅰ	3		○			2				2					
		公衆衛生看護学方法論Ⅱ	4		○			2						2			
		公衆衛生看護学方法論Ⅲ	4		○			1							1		
		公衆衛生看護学活動論Ⅰ	3		○							2					
		公衆衛生看護学活動論Ⅱ	4		○			2						2			
		公衆衛生看護学活動論Ⅲ	4		○			1							1		
		健康学特論	4		○			2						②			
		公衆衛生看護学管理論	4		○			2						2			
		地域看護学実習	4		△		○		2					②			
	公衆衛生看護学実習	4			○		3							③			
	統合・発展科目 統合分野	在宅リハビリテーション	4	△				2							2		
		終末期ケア論	3	△				2					2				
		国際看護論	4	○				2							2		
		学校保健	2					2			2						
		養護概説	2					2				2					
		健康相談	4					2							2		
		医療安全論	3	○				2					2				
		災害看護論	4	△				2									2
		看護管理論	4	○				2							2		
		在宅看護学概論	2	○				2				2					
		ケアマネジメント論	3	○				2					2				
		在宅看護学実習	3		○			2						②			
		医療コミュニケーション演習	3					1						1			
		事例カンファレンス	4					1									1
		基礎医学総合演習	3					1						1			
		看護研究基礎論	3					2						2			
		卒業研究	4					2									2
		離島・へき地医療体験実習	4		○			2							②		
		病院インターンシップ	4		○		△		2						②		
専門科目単位数合計						76	0	41									
養護教諭免許課程	養護	養護実習指導	4					1							1	卒業単位に含まれません	
		養護実習	4					4						④			
	教職科目	教職概論	2					2			2						
		教育原理	2					2			2						
		教育史	1					2		2							
		教育心理学	2					2			2						
		臨床発達心理学	3					2					2				
		教育社会学	1					2		2							
		教育行政学	1					2	2								
		教育課程論（中等）	3					2					2				
		道徳・特別活動論（中等）	3					2					2				
		教育方法・技術論（中等）	2					2				2					
		生徒指導論	3					2					2				
		教育相談	2					2				2					
		教職実践演習（養護教諭）	4					2									2

専門準備科目	看護へのベーシックサイエンス	1					0	0								卒業単位には含まれません
--------	----------------	---	--	--	--	--	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--------------

健康科学部

看護医療学科 3回生用(2012年度入学生)

※科目名称の は過年度科目

区分	授業科目の名称	配当 年次	指定規則対応科目		単位数			開 講 時 期								卒業要件	
			看護師 課程 実習地	保健師 課程 実習地	必修	推奨	選択	1 回 生		2 回 生		3 回 生		4 回 生			
								前	後	前	後	前	後	前	後		
教養科目	人間と社会	西洋哲学	2	△			2			2						26 単位選択必修 (ただし、各区分2 単位以上修得のこと)	
		東洋思想	2	△			2			2							
		心理学概論	1	○			2		2								
		人間関係論	2	○			2			2							
		法学概論	1	△				2	2								
		日本国憲法	2	△				2			2						
		経済学概論	1	△				2	2								
		人権教育	1	△				2	2								
		◆社会学	1	△				2	2								
	歴史と文化	国際社会論	2	△				2			2						
		歴史学入門	2	△				2			2						
		科学史	2	△				2			2						
		文化芸術論	1	△				2	2								
	自然・科学 と人間	日本文芸の世界	1	△				2	2								
		生命科学入門	1	△				2	2								
		生命倫理	2	○			2				2						
		地球環境論	2	△				2			2						
	言語と情報	数理科学入門	1	△				2	2								
		英語コミュニケーションⅠ	1	○			2		2								
		英語コミュニケーションⅡ	1	○			2			2							
		オーラルコミュニケーションⅠ	2	△				2			2						
		オーラルコミュニケーションⅡ	2	△				2				2					
		短期語学留学	1	△				1	①								
		情報処理演習Ⅰ	1	○			1		1								
		情報処理演習Ⅱ	1	△			1			1							
	健康とス ポーツ	運動の科学	1	○			2			2							
		スポーツ実習Ⅰ	1	○			1			1							
		スポーツ実習Ⅱ	1	△				1		1							
	教養実践プログラム	ベーシックセミナー	1	○			1			1							
		キャリアデザインセミナー	1	○			1			1							
		チーム医療発展セミナー	1	○			1				1						
		日本語と表現	1	△				1	1								
		◆会話とマナー入門	1	△				1		1							
		企業インターンシップ	3・4	△				1					①		①		
		海外インターンシップ	2	△				1				①					
		学校インターンシップ	4	△				1							①		
		病院・施設ボランティア活動	2	△				1			①						
教養科目単位数合計					18	5	37										
専門基礎科目	共通科目	健康管理論	1	△				2	2							25 単位選択必修 (選択科目から4 単位以上)	
		精神保健学	1	△				2	2								
		障害者心理学	2	△				2			2						
		高齢者心理学	2	△				2			2						
		児童心理学	2	△				2			2						
		自立生活支援論	1	○			2		2								
		社会福祉論	1	○			2		2								
		感情体験の脳科学	2	△				2		2							
		外書講読	3	△				2				2					

【表中の記号等について】

◆…今年度非開講

開講時期欄の丸数字は、集中講義形式で授業実施予定

指定規則対応科目欄 ○…資格必修科目 △…資格選択必修科目

健康科学部

看護医療学科 3回生用(2012年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	指定規則対応科目				単位数			開 講 時 期								卒業要件	
			看護師 課程	実習地	保健師 課程	実習地	必修	推奨	選択	1 回 生		2 回 生		3 回 生		4 回 生			
										前	後	前	後	前	後	前	後		
専門基礎科目	人体の構造と機能	人体構造・機能学Ⅰ	1	○				2			2								25単位選択必修 (選択科目から4単位以上)
		人体構造・機能学Ⅱ	1	○				2			2								
		脳科学入門	1	△					2		2								
		生命活動と代謝	1	○			1				1								
		病理学	2	○			1					1							
		人間工学入門	1	△					2		2								
	疾病の成り立ちと回復の促進	感染・免疫学	1	○				2			2								
		病態医学Ⅰ	2	○				2				2							
		病態医学Ⅱ	2	○				2					2						
		薬と健康	2	○				2				2							
		食と栄養	1	△					2		2								
		生活とリハビリテーション	2	△					2			2							
	社会のしくみと健康	ヒトの遺伝学	2	△					2		2								
		チーム医療論	1	○				1			1								
		生活科学論	1	△					2		2								
		保健行動学	1	○				2			2								
		人間発達学	1	△					2		2								
		専門基礎科目単位数合計						21	0	28									
専門科目	専門分野Ⅰ 基礎看護学	看護学原論	1	○				2			2							81単位選択必修 (選択科目から5単位以上 ただし地域看護学実習または病院インターンシップのいずれかを履修すること)	
		看護倫理	3	○				2						2					
		看護技術基礎論	1	○			1			1									
		療養生活援助技術	1	○			2				2								
		診療過程援助技術	2	○			1					1							
		フィジカルアセスメント	1	○			1				1								
		看護過程基礎論	2	○			2					2							
		チーム医療ふれあい実習	1		○		1			①									
	成人看護学	基礎看護学実習	1		○		2				②								
		成人看護学対象論	2	○			2					2							
		急性期看護学援助論Ⅰ	2	○			1						1						
		急性期看護学援助論Ⅱ	3	○			1							1					
		慢性期看護学援助論Ⅰ	2	○			1						1						
		慢性期看護学援助論Ⅱ	3	○			1							1					
		急性期看護学実習	3		○		3								③				
		慢性期看護学実習	3		○		3								③				
	母子看護学	小児看護学対象論	2	○			2					2							
		小児看護学援助論Ⅰ	2	○			1						1						
		小児看護学援助論Ⅱ	3	○			1							1					
		母性看護学対象論	2	○			2					2							
		母性看護学援助論Ⅰ	2	○			1						1						
		母性看護学援助論Ⅱ	3	○			1							1					
		母子看護学実習	3		○		4								④				
		老年看護学対象論	2	○			2					2							
	老年・精神看護学	老年看護学援助論Ⅰ	2	○			1						1						
		老年看護学援助論Ⅱ	3	○			1								1				
		老年看護学実習	3		○		4									④			
		精神看護学対象論	2	○			2					2							
		精神看護学援助論Ⅰ	2	○			1						1						
		精神看護学援助論Ⅱ	3	○			1							1					
		精神看護学実習	3		○		2								②				

健康科学部

看護医療学科 3回生用(2012年度入学生)

区分		授業科目の名称	配当 年次	指定規則対応科目		単位数			開 講 時 期								卒業要件
				看護師 課程 実習地	保健師 課程 実習地	必修	推奨	選択	1 回生		2 回生		3 回生		4 回生		
									前	後	前	後	前	後	前	後	
専門科目	地域看護学 専門分野Ⅱ	地域看護学概論	2	○	○		2			2						81単位選択必修（選択科目から5単位以上を履修すること） ただし地域看護学実習または病院インターンシップのいずれか	
		公衆衛生看護学概論	2		○		2			2							
		保健医療福祉システム論Ⅰ	4	○	○	1							1				
		保健医療福祉システム論Ⅱ	4		○									2			
		疫学	2		○		2			2							
		保健統計	2		○		2			2							
		公衆衛生看護学方法論Ⅰ	3		○		2			2							
		公衆衛生看護学方法論Ⅱ	4		○		2						2				
		公衆衛生看護学方法論Ⅲ	4		○		1							1			
		公衆衛生看護学活動論Ⅰ	3		○		2				2						
		公衆衛生看護学活動論Ⅱ	4		○		2						2				
		公衆衛生看護学活動論Ⅲ	4		○		1							1			
		健康学特論	4		○		2						②				
		公衆衛生看護学管理論	4		○		2						2				
	地域看護学実習	4		△	○		2					②					
	公衆衛生看護学実習	4			○		3						③				
	統合・発展科目 専門科目	在宅リハビリテーション	4	△			2							2			
		終末期ケア論	3	△			2					2					
		国際看護論	4	○			2							2			
		学校保健	2				2			2							
		養護概説	2				2			2							
		健康相談	4				2							2			
		医療安全論	3	○			2					2					
		災害看護論	4	△			2							2			
		看護管理論	4	○			2							2			
		在宅看護学概論	2	○			2				2						
		ケアマネージメント論	3	○			2					2					
		在宅看護学実習	3		○		2						②				
		医療コミュニケーション演習	3				1					1					
		事例カンファレンス	4				1								1		
		基礎医学総合演習	3				1						1				
		看護研究基礎論	3				2						2				
		卒業研究	4				2								2		
		離島・へき地医療体験実習	4		○		2							②			
		病院インターンシップ	4		○	△		2						②			
		専門科目単位数合計						76	0	41							
養護教諭免許課程 教職科目		養護実習指導	4					1							1	卒業単位に含まれません	
		養護実習	4					4							④		
	教職概論	2					2			2							
	教育原理	2					2			2							
	教育史	1					2		2								
	教育心理学	2					2			2							
	臨床発達心理学	3					2					2					
	教育社会学	1					2		2								
	教育行政学	1					2	2									
	教育課程論（中等）	3					2					2					
	道徳・特別活動論（中等）	3					2					2					
	教育方法・技術論（中等）	2					2				2						
	生徒指導論	3					2					2					
	教育相談	2					2				2						
	教職実践演習(養護教諭)	4					2							2			

専門準備科目	看護へのベーシックサイエンス	1						0	0							卒業単位には含まれません
--------	----------------	---	--	--	--	--	--	---	---	--	--	--	--	--	--	--------------

健康科学部

看護医療学科 4回生用(2011年度入学生)

※科目名称の は過年度科目

区分		授業科目の名称	配当 年次	指定規則対応科目		単位数			開 講 時 期								卒業要件
				看護師 課程 実 習 地	保健師 課程 実 習 地	必修	推奨	選択	1 回 生	2 回 生	3 回 生	4 回 生					
									前	後	前	後	前	後	前	後	
教 養 科 目	社会の理解	くらしと法律	1	△					2	2							
		くらしと経済	1	△					2	2							
		◆くらしと技術	2	△					2		2						
		日本国憲法	2	△					2			2					
		国際社会と日本	2	△					2			2					
	理解	自然の	自然・科学と人間	1	△				2	2							
		地球環境論	2	△					2		2						
	人間・文化の理解	心理学入門Ⅰ	1	○				2		2							
		◆心理学入門Ⅱ	1	△					2	2							
		人格と発達	2	○				2				2					
		人間関係論	2	○				2				2					
		◆大和の歴史と文化	1	△					2	2							
		短期語学留学	1・2	△					2	②	②						
		◆くらしと音楽	2	△					2			2					
		◆くらしと美術	2	△					2			2					
	コミュニケーションスキル	英語コミュニケーションⅠ	1	○				2		2							
		英語コミュニケーションⅡ	1	△					2	2							
		オーラルコミュニケーション	2	△					2		2						
		情報処理演習Ⅰ	1	○				2		2							
		情報処理演習Ⅱ	1	△					2	2							
		◆情報処理演習Ⅲ	2	△					2		2						
	健康とスポーツ	運動の科学	1	○				2		2							
		スポーツ実習Ⅰ	1	○				1		1							
		スポーツ実習Ⅱ	1	△					1	1							
	ガイダンス教育	基礎ゼミ	1	○				2		2							
		◆会話とマナー入門	1	△					2	2							
		日本語と表現	1	△					2	2							
		統計の基礎	2	△					2		2						
		◆生物学入門	1	△					2	2							
		◆化学入門	1	△					2	2							
		キャリア教育	キャリアデザインセミナー	1	○				1		1						
	チーム医療発展セミナー	1	○					1		1							
	病院・施設ボランティア活動	2	△					1		①							
教養科目単位数合計								17	4	40							

[表中の記号等について]

◆…今年度非開講

開講時期欄の丸数字は、集中講義形式で授業実施予定

指定規則対応科目欄 ○…資格必修科目 △…資格選択必修科目

健康科学部
看護医療学科 4回生用(2011年度入学生)

区分		授業科目の名称	配当 年次	指定規則対応科目		単位数			開 講 時 期								卒業要件	
				看護師 課程	保健師 課程	必修	推奨	選択	1 回 生		2 回 生		3 回 生		4 回 生			
									前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 基 礎 科 目	共通科目	健康管理論	1	△						2	2							
		精神保健学	1	△						2	2							
		障害者心理学	2	△						2			2					
		高齢者心理学	2	△						2			2					
		児童心理学	2	△						2			2					
		自立生活支援論	1	○		○		2			2							
		社会福祉論	1	○		○		2			2							
	人体の構造と機能	人体構造・機能学Ⅰ	1	○				2			2							
		人体構造・機能学Ⅱ	1	○				2			2							
		脳科学入門	1	△					2		2							
		生命活動と代謝	1	○			1				1							
		病理学	2	○			1					1						
		人間工学入門	1	△					1		1							
		疾病の成り立ちと回復の促進	感染・免疫学	1	○				2			2						
	病態医学Ⅰ		2	○				2				2						
	病態医学Ⅱ		2	○				2					2					
	薬と健康		2	○				2				2						
	食と栄養		1	△					1		1							
	生活とリハビリテーション		2	△					1			1						
	ヒトの遺伝学		2	△					1			1						
	社会のしくみと健康	チーム医療論	1	○			1				1							
		生命倫理	2	○			2					2						
		保健医療福祉システム論	4	○		○	1										1	
		疫学・保健統計	4	○		○	2										②	
		生活科学論	1	△					1		1							
		保健行動学	1	○		○	1				1							
		人間発達学	1	△					1		1							
	専門基礎科目単位数合計								25	18								

健康科学部
看護医療学科 4回生用(2011年度入学生)

区分		授業科目の名称	配当 年次	指定規則対応科目		単位数			開 講 時 期								卒業要件		
				看護師 課程 実 習 地	保健師 課程 実 習 地	必修	推奨	選択	1 回 生		2 回 生		3 回 生		4 回 生				
									前	後	前	後	前	後	前	後			
専 門 科 目	専 門 分 野 Ⅰ	基 礎 看 護 学	看護学原論	1	○				2			2							
			看護倫理	3	○				1					1					
			看護技術基礎論	1	○				1			1							
			療養生活援助技術	1	○				2			2							
			診療過程援助技術	2	○				1			1							
			フィジカルアセスメント	1	○				1			1							
			看護過程基礎論	2	○				1			1							
			感情体験の脳科学	2							1		1						
			基礎看護学実習	1		○			2			②							
	専 門 科 目	成 人 看 護 学	成人看護学対象論	2	○				2			2							
			急性期看護学援助論Ⅰ	2	○				1				1						
			急性期看護学援助論Ⅱ	3	○				1					1					
			慢性期看護学援助論Ⅰ	2	○				1				1						
			慢性期看護学援助論Ⅱ	3	○				1					1					
			急性期看護学実習	3		○			3								③		
			慢性期看護学実習	3		○			3								③		
		母 子 看 護 学	小児看護学対象論	2	○				2			2							
			小児看護学援助論Ⅰ	2	○				1				1						
			小児看護学援助論Ⅱ	3	○				1					1					
			母性看護学対象論	2	○				2			2							
			母性看護学援助論Ⅰ	2	○				1				1						
			母性看護学援助論Ⅱ	3	○				1					1					
			母子看護学実習	3		○			4								④		
		老 年 ・ 精 神 看 護 学	老年看護学対象論	2	○				2			2							
			老年看護学援助論Ⅰ	2	○				1				1						
			老年看護学援助論Ⅱ	3	○				1					1					
			老年看護学実習	3		○			4								④		
			精神看護学対象論	2	○				2			2							
			精神看護学援助論Ⅰ	2	○				1				1						
			精神看護学援助論Ⅱ	3	○				1					1					
			精神看護学実習	3		○			2								②		

78
単
位
選
択
必
修

健康科学部

看護医療学科 4回生用(2011年度入学生)

区分		授業科目の名称	配当 年次	指定規則対応科目		単位数			開 講 時 期								卒業要件																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
				看護師 課程	保健師 課程	必修	推奨	選択	1 回 生		2 回 生		3 回 生		4 回 生																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
									前	後	前	後	前	後	前	後																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
専門科目	地域看護学	◆在宅看護論	3	○	○		2						2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							</

健康科学部

健康栄養学科 1 回生用(2014年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			コース必修			開 講 時 期								卒業 要件	
			必修	推奨	選択	臨床栄養	食品開発	栄養士 栄養士 資格必修	管理栄養士 栄養士 資格必修	1 回生		2 回生		3 回生		4 回生		
										前	後	前	後	前	後	前		後
教養科目	人間と社会	西洋哲学	2	2									2					
		東洋思想	2	2									2					
		心理学概論	1		2					2								
		人間関係論	2		2							2						
		法学概論	1		2					2								
		日本国憲法	2		2								2					
		経済学概論	1		2						2							
		人権教育	1		2						2							
		◆社会学	1		2					2								
		国際社会論	2		2							2						
	歴史と文化	歴史学入門	2		2							2						
		科学史	2		2								2					
		文化芸術論	1		2						2							
		日本文芸の世界	1		2						2							
	自然・科学 と人間	生命科学入門	1		2						2							
		生命倫理	2	2								2						
		地球環境論	2		2							2						
		数理科学入門	1		2						2							
		英語コミュニケーションⅠ	1	2							2							
		英語コミュニケーションⅡ	1	2								2						
		オーラルコミュニケーションⅠ	2		2							2						
		オーラルコミュニケーションⅡ	2		2								2					
		短期語学留学	1		1						①							
		情報処理演習Ⅰ	1	1							1							
	言語と情報	情報処理演習Ⅱ	1	1								1						
		運動の科学	1		2							2						
		スポーツ実習Ⅰ	1		1							1						
		スポーツ実習Ⅱ	1		1							①						
	教養実践プログラム	ベーシックセミナー	1	1							1							
		キャリア入門セミナー	1	1							1							
		キャリア形成セミナー	1	1								1						
		日本語と表現	1		1						1							
		企業インターンシップ	2		1								①					
		海外インターンシップ	2		1									①				
		学校インターンシップ	2		1									①				
教養科目単位数合計			11	4	43													

26単位以上選択必修（ただし、各区分1科目以上修得のこと）

[表中の記号等について]

◆…今年度非開講

開講時期欄の丸数字は、集中講義形式で授業実施予定

健康科学部

健康栄養学科 1 回生用(2014年度入学生)

区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数			コース必修			管理栄養士 受検資格必修 栄養士 資格必修	開 講 時 期								卒業 要件	
				必修	推奨	選択	臨床栄養	食品開発	スポーツ 栄養		1 回生		2 回生		3 回生		4 回生			
											前	後	前	後	前	後	前	後		
共通科目		精神保健学	1			2							2							
		児童心理学	1			2							2							
		高齢者心理学	1			2							2							
		障害者心理学	1			2							2							
		自立生活支援論	2			2								2						
	社会福祉論	1			2								2							
社会・環境・人間 と生活と健康		健康管理論	1	2						○	○	2								
		公衆衛生学	2	2						○	○				2					
		スポーツ心理学	2			2			◎					2						
		保健医療福祉概論	3	2						○	○						2			
人体の構造と機能・ 疾病の成り立ち		栄養学のための生物学	1	2								2								
		味覚生理学演習	2			2			◎						2					
		解剖生理学Ⅰ	1	2						○	○		2							
		解剖生理学Ⅱ	2			2					○			2						
		生化学Ⅰ	1	2						○	○		2							
		生化学Ⅱ	2			2					○			2						
		臨床医学Ⅰ	2	2						○	○			2						
		臨床医学Ⅱ	2			2					○				2					
		微生物学	2			2			◎					2						
		運動生理学	2	2						○	○				2					
		解剖生理学実験	2	1						○	○				1					
		生化学実験	2	1						○	○				1					
		微生物学実験	1			1					○		1							
	運動生理学実験	3	1							○	○					1				
食と健康		食品学総論	1	2						○	○	2								
		食品機能論	2	2						○	○			2						
		食品薬理学	3			2		◎									2			
		食品衛生学	2	2						○	○			2						
		調理学	1	2						○	○	2								
		食文化論	1			2							2							
		基礎化学	1	2								2								
		基礎化学実験	1	1							○	1								
		食品学実験	1	1						○	○		1							
		調理科学実験	2	1						○	○			1						
		食品衛生学実験	2	1						○	○			1						
		食品設計開発学	3			2											2			
		食品設計開発学演習	4			2			◎										2	
		食品設計開発学実習	3			1			◎									1		
		健康食品学	3			2			◎								2			
		調理学実習Ⅰ	1	1						○	○	1								
		調理学実習Ⅱ	1	1						○	○		1							
	フードコーディネイト論	3			2												2			
専門基礎科目単位数合計				35		38														

【卒業に必要な最低単位数】教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した20単位、合計124単位とする。

健康科学部

健康栄養学科 1 回生用(2014年度入学生)

区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数			コース必修			資格必修 栄養士	管理栄養士 受験資格必修	開 講 時 期								卒業 要件	
				必修	推奨	選択	臨床栄養	食品開発	スポーツ 栄養			1 回生		2 回生		3 回生		4 回生			
												前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 科 目	基礎栄養学	基礎栄養学Ⅰ	2	2						○	○				2						
		基礎栄養学Ⅱ	2	2							○	○				2					
		基礎栄養学実験	3	1							○	○						1			
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	2	2							○	○			2						
		応用栄養学Ⅱ	2			2						○				2					
		応用栄養学演習	3	2							○	○						2			
		応用栄養学実習	2	1							○	○				1					
		スポーツ栄養学	2			2				◎						2					
		トレーニング論	3			2				◎							2				
		健康づくり運動処方演習	3			2				◎								2			
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	1	2							○	○	2								
		栄養教育論Ⅱ	2	2							○	○				2					
		栄養教育論演習	1			2						○		2							
		栄養教育論実習Ⅰ	1	1							○	○	1								
		栄養教育論実習Ⅱ	3	1							○	○					1				
		スポーツ栄養指導実習	4			1				◎										1	
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	2	2							○	○			2						
		臨床栄養学Ⅱ	2			2						○				2					
		臨床栄養学Ⅲ	3			2						○					2				
		臨床栄養学Ⅳ	3			2						○					2				
		臨床栄養学実習Ⅰ	2	1							○	○				1					
		臨床栄養学実習Ⅱ	3			1						○					1				
		チーム医療論	2			2	◎								2						
		チーム医療ふれあい実習	2			1	◎									①					
		NST実践論	2			2	◎										2				
		臨床栄養カンファレンス演習	3			2	◎												2		
		臨床栄養カンファレンス実習	4			1	◎													1	
	公衆栄養学	公衆栄養学	3	2							○	○						2			
		地域栄養活動論	3			2						○							2		
		地域栄養活動論実習	4			1						○									1
	給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ	1	2							○	○	2								
		給食経営管理論Ⅱ	2			2						○					2				
		給食経営管理論演習	2			2									2						
		フードシステム経済学	2			2										2					
		給食経営管理論実習Ⅰ	2	1							○	○				1					
		給食経営管理論実習Ⅱ	3	1							○	○					1				

【卒業に必要な最低単位数】教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した20単位、合計124単位とする。

健康科学部

健康栄養学科 1 回生用(2014年度入学生)

区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数		コース必修					開 講 時 期								卒業 要件	
				必修	推奨	選択	臨床栄養	食品開発	栄養 スポーツ	資格必修 栄養士	管理栄養士 必修	1 回生		2 回生		3 回生		4 回生		
												前	後	前	後	前	後	前		後
専 門 科 目	総合演習	外書講読	3			2											2			
		総合演習	3	2						○						2				
		総合対策演習Ⅰ	2	1										①						
		総合対策演習Ⅱ	3	1												①				
		特別演習Ⅰ	4	2														2		
		特別演習Ⅱ	4			2					○*								2	
	臨地実習	臨地実習Ⅰ（給食の運営を含む）	3	1						○	○					①				
		臨地実習Ⅱ（臨床栄養）	3			2					○					②				
		臨地実習Ⅲ（臨床栄養）★	3			(1)					(○)					①				
		臨地実習Ⅳ（公衆栄養）★	4			(1)					(○)							①	★いずれ か1科目 選択必修	
	卒業研究		4			2												②		
	専門科目単位数合計			32		44														
	教育職員免許状に関する科目（栄養）	栄養教諭論	3			2											2			
		食に関する指導論	3			2												2		
		栄養教育実習	4			2													2	
教職概論		2			2								2							
教育原理		2			2								2							
教育史		1			2								2							
教育心理学		2			2									2						
発達心理学		2			2										2					
教育法制論		1			2								2							
教育課程論（中等）		3			2											2				
道徳・特別活動論（中等）		3			2											2				
教育方法・技術論（中等）		2			2										2					
生徒指導論		3			2											2				
教育相談(学校カウンセリングを含む)		2			2										2					
教職実践演習（栄養教諭）	4			2													2			

※は本学指定の資格必修

健康科学部

健康栄養学科 2回生用(2013年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			資格必修 栄養士	受検資格必修 管理栄養士	開 講 時 期								卒業要件
			必修	推奨	選択			1 回 生		2 回 生		3 回 生		4 回 生		
								前	後	前	後	前	後	前	後	
教養科目	人間と社会	西洋哲学	2	2						2						
		東洋思想	2	2							2					
		心理学概論	1		2			2								
		人間関係論	2		2					2						
		法学概論	1		2			2								
		日本国憲法	2		2						2					
		経済学概論	1		2				2							
		人権教育	1		2				2							
		◆社会学	1		2			2								
		国際社会論	2		2					2						
	歴史と文化	歴史学入門	2		2					2						
		科学史	2		2						2					
		文化芸術論	1		2				2							
		日本文芸の世界	1		2			2								
		自然・人間と科学	生命科学入門	1		2			2							
	生命倫理		2	2						2						
	地球環境論		2		2					2						
	数理科学入門		1		2				2							
	言語と情報	英語コミュニケーションⅠ	1	2				2								
		英語コミュニケーションⅡ	1	2					2							
		オーラルコミュニケーションⅠ	2		2					2						
		オーラルコミュニケーションⅡ	2		2						2					
		短期語学留学	1		1			①								
		情報処理演習Ⅰ	1	1				1								
		情報処理演習Ⅱ	1	1					1							
		スポーツと健康	運動の科学	1		2				2						
	スポーツ実習Ⅰ		1		1			1								
	スポーツ実習Ⅱ		1		1				1							
	教養実践プログラム	ベーシックセミナー	1	1				1								
		キャリア入門セミナー	1	1				1								
		キャリア形成セミナー	1	1					1							
		日本語と表現	1		1			1								
		企業インターンシップ	2・3		1					①		①				
		海外インターンシップ	2		1						①					
		学校インターンシップ	2		1						①					
教養科目単位数合計			11	4	43											26単位以上選択必修（ただし、各区分2単位以上修得のこと）

【表中の記号等について】

◆…今年度非開講

開講時期欄の丸数字は、集中講義形式で授業実施予定

健康科学部
健康栄養学科 2回生用(2013年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			資格 必修 栄養士 必修 管理栄養士 必修	開 講 時 期								卒業要件
			必修	推奨	選択		1回生		2回生		3回生		4回生		
							前	後	前	後	前	後	前	後	
共通科目	精神保健学	1			2			2							
	児童心理学	2			2					2					
	高齢者心理学	2			2					2					
	障害者心理学	1			2			2							
	自立生活支援論	2			2				2						
	社会福祉論	1			2			2							
社会・環境（人間と生活）と健康	チーム医療論	1			1		1								
	チーム医療ふれあい実習	1			1		①								
	◆健康と食生活	1	2				2								
	フードコーディネイト論	3			2							2			
	健康管理論	1	2			○	○	2							
	公衆衛生学	2	2			○	○			2					
	疫学・社会調査演習	2	2								2				
	健康づくり運動処方演習	3			2								2		
	保健医療福祉概論	4	2			○	○								2
	統計の基礎	2			2					2					
人体の構造と機能・疾病の成り立ち	◆医学入門	1			2		2								
	栄養学のための生物学	1	2				2								
	解剖生理学Ⅰ	2	2			○	○			2					
	解剖生理学Ⅱ	2			2		○				2				
	生化学Ⅰ	1	2			○	○		2						
	生化学Ⅱ	2			2		○			2					
	臨床病態学	2	2			○	○				2				
	微生物学	1			2		○		2						
	運動生理学	2	2			○	○				2				
	解剖生理学実習	2	1			○	○				1				
	生化学実験	2	1			○	○				1				
	微生物学実験	1			1		○		1						
	運動生理学実習	3	2			○	○					2			
	分子栄養学	3			2								2		
食へ物と健康	食品学総論	1	2			○	○		2						
	◆食品機能論	1	2			○	○		2						
	食品薬理学	3			2								2		
	食品衛生学	2	2			○	○			2					
	調理学	1	2			○	○	2							
	食文化論	2			2						2				
	基礎化学	1	2					2							
	基礎化学実験	1	1				○	1							
	食品学実験	1	1			○	○		1						
	調理科学実験	2	1			○	○			1					
	食品衛生学実験	2	1			○	○			1					
	食品設計開発学演習	2			2						2				
	調理学実習Ⅰ	1	2			○	○	2							
	調理学実習Ⅱ	1	2			○	○		2						
	専門基礎科目単位数合計			42		37									

【卒業に必要な最低単位数】
教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した20単位、合計124単位とする。

健康科学部

健康栄養学科 2回生用(2013年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			栄養士 資格必修	管理栄養士 受検資格必修	開 講 時 期								卒業要件
			必修	推奨	選択			1 回生		2 回生		3 回生		4 回生		
								前	後	前	後	前	後	前	後	
専門科目	基礎栄養学	基礎栄養学Ⅰ	2	2		○	○			2						
		基礎栄養学Ⅱ	2	2		○	○			2						
		基礎栄養学実験	3	1		○	○				1					
	応用栄養学	ライフステージ栄養学	2	2		○	○			2						
		スポーツ栄養管理	3		2							2				
		小児栄養演習	3	2		○	○					2				
		高齢者栄養演習	3		2		○				2	(2)				
		ライフステージ栄養学実習	2	2		○	○			2						
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2	2		○	○			2						
		栄養教育論Ⅱ	3	2		○	○				2					
		栄養教育論演習	3		2		○				2					
		栄養教育論実習	3	2		○	○					2				
		食情報システム実習	3		1		○					1				
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	2	2		○	○			2						
		臨床栄養学Ⅱ	3		2		○					2				
		臨床栄養学Ⅲ	3		2		○					2				
		臨床栄養学Ⅳ	3		2		○						2			
		臨床栄養学実習Ⅰ	3	2		○	○				2					
		臨床栄養学実習Ⅱ	3		2		○					2				
	公衆栄養学	公衆栄養学	3	2		○	○				2					
		地域栄養活動論	4		2		○							2		
		地域栄養活動論実習	4		1		○							1		
	給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ	2	2		○	○			2						
		給食経営管理論Ⅱ	2		2		○				2					
		フードシステム経済学	3		2							2				
		給食経営管理論実習Ⅰ	2	2		○	○				2					
		給食経営管理論実習Ⅱ	3	2		○	○					2				
	総合演習	外書講読	3		2								2			
		総合演習	3	2			○					2				
		総合対策演習Ⅰ	2	1						①						
		総合対策演習Ⅱ	3	1									①			
		特別演習Ⅰ	4	2										2		
		特別演習Ⅱ	4		2		○ _※								2	
	臨地実習	臨地実習Ⅰ	3	1		○	○					①				
		臨地実習Ⅱ	3		1		○					①				
		臨地実習Ⅲ	3		1		○					①				
		臨地実習Ⅳ	4		1		○								①	
	卒業研究		4		2										2	
専門科目単位数合計			36		31											

【卒業に必要な最低単位数】 教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した20単位、合計124単位とする。

※は本学指定の資格必修

健康科学部
健康栄養学科 2回生用(2013年度入学生)

区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数			資格 必修 栄養士	受検資格必修 管理栄養士	開 講 時 期								卒業要件
				必修	推奨	選択			1 回 生		2 回 生		3 回 生		4 回 生		
									前	後	前	後	前	後	前	後	
栄養教諭免許課程	栄養教諭	栄養教諭論	3			2							2				卒業単位に含まれません
		食に関する指導論	3			2							2				
		栄養教育実習	4			2								2			
	教職科目	教職概論	2			2					2						
		教育原理	2			2					2						
		教育史	1			2				2							
		教育心理学	2			2					2						
		臨床発達心理学	3			2							2				
		教育社会学	1			2				2							
		教育行政学	1			2			2								
		教育課程論（中等）	3			2							2				
		道徳・特別活動論（中等）	3			2							2				
		教育方法・技術論（中等）	2			2						2					
		生徒指導論	3			2							2				
		教育相談	2			2						2					
		教職実践演習（栄養教諭）	4			2										2	

専門準備科目	管理栄養士へのベーシックサイエンス	1			0			0							卒業単位には含まれません
--------	-------------------	---	--	--	---	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--------------

健康科学部

健康栄養学科 3回生用(2012年度入学生)

※科目名称の 〇 は過年度科目

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			資格必修 栄養士	受験資格必修 管理栄養士	開 講 時 期								卒業要件
			必修	推奨	選択			1 回生		2 回生		3 回生		4 回生		
								前	後	前	後	前	後	前	後	
教養科目	人間と社会	西洋哲学	2	2							2					
		東洋思想	2	2							2					
		心理学概論	1		2			2								
		人間関係論	2		2					2						
		法学概論	1		2			2								
		日本国憲法	2		2					2						
		経済学概論	1		2				2							
		人権教育	1		2				2							
		◆社会学	1		2			2								
		国際社会論	2		2					2						
	歴史と文化	歴史学入門	2		2					2						
		科学史	2		2						2					
		文化芸術論	1		2				2							
		日本文芸の世界	1		2			2								
	自然・科学 と人間	生命科学入門	1		2			2								
		生命倫理	2	2						2						
		地球環境論	2		2					2						
		数理科学入門	1		2				2							
	言語と情報	英語コミュニケーションⅠ	1	2				2								
		英語コミュニケーションⅡ	1	2					2							
		オーラルコミュニケーションⅠ	2		2					2						
		オーラルコミュニケーションⅡ	2		2						2					
		短期語学留学	1		1			①								
		情報処理演習Ⅰ	1	1				1								
		情報処理演習Ⅱ	1	1					1							
	スポーツ 健康と	運動の科学	1		2				2							
		スポーツ実習Ⅰ	1		1			1								
		スポーツ実習Ⅱ	1		1				1							
	教養実践 プログラム	ベーシックセミナー	1	1				1								
		キャリアデザインセミナー	1	1				1								
		キャリア発展セミナー	1	1					1							
		日本語と表現	1		1			1								
		◆会話とマナー入門	1		1			1								
		企業インターンシップ	2・3		1					①		①				
		海外インターンシップ	2		1						①					
		学校インターンシップ	2		1						①					
教養科目単位数合計			11	5	43											26 単位以上 選択必修 （ただし、 各区分2 単位以上 修得のこと）

〔表中の記号等について〕

◆…今年度非開講

開講時期欄の丸数字は、集中講義形式で授業実施予定

健康科学部
健康栄養学科 3回生用(2012年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			資格 必修 栄養士 必修 管理栄養士 受験科目 必修	開 講 時 期								卒業要件
			必修	推奨	選択		1 回生		2 回生		3 回生		4 回生		
							前	後	前	後	前	後	前	後	
共通科目	精神保健学	1			2			2							
	児童心理学	2			2					2					
	高齢者心理学	2			2					2					
	障害者心理学	1			2			2							
	自立生活支援論	2			2				2						
	社会福祉論	1			2			2							
社会・環境（人間と生活）と健康	チーム医療論	1			1		1								
	チーム医療ふれあい実習	1			1		①								
	◆健康と食生活	1	2				2								
	フードコーディネイト論	3			2							2			
	健康管理論	1	2			○	○	2							
	公衆衛生学	2	2			○	○			2					
	疫学・社会調査演習	2	2							2					
	健康づくり運動処方演習	3			2							2			
	保健医療福祉概論	4	2			○	○								2
	統計の基礎	2			2					2					
専門基礎科目	◆医学入門	1			2		2								
	栄養学のための生物学	1	2				2								
	解剖生理学Ⅰ	2	2			○	○			2					
	解剖生理学Ⅱ	2			2		○				2				
	生化学Ⅰ	1	2			○	○		2						
	生化学Ⅱ	2			2		○			2					
	臨床病態学	2	2			○	○			2					
	微生物学	3			2		○						2		
	運動生理学	2	2			○	○			2					
	解剖生理学実習	2	1			○	○			1					
	生化学実験	2	1			○	○			1					
	微生物学実験	3			1		○						1		
	運動生理学実習	3	2			○	○					2			
	分子栄養学	3			2								2		
食べ物と健康	食品学総論	1	2			○	○	2							
	◆食品機能論	1	2			○	○		2						
	食品薬理学	3			2								2		
	食品衛生学	2	2			○	○			2					
	調理学	2	2			○	○			2					
	食文化論	2			2						2				
	基礎化学	1	2					2							
	基礎化学実験	1	1				○	1							
	食品学実験	1	1			○	○		1						
	調理科学実験	2	1			○	○			1					
	食品衛生学実験	2	1			○	○			1					
	食品設計開発学演習	2			2					2					
	調理学実習Ⅰ	1	2			○	○	2							
	調理学実習Ⅱ	1	2			○	○		2						
	専門基礎科目単位数合計			42		37									

【卒業に必要な最低単位数】教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した20単位、合計124単位とする。

健康科学部

健康栄養学科 3回生用(2012年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			栄養士 資格必修	管理栄養士 受検資格必修	開 講 時 期								卒業要件
			必修	推奨	選択			1 回生		2 回生		3 回生		4 回生		
								前	後	前	後	前	後	前	後	
専門科目	基礎栄養学	基礎栄養学Ⅰ	2	2			○	○			2					
		基礎栄養学Ⅱ	2	2			○	○			2					
		基礎栄養学実験	3	1			○	○					1			
	応用栄養学	ライフステージ栄養学	2	2			○	○			2					
		スポーツ栄養管理	3			2								2		
		小児栄養演習	3	2			○	○						2		
		高齢者栄養演習	3			2		○					2	(2)		
		ライフステージ栄養学実習	2	2			○	○			2					
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2	2			○	○			2					
		栄養教育論Ⅱ	3	2			○	○					2			
		栄養教育論演習	3			2		○					2			
		栄養教育論実習	3	2			○	○						2		
		食情報システム実習	3			1		○						1		
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	2	2			○	○			2					
		臨床栄養学Ⅱ	3			2		○					2			
		臨床栄養学Ⅲ	3			2		○					2			
		臨床栄養学Ⅳ	3			2		○						2		
		臨床栄養学実習Ⅰ	3	2			○	○					2			
		臨床栄養学実習Ⅱ	3			2		○						2		
	公衆栄養学	公衆栄養学	3	2			○	○					2			
		地域栄養活動論	4			2		○							2	
		地域栄養活動論実習	4			1		○							1	
	給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ	2	2			○	○			2					
		給食経営管理論Ⅱ	2			2		○				2				
		フードシステム経済学	3			2							2			
		給食経営管理論実習Ⅰ	2	2			○	○				2				
		給食経営管理論実習Ⅱ	3	2			○	○					2			
	総合演習	外書講読	3			2								2		
		総合演習	3	2				○						2		
		総合対策演習Ⅰ	2	1							①					
		総合対策演習Ⅱ	3	1										①		
		特別演習Ⅰ	4	2											2	
		特別演習Ⅱ	4			2		○*								2
	臨地実習	臨地実習Ⅰ	3	1			○	○					①			
		臨地実習Ⅱ	3			1		○					①			
		臨地実習Ⅲ	3			1		○					①			
		臨地実習Ⅳ	4			1		○								①
	卒業研究		4			2										2
専門科目単位数合計			36		31											

【卒業に必要な最低単位数】
教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した20単位、合計124単位とする。

※は本学指定の資格必修

健康科学部
健康栄養学科 3回生用(2012年度入学生)

区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数				受検者必修 栄養士 資格必修	管理栄養士 受検必修	開 講 時 期								卒業要件
				必修	推奨	選択	1 回生			2 回生		3 回生		4 回生				
							前			後	前	後	前	後	前	後		
栄養教諭 免許課程 教職科目	栄養教諭論	3			2								2			卒業単位に 含まれません		
	食に関する指導論	3			2									2				
	栄養教育実習	4			2										2			
	教職概論	2			2					2								
	教育原理	2			2					2								
	教育史	1			2				2									
	教育心理学	2			2					2								
	臨床発達心理学	3			2							2						
	教育社会学	1			2				2									
	教育行政学	1			2			2										
	教育課程論（中等）	3			2							2						
	道徳・特別活動論（中等）	3			2							2						
	教育方法・技術論（中等）	2			2						2							
	生徒指導論	3			2							2						
	教育相談	2			2						2							
	教職実践演習（栄養教諭）	4			2										2			
専門準備科目	管理栄養士へのベーシックサイエンス	1			0			0								卒業単位には 含まれません		

健康科学部

健康栄養学科 4回生用(2011年度入学生)

※科目名称の 〇 は過年度科目

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数				開 講 時 期								卒業要件	
			必修	推奨	選択	資格必修 栄養士 必修	管理栄養士 必修	1 回 生		2 回 生		3 回 生		4 回 生		
								前	後	前	後	前	後	前		後
教 養 科 目	社会の理解	くらしと法律	1		2			2								
		くらしと経済	1		2			2								
		◆くらしと技術	2		2				2							
		日本国憲法	2		2					2						
		国際社会と日本	2		2					2						
	自然の理解	自然・科学と人間	1		2			2								
		地球環境論	2		2				2							
	人間・文化の理解	心理学入門Ⅰ	1		2			2								
		◆心理学入門Ⅱ	1		2			2								
		◆人格と発達	2		2					2						
		人間関係論	2		2				2							
		◆大和の歴史と文化	1		2			2								
		短期語学留学	1・2		2			②	②							
		◆くらしと音楽	2		2					2						
		◆くらしと美術	2		2					2						
	コミュニケーションスキル	英語コミュニケーションⅠ	1	2				2								
		英語コミュニケーションⅡ	1	2				2								
		オーラルコミュニケーション	2		2				2							
		情報処理演習Ⅰ	1	2				2								
		情報処理演習Ⅱ	1		2			2								
		◆情報処理演習Ⅲ	2		2				2							
	スポーツと健康	運動の科学	1		2			2								
		スポーツ実習Ⅰ	1		1			1								
		スポーツ実習Ⅱ	1		1			1								
	ガイダンス教育	基礎ゼミ	1	2				2								
		◆会話とマナー入門	1		2			2								
		日本語と表現	1		2			2								
		統計の基礎	2		2				2							
		◆化学入門	1		2			2								
		◆生物学入門	1		2			2								
	キャリア教育	キャリアデザインセミナー	1	1				1								
		キャリア発展セミナー	1	1					1							
		キャリア体験実習	2		2					②						
		企業インターンシップ	2・3		2					②		②				
教養科目単位数合計			10	4	50											26 単位以上選択必修（ただし、各区分2単位以上修得のこと）

【表中の記号等について】

◆…今年度非開講

開講時期欄の丸数字は、集中講義形式で授業実施予定

健康科学部
健康栄養学科 4回生用(2011年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数				開 講 時 期								卒業要件		
			必修	推奨	選択	資格必修 栄養士	管理栄養士 受験資格必修	1回生		2回生		3回生		4回生			
								前	後	前	後	前	後	前		後	
共通科目	精神保健学	1			2			2									
	児童心理学	2			2					2							
	高齢者心理学	2			2					2							
	障害者心理学	1			2			2									
	自立生活支援論	2			2				2								
	社会福祉論	1			2			2									
社会・環境（人間と生活）と健康	チーム医療論	1			1			1									
	チーム医療ふれあい実習	1			1			①									
	◆健康と食生活	1	2					2									
	フードコーディネイト論	3			2							2					
	健康管理論	1	2			○	○	2									
	公衆衛生学	2	2			○	○			2							
	疫学・社会調査演習	2	2								2						
	健康づくり運動処方演習	3			2								2				
	保健医療福祉概論	4	2				○	○								2	
専門基礎科目 人体の構造と機能・疾病の成り立ち	◆医学入門	1			2			2									
	解剖生理学Ⅰ	2	2			○	○			2							
	解剖生理学Ⅱ	2			2		○				2						
	生化学Ⅰ	1	2			○	○		2								
	生化学Ⅱ	2			2		○			2							
	臨床病態学	2	2			○	○				2						
	微生物学	3			2		○						2				
	運動生理学	2	2			○	○				2						
	解剖生理学実習	2	1			○	○				1						
	生化学実験	2	1				○	○			1						
	微生物学実験	3			1		○						1				
	運動生理学実習	3	2				○	○					2				
	分子栄養学	3			2									2			
食へ物と健康	食品学総論	1	2			○	○	2									
	◆食品機能論	1	2			○	○		2								
	食品衛生学	2	2			○	○			2							
	調理学	2	2			○	○			2							
	食文化論	2			2						2						
	基礎化学実験	1	1				○	1									
	食品学実験	1	1				○		1								
	調理科学実験	2	1				○	○			1						
	食品衛生学実験	2	1				○	○			1						
	食品設計開発学演習	2			2						2						
	調理学実習Ⅰ	1	2				○	○	2								
	調理学実習Ⅱ	1	2				○	○		2							
専門基礎科目単位数合計			38		33												

「卒業に必要な最低単位数」教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した20単位、合計124単位とする。

健康科学部

健康栄養学科 4回生用(2011年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数				資格 必修	栄養 士 資格 必修	管理 栄養 士 資格 必修	開 講 時 期								卒業要件	
			必修	推奨	選択	1 回 生				2 回 生		3 回 生		4 回 生					
						前				後	前	後	前	後	前	後			
専 門 科 目	基礎栄養学	基礎栄養学Ⅰ	2	2			○	○			2							【卒業に必要な最低単位数】 教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した20単位、合計124単位とする。	
		基礎栄養学Ⅱ	2	2			○	○				2							
		基礎栄養学実験	3	1			○	○					1						
	応用栄養学	ライフステージ栄養学	2	2			○	○			2								
		スポーツ栄養管理	3			2								2					
		小児栄養演習	3	2			○	○						2					
		高齢者栄養演習	3			2		○					2						
		ライフステージ栄養学実習	2	2			○	○				2							
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2	2			○	○				2							
		栄養教育論Ⅱ	3	2			○	○					2						
		栄養教育論演習	3	2				○					2						
		栄養教育論実習	3	2			○	○						2					
		食情報システム実習	3			1		○						1					
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	2	2			○	○				2							
		臨床栄養学Ⅱ	3			2		○					2						
		臨床栄養学Ⅲ	3			2		○					2						
		臨床栄養学Ⅳ	3			2		○						2					
		臨床栄養学実習Ⅰ	3	2			○	○					2						
		臨床栄養学実習Ⅱ	3			2		○						2					
	公衆栄養学	公衆栄養学	3	2			○	○					2						
		地域栄養活動論	4			2		○								2			
		地域栄養活動論実習	4			1		○								1			
	給食経営管理論	給食経営管理論Ⅰ	2	2			○	○			2								
		給食経営管理論Ⅱ	2			2		○				2							
		フードシステム経済学	3			2								2					
		給食経営管理論実習Ⅰ	2	2			○	○					2						
		給食経営管理論実習Ⅱ	3	2			○	○						2					
	総合演習	外書講読	3			2									2				
		総合演習	3	2				○						2					
		総合対策演習Ⅰ	2			1		○※				①							
		総合対策演習Ⅱ	3			1		○※							①				
		特別演習Ⅰ	4			2		○※								2			
		特別演習Ⅱ	4			2		○※									2		
	臨地実習	臨地実習Ⅰ	3	1			○	○						①					
		臨地実習Ⅱ	3			1		○						①					
		臨地実習Ⅲ	3			1		○						①					
		臨地実習Ⅳ	4			1		○									①		
	卒業研究		4			2											2		
専門科目単位数合計			34		33														

※は本学指定の資格必修

健康科学部
健康栄養学科 4回生用(2011年度入学生)

区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数			資格 必修	栄養士	管理栄養士 受験資格 必修	開 講 時 期								卒業要件
				必修	推奨	選択				1 回 生		2 回 生		3 回 生		4 回 生		
										前	後	前	後	前	後	前	後	
栄養教諭免許課程	教職科目	栄養教諭論	3			2								2				卒業単位に含まれません
		食に関する指導論	3			2									2			
		栄養教育実習	4			2										2		
		教職概論	2			2						2						
		教育原理	2			2						2						
		教育史	1			2					2							
		教育心理学	2			2						2						
		臨床発達心理学	3			2								2				
		教育社会学	1			2						2						
		教育行政学	1			2				2								
		教育課程論（中等）	3			2								2				
		道徳・特別活動論（中等）	3			2								2				
		教育方法・技術論（中等）	2			2								2				
		生徒指導論	3			2									2			
		教育相談	2			2								2				
	教職実践演習（栄養教諭）	4			2											2		

健康科学部

人間環境デザイン学科 1 回生用(2014年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			コースカリキュラム			開 講 時 期								卒業要件	
			必修	推奨	選択	ちづくり 建築・ま	インテリア デザイン	造形デザ イン	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生						
									前	後	前	後	前	後	前	後		
教養科目	人間と社会	西洋哲学	2	2							2							26 単位以上選択必修（ただし、各区分 1 科目以上修得のこと）
		東洋思想	2	2							2							
		心理学概論	1		2				2									
		人間関係論	2		2					2								
		法学概論	1		2				2									
		日本国憲法	2		2						2							
		経済学概論	1		2				2									
		人権教育	1		2				2									
		◆社会学	1		2				2									
		国際社会論	2		2					2								
	歴史と文化	歴史学入門	2		2					2								
		科学史	2		2						2							
		文化芸術論	1		2	△	△		2									
		日本文芸の世界	1		2				2									
	自然・人間と科学	生命科学入門	1		2				2					2				
		生命倫理	3	2		●	●	●					2					
		地球環境論	2		2					2								
		数理科学入門	1		2				2									
	言語と情報	英語コミュニケーションⅠ	1	2		●	●	●	2									
		英語コミュニケーションⅡ	1	2		●	●	●	2									
		オーラルコミュニケーションⅠ	2		2					2								
		オーラルコミュニケーションⅡ	2		2						2							
		短期語学留学	1		1				①									
		情報処理演習Ⅰ	1	1		●	●	●	1									
		情報処理演習Ⅱ	1	1		●	●	●		1								
		運動の科学	1		2				2									
	スポーツと健康	スポーツ実習Ⅰ	1		1				1									
		スポーツ実習Ⅱ	1		1				①									
		教養実践プログラム	ベーシックセミナー	1	1		●	●	●	1								
	キャリア入門セミナー		1	1		●	●	●	1									
	キャリア形成セミナー（偶数年開講）		1・2		1				1		1							
	日本語と表現		1		1				1									
	企業インターンシップ		2		1					①		①						
	海外インターンシップ		2		1						①							
	学校インターンシップ		2		1						①							
教養科目単位数合計			10	4	44													

[表中の記号等について]

◆…今年度非開講

開講時期欄の丸数字は、集中講義形式で授業実施予定

科目名後の (E) は教育学部開講科目を示す

コースカリキュラム欄の●は、卒業必修

コースカリキュラム欄の○は、コース推奨科目

コースカリキュラム欄の□、◇、△は、同種印のいずれか 2 単位選択必修

コースカリキュラム欄の☆は、いずれか 8 単位選択必修

健康科学部

人間環境デザイン学科 1 回生用(2014年度入学生)

区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数			コースカリキュラム			開 講 時 期								卒業要件	
				必修	推奨	選択	建築・まちづくり	インテリアデザイン	造形デザイン	1 回生		2 回生		3 回生		4 回生			
										前	後	前	後	前	後	前	後		
専門基礎科目	共通科目	健康管理論	1			2				2									【卒業に必要な最低単位数】教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、合計104単位とする。
		精神保健学	1			2					2								
		児童心理学	1			2				2									
		高齢者心理学	1			2				2									
		障害者心理学	1			2					2								
		自立生活支援論	2			2						2							
		社会福祉論	1			2					2								
	社会・環境 と健康 (人間と生活)	景観・まちづくり演習	1	2			●	●	●	2									
		ユニバーサルデザイン	1	2			●	●	●		2								
		衣生活論	1			2			○	2									
		住生活論	1			2	△	△		2									
		色彩論Ⅰ	1	2			●	●	●		2								
		色彩論Ⅱ	2	2			●	●	●			2							
		現代の家族関係	2			2							2						
	・人体の構造と機能・障害克服の支援	リハビリテーション入門	1			2				2									
		日常生活活動学入門	1	2			●	●	●	2									
		人間工学	1	2			●	●	●		2								
		人間工学実験	2			2	○	☆				2							
		人体感覚計測実験	3			2									②				
	・知覚と認識	デザインのための心理学	2			2	○	☆	○			2							
		環境心理学	3			2	○	☆	○					2					
		認知心理学	2			2		☆	○				2						
		色彩心理学	2			2		☆	○				2						
	表現の技術	デッサンⅠ	1	2			●	●	●	2									
		デッサンⅡ	1			2	△	△	○		2								
		立体表現Ⅰ	1			2	△	△	○	2									
		立体表現Ⅱ	1			2	△	△			2								
		コンピュータグラフィック	2			2	△	△	○				2						
専門基礎科目単位数合計				14	0	42													

健康科学部

人間環境デザイン学科 1 回生用(2014年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			コースカリキュラム			開 講 時 期								卒業要件	
			必修	推奨	選択	建築・ま ちづくり	デザイン	造形デザ イン	1 回生		2 回生		3 回生		4 回生			
									前	後	前	後	前	後	前	後		
インテリアデザイン・造形デザイン	インテリアデザイン	2			2	○	●	○			2						※の3科目より1科目選択必修	
	インテリアデザイン演習Ⅰ	2			2	○	●				2							
	インテリアデザイン演習Ⅱ	3			2		●					2	(2)					
	インテリア商品と販売知識	2			2		☆	○			2							
	生活環境素材論	1			2	○	☆	○	2									
	アパレル構成論	1			2			○		2								
	ファッションビジネス論	3			2			○				2						
	アパレル構成実習Ⅰ	2			2			○		2								
	アパレル構成実習Ⅱ	2			2			○			2							
	アパレル構成実習Ⅲ	3			2			○					(2)					
	アパレルデザイン演習	3			2			○				(2)						
	テキスタイル実習	3			2			○				2						
	福祉機器論	2			2		☆	○			2							
	プロダクトデザインA	3			2			○				2						
プロダクトデザインB	3			2			○					2						
ユニバーサルデザイン(ファッション)	4	※		2			□							2				
ユニバーサルデザイン(プロダクト)	4	※		2			□	□							2			
専門科目	建築学概論	1			2	●	☆			2								【卒業に必要な最低単位数】 教養科目で26単位・専門基礎科目・専門科目で78単位・上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、合計24単位とする。
	住環境計画Ⅰ	1			2	●	☆			2								
	住環境計画Ⅱ	2			2	●	☆				2							
	福祉のまちづくり(地域計画論)	3			2	○						2						
	建築図学	1			2	●	●			2								
	建築設計演習Ⅰ	2			2	●	●				2							
	建築設計演習Ⅱ	2			2	●	●					2						
	建築設計演習Ⅲ	3			2	●							2					
	建築設計演習Ⅳ	3			2	●								2				
	ユニバーサルデザイン(環境)	3	※		2	○	□	□					2					
	建築C A DⅠ	2			2	○	☆					2						
	建築C A DⅡ	3			2	○	☆						2					
	建築環境工学	3			2	●	☆						2					
	建築設備学演習	3			2	●	☆							2				
	建築材料学	3			2	●	☆								2			
	構造力学Ⅰ	1			2	●	☆			2								
	構造力学Ⅱ	2			2	●	☆				2							
	建築一般構造Ⅰ	2			2	●	☆					2						
	建築一般構造Ⅱ	3			2	●	☆						2					
	建築材料実験	3			2	●							2	(2)				
	測量実習	3			2	●								2				
	建築施工	4			2	●	☆									2		
	住生活史	2			2	△	△	○			2							
	日本建築史	2			2	△	△	○			2							
	西洋・東洋建築史	2			2	△	△	○				2						
	建築法規	4			2	●	☆									2		
プロジェクトゼミ	プロジェクトゼミA	2			2	◇	◇	◇				2						
	プロジェクトゼミB	3			2	◇	◇	◇						2				
	卒業研究	4	4			●	●	●								④		
専門科目単位数合計			4		90													

健康科学部

人間環境デザイン学科 1 回生用(2014年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			コースカリキュラム			開 講 時 期								卒業要件
			必修	推奨	選択	ちづくり 建築・ま インテリ ア・デザ イン	造形デザ イン	1 回生		2 回生		3 回生		4 回生			
								前	後	前	後	前	後	前	後		
認定心理士科目 (教育学部開設)	心理学研究法(E)	2			2						2						【卒業に必要な最低単位数教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学学部で修得した20単位 合計104単位とする。】
	心理統計学(E)	2			2						2						
	心理学基礎実験(E)	2			2						2						
	心理検査法実習(E)	3			2							2					
	学習心理学(E)	2			2					2							
	発達心理学(E)	2			2						2						
	発達脳科学(E)	3			2							2					
	人格心理学(E)	2			2						2						
	社会心理学(E)	3			2							2					
家族心理学(E)	3			2								2					
教育職員免許状に関する科目 (家庭)	家庭経営学	3			2								2				卒業単位に含まれません 再掲
	家庭電気・機械	3			2									2			
	健康と食生活	3			2								2				
	調理実習	3			2								2				
	保育学	3			2									2			
	家庭科指導法Ⅰ	3			2								2				
	家庭科指導法Ⅱ	3			2								2				
	家庭科指導法Ⅲ	3			2								2				
	家庭科指導法Ⅳ	3			2								2				
	家庭科教育実習指導	4			1											1	
	家庭科教育実習(中)	4			4											④	
	家庭科教育実習(高)	4			2											②	
	教職概論	2			2						2						
	教育原理	2			2						2						
	教育史	1			2					2							
	教育心理学	2			2						2						
	発達心理学	2			2							2					
	教育法制論	1			2						2						
	教育課程論 (中等)	3			2								2				
	道徳指導法 (中等)	3			2									2			
	特別活動指導法 (中等)	3			2									2			
	教育方法・技術論 (中等)	2			2							2					
	生徒・進路指導論 (中等)	3			2								2				
	教育相談(学校カウンセリングを含む)	2			2							2					
	教職実践演習 (中・高)	4			2												
専門準備科目	建築へのベーシックサイエンス	1			0				0								卒業単位には含まれません

健康科学部

人間環境デザイン学科 2回生用(2013年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			コースカリキュラム												卒業要件
			必修	推奨	選択	建築・まちづくり	インテリアデザイン	造形デザイン	1回生		2回生		3回生		4回生			
									前	後	前	後	前	後	前	後		
教養科目	人間と社会	西洋哲学	2	2								2						
		東洋思想	2	2								2						
		心理学概論	1		2				2									
		人間関係論	2		2					2								
		法学概論	1		2				2									
		日本国憲法	2		2						2							
		経済学概論	1		2					2								
		人権教育	1		2					2								
		◆社会学	1		2				2									
		国際社会論	2		2						2							
	歴史と文化	歴史学入門	2		2						2							
		科学史	2		2							2						
		文化芸術論	1		2	△	△			2								
		日本文芸の世界	1		2				2									
	自然・人間と科学	生命科学入門	1		2				2									
		生命倫理	3	2		●	●	●					2					
		地球環境論	2		2						2							
		数理科学入門	1		2					2								
	言語と情報	英語コミュニケーションⅠ	1	2		●	●	●	2									
		英語コミュニケーションⅡ	1	2		●	●	●		2								
		オーラルコミュニケーションⅠ	2		2						2							
		オーラルコミュニケーションⅡ	2		2							2						
		短期語学留学	1		1				①									
		情報処理演習Ⅰ	1	1		●	●	●	1									
		情報処理演習Ⅱ	1	1		●	●	●		1								
	スポーツと健康	運動の科学	1		2					2								
		スポーツ実習Ⅰ	1		1				1									
		スポーツ実習Ⅱ	1		1					1								
	教養実践プログラム	ベーシックセミナー	1	1		●	●	●	1									
		キャリア入門セミナー	1	1		●	●	●	1									
		キャリア形成セミナー(偶数年開講)	1・2		1					1		1						
		日本語と表現	1		1				1									
		企業インターンシップ	2・3		1						①		①					
		海外インターンシップ	2		1							①						
		学校インターンシップ	2		1							①						
教養科目単位数合計			10	4	44													

26単位以上選択必修（ただし、各区分2単位以上修得のこと）

[表中の記号等について]

◆…今年度非開講

開講時期欄の丸数字は、集中講義形式で授業実施予定
科目名後の(E)は教育学部開講科目を示す

コースカリキュラム欄の●は、卒業必修

コースカリキュラム欄の○は、コース推奨科目

コースカリキュラム欄の□、◇、△は、同種印のいずれか2単位選択必修

コースカリキュラム欄の☆は、いずれか8単位選択必修

健康科学部

人間環境デザイン学科 2回生用(2013年度入学生)

区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数			コースカリキュラム			開 講 時 期								卒業要件	
				必修	推奨	選択	建築・まちづくり デザイン	インテリア デザイン	造形デザ イン	1 回 生		2 回 生		3 回 生		4 回 生			
										前	後	前	後	前	後	前	後		
専門基礎科目	共通科目	健康管理論	1			2				2									「卒業に必要な最低単位数」教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、合計124単位とする。
		精神保健学	1			2					2								
		児童心理学	2			2							2						
		高齢者心理学	2			2							2						
		障害者心理学	1			2					2								
		自立生活支援論	2			2						2							
		社会福祉論	1			2					2								
	社会・環境 と健康	景観・まちづくり演習	1	2			●	●	●	2									
		ユニバーサルデザイン	1	2			●	●	●		2								
		衣生活論	1			2			○	2									
		住生活論	1			2	△	△		2									
		色彩論Ⅰ	1	2			●	●	●		2								
		色彩論Ⅱ	2	2			●	●	●			2							
		現代の家族関係	2			2							2						
	・人体の構造と機能 ・障害克服の支援	リハビリテーション入門	1			2				2									
		日常生活活動学入門	1	2			●	●	●	2									
		人間工学	1	2			●	●	●		2								
		人間工学実験	2			2	○	☆				2							
		人体感覚計測実験	3			2										②			
	・知覚と認識 ・心の理解	デザインのための心理学	2			2	○	☆	○			2							
		環境心理学	2			2	○	☆	○			2							
		認知心理学	2			2		☆	○				2						
		色彩心理学	2			2		☆	○				2						
	表現の技術	デッサンⅠ	1	2			●	●	●	2									
		デッサンⅡ	1			2	△	△	○		2								
		立体表現Ⅰ	1			2	△	△	○	2									
		立体表現Ⅱ	1			2	△	△			2								
		コンピュータグラフィック	2			2	△	△	○				2						
専門基礎科目単位数合計				14	0	42													

健康科学部

人間環境デザイン学科 2回生用(2013年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			コースカリキュラム			開 講 時 期								卒業要件	
			必修	推奨	選択	ち づ く り ま	建 築 ・ マ イ ン テ リ ア デ ザ イ ン	造 形 デ ザ イ ン	1 回 生		2 回 生		3 回 生		4 回 生			
									前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 科 目	インテリアデザイン・アパレル	インテリアデザイン	2		2	○	●	○			2						【卒業に必要な最低単位数】 20単位、合計24単位とする。 ※の3科目よりいずれか1科目選択必修 上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した	
		インテリアデザイン演習Ⅰ	2		2	○	●				2							
		インテリアデザイン演習Ⅱ	3		2		●						2	(2)				
		インテリア商品と販売知識	2		2		☆	○			2							
		生活環境素材論	1		2	○	☆	○	2									
		アパレル構成論	1		2			○		2								
		ファッションビジネス論	3		2			○					2					
		アパレル構成実習Ⅰ	2		2			○			2							
		アパレル構成実習Ⅱ	2		2			○			2							
		アパレル構成実習Ⅲ	3		2			○						②				
		アパレルデザイン演習	3		2			○					②					
		テキスタイル実習	3		2			○					2					
		福祉機器論	2		2			☆	○		2							
		プロダクトデザインA	3		2			○	○					2				
	プロダクトデザインB	3		2			○	○						2				
	ユニバーサルデザイン(ファッション)	4	※	2				□							2			
	ユニバーサルデザイン(プロダクト)	4	※	2				□	□						2			
	建 築	建築学概論	1		2	●	☆			2								
		住環境計画Ⅰ	1		2	●	☆			2								
		住環境計画Ⅱ	2		2	●	☆				2							
		福祉のまちづくり(地域計画論)	3		2	○							2					
		建築図学	1		2	●	●			2								
		建築設計演習Ⅰ	2		2	●	●				2							
		建築設計演習Ⅱ	2		2	●	●					2						
		建築設計演習Ⅲ	3		2	●							2					
		建築設計演習Ⅳ	3		2	●								2				
ユニバーサルデザイン(環境)		3	※	2	○	□	□					2						
建築CADⅠ		2		2	○	☆					2							
建築CADⅡ		3		2	○	☆						2						
建築環境工学		3		2	●	☆							2					
建築設備学演習		3		2	●	☆								2				
建築材料学		3		2	●	☆							2					
構造力学Ⅰ		1		2	●	☆			2									
構造力学Ⅱ		2		2	●	☆				2								
建築一般構造Ⅰ		2		2	●	☆					2							
建築一般構造Ⅱ		3		2	●	☆							2					
建築材料実験		3		2	●								2	(2)				
測量実習		3		2	●									2				
建築施工		4		2	●	☆									2			
住生活史	2		2	△	△	○			2									
日本建築史	2		2	△	△	○			2									
西洋・東洋建築史	2		2	△	△	○				2								
建築法規	4		2	●	☆									2				
フ ロ ン テ ィ ン グ	プロジェクトゼミA	2		2	◇	◇	◇				2					いずれか1科目選択必修		
	プロジェクトゼミB	3		2	◇	◇	◇						2					
	卒業研究	4	4		●	●	●								④			
専門科目単位数合計			4	90														

健康科学部

人間環境デザイン学科 2回生用(2013年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			コースカリキュラム		開 講 時 期								卒業要件
			必修	推奨	選択	ちづくり 建築・ま い	インテリア デザイン イン	1 回 生		2 回 生		3 回 生		4 回 生		
								前	後	前	後	前	後	前	後	
認定心理士科目 (教育学部開設)	心理学研究法Ⅰ(E)	2			2					2						【卒業に必要な最低単位数】教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、合計124単位とする。
	心理学研究法Ⅱ(E)	2		2						2						
	心理統計学(E)	2		2					2							
	心理学基礎実験(E)	2		2					2							
	心理学実験(E)	2		2					2							
	心理検査法実習(E)	3		2						2						
	学習心理学(E)	2		2					2							
	コミュニケーション心理学(E)	3		2							2					
	発達心理学(E)	2		2					2							
	学校心理学(E)	4		2										2		
	発達脳科学(E)	3		2							2					
	人格心理学(E)	2		2					2							
社会心理学(E)	3		2						2							
家族心理学(E)	3		2								2					
社会心理学調査演習(E)	3		2								2					
家庭科教諭 家庭科教諭免許課程	家庭経営学	3		2								2				卒業単位に含まれません
	家庭電気・機械	3		2									2			
	健康と食生活	3		2								2				
	調理実習	3		2							2					
	保育学	3		2								2				
	家庭科指導法Ⅰ	3		2							2					
	家庭科指導法Ⅱ	3		2							2					
	家庭科指導法Ⅲ	3		2							2					
	家庭科指導法Ⅳ	3		2							2					
	家庭科教育実習指導	4		1										1		
	家庭科教育実習(中)	4		4										④		
	家庭科教育実習(高)	4		2										②		
	教職概論	2		2						2						
	教育原理	2		2						2						
	教育史	1		2					2							
	教育心理学	2		2						2						
	臨床発達心理学	3		2							2					
	教育社会学	1		2					2							
	教育行政学	1		2				2								
	教育課程論(中等)	3		2							2					
	道徳指導法(中等)	3		2								2				
	特別活動指導法(中等)	3		2								2				
	教育方法・技術論(中等)	2		2							2					
	生徒・進路指導論(中等)	3		2								2				
	教育相談	2		2						2						
	教職実践演習(中・高)	4		2											2	

【卒業に必要な最低単位数】教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、合計124単位とする。

卒業単位に含まれません

専門準備科目	建築へのベーシックサイエンス	1			0				0								卒業単位には含まれません
--------	----------------	---	--	--	---	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--------------

健康科学部

人間環境デザイン学科 3回生用(2012年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			コースカリキュラム			開 講 時 期								卒業要件		
			必修	推奨	選択	ちづくり	建築・ま	インテリアデザイン	造形デザイン	1回生		2回生		3回生		4回生			
										前	後	前	後	前	後	前		後	
教養科目	人間と社会	西洋哲学	2	2									2						
		東洋思想	2	2									2						
		心理学概論	1		2						2								
		人間関係論	2		2							2							
		法学概論	1		2						2								
		日本国憲法	2		2								2						
		経済学概論	1		2						2								
		人権教育	1		2						2								
		◆社会学	1		2						2								
	国際社会論	2		2								2							
	歴史と文化	歴史学入門	2		2								2						
		科学史	2		2									2					
		文化芸術論	1		2						2								
		日本文芸の世界	1		2						2								
	自然・科学 と人間	生命科学入門	1		2						2								
		生命倫理	3	2										2					
		地球環境論	2		2								2						
		数理科学入門	1		2						2								
	言語と情報	英語コミュニケーションⅠ	1	2			●	●	●	2									
		英語コミュニケーションⅡ	1	2			●	●	●	2									
		オーラルコミュニケーションⅠ	2		2							2							
		オーラルコミュニケーションⅡ	2		2								2						
		短期語学留学	1		1						①								
		情報処理演習Ⅰ	1	1							1								
		情報処理演習Ⅱ	1	1								1							
	健康と スポーツ	運動の科学	1		2						2								
		スポーツ実習Ⅰ	1		1						1								
		スポーツ実習Ⅱ	1		1							1							
	教養実践プログラム	ベーシックセミナー	1	1			●	●	●	1									
		キャリアデザインセミナー	1	1			●	●	●	1									
		キャリア発展セミナー(偶数年開講)	1・2		1						1		1						
		日本語と表現	1		1						1								
		会話とマナー入門	1	1							1								
		企業インターンシップ	2・3		1								①		①				
		海外インターンシップ	2		1									①					
		学校インターンシップ	2		1									①					
教養科目単位数合計			10	5	44														

26単位以上選択必修（ただし、各区分2単位以上修得のこと）

【表中の記号等について】

◆…今年度非開講

開講時期欄の丸数字は、集中講義形式で授業実施予定

科目名後の(E)は教育学部開講科目を示す

コースカリキュラム欄の●は、卒業必修

コースカリキュラム欄の○は、コース推奨科目

コースカリキュラム欄の□、◇、△は、同種印のいずれか2単位選択必修

コースカリキュラム欄の☆は、いずれか8単位選択必修

健康科学部

人間環境デザイン学科 3回生用(2012年度入学生)

区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数			コースカリキュラム			開 講 時 期								卒業要件	
				必修	推奨	選択	建築・まちづくり	デザイン	造形デザイン	1 回生		2 回生		3 回生		4 回生			
										前	後	前	後	前	後	前	後		
専門基礎科目	共通科目	健康管理論	1			2				2								「卒業に必要な最低単位数」教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、合計104単位とする。	
		精神保健学	1			2					2								
		児童心理学	2			2							2						
		高齢者心理学	2			2						2							
		障害者心理学	1			2					2								
		自立生活支援論	2			2						2							
		社会福祉論	1			2					2								
	社会・環境（人間と生活）と健康	景観・まちづくり演習	1	2			●	●	●	2									
		ユニバーサルデザイン	1	2			●	●	●		2								
		衣生活論	1			2			○	2									
		住生活論	1			2	△	△		2									
		色彩論Ⅰ	1	2			●	●	●		2								
		色彩論Ⅱ	2	2			●	●	●			2							
		現代の家族関係	2			2							2						
	・人体の構造と機能・障害克服の支援	リハビリテーション入門	1			2				2									
		日常生活活動学入門	1	2			●	●	●	2									
		人間工学	1	2			●	●	●		2								
		人間工学実験	2			2	○	☆				2							
		人体感覚計測実験	3			2	○									②			
	・知覚と認識・心の理解	デザインのための心理学	2			2	○	☆	○			2							
		環境心理学	1			2	○	☆	○				2						
		認知心理学	2			2		☆	○				2						
		色彩心理学	2			2		☆	○				2						
	表現の技術	デッサンⅠ	1	2			●	●	●	2									
		デッサンⅡ	1			2	△	△	○		2								
		立体表現Ⅰ	1			2	△	△	○	2									
		立体表現Ⅱ	1			2	△	△			2								
		コンピュータグラフィック	2			2	△	△	○				2						
専門基礎科目単位数合計				14	0	42													

健康科学部

人間環境デザイン学科 3回生用(2012年度入学生)

区分		授業科目の名称	配当 年次	単位数			コースカリキュラム				開 講 時 期								卒業要件				
				必修	推奨	選択	ちづくり ま	建築・ま インテリア デザイン	造形デザ イン	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	前	後	前	後	前		後	前	後	
専 門 科 目	インテリアデザイン・アパレル	インテリアデザイン	2			2	○	●	○			2									【卒業に必要な最低単位数】教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、合計124単位とする。 ※の3科目よりいずれか1科目選択必修		
		インテリアデザイン演習Ⅰ	2			2	○	●				2											
		インテリアデザイン演習Ⅱ	3			2		●						2	(2)								
		インテリア商品と販売知識	2			2		☆	○			2											
		生活環境素材論	1			2	○	☆	○	2													
		アパレル構成論	1			2			○		2												
		ファッションビジネス論	3			2			○					2									
		アパレル構成実習Ⅰ	2			2			○			2											
		アパレル構成実習Ⅱ	2			2			○				2										
		アパレル構成実習Ⅲ	3			2			○						②								
		アパレルデザイン演習	3			2			○						②								
		テキスタイル実習	3			2			○						2								
		福祉機器論	2			2			☆	○		2											
		プロダクトデザインA	3			2			○	○					2								
		プロダクトデザインB	3			2			○	○						2							
	ユニバーサルデザイン(ファッション)	4	※		2				○									2					
	ユニバーサルデザイン(プロダクト)	4	※		2				○									2					
	建 築	建築学概論	1			2	●	☆			2												
		住環境計画Ⅰ	1			2	●	☆			2												
		住環境計画Ⅱ	2			2	●	☆				2											
		福祉のまちづくり（地域計画論）	3			2	○							2									
		建築図学	1			2	●	●			2												
		建築設計演習Ⅰ	2			2	●	●				2											
		建築設計演習Ⅱ	2			2	●	●					2										
		建築設計演習Ⅲ	3			2	●								2								
		建築設計演習Ⅳ	3			2	●										2						
		ユニバーサルデザイン(環境)	3	※		2	□	□							2								
		建築CADⅠ	2			2	○	☆					2										
		建築CADⅡ	3			2	○	☆						2									
		建築環境工学	3			2	●	☆							2								
		建築設備学演習	3			2	●	☆									2						
		建築材料学	3			2	●	☆							2								
		構造力学Ⅰ	1			2	●	☆			2												
		構造力学Ⅱ	2			2	●	☆				2											
		建築一般構造Ⅰ	2			2	●	☆					2										
		建築一般構造Ⅱ	3			2	●	☆								2							
		建築材料実験	3			2	●								2	(2)							
		測量実習	3			2	●										2						
		建築施工	4			2	●	☆											2				
		住生活史	1			2	△	△	○		2												
		日本建築史	2			2	△	△	○			2											
		西洋・東洋建築史	2			2	△	△	○				2										
		建築法規	4			2	●	○												2			
プロジェクトゼミ		プロジェクトゼミA	2			2	◇	◇	◇				2										
		プロジェクトゼミB	3			2	◇	◇	◇						2								
	卒業研究	4	4			●	●	●										④					
専門科目単位数合計			4		82																		

健康科学部

人間環境デザイン学科 3回生用(2012年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			コースカリキュラム			開 講 時 期								卒業要件
			必修	推奨	選択	ちづくり 建築・ま デザイン インテリ ア 造形デザ イン	1 回 生		2 回 生		3 回 生		4 回 生				
							前	後	前	後	前	後	前	後			
認定心理士科目 (教育学部開設)	心理学研究法Ⅰ(E)	2			2						2						【卒業に必要な最低単位数】教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、合計124単位とする。
	心理学研究法Ⅱ(E)	2			2						2						
	心理統計学(E)	2			2						2						
	心理学基礎実験(E)	2			2						2						
	心理学実験(E)	2			2						2						
	心理検査法実習(E)	3			2							2					
	学習心理学(E)	2			2						2						
	◆コミュニケーション心理学(E)	3			2								2				
	発達心理学(E)	2			2						2						
	学校心理学(E)	4			2											2	
	発達脳科学(E)	3			2							2					
	人格心理学(E)	2			2						2						
家庭科教諭 家庭科教諭免許課程 教職科目	社会心理学(E)	3			2							2					卒業単位に含まれません
	家族心理学(E)	3			2								2				
	社会心理学調査演習(E)	3			2								2				
	家庭経営学	3			2							2					
	家庭電気・機械	3			2								2				
	健康と食生活	3			2							2					
	調理実習	3			2							2					
	保育学	3			2								2				
	家庭科指導法Ⅰ	3			2							2					
	家庭科指導法Ⅱ	3			2							2					
	家庭科指導法Ⅲ	3			2							2					
	家庭科指導法Ⅳ	3			2							2					
	家庭科教育実習指導	4			1										1		
	家庭科教育実習(中)	4			4										④		
	家庭科教育実習(高)	4			2										②		
	教職概論	2			2						2						
	教育原理	2			2						2						
	教育史	1			2					2							
	教育心理学	2			2						2						
	臨床発達心理学	3			2							2					
	教育社会学	1			2					2							
	教育行政学	1			2				2								
	教育課程論(中等)	3			2							2					
	道徳指導法(中等)	3			2								2				
	特別活動指導法(中等)	3			2								2				
	教育方法・技術論(中等)	2			2							2					
生徒・進路指導論(中等)	3			2								2					
教育相談	2			2						2							
教職実践演習(中・高)	4			2											2		

【卒業に必要な最低単位数】教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、合計124単位とする。

卒業単位に含まれません

専門準備科目	建築へのベーシックサイエンス	1			0				0								卒業単位には含まれません
--------	----------------	---	--	--	---	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--------------

健康科学部

人間環境デザイン学科 4回生用(2011年度入学生)

※科目名称の は過年度科目

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			コースカリキュラム			開 講 時 期								卒業要件
			必修	推奨	選択	基礎・ 素養・ デザイン デザイン デザイン デザイン デザイン	1 回 生		2 回 生		3 回 生		4 回 生				
							前	後	前	後	前	後	前	後			
教 養 科 目	社会の理解	くらしと法律	1		2			2									
		くらしと経済	1		2			2									
		◆くらしと技術	2		2				2								
		日本国憲法	2		2					2							
		国際社会と日本	2		2						2						
	自然の理解	自然・科学と人間	1		2			2									
		地球環境論	2		2					2							
	人間・文化の理解	心理学入門Ⅰ	1		2			2									
		◆心理学入門Ⅱ	1		2				2								
		◆人格と発達	2		2						2						
		人間関係論	2		2					2							
		◆大和の歴史と文化	1		2				2								
		短期語学留学	1・2		2			②	②								
		◆くらしと音楽	2		2						2						
		◆くらしと美術	2		2	△	△	○				2					
	コミュニケーションスキル	英語コミュニケーションⅠ	1	2		●	●	●	2								
		英語コミュニケーションⅡ	1	2		●	●	●	2								
		オーラルコミュニケーション	2		2						2						
		情報処理演習Ⅰ	1	2		●	●	●	2								
		情報処理演習Ⅱ	1		2					2							
		◆情報処理演習Ⅲ	2		2						2						
	スポーツと健康	運動の科学	1		2					2							
		スポーツ実習Ⅰ	1		1				1								
		スポーツ実習Ⅱ	1		1					1							
	ガイダンス教育	基礎ゼミ	1	2		●	●	●	2								
		◆会話とマナー入門	1		2		○	○	○	2							
		日本語と表現	1		2		○	○	○	2							
		◆数学入門	1		2					2							
		◆物理学入門	1		2					2							
	キャリア教育	キャリアデザインセミナー	1	1		●	●	●	1								
		キャリア発展セミナー [偶数年開講]	1・2		1					1		1					
		企業インターンシップ	2・3		2							②		②			
教養科目単位数合計			9	4	47												

26 単位以上選択必修（ただし、各区分2 単位以上修得のこと）

【表中の記号等について】

◆…今年度非開講

開講時期欄の丸数字は、集中講義形式で授業実施予定

科目名後の (E) は教育学部開講科目を示す

コースカリキュラム欄の●は、卒業必修

コースカリキュラム欄の○は、コース推奨科目

コースカリキュラム欄の□、◇、△は、同種印のいずれか2単位選択必修

コースカリキュラム欄の☆は、いずれか8単位選択必修

健康科学部

人間環境デザイン学科 4回生用(2011年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			コースカリキュラム			開 講 時 期								卒業要件	
			必修	推奨	選択	共通・基礎・建築・デザイン	デザイン	造形	1 回 生		2 回 生		3 回 生		4 回 生			
									前	後	前	後	前	後	前	後		
専門基礎科目	共通科目	健康管理論	1	2		●	●	●	2								【卒業に必要な最低単位数】教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、合計124単位とする。	
		精神保健学	1		2				2									
		児童心理学	2		2						2							
		高齢者心理学	2		2						2							
		障害者心理学	1		2				2									
		自立生活支援論	2		2					2								
		社会福祉論	1		2				2									
	社会・環境（人間と生活）と健康	景観・まちづくり演習	1	2		●	●	●	2									
		ユニバーサルデザイン	1	2		●	●	●	2									
		健康と衣生活	1		2			○	2									
		健康と住生活	1		2	△	△		2									
		色彩論Ⅰ	1	2		●	●	●	2									
		色彩論Ⅱ	2	2		●	●	●		2								
		現代の家族関係	2		2						2							
	人体の構造と機能・障害克服の支援	リハビリテーション入門	1	2		●	●	●	2									
		日常生活活動学入門	1	2		●	●	●	2									
		人間工学	1	2		●	●	●		2								
		人間工学実験	2		2	○	☆			2								
		人体感覚計測実験	3		2	○								②				
	知覚と認識・心の理解	デザインのための心理学	2		2	○	☆	○		2								
		環境心理学	1		2	○	☆	○			2							
		認知心理学	2		2		☆	○			2							
		色彩心理学	2		2		☆	○			2							
	表現の技術	デッサンⅠ	1	2		●	●	●	2									
		デッサンⅡ	1		2	△	△	○		2								
		立体表現Ⅰ	1		2	△	△	○	2									
		立体表現Ⅱ	1		2	△	△			2								
		コンピュータグラフィック	2		2	△	△	○			2							
	専門基礎科目単位数合計			18	0	38												

健康科学部

人間環境デザイン学科 4回生用(2011年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数				コースカリキュラム		開 講 時 期								卒業要件		
			必修	推奨	選択	建築・ デザイン 必修・ 選択	造形 デザイン 必修・ 選択	1回生		2回生		3回生		4回生					
								前	後	前	後	前	後	前	後				
生活用品・アパレル	インテリアデザイン	2			2	○	●	○			2								
	インテリアデザイン演習Ⅰ	2			2	○	●					2							
	インテリアデザイン演習Ⅱ	3			2		●						2	(2)					
	インテリア商品と販売知識	2			2		☆	○				2							
	生活環境素材論	1			2	○	☆	○	2										
	アパレル構成論	1			2			○		2									
	ファッションビジネス論	3			2			○				2							
	アパレル構成実習Ⅰ	2			2			○			2								
	アパレル構成実習Ⅱ	2			2			○				2							
	テキスタイル実習	3			2			○					2						
	福祉機器論	2			2		☆	○			2								
	ユニバーサルデザイン(ファッション)	4	※		2			○								2			
	ユニバーサルデザイン(プロダクト)	4	※		2	□	□	○								2			
専門科目	建築学概論	1			2	●	☆			2									
	住環境計画Ⅰ	1			2	●	☆			2									
	住環境計画Ⅱ	2			2	○	☆				2								
	福祉のまちづくり（地域計画論）	3			2	○						2							
	建築図学	1			2	●	●			2									
	住環境設計製図Ⅰ	2			2	●	●				2								
	住環境設計製図Ⅱ	2			2	●	●					2							
	建築設計製図Ⅰ	3			2	●						2							
	建築設計製図Ⅱ	3			2	●							2						
	ユニバーサルデザイン(環境)	3	※		2	□	□					2							
	住環境CADⅠ	2			2	○	☆				2								
	住環境CADⅡ	3			2	○	☆						2						
	住環境工学演習	3			2	●	☆						2						
	建築設備学演習	3			2	○	☆							2					
	建築材料学	3			2	●	☆						2						
	力の流れと安全Ⅰ	1			2	●	☆			2									
	力の流れと安全Ⅱ	2			2	●	☆				2								
	構造のデザインⅠ	2			2	●	☆					2							
	構造のデザインⅡ	3			2	○	☆						2						
	建築材料実験	3			2	●								2	(2)				
	測量実習	3			2	●									2				
	建築の工法・生産	4			2	●	☆									2			
	住生活史	1			2	△	△	○			2								
	日本建築史	2			2	△	△	○				2							
	西洋・東洋建築史	2			2	△	△	○					2						
	環境づくりと法律	4			2	●	○										2		
フ ロ ン テ ィ ン グ	プロジェクトゼミA	2			2	◇	◇	◇				2							
	プロジェクトゼミB	3			2	○	◇	◇						2					
	卒業研究	4	4			●	●	●									④		
専門科目単位数合計						4	0	82											

卒業に必要な最低単位数1教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、合計124単位とする。

※の3科目よりいずれか1科目選択必修

いずれか1科目選択必修

健康科学部

人間環境デザイン学科 4回生用(2011年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			コースカリキュラム			開 講 時 期								卒業要件	
			必修	推奨	選択	素養・ 建築・ デザイン	建築・ デザイン	造形	1 回生		2 回生		3 回生		4 回生			
									前	後	前	後	前	後	前	後		
認定心理士科目 (教育学部開設)	心理学研究法Ⅰ(E)	2			2						2						【卒業に必要な最低単位数】教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、合計124単位とする。	
	心理学研究法Ⅱ(E)	2			2							2						
	心理統計学(E)	2			2						2							
	心理学基礎実験(E)	2			2						2							
	心理学実験(E)	2			2							2						
	心理検査法実習(E)	3			2								2					
	学習心理学(E)	2			2						2							
	コミュニケーション心理学(E)	3			2									2				
	発達心理学(E)	2			2							2						
	学校心理学(E)	4			2											2		
	発達脳科学(E)	3			2								2					
	人格心理学(E)	2			2							2						
	社会心理学(E)	3			2								2					
家族心理学(E)	3			2									2					
社会心理学調査演習(E)	3			2									2					
家庭科教諭免許課程	家庭科教諭	家庭経営学	3		2									2			卒業単位に含まれません	
		家庭電気・機械	3		2										2			
		健康と食生活	3		2									2				
		調理実習	3		2									2				
		保育学	3		2										2			
		家庭科指導法Ⅰ	3		2									2				
		家庭科指導法Ⅱ	3		2									2				
		家庭科指導法Ⅲ	3		2									2				
		家庭科指導法Ⅳ	3		2									2				
		家庭科教育実習指導	4		1											1		
		家庭科教育実習(中)	4		4											④		
		家庭科教育実習(高)	4		2											②		
	教職科目	教職概論	2		2							2						
		教育原理	2		2							2						
		教育史	1		2						2							
		教育心理学	2		2							2						
		臨床発達心理学	3		2									2				
		教育社会学	1		2						2							
		教育行政学	1		2					2								
		教育課程論(中等)	3		2									2				
		道徳指導法(中等)	3		2										2			
		特別活動指導法(中等)	3		2										2			
		教育方法・技術論(中等)	2		2								2					
		生徒・進路指導論(中等)	3		2										2			
		教育相談	2		2								2					
		教職実践演習(中・高)	4		2													2

教育学部
現代教育学科 1 回生用(2014年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			コース対応			資格要件に関する科目					開 講 時 期				卒業 要件				
			必修	推奨	選択	学校教育	幼児教育	保健教育	教員免許状					1 回生	2 回生	3 回生	4 回生					
									小学校	幼稚園	中高英語	特別支援	保育士	認定心理士	前	後	前		後	前	後	前
教養科目	人間と社会	西洋哲学	2	2		○	○	○														
		東洋思想	2	2		○	○	○								2						
		心理学概論	1		2	○	○	○					○	○	2							
		人間関係論	3		2	○	○	○					○	○				2				
		法学概論	1		2	○	○	○							2							
		日本国憲法	2		2	○	○	○	○	○	○	○	○				2					
		経済学概論	1		2	○	○	○								2						
		人権教育	1		2	○	○	○					○		2							
		◆社会学	1		2	○	○	○							2							
	国際社会論	2		2	○	○	○									2						
	歴史と文化	歴史学入門	2		2	○	○	○								2						
		科学史	2		2	○	○	○									2					
		文化芸術論	1		2	○	○	○							2							
		日本文芸の世界	1		2	○	○	○							2							
	自然・科学	生命科学入門	1		2	○	○	○							2							
		生命倫理	3	2		●	●	●										2				
		地球環境論	2		2	○	○	○								2						
		数理科学入門	1		2	○	○	○								2						
	言語と情報	英語コミュニケーションA	1	2		●	●	●	○	○	○	○	○		2							
		英語コミュニケーションB	1	2		●	●	●					○			2						
		オーラルコミュニケーションA	2		2	○	○	○					○				2					
		オーラルコミュニケーションB	2		2	○	○	○					○					2				
		短期語学留学	1		1	○	○	○							①							
		情報処理演習Ⅰ	1	1		●	●	●	○	○	○	○	○		1							
	健康とスポーツ	情報処理演習Ⅱ	1	1		●	●	●	○	○	○	○	○			1						
		運動の科学	1		2	○	○	○	○	○	○	○	○			2						
	教養実践プログラム	スポーツ実習A	1		1	○	○	○	○	○	○	○	○		1							
		スポーツ実習B	1		1	○	○	○	○	○	○	○				①						
		ベーシックセミナー	1	1		●	●	●							1							
キャリア入門セミナー		1	1		●	●	●							1								
キャリア形成セミナー A		1	1		●	●	●							1								
キャリア形成セミナー B		1		1	○	○	○								1							
キャリア形成セミナー C		2		1	○	○	○									1						
キャリア形成セミナー D		2		1	○	○	○										1					
日本語と表現		1		1	○	○	○								1							
企業インターンシップ		2		1	○	○	○									①						
海外インターンシップ		2		1	○	○	○											①				
学校インターンシップ		2		1	○	○	○											①				
教養科目単位数合計			11	4	46																	

26
単位
選択
必修
(ただし
各区分
1科目以上
修得のこと)

[表中の記号等について]

◆◆今年度非開講

開講時期欄の丸数字は、集中講義形式で授業実施予定

※コース対応科目欄の●は卒業必修及びコース必修科目

※コース対応科目欄の○はコース推奨科目

※コース対応科目欄の○はそのコースに对应した科目。○のついていない科目を受講することは可能で卒業単位に含まれますが時間割上必ず受講できるとは限りません。

※コース対応科目欄の□■は、同種印いすれか選択必修。ただし、小学校教員免許希望者は(初等)、中高教員免許希望者は(中等)の履修が必要です。また、小学校と中高の両方を志望する者は、(初等)(中等)ともに履修が必要です。

※資格要件に関する科目欄の○はその資格要件に含まれている科目。必修・選択の別については後掲の資格課程表で確認してください。

※学校教育コースで高校英語教員免許を希望し、小学校教員免許を希望しない場合は、「教育方法・技術論」「教育課程論」はいずれも(中等)の修得が必要です。

教育学部

現代教育学科 1 回生用(2014年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			コース対応			資格要件に関する科目					開 講 時 期								卒業 要件				
			必修	推奨	選択	学校教育	幼児教育	保健教育	教員免許状				保育士	認定心理士	1回生		2回生		3回生		4回生					
									小学校	幼稚園	養護	中高英語			特別支援	前	後	前	後	前	後		前	後		
専 門 基 礎 科 目	教育心理学	1	2			●	●	●	○	○	○	○		○	○		2									
	現代教育論	1	2			●	●	●	○	○	○	○				2										
	教育原理	1	2			●	●	●	○	○	○	○		○			2									
	教育史	1			2	○	○	○	○	○	○	○					2									
	教育方法・技術論（初等）	2			2	□	○	○	○	○								2								
	教育方法・技術論（中等）	2			2	□	○	○			○	○							2							
	教育法制論	3			2	○	○	○	○	○	○	○										2				
	生涯学習論	3			2	○	○	○														2				
	幼児理解論	3			2	○	●	○		○				○								2				
	特別支援教育入門	2	2			●	●	●										2								
	教職概論	1			2	○	○	○	○		○	○				2										
	教職概論（幼保）	1			2	○	○	○		○				○			2									
	教育課程論（初等）	1			2	■	○	○	○								2									
	教育課程論（中等）	1			2	■	○	○			○	○					2									
	教育課程論（幼保）	3			2	○	○	○		○				○								2				
	道徳指導法（初等）	3			2	○	○	○	○													2				
	道徳指導法（中等）	3			2	○	○	○				○											2			
	道徳・特別活動論	3			2	○	○	○			○											2				
	道徳実践演習（つくろう！道徳授業）	4			2	○	○	○																2		
	特別活動指導法（初等）	2			2	○	○	○	○										2							
	特別活動指導法（中等）	3			2	○	○	○				○											2			
	生徒・進路指導論（初等）	3			2	○	○	○	○													2				
	生徒・進路指導論（中等）	3			2	○	○	○				○											2			
	生徒指導論	3			2	○	○	○			○												2			
	子ども英語活動	1			2	○	○	○									2									
	情報と社会	3			2	◎	◎	◎															2			
	プレゼンテーション実践	3			2	○	○	○															2			
	DTP実践	3			2	○	○	○																2		
	統計の基礎	2			2	○	○	○											2							
	レクリエーション活動	3			2	○	○	○							○								2			
	発達心理学	2			2	○	○	○	○	○	○	○			○	○				2						
	人格心理学	2			2	○	○	○							○					2						
	発達脳科学	3			2	○	○	○							○						2					
	臨床心理学概論	1			2	○	○	○							○	2										
カウンセリング	3			2	○	○	○							○								2				
精神保健学	2			2	○	○	○				○							2								
教育相談（学校カウンセリングを含む）	3			2	○	○	○	○	○	○	○			○					2				2			
欧米の文化と社会A	2			2	○	○	○				○							2								
欧米の文化と社会B	2			2	○	○	○				○								2							
欧米文化と子ども	3			2	○	○	○				○										2					
文化理論講読	2			2	○	○	○														2					
専門基礎科目単位数合計			8	0	74																			卒業に必要な最低単位数「教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、合計34単位とする。」		

教育学部

現代教育学科 1 回生用(2014年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		コース対応			資格要件に関する科目						開 講 時 期				卒業 要件							
			必修	推奨	選択	学校教育	幼児教育	保健教育	教員免許状				保育士	認定心理士	1 回生		2 回生		3 回生		4 回生				
									小学校	幼稚園	養護	中高英語			特別支援	前	後		前	後	前	後	前	後	
専 門 科 目	国語科概論	1			2	○	○	○	○	○							2								
	社会科概論	2			2	○	○	○	○	○									2						
	算数科概論	1			2	○	○	○	○	○							2								
	理科概論	2			2	○	○	○	○										2						
	生活科概論	1			2	○	○	○	○	○							2								
	音楽科概論	1			2	○	○	○	○	○							2								
	図工科概論	1			2	○	○	○	○	○							2								
	家庭科概論	2			2	○	○	○	○									2							
	体育科概論	1			2	○	○	○	○	○						2									
	算数学	2			2	○	○	○										2							
	国語科実践演習（つくろう！国語科）	4			2	○	○	○															2		
	社会科実践演習（つくろう！社会科）	4			2	○	○	○															2		
	算数科実践演習（つくろう！算数科）	4			2	○	○	○															2		
	理科実践演習（つくろう！理科）	4			2	○	○	○															2		
	生活科実践演習（つくろう！生活科）	4			2	○	○	○															2		
	音楽科実践演習（つくろう！音楽科）	4			2	○	○	○															2		
	図工科実践演習（つくろう！図工科）	4			2	○	○	○															2		
	家庭科実践演習（つくろう！家庭科）	4			2	○	○	○															2		
	体育科実践演習（つくろう！体育科）	4			2	○	○	○															2		
	授業・保育実践演習	3			2	○	○	○												2					
	ピアノ入門演習A	1			1	○	○									1									
	ピアノ入門演習B	1			1	○	○										1								
	音楽実技演習	2			1	○	○			○				○				1							
	ピアノ実践演習A	3			1	○	○		○	○				○							1				
	ピアノ実践演習B	4			1	○	○		○	○				○									1		
	英語 A	1			2	○		○				○				2									
	英語 B	1			2	○		○				○					2								
	英語のしくみ	1			2	○		○				○				2									
	英語の歴史	1			2	○		○				○					2								
	英語学講読A	2			2	○		○				○						2							
	英語学講読B	2			2	○		○				○							2						
	特級英語A	2			2	○		○				○						2							
	特級英語B	2			2	○		○				○							2						
	異文化コミュニケーション論A	3			2	○		○				○								2					
	異文化コミュニケーション論B	3			2	○		○				○									2				
	英語学演習	4			2	○		○				○											2		
	英米文学史A	3			2	○		○				○								2					
	英米文学史B	3			2	○		○				○									2				
	英米文学と子ども	2			2	○		○				○						2							
	英米文学と教育	2			2	○		○				○							2						
	英米文学演習	4			2	○		○				○												2	
	衛生学	2			2			○				○							2						
	公衆衛生学	1			2			○				○				2									
	学校保健	1			2			○				○					2								
	養護概説	2			2			○				○						2							
	健康相談	2			2			○				○							2						
	栄養学（食品学を含む）	2			2			○				○						2							
	解剖生理学	1			2			○				○						2							
	微生物学	1			2			○				○						2							

「卒業に必要な最低単位数：教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、合計124単位とする。」

〔卒業に必要な最低単位数〕 教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、合計124単位とする。

教育学部

現代教育学科 1 回生用(2014年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		コース対応			資格要件に関する科目					開 講 時 期								卒業 要件																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
			必修	推奨	選択	学校教育	幼児教育	保健教育	教員免許状					1 回生		2 回生		3 回生		4 回生																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
									小学校	幼稚園	養護	中高英語	特別支援	保育士	認定心理士	前	後	前	後	前		後	前	後																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
専 門 科 目	薬理概論	2			2			○			○						2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				

教育学部

現代教育学科 1 回生用(2014年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			コース対応			資格要件に関する科目						開 講 時 期								卒業 要件
			必修	推奨	選択	学校教育	幼児教育	保健教育	教員免許状				保育士	認定心理士	1回生		2回生		3回生		4回生		
									小学校	幼稚園	養護	中高英語			特別支援	前	後	前	後	前	後	前	
専 門 科 目	養護実習指導	3			1		○				○									1			
	養護実習	3			4		○				○									④			
	特別支援教育実習	4			3	○	○	○					○									③	
	保育・教職実践演習（幼稚園）	4			2		○			○				○									2
	教職実践演習（幼・小）	4			2	○	○	○	○	○													2
	教職実践演習（中・高）	4			2	○		○					○										2
	教職実践演習（養護教諭）	4			2			○				○											2
	相談援助演習	2			1		○							○				1					
	児童家庭福祉論	3			2		○							○						2			
	社会福祉論	3			2		○							○						2			
	児童文化演習	2			2		○							○			2						
	家庭支援論	2			2		○							○				2					
	保育原理	1			2		●								○		2						
	保育の心理学A	1			2		○							○	○	2							
	保育の心理学B	2			1		○							○	○			1					
	社会的養護	2			2		●								○				2				
	子どもの保健A	1			2		○								○		2						
	子どもの保健B	1			2		○								○			2					
	子どもの保健演習	3			1		○								○					1			
	子どもの食と栄養演習	3			2		○								○					2			
	乳児保育演習	1			2		○								○		2						
	障害児保育演習	2			2		○								○			2					
	社会的養護内容演習	2			1		○								○			1					
	保育相談支援演習	3			1		○								○					1			
	保育内容総論	3			1	○	○								○						1		
	保育内容の研究「健康」	2			2	○	○				○				○			2					
	保育内容の研究「人間関係」	2			2	○	○				○				○				2				
	保育内容の研究「環境」	1			2	○	○				○				○		2						
	保育内容の研究「言葉」	1			2	○	○				○				○		2						
	保育内容の研究「音楽表現」	2			2	○	○				○				○			2					
	保育内容の研究「造形表現」	2			2	○	○				○				○			2					
	保育内容の研究「運動遊び」	2			2	○	○				○				○			2					
	絵画演習	1			2	○	○								○		2						
	保育実践研究A	3			2	○	○								○						2		
	保育実践研究B	4			2	○	○								○							2	
	保育実習指導Ⅰ	2			2		○								○			2					
	保育実習指導ⅡA	2			1		○								○				1				
	保育実習指導ⅡB	2			1		○								○				1				
	保育実習Ⅰ	2			4		○								○			④					
	保育実習ⅡA	2			2		○								○				②				
	保育実習ⅡB	2			2		○								○				②				
	心理学研究法	2			2		○	○							○					2			
	心理統計学	2			2		○	●							○					2			
	心理学基礎実験	2			2		○	○							○					2			
	学習心理学	2			2		○	○							○			2					
	認知心理学	3			2		○	○							○						2		
	社会心理学	3			2		○	○							○							2	

合計26単位とする。

【卒業に必要な最低単位数】
教養科目で26単位
専門基礎科目・専門科目で78単位
上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、

〔卒業に必要な最低単位数〕 教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した単位を合計24単位とする。

教育学部

現代教育学科 1 回生用(2014年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			コース対応		資格要件に関する科目							開 講 時 期				卒業 要件						
			必修	推奨	選択	学校教育	幼児教育	保健教育	教員免許状					保育士	認定心理士	1 回生		2 回生		3 回生		4 回生			
									小学校	幼稚園	養護	中高英語	特別支援			前	後	前		後	前	後	前	後	
専門科目	臨床心理学	3			2	○	○								○						2				
	心理検査法実習	3			2	○	○								○						2				
	家族心理学	3			2	○	○								○							2			
	卒業研究指導ゼミⅠ	3	2			●	●	●													2				
	卒業研究指導ゼミⅡ	4	2			●	●	●															2		
	卒業研究	4	2			●	●	●							○									2	
専門科目単位数合計		6	0	28																					
専門準備科目	教職への初等数学	2			0																				卒業単位には 含まれません
	教職への理科	2			0																				

教育学部

現代教育学科 2回生用(2013年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			コース対応			資格要件に関する科目					開 講 時 期								卒業 要件	
			必修	推奨	選択	学校教育 学校 教育	幼児教育 教育 心理学	教員免許状			保育士	認定心理士	社会教育主事	1 回生		2 回生		3 回生		4 回生			
								小学校	幼稚園 養護	中高英語				前	後	前	後	前	後	前	後		
人間と社会	西洋哲学	2		2		○	○	○										2					
	東洋思想	2		2		○	○	○											2				
	心理学概論	1			2	○	○	●				○	○		2								
	◆人間関係論	1			2	○	○	○				○	○			2							
	法学概論	1			2	○	○	○				○			2								
	日本国憲法	2			2	○	○	○	○	○	○	○							2				
	経済学概論	1			2	○	○	○								2							
	人権教育	1			2	○	○	○				○			2								
	◆社会学	1			2	○	○	○							2								
	国際社会論	2			2	○	○	○											2				
歴史と文化	歴史学入門	2			2	○	○	○										2					
	科学史	2			2	○	○	○												2			
	文化芸術論	1			2	○	○	○								2							
	日本文芸の世界	1			2	○	○	○							2								
自然・科学 人間・社会	生命科学入門	1			2	○	○	○							2								
	生命倫理	3	2			●	●	●													2		
	地球環境論	2			2	○	○	○									2						
	数理科学入門	1			2	○	○	○								2							
	英語コミュニケーションA	1	2			●	●	●	○	○	○	○	○		2								
	英語コミュニケーションB	1	2			●	●	●					○			2							
	オーラルコミュニケーションA	2			2	○	○	○				○					2						
	オーラルコミュニケーションB	2			2	○	○	○				○							2				
	短期語学留学	1			1	○	○	○							①								
	情報処理演習Ⅰ	1	1			●	●	●	○	○	○	○	○		1								
情報処理演習Ⅱ	1	1			●	●	●	○	○	○	○	○				1							
スポーツ	運動の科学	1			2	○	○	○	○	○	○	○				2							
	スポーツ実習A	1		1		○	○	○	○	○	○	○		1									
	スポーツ実習B	1		1		○	○	○	○	○	○	○			1								
教養実践プログラム	ベーシックセミナー	1	1			●	●	●					○		1								
	キャリア入門セミナー	1	1			●	●	●							1								
	キャリア形成セミナー	1	1			●	●	●							1								
	日本語と表現	1		1		○	○	○				○			1								
	企業インターンシップ	2		1		○	○	○									①						
	海外インターンシップ	2		1		○	○	○											①				
	学校インターンシップ	2		1		○	○	○												①			
教養科目単位数合計			11	4	43																		

26単位選択必修（ただし各区分より2単位修得のこと）

26単位選択必修（ただし各区分より2単位修得のこと）

【表中の記号等について】

- ◆…今年度非開講
- 開講時期欄の丸数字は、集中講義形式で授業実施予定
- *コース対応科目欄の●は卒業必修及びコース必修科目
- *コース対応科目欄の○はコース推奨科目
- *コース対応科目欄の○はそのコースに対応した科目。○のついていない科目を受講することは可能で卒業単位に含まれますが時間割上必ず受講できるとは限りません。
- *コース対応科目欄の□■は、同種印いずれか選択必修。ただし、小学校教員免許希望者は（初等）、中高教員免許希望者は（中等）の履修が必要です。また、小学校と中高の両方を志望する者は、（初等）（中等）ともに履修が必要です。
- *資格要件に関する科目欄の○はその資格要件に含まれている科目。必修・選択の別については後掲の資格課程表で確認してください。
- *学校教育コースで高校英語教員免許を希望し、小学校教員免許を希望しない場合は、「教育方法・技術論」「教育課程論」はいずれも（中等）の修得が必要です。

教育学部

現代教育学科 2回生用(2013年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			コース対応		資格要件に関する科目						開 講 時 期								卒業 要件							
			必修	推奨	選択	学校教育	幼児教育	教育心理学	教員免許状						1回生		2回生		3回生		4回生								
									小学校	幼稚園	養護	中高英語	保育士	認定心理士	社会教育主事	前	後	前	後	前	後		前	後					
専 門 基 礎 科 目	教育心理学	1	2			●	●	●	○	○	○	○	○			2													
	現代教育論	1	2			●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	2													
	教育原理	1	2			●	●	●	○	○	○	○	○		○	2													
	教育史	1			2	○	○	○	○	○	○	○	○			2													
	教育方法・技術論（初等）	2			2	□	○	○	○	○							2												
	教育方法・技術論（中等）	2			2	□	○	○			○	○						2											
	教育社会学	1			2	○	○	○	○	○	○	○		○		2													
	教育行政学	1			2	○	○	○	○	○	○	○				2													
	幼児理解論	1			2	○	●	○			○			○			2												
	特別支援教育	2			2	○	○	○										2											
	障害者教育論	2			2	○	○	○										2											
	教職概論	1			2	○	○	○			○	○				2													
	教職概論（幼保）	2			2	○	○	○			○							2											
	教育課程論（初等）	1			2	■	○	○	○								2												
	教育課程論（中等）	1			2	■	○	○				○	○				2												
	教育課程論（幼保）	1			2	○	○	○			○			○			2												
	道徳指導法（初等）	3			2	○	○	○	○												2								
	道徳指導法（中等）	3			2	○	○	○				○											2						
	道徳・特別活動論（中等）	3			2	○	○	○					○											2					
	道徳実践演習（つくろう！道徳授業）	4			2	○	○	○					○												2				
	特別活動指導法（初等）	2			2	○	○	○	○											2									
	特別活動指導法（中等）	3			2	○	○	○					○											2					
	生徒・進路指導論（初等）	3			2	○	○	○	○												2								
	生徒・進路指導論（中等）	3			2	○	○	○					○										2						
	生徒指導論	3			2	○	○	○				○											2						
	子ども英語活動	1			2	○	○	○									2												
	◆子ども文化Ⅰ	1			2	○	○	○									2												
	◆子ども文化Ⅱ	1			2	○	○	○									2												
	情報と社会	3			2	◎	◎	◎																2					
	プレゼンテーション実践	3			2	○	○	○																2					
	DTP実践	3			2	○	○	○																	2				
	統計の基礎	2			2	○	○	○											2										
	レクリエーション活動	1			2	○	○	○					○				2												
合同ゼミⅠ	1			0	○	○	○									0													
合同ゼミⅡ	2			0	○	○	○											0											
学校心理学	4			2	○	○	○	○	○				○													2			
◆児童心理学	1			2	○	○	○	○	○				○	○			2												
発達心理学	2			2	○	○	○	○	○				○	○					2										
人格心理学	2			2	○	○	○						○						2										
発達脳科学	3			2	○	○	○							○							2								
◆コミュニケーション心理学	3			2	○	○	○						○										2						
臨床心理学概論	1			2	○	○	○									2													
臨床発達心理学	3			2	○	○	○					○	○								2								
カウンセリング	3			2	○	○	○							○									2						
精神保健学	2			2	○	○	○					○		○					2										
教育相談	2			2	○	○	●	○	○	○		○		○					2										
欧米の文化と社会A	2			2	○	○	○						○					2											
欧米の文化と社会B	2			2	○	○	○						○								2								
欧米文化と子ども	3			2	○	○	○						○										2						
文化理論講読	2			2	○	○	○															2							
専門基礎科目単位数合計			6	0	90																								

合計20単位と認められる
【卒業に必要な最低単位数】
教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、

「卒業に必要な最低単位数 教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、合計124単位とする。」

教育学部

現代教育学科 2回生用(2013年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		コース対応		資格要件に関する科目							開 講 時 期								卒業 要件					
			必修	推奨	選択	学校教育	幼児教育	教員心理学	教員免許状					保育士	認定心理士	社会教育主事	1回生		2回生		3回生		4回生				
									小学校	幼稚園	養護	中高英語	1				2	前	後	前	後		前	後	前	後	
専 門 科 目	国語科概論	1			2	○	○	○	○	○								2									
	社会科概論	2			2	○	○	○	○	○										2							
	算数科概論	1			2	○	○	○	○	○								2									
	理科概論	2			2	○	○	○	○												2						
	生活科概論	1			2	○	○	○	○	○								2									
	音楽科概論	1			2	○	○	○	○	○								2									
	図工科概論	1			2	○	○	○	○	○								2									
	家庭科概論	2			2	○	○	○	○											2							
	体育科概論	1			2	○	○	○	○	○						2											
	算数学	2			2	○	○	○											2								
	国語科実践演習（つくろう！国語科）	4			2	○	○	○																	2		
	社会科実践演習（つくろう！社会科）	4			2	○	○	○																	2		
	算数科実践演習（つくろう！算数科）	4			2	○	○	○																	2		
	理科実践演習（つくろう！理科）	4			2	○	○	○																	2		
	生活科実践演習（つくろう！生活科）	4			2	○	○	○																	2		
	音楽科実践演習（つくろう！音楽科）	4			2	○	○	○																	2		
	図工科実践演習（つくろう！図工科）	4			2	○	○	○																	2		
	家庭科実践演習（つくろう！家庭科）	4			2	○	○	○																	2		
	体育科実践演習（つくろう！体育科）	4			2	○	○	○																	2		
	ピアノ演習A	1			1	○	○		○	○			○		1												
	ピアノ演習B	1			1	○	○		○	○			○		1												
	ピアノ演習C	3			1	○	○			○			○									1					
	ピアノ演習D	4			1	○	○			○			○											1			
	◆実践的音楽演習A	1			1	○	○			○			○		1												
	実践的音楽演習B	2			1	○	○			○			○					1									
	英語 A	2			2	○		○					○					2									
	英語 B	2			2	○		○					○						2								
	英語のしくみ	1			2	○		○					○		2												
	英語の歴史	1			2	○		○					○				2										
	英語学講読A	3			2	○		○					○								2						
	英語学講読B	3			2	○		○					○									2					
	英語学演習	4			2	○		○					○											2			
	英米文学史A	3			2	○		○					○										2				
	英米文学史B	3			2	○		○					○											2			
	英米文学と子ども	2			2	○		○					○				2										
	英米文学と教育	2			2	○		○					○					2									
	英米文学演習	4			2	○		○					○													2	
	衛生学	2			2			○					○						2								
	公衆衛生学	1			2			○					○		2												
	学校保健	1			2			○					○			2											
	養護概説	2			2			○					○					2									
	健康相談	2			2			○					○						2								
	栄養学（食品学を含む）	2			2			○					○						2								
	解剖生理学	1			2			○					○				2										
	微生物学	1			2			○					○				2										
	薬理概論	2			2			○					○					2									
	学校看護Ⅰ	1			2			○					○				2										
	学校看護Ⅱ	2			2			○					○					2									
	学校看護Ⅲ	2			2			○					○						2								

合計24単位とする。

「卒業に必要な最低単位数」
教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、

教育学部

現代教育学科 2回生用(2013年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			コース対応			資格要件に関する科目				開 講 時 期								卒業 要件	
			必修	推奨	選択	学校教育	幼児教育	教育心理学	教員免許状				1回生		2回生		3回生		4回生			
									小学校	幼稚園	養護	中高英語	保育士	認定心理士	社会教育主事	前	後	前	後	前		後
専 門 科 目	養護臨床実習	2			2			○			○							②				
	救急医学	2			2			○			○						2					
	国語科指導法	2			2	○	○	○	○								2					
	社会科指導法	3			2	○	○	○	○									2				
	算数科指導法	2			2	○	○	○	○									2				
	理科指導法	3			2	○	○	○	○									2				
	生活科指導法	2			2	○	○	○	○									2				
	音楽科指導法	3			2	○	○	○	○									2				
	図工科指導法	2			2	○	○	○	○									2				
	家庭科指導法	2			2	○	○	○	○									2				
	体育科指導法	2			2	○	○	○	○								2					
	英語科指導法Ⅰ	3			2	○	○	○				○							2			
	英語科指導法Ⅱ	3			2	○	○	○				○								2		
	英語科指導法Ⅲ	4			2	○	○	○				○									2	
	英語科指導法Ⅳ	4			2	○	○	○				○									2	
	小学校教育実習指導A	3			1	○	○	○	○										1			
	小学校教育実習指導B	4			1	○	○	○	○											1		
	小学校教育実習A	3			4	○	○	○	○										④			
	小学校教育実習B	4			2	○	○	○	○											②		
	小学校一日見学	1			0	○	○	○	○			○				0						
	幼稚園教育実習指導A	3			1	○	○				○								1			
	幼稚園教育実習指導B	4			1	○	○				○									1		
	幼稚園教育実習A	3			4	○	○				○								④			
	幼稚園教育実習B	4			2	○	○				○									②		
	幼稚園一日見学	1			0	○	○	○	○			○				0						
	幼稚園見学実習A	1			1	○	○	○	○	○	○		○			①						
	幼稚園見学実習B	2			1	○	○	○	○	○	○		○				①					
	英語科教育実習（中）A	3			5	○		○				○							⑤			
	英語科教育実習（中）B	4			3	○		○				○									③	
	英語科教育実習（高）	4			3	○		○				○									③	
	養護実習指導	3			1			○				○							1			
	養護実習	3			4			○				○							④			
	保育・教職実践演習（幼稚園）	4			2		○				○		○								2	
	教職実践演習（幼・小）	4			2	○	○	○	○	○											2	
	教職実践演習（中・高）	4			2	○		○				○									2	
	教職実践演習（養護教諭）	4			2			○				○									2	
	相談援助演習	2			1		○						○						1			
	児童家庭福祉論	3			2		○					○							2			
	社会福祉論	3			2		○					○							2			
	児童文化演習	2			2		○					○							2			
	家庭支援論	2			2		○					○							2			
	保育原理	1			2		●						○				2					
	保育の心理学A	1			2		○					○	○		2							
	保育の心理学B	2			1		○					○	○				1					
	社会的養護	2			2		●					○						2				
	子どもの保健A	1			2		○								2							
	子どもの保健B	1			2		○								2							

【卒業に必要な最低単位数 教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、合計124単位とする。】

教育学部

現代教育学科 2回生用(2013年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		コース対応		資格要件に関する科目					開 講 時 期								卒業 要件
			必修	推奨	選択	学校教育 幼児教育 教育心理学	教員免許状					1回生		2回生		3回生		4回生		
							小学校	幼稚園 養護	中高英語	保育士	認定心理士	社会教育主事	前	後	前	後	前	後	前	
専 門 科 目	子どもの保健演習	3			1	○					○							1		
	子どもの食と栄養演習	3			2	○					○							2		
	乳児保育演習	1			2	○					○		2							
	障害児保育演習	2			2	○					○			2						
	社会的養護内容演習	2			1	○					○			1						
	保育相談支援演習	2			1	○					○			1						
	保育内容総論	3			1	○	○				○							1		
	保育内容の研究「健康」	2			2	○	○		○		○			2						
	◆保育内容の研究「人間関係」	1			2	○	○		○		○		2							
	保育内容の研究「環境」	1			2	○	○		○		○			2						
	保育内容の研究「言葉」	1			2	○	○		○		○			2						
	保育内容の研究「音楽表現」	2			2	○	○		○		○			2						
	保育内容の研究「造形表現」	2			2	○	○		○		○			2						
	保育内容の研究「運動遊び」	2			2	○	○		○					2						
	絵画演習	1			2	○	○					2								
	保育実践研究A	3			2	○	○				○							2		
	保育実践研究B	4			2	○	○				○								2	
	保育実習指導Ⅰ	2			2	○					○			2						
	保育実習指導ⅡA	2			1	○					○					1				
	保育実習指導ⅡB	2			1	○					○					1				
	保育実習Ⅰ	2			4	○					○			④						
	保育実習ⅡA	2			2	○					○				②					
	保育実習ⅡB	2			2	○					○				②					
	心理学研究法Ⅰ	2			2	○	○				○			2						
	心理学研究法Ⅱ	2			2	○	○				○				2					
	心理統計学	2			2	○	○				○				2					
	心理学基礎実験	2			2	○	○				○			2						
	心理学実験	2			2	○	○				○				2					
	学習心理学	2			2	○	○				○			2						
	学習心理学演習	2			2	○	○				○				2					
	教育心理学演習	2			2	○	●				○			2						
	認知心理学	3			2	○	○				○						2			
	社会心理学	3			2	○	○				○						2			
	社会心理学演習(マーケティングリサーチ)	3			2	○	○				○							2		
	臨床心理学	3			2	○	○				○						2			
	心理検査法実習	3			2	○	○				○						2			
	家族心理学	3			2	○	○				○							2		
	生涯学習概論A	1			2	○					○	2								
	生涯学習概論B	1			2	○					○		2							
	社会教育計画Ⅰ	3			2	○					○						2			
	社会教育計画Ⅱ	3			2	○					○							2		
	地域社会教育施設	2			2	○					○					2				
	学校外活動論	2			2	○					○					2				
	社会教育特論A	3			2	○					○						2			
	社会教育特論B	3			2	○					○							2		
	地域教育課題演習A	4			2	○					○								2	
	地域教育課題演習B	4			2	○					○									2

合計124単位とする。

〔卒業に必要な最低単位数〕
教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、

教育学部

現代教育学科 2回生用(2013年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		コース対応		資格要件に関する科目						開 講 時 期				卒業 要件						
			必修	推奨	選択	学校教育	幼児教育	教育心理学	教員免許状						1 回生	2 回生		3 回生	4 回生				
									小学校	幼稚園	養護	中高英語	保育士	認定心理士						社会教育主事			
専 門 科 目	地域教育実習	4			2	○							○	前	後	前	後	前	後	②			
	卒業研究指導ゼミⅠ	3	2			●	●	●											2				
	卒業研究指導ゼミⅡ	4	2			●	●	●												2			
	卒業研究	4	2			●	●	●					○								2		
	専門科目単位数合計			6	0	276																	
専門準備科目	教職への初等数学	2			0										0						卒業単位には 含まれません		
	教職への理科	2			0											0							

教育学部

現代教育学科 3回生用(2012年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		コース対応	資格要件に関する科目							開 講 時 期				卒業 要件																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
			必修	推奨		選択	学校 教育	幼児 教育	教育 心理学	教員免許状			保育士	認定 心理士	社会 教育主事	1 回生		2 回生		3 回生		4 回生																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
										小学校	幼稚園	養護				中高 英語		前	後	前	後	前	後	前	後																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
教養科目	人間と社会	西洋哲学	2	2		○	○	○																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								

26単位選択必修（ただし各区分より2単位以上修得のこと）

【表中の記号等について】

◆…今年度非開講

開講時期欄の丸数字は、集中講義形式で授業実施予定

※コース対応科目欄の●は卒業必修及びコース必修科目

※コース対応科目欄の○はコース推奨科目

※コース対応科目欄の○はそのコースに対応した科目。○のついていない科目を受講することは可能で卒業単位に含まれますが時間割上必ず受講できるとは限りません。

※コース対応科目欄の□■は、同種印いすれか選択必修。ただし、小学校教員免許希望者は（初等）、中高教員免許希望者は（中等）の履修が必要です。また、小学校と中高の両方を志望する者は、（初等）（中等）ともに履修が必要です。

※資格要件に関する科目欄の○はその資格要件に含まれている科目。必修・選択の別については後掲の資格課程表で確認してください。

※学校教育コースで高校英語教員免許を希望し、小学校教員免許を希望しない場合は、「教育方法・技術論」「教育課程論」はいずれも（中等）の修得が必要です。

教育学部
現代教育学科 3回生用(2012年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		コース対応	資格要件に関する科目								開 講 時 期								卒業 要件		
			必修	推奨		選択	学校教育	幼児教育	教育心理学	教員免許状 小学校	幼稚園 養護	中高英語	保育士	認定心理士	社会教育主事	1回生		2回生		3回生			4回生	
																前	後	前	後	前	後		前	後
専 門 基 礎 科 目	教育心理学	1	2		●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	2								
	現代教育論	1	2		●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	2								
	教育原理	1	2		●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	2								
	教育史	1		2	○	○	○	○	○	○	○				2									
	教育方法・技術論（初等）	2		2	□	○	○	○	○								2							
	教育方法・技術論（中等）	2		2	□	○	○			○	○							2						
	教育社会学	1		2	○	○	○	○	○	○	○		○		2									
	教育行政学	1		2	○	○	○	○	○	○	○			2										
	幼児理解論	1	2	○	●	○					○			2										
	特別支援教育	2	2	○	○	○										2								
	障害者教育論	2	2	○	○	○										2								
	教職概論	1	2	○	○	○								2										
	教職概論（幼保）	2	2	○	○	○		○			○					2								
	教育課程論（初等）	1	2	■	○	○	○								2									
	教育課程論（中等）	1	2	■	○	○			○	○					2									
	教育課程論（幼保）	1	2	○	○	○		○			○				2									
	道徳指導法（初等）	3	2	○	○	○	○												2					
	道徳指導法（中等）	3	2	○	○	○				○										2				
	道徳・特別活動論（中等）	3	2	○	○	○				○									2					
	道徳実践演習（つくろう！道徳授業）	4	2	○	○	○															2			
	特別活動指導法（初等）	2	2	○	○	○	○										2							
	特別活動指導法（中等）	3	2	○	○	○				○										2				
	生徒・進路指導論（初等）	3	2	○	○	○	○												2					
	生徒・進路指導論（中等）	3	2	○	○	○				○										2				
	生徒指導論	3	2	○	○	○				○									2					
	子ども英語活動	1	2	○	○	○									2									
	◆子ども文化Ⅰ	1	2	○	○	○									2									
	◆子ども文化Ⅱ	1	2	○	○	○									2									
	情報と社会	3	2	◎	◎	◎															2			
	プレゼンテーション実践	3	2	○	○	○													2					
	DTP実践	3	2	○	○	○														2				
	統計の基礎	2	2	○	○	○										2								
	レクリエーション活動	1	2	○	○	○				○					2									
	合同ゼミⅠ	1	0	○	○	○									0									
	合同ゼミⅡ	2	0	○	○	○											0							
	学校心理学	4	2	○	○	○	○	○				○										2		
◆児童心理学	1	2	○	○	○	○	○				○	○		2										
発達心理学	2	2	○	○	○	○	○				○	○				2								
人格心理学	2	2	○	○	○						○					2								
発達脳科学	3	2	○	○	○						○							2						
◆コミュニケーション心理学	3	2	○	○	○						○								2					
臨床心理学概論	1	2	○	○	○						○	2												
臨床発達心理学	3	2	○	○	○				○	○	○							2						
カウンセリング	3	2	○	○	○						○								2					
精神保健学	2	2	○	○	○				○		○				2									
教育相談	2	2	○	○	●	○	○	○	○		○					2								
欧米の文化と社会A	2	2	○	○	○				○							2								
欧米の文化と社会B	2	2	○	○	○				○						2									
欧米文化と子ども	3	2	○	○	○													2						
文化理論講読	2	2	○	○	○				○							2								
専門基礎科目単位数合計			6	0	90																			

「卒業に必要な最低単位数 教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、合計104単位」となる。

教育学部

現代教育学科 3回生用(2012年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		コース対応		資格要件に関する科目							開 講 時 期								卒業 要件		
			必修	推奨	選択	学校教育	幼児教育	教育心理学	教員免許状					1回生	2回生	3回生	4回生							
									小学校	幼稚園	養護	中高英語	保育士					認定心理士	社会教育主事					
専 門 科 目	国語科概論	1			2	○	○	○	○	○							前	後	前	後	前	後	【卒業に必要な最低単位数】 合計24単位とする。 教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、	
	社会科概論	2			2	○	○	○	○									2						
	算数科概論	1			2	○	○	○	○	○								2						
	理科概論	2			2	○	○	○	○											2				
	生活科概論	1			2	○	○	○	○	○								2						
	音楽科概論	1			2	○	○	○	○	○								2						
	図工科概論	1			2	○	○	○	○	○								2						
	家庭科概論	2			2	○	○	○	○										2					
	体育科概論	1			2	○	○	○	○	○				2										
	算数学	2			2	○	○	○								2			2					
	国語科実践演習（つくろう！国語科）	4			2	○	○	○													2			
	社会科実践演習（つくろう！社会科）	4			2	○	○	○													2			
	算数科実践演習（つくろう！算数科）	4			2	○	○	○													2			
	理科実践演習（つくろう！理科）	4			2	○	○	○													2			
	生活科実践演習（つくろう！生活科）	4			2	○	○	○													2			
	音楽科実践演習（つくろう！音楽科）	4			2	○	○	○													2			
	図工科実践演習（つくろう！図工科）	4			2	○	○	○													2			
	家庭科実践演習（つくろう！家庭科）	4			2	○	○	○													2			
	体育科実践演習（つくろう！体育科）	4			2	○	○	○													2			
	ピアノ演習A	1		1	○	○		○	○		○			1										
	ピアノ演習B	1		1	○	○		○	○		○			1										
	ピアノ演習C	3		1	○	○			○		○									1				
	ピアノ演習D	4		1	○	○			○		○										1			
	◆実践的音楽演習A	1		1	○	○			○		○			1										
	実践的音楽演習B	2		1	○	○			○		○					1								
	英語 A	2		2	○		○				○				2									
	英語 B	2		2	○		○				○					2								
	英語のしくみ	1		2	○		○				○			2										
	英語の歴史	1		2	○		○				○			2										
	英語学講読A	3		2	○		○				○								2					
	英語学講読B	3		2	○		○				○									2				
	英語学演習	4		2	○		○				○										2			
	英米文学史A	3		2	○		○				○										2			
	英米文学史B	3		2	○		○				○										2			
	英米文学と子ども	2		2	○		○				○				2									
	英米文学と教育	2		2	○		○				○					2								
	英米文学演習	4		2	○		○				○											2		
	衛生学	2		2		○			○								2							
	公衆衛生学	1		2		○			○					2										
	学校保健	1		2		○			○					2										
	養護概説	2		2		○			○						2									
	健康相談	2		2		○			○							2								
	栄養学（食品学を含む）	2		2		○			○						2									
	解剖生理学	1		2		○			○						2									
	微生物学	1		2		○			○						2									
	薬理概論	2		2		○			○							2								

教育学部

現代教育学科 3回生用(2012年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		コース対応		資格要件に関する科目					開 講 時 期								卒業 要件			
			必修	推奨	選択	学校教育	幼児教育	教育心理学	教員免許状					1回生		2回生		3回生			4回生		
									小学校	幼稚園	養護	中高英語	保育士	認定心理士	社会教育主事	前	後	前	後		前	後	前
専 門 科 目	学校看護Ⅰ	1			2			○			○					2							
	学校看護Ⅱ	2			2						○						2						
	学校看護Ⅲ	2			2			○			○							2					
	養護臨床実習	2			2			○			○							②					
	救急医学	2			2			○			○						2						
	国語科指導法	2			2	○	○	○	○									2					
	社会科指導法	3			2	○	○	○	○										2				
	算数科指導法	2			2	○	○	○	○										2				
	理科指導法	3			2	○	○	○	○											2			
	生活科指導法	2			2	○	○	○	○											2			
	音楽科指導法	3			2	○	○	○	○												2		
	図工科指導法	2			2	○	○	○	○												2		
	家庭科指導法	2			2	○	○	○	○												2		
	体育科指導法	2			2	○	○	○	○									2					
	英語科指導法Ⅰ	3			2	○	○	○				○							2				
	英語科指導法Ⅱ	3			2	○	○	○				○									2		
	英語科指導法Ⅲ	4			2	○	○	○				○										2	
	英語科指導法Ⅳ	4			2	○	○	○				○											2
	小学校教育実習指導A	3			1	○	○	○	○											1			
	小学校教育実習指導B	4			1	○	○	○	○													1	
	小学校教育実習A	3			4	○	○	○	○											④			
	小学校教育実習B	4			2	○	○	○	○													②	
	小学校一日見学	1			0	○	○	○	○		○				0								
	幼稚園教育実習指導A	3			1	○	○			○											1		
	幼稚園教育実習指導B	4			1	○	○			○													1
	幼稚園教育実習A	3			4	○	○														④		
	幼稚園教育実習B	4			2	○	○			○												②	
	幼稚園一日見学	1			0	○	○	○	○		○				0								
	幼稚園見学実習A	1			1	○	○	○	○	○	○		○		①								
	幼稚園見学実習B	2			1	○	○	○	○	○	○		○			①							
	英語科教育実習（中）A	3			5	○		○				○									⑤		
	英語科教育実習（中）B	4			3	○		○				○										③	
	英語科教育実習（高）	4			3	○		○				○										③	
	養護実習指導	3			1						○										1		
	養護実習	3			4			○			○										④		
	保育・教職実践演習（幼稚園）	4			2		○			○			○										2
	教職実践演習（幼・小）	4			2	○	○	○	○	○													2
	教職実践演習（中・高）	4			2	○						○											2
	教職実践演習（養護教諭）	4			2			○			○												2
	相談援助演習	2			1		○					○								1			
	児童家庭福祉論	3			2		○					○									2		
	社会福祉論	3			2		○					○									2		
	児童文化演習	2			2		○												2				
	家庭支援論	2			2		○					○								2			
	保育原理	1			2		●					○					2						
	保育の心理学A	1			2		○					○	○		2								
	保育の心理学B	2			1		○					○	○					1					
	社会的養護	2			2		●					○							2				

合計26単位とする。

「卒業に必要な最低単位数：教養科目で26単位、専門基礎科目：専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、

「卒業に必要な最低単位数 教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、合計124単位とする。」

教育学部

現代教育学科 3回生用(2012年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		コース対応		資格要件に関する科目						開 講 時 期								卒業 要件		
			必修	推奨	選択	学校教育	幼児教育	教育心理学	教員免許状						1回生		2回生		3回生			4回生	
									小学校	幼稚園	養護	中高英語	保育士	認定心理士	社会教育主事	前	後	前	後	前		後	前
専 門 科 目	子どもの保健A	1			2		○						○			2							
	子どもの保健B	1			2		○						○			2							
	子どもの保健演習	3			1		○						○						1				
	子どもの食と栄養演習	3			2		○						○						2				
	乳児保育演習	1			2		○						○			2							
	障害児保育演習	2			2		○						○				2						
	社会的養護内容演習	2			1		○						○				1						
	保育相談支援演習	2			1		○						○				1						
	保育内容総論	3			1		○	○					○							1			
	保育内容の研究「健康」	2			2		○	○			○		○				2						
	◆保育内容の研究「人間関係」	1			2		○	○			○		○			2							
	保育内容の研究「環境」	1			2		○	○			○		○				2						
	保育内容の研究「言葉」	1			2		○	○			○		○				2						
	保育内容の研究「音楽表現」	2			2		○	○			○		○					2					
	保育内容の研究「造形表現」	2			2		○	○			○		○					2					
	保育内容の研究「運動遊び」	2			2		○	○			○							2					
	絵画演習	1			2		○	○					○			2							
	保育実践研究A	3			2		○	○					○							2			
	保育実践研究B	4			2		○	○					○								2		
	保育実習指導Ⅰ	2			2		○	○					○				2						
	保育実習指導ⅡA	2			1		○						○					1					
	保育実習指導ⅡB	2			1		○						○					1					
	保育実習Ⅰ	2			4		○						○				④						
	保育実習ⅡA	2			2		○						○					②					
	保育実習ⅡB	2			2		○						○					②					
	心理学研究法Ⅰ	2			2		○	○					○				2						
	心理学研究法Ⅱ	2			2		○	○					○					2					
	心理統計学	2			2		○	○					○						2				
	心理学基礎実験	2			2		○	○					○				2						
	心理学実験	2			2		○	○					○					2					
	学習心理学	2			2		○	○					○				2						
	学習心理学演習	2			2		○	○					○					2					
	教育心理学演習	2			2		○	●					○				2						
	認知心理学	3			2		○	○					○						2				
	社会心理学	3			2		○	○					○						2				
	社会心理学演習(マーケティングリサーチ)	3			2		○	○					○							2			
	臨床心理学	3			2		○	○					○						2				
	心理検査法実習	3			2		○	○					○						2				
	家族心理学	3			2		○	○					○								2		
	生涯学習概論A	1			2		○						○		2								
	生涯学習概論B	1			2		○						○			2							
	社会教育計画Ⅰ	3			2		○						○							2			
	社会教育計画Ⅱ	3			2		○						○								2		
	地域社会教育施設	2			2		○						○					2					
	学校外活動論	2			2		○						○					2					
	社会教育特論A	3			2		○						○							2			
	社会教育特論B	3			2		○						○								2		
	地域教育課題演習A	4			2		○							○								2	
	地域教育課題演習B	4			2		○							○									2

「卒業に必要な最低単位数」
教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、
合計124単位とする。

教育学部

現代教育学科 3回生用(2012年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		コース対応		資格要件に関する科目						開 講 時 期				卒業 要件				
			必修	推奨	選択	学校教育	幼児教育	教育心理学	教員免許状						1 回生	2 回生		3 回生	4 回生		
									小学校	幼稚園	養護	中高英語	保育士	認定心理士						社会教育主事	
専 門 科 目	地域教育実習	4			2	○							○	前	後	前	後	前	後		
	卒業研究指導ゼミⅠ	3	2			●	●	●											2		
	卒業研究指導ゼミⅡ	4	2			●	●	●											2		
	卒業研究	4	2			●	●	●					○							2	
	専門科目単位数合計			6	0	276															
専門準備科目	教職への初等数学	2			0										0						卒業単位には 含まれません
	教職への理科	2			0											0					

卒業単位には
含まれません

教育学部

現代教育学科 4回生用(2011年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			コース対応			資格要件に関する科目					開 講 時 期				卒業 要件								
			必修	推奨	選択	学校教育	幼児教育	教育心理学	教員免許状				認定心理士	社会教育士	1 回生		2 回生		3 回生		4 回生					
									小学校	幼稚園	養護	中高英語			前後	前後	前後		前後	前後	前後					
教養科目	社会の理解	くらしと法律	1		2	○	○	○					○			2										4 単位 選択 必修
		くらしと経済	1		2	○	○	○								2										
		◆くらしと技術	1		2	○	○	○								2										
		日本国憲法	1		2	○	○	○	○	○	○					2										
		国際社会と日本	1		2	○	○	○								2										
		人権教育	1		2	○	○	○				○				2										
		◆社会学	1		2	○	○	○								2										
	自然の理解	自然・科学と人間	1		2	○	○	○								2										4 単位 選択 必修
		地球環境論	1		2	○	○	○								2										
		◆数学の基礎	1		2	○	○	○								2										
	人間・文化の理解	基礎心理学	1		2	○	○	●					○	○		2										4 単位 選択 必修
		◆人間関係論	1		2	○	○	○					○	○		2										
		◆大和の歴史と文化	1		2	○	○	○								2										
		◆くらしと音楽	1		2	○	○	○								2										
		◆くらしと美術	1		2	○	○	○								2										
	コミュニケーションスキル	英語コミュニケーションA	1	2		●	●	●	○	○	○	○	○			2										8 単位 選択 必修
		英語コミュニケーションB	1	2		●	●	●					○			2										
		オールコミュニケーションA	2		2	○	○	○				○					2									
		オールコミュニケーションB	2		2	○	○	○				○						2								
		短期語学留学	1		2	○	○	○								②										
		情報処理演習Ⅰ	1	2		●	●	●	○	○	○	○	○			2										
		情報処理演習Ⅱ	1	2		●	●	●					○			2										
	健康とスポーツ	レクリエーション活動	1		2	○	○	○					○			2										2 単位 選択 必修
		運動の科学	1		2	○	○	○	○	○	○	○	○			2										
		スポーツ実習A	1		1	○	○	○	○	○	○	○	○			1										
		スポーツ実習B	1		1	○	○	○	○	○	○	○	○				1									
	ガイダンス教育	ベーシックセミナー	1	2		●	●	●					○			2										2 単位 選択 必修
		日本語と表現	1		2	◎	◎	◎					○			2										
		◆会話とマナー入門	1		2	◎	◎	◎								2										
	キャリア教育	キャリアデザインセミナー	1	1		●	●	●								1										2 単位 選択 必修
		キャリア発展セミナー	1	1		●	●	●								1										
		企業インターンシップ	2・3		1	○	○	○										①		①						
		海外インターンシップ	2・3		1	○	○	○											①		①					
教養科目単位数合計				12	4	44																		26単位必修		

【表中の記号等について】

◆…今年度非開講

開講時期欄の丸数字は、集中講義形式で授業実施予定

※コース対応科目欄の●は卒業必修及びコース必修科目

※コース対応科目欄の○はコース推奨科目

※資格要件に関する科目欄の○はその資格要件に含まれている科目。必修・選択の別については後掲の資格課程表で確認してください。

※コース対応科目欄の□は、同種印いすれか選択必修。ただし、小学校教員免許希望者は（初等）、中高教員免許希望者は（中等）の履修が必要です。また、小学校と中高の両方を志望する者は、（初等）（中等）ともに履修が必要です。

※学校教育部で高校英語教員免許を希望し、小学校教員免許を希望しない場合は、「教育方法・技術論」「教育課程論」はいずれも

（中等）の修得が必要でです。

教育学部

現代教育学科 4回生用(2011年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			コース対応		資格要件に関する科目					開 講 時 期								卒業 要件														
			必修	推奨	選択	学校教育 学校 教育	幼児教育 幼児 教育	教育心理学 教育 心理 学	教員免許状					1回生		2回生		3回生		4回生															
									小学校	幼稚園	養護 教諭	中高英語	保育士	認定心理士	社会教育主事	前	後	前	後	前		後	前	後											
専 門 基 礎 科 目	教育心理学	1	2			●	●	●	○	○	○	○	○	○			2																		
	現代教育論	1	2			●	●	●	○	○	○	○	○	○	○		2																		
	教育原理	1	2			●	●	●	○	○	○	○	○	○	○		2																		
	教育史	1			2	○	○	○	○	○	○	○	○	○			2																		
	教育方法・技術論（初等）	2			2	□	○	○	○	○								2																	
	教育方法・技術論（中等）	2			2	□	○	○			○	○							2																
	教育社会学	1			2	○	○	○	○	○	○	○	○		○		2																		
	教育行政学	1			2	○	○	○	○	○	○	○				2																			
	幼児理解論	1			2	○	●	○		○			○			2																			
	◆子ども文化Ⅰ	1			2	○	○	○								2																			
	◆子ども文化Ⅱ	1			2	○	○	○								2																			
	子ども英語活動	1			2	○	○	○								2																			
	教職概論	1			2	○	○	○	○		○	○	○			2																			
	教職概論（幼保）	2			2	○	○	○		○			○				2																		
	教育課程論（初等）	1			2	■	○	○	○							2																			
	教育課程論（中等）	1			2	■	○	○				○	○			2																			
	教育課程論（幼保）	1			2	○	○	○		○			○			2																			
	道德指導法（初等）	3			2	○	○	○	○												2														
	道德指導法（中等）	3			2	○	○	○				○										2													
	道德・特別活動論	3			2	○	○	○				○										2													
	道德実践演習（つくろう！道德授業）	4			2	○	○	○																	2										
	特別活動指導法（初等）	2			2	○	○	○	○					○				2																	
	特別活動指導法（中等）	3			2	○	○	○					○									2													
	生徒・進路指導論（初等）	3			2	○	○	○	○													2													
	生徒・進路指導論（中等）	3			2	○	○	○					○										2												
	生徒指導論	3			2	○	○	○				○											2												
	特別支援教育	2			2	○	○	○									2																		
	障害者教育論	2			2	○	○	○									2																		
	情報と社会	3			2	◎	◎	◎																	2										
	プレゼンテーション実践	3			2	○	○	○																	2										
	DTP実践	3			2	○	○	○																	2										
	合同ゼミⅠ	1			0	○	○	○								0	0																		
	合同ゼミⅡ	2			0	○	○	○										0	0																
	学校心理学	4			2	○	○	○	○	○	○			○																		2			
	◆児童心理学	1			2	○	○	○	○	○	○		○	○			2																		
	発達心理学	2			2	○	○	○	○	○	○			○	○					2															
人格心理学	2			2	○	○	○	○											2																
発達脳科学	3			2	○	○	○	○						○							2														
◆コミュニケーション心理学	3			2	○	○	○	○						○										2											
臨床心理学概論	1			2	○	○	○	○							2																				
臨床発達心理学	3			2	○	○	○	○				○	○	○									2												
カウンセリング	3			2	○	○	○	○						○												2									
精神保健学	2			2	○	○	○	○				○		○					2																
教育相談	2			2	○	○	●	○	○	○	○	○	○						2																
欧米の文化と社会A	2			2	○	○	○	○					○						2																
欧米の文化と社会B	2			2	○	○	○	○					○								2														
欧米文化と子ども	3			2	○	○	○	○					○													2									
文化理論講読	2			2	○	○	○	○					○											2											
専門基礎科目単位数合計			6	0	86																														

【卒業に必要な最低単位数
合計22単位とする。
教養科目で26単位
専門基礎科目・専門科目で78単位
上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、

「卒業に必要な最低単位数 教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、合計124単位とする。」

教育学部

現代教育学科 4回生用(2011年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		コース対応		資格要件に関する科目							開 講 時 期								卒業 要件			
			必修	推奨	選択	学校教育	幼児教育	教育心理学	教員免許状							1回生		2回生		3回生			4回生		
									小学校	幼稚園	養護	中高英語	保育士	認定心理士	社会教育主事	前	後	前	後	前	後		前	後	
専 門 科 目	国語科概論	1			2	○	○	○	○	○							2								
	社会科概論	2			2	○	○	○	○										2						
	算数科概論	1			2	○	○	○	○	○							2								
	理科概論	2			2	○	○	○	○										2						
	生活科概論	1			2	○	○	○	○	○							2								
	音楽科概論	1			2	○	○	○	○	○							2								
	図工科概論	1			2	○	○	○	○	○							2								
	家庭科概論	2			2	○	○	○	○									2							
	体育科概論	1			2	○	○	○	○	○					2										
	算数学	2			2	○	○	○										2							
	国語科実践演習（つくろう！国語科）	4			2	○	○	○															2		
	社会科実践演習（つくろう！社会科）	4			2	○	○	○															2		
	算数科実践演習（つくろう！算数科）	4			2	○	○	○															2		
	理科実践演習（つくろう！理科）	4			2	○	○	○															2		
	生活科実践演習（つくろう！生活科）	4			2	○	○	○															2		
	音楽科実践演習（つくろう！音楽科）	4			2	○	○	○															2		
	図工科実践演習（つくろう！図工科）	4			2	○	○	○															2		
	家庭科実践演習（つくろう！家庭科）	4			2	○	○	○															2		
	体育科実践演習（つくろう！体育科）	4			2	○	○	○															2		
	ピアノ演習A	1			1	○	○		○	○			○			1									
	ピアノ演習B	1			1	○	○		○	○			○			1									
	ピアノ演習C	3			1	○	○			○			○								1				
	ピアノ演習D	4			1	○	○			○			○										1		
	◆実践的音楽演習A	1			1	○	○			○			○			1									
	実践的音楽演習B	2			1	○	○			○			○						1						
	英語 A	2			2	○		○				○						2							
	英語 B	2			2	○		○				○							2						
	英語のしくみ	1			2	○		○				○				2									
	英語の歴史	1			2	○		○				○				2									
	英語学講読A	3			2	○		○				○									2				
	英語学講読B	3			2	○		○				○										2			
	英語学演習	4			2	○		○				○											2		
	英米文学史A	3			2	○		○				○											2		
	英米文学史B	3			2	○		○				○											2		
	英米文学と子ども	2			2	○		○				○						2							
	英米文学と教育	2			2	○		○				○							2						
	英米文学演習	4			2	○		○				○												2	
	衛生学	2			2			○			○							2							
	公衆衛生学	1			2			○			○							2							
	学校保健	1			2			○			○							2							
	養護概説	2			2			○			○								2						
	健康相談	2			2			○			○									2					
	栄養学（食品学を含む）	2			2			○			○								2						
	解剖生理学	1			2			○			○									2					
	微生物学	1			2			○			○								2						
	薬理概論	2			2			○			○								2						

【卒業に必要な最低単位数】
教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、合計124単位とする。

教育学部

現代教育学科 4回生用(2011年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		コース対応			資格要件に関する科目					開 講 時 期								卒業 要件	
			必修	推奨	選択	学校教育	幼児教育	教育心理学	教員免許状					1回生		2回生		3回生		4回生		
									小学校	幼稚園	養護	中高英語	保育士	認定心理士	社会教育主事	前	後	前	後	前		後
専 門 科 目	看護学Ⅰ	1			2			○			○					2						
	看護学Ⅱ	2			2						○						2					
	看護学Ⅲ	2			2			○			○							2				
	養護臨床実習	2			2			○			○							②				
	救急医学	2			2			○			○						2					
	国語科指導法	2			2	○	○	○	○									2				
	社会科指導法	3			2	○	○	○	○										2			
	算数科指導法	2			2	○	○	○	○										2			
	理科指導法	3			2	○	○	○	○											2		
	生活科指導法	2			2	○	○	○	○										2			
	音楽科指導法	3			2	○	○	○	○											2		
	図工科指導法	2			2	○	○	○	○										2			
	家庭科指導法	2			2	○	○	○	○										2			
	体育科指導法	2			2	○	○	○	○								2					
	英語科指導法Ⅰ	3			2	○	○	○				○							2			
	英語科指導法Ⅱ	3			2	○	○	○				○								2		
	英語科指導法Ⅲ	4			2	○	○	○				○									2	
	英語科指導法Ⅳ	4			2	○	○	○				○										2
	学校インターンシップ	2・3			1	○	○	○									①		①			
	小学校教育実習指導A	3			1	○	○	○	○										1			
	小学校教育実習指導B	4			1	○	○	○	○												1	
	小学校教育実習A	3			4	○	○	○	○										④			
	小学校教育実習B	4			2	○	○	○	○											②		
	小学校一日見学	1			0	○	○	○	○		○				0							
	幼稚園教育実習指導A	3			1	○	○			○									1			
	幼稚園教育実習指導B	4			1	○	○			○											1	
	幼稚園教育実習A	3			4	○	○			○									④			
	幼稚園教育実習B	4			2	○	○			○											②	
	幼稚園一日見学	1			0	○	○	○	○		○				0							
	幼稚園見学実習A	1			1	○	○	○	○	○	○		○			①						
	幼稚園見学実習B	2			1	○	○	○	○	○	○		○				①					
	英語科教育実習（中）A	3			5	○	○	○				○							⑤			
	英語科教育実習（中）B	4			3	○	○	○				○									③	
	英語科教育実習（高）	4			3	○	○	○				○									③	
	養護実習指導	3			1			○			○								1			
	養護実習	3			4			○			○								④			
	保育・教職実践演習（幼稚園）	4			2		○			○		○										2
	教職実践演習（幼・小）	4			2	○	○	○	○	○												2
	教職実践演習（中・高）	4			2	○		○			○											2
	教職実践演習（養護教諭）	4			2			○			○											2
	相談援助演習	2			1		○				○							1				
	児童家庭福祉論	3			2		○				○								2			
	社会福祉論	3			2		○				○								2			
	児童文化演習	2			2		○				○							2				
	家庭支援論	2			2		○				○							2				
	保育原理	1			2		●				○					2						
	保育の心理学A	1			2		○				○	○			2							
	保育の心理学B	2			1		○				○	○					1					

「卒業に必要な最低単位数 教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、合計124単位とする。」

教育学部

現代教育学科 4回生用(2011年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		コース対応	資格要件に関する科目						開 講 時 期								卒業 要件																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
			必修	推奨		選択	学校 教育	幼児 教育	教育 心理学	教員免許状				1 回生	2 回生	3 回生	4 回生																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
										小学校	幼稚園	養護	中高英語					保育士	認定 心理士		社会 教育主事																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
												前	後	前	後	前	後	前	後																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
専 門 科 目	社会的養護	2			2	●							○								【卒業に必要な最低単位数】 合計124単位とする。 教養科目で26単位、専門基礎科目、専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
	子どもの保健A	1			2	○							○									2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												

〔卒業に必要な最低単位数〕 教養科目で26単位、専門基礎科目・専門科目で78単位、上記以外に修得した単位及び他大学・学部で修得した20単位、合計124単位とする。

教育学部

現代教育学科 4回生用(2011年度入学生)

区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		コース対応		資格要件に関する科目					開 講 時 期				卒業 要件				
			必修	推奨	選択	学校教育	幼児教育	教育心理学	教員免許状					1回生	2回生		3回生	4回生		
									小学校	幼稚園	養護	中高英語	保育士						認定心理士	社会教育士
専門科目	地域教育課題演習A	4			2	○								○	前	後				2
	地域教育課題演習B	4			2	○								○						2
	地域教育実習	4			2	○								○					②	
	卒業研究指導ゼミⅠ	3	2			●	●	●										2		
	卒業研究指導ゼミⅡ	4	2			●	●	●											2	
	卒業研究	4	2			●	●	●					○						2	
	専門科目単位数合計		6	0	277															

取得できる資格とその要件

取得できる資格とその要件

本学ではすべての学部・学科で、社会で役立つ専門的資格の取得を可能としています。とりわけ理学療法学科や看護医療学科では国家試験の受験資格を取得することが卒業要件になっています。

本学で取得できる国家試験受験資格は理学療法士、看護師、保健師、管理栄養士、二級建築士（実務経験2年で一級建築士）であり、これらの職業は試験に合格することではじめて専門職として社会で活躍することが可能です。健康栄養学科では、申請をすれば卒業と同時に栄養士資格を取得することが可能です。また各種の教員免許状は本学に必要な単位を修得することで取得できますが、教員採用試験に合格しなければ教壇に立つことはできません。そのためには授業内容を理解し身に付ける学修に加えて、国家試験対策、教員採用試験対策の勉強を同時並行で進めていくことが不可欠です。時々在大学で行う模擬試験を受験し、弱点を早めに発見してそれを克服することも大切です。必要な内容はオリエンテーションやガイダンスでレクチャーしますので、必ず出席してください。

健康科学部 理学療法学科

理学療法士国家試験受験資格取得に必要な科目一覧

理学療法学科の専門基礎科目・専門科目のほとんどが資格取得に必要な必修科目となっています。詳細はカリキュラム（P.102～113）をご覧ください。

トピックス

理学療法士国家試験とは

理学療法士の国家試験は毎年2月に行われ、3月に合格者が発表されます。試験はすべて5肢選択形式でマークシートによる客観式です。

出題は理学療法に関する「専門問題」と一般医学に関する作業療法士国家試験との「共通問題」が午前、午後とも混合して出題されます。

出題形式は問題文や選択肢に図や写真を配した問題や、簡単な症例を設定した事例問題で、正解するためには実践的な深い理解が求められています。

国家試験に出題される試験科目は、右表のようになっています。大学での授業科目の専門科目にあたる専門問題もちろんですが、「解剖学」や「生理学」といった大学での専門基礎科目の内容の比重が高いことが特色です。

これらの専門基礎の科目は1回生から学びます。「解剖学」や「生理学」をしっかりと理解できてこそ理学療法の専門的な科目の学習が可能になるからです、別の角度から見ると国家試験対策は1回生から始まるということでもあります。苦手科目を残さない、たゆまぬ努力が国家試験合格につながります。

全国および本学の国家試験合格率は表のようになっています。今までに全国平均を下回ったことがなく、学生1人1人が真剣に試験対策に取り組んでいます。

理学療法士国家試験出題科目

			試験科目	出題数
専門問題 (専門科目)	基礎理学療法学			3
	理学療法評価学			12
	理学療法治療学	運動療法	基礎	4
			整形外科(関節リウマチ含む)	10
			小児関連	6
			呼吸・循環・代謝	7
			脳血管障害	13
			脊髄障害	12
			58 神経筋障害	6
			物理療法	8
		83	補装具療法	12
			日常生活活動	5
	地域理学療法学			2
	小計			100
共通問題 (専門基礎科目)	解剖学			20
	生理学			16
	運動学			12
	病理学概論			7
	臨床心理学			7
	リハビリテーション医学			3～4
	臨床医学	人間発達学(小児科学)		10
		精神医学		10
		その他		14～15
	小計			100
合計			200	

出題数(午前・午後)

専門問題		共通問題
一般問題	実地問題	
60	40	100

理学療法士国家試験合格状況

実施回数	本学	全国
	合格者数/受験者数(合格率)	合格者数/受験者数(合格率)
第48回(2013年:7期生)	61 / 61 (100.0%)	10,115 / 11,411 (88.6%)
第47回(2012年:6期生)	64 / 67 (95.5%)	9,850 / 11,956 (82.4%)
第46回(2011年:5期生)	58 / 65 (89.2%)	7,786 / 10,475 (74.3%)
第45回(2010年:4期生)	76 / 77 (98.7%)	9,112 / 9,835 (92.6%)
第44回(2009年:3期生)	69 / 70 (98.6%)	8,291 / 9,119 (90.9%)
第43回(2008年:2期生)	63 / 68 (92.6%)	6,924 / 7,997 (86.6%)
第42回(2007年:1期生)	55 / 57 (96.5%)	6,559 / 7,036 (93.2%)

健康科学部 看護医療学科

看護師国家試験受験資格取得に必要な科目一覧

保健師国家試験受験資格取得に必要な科目一覧

2011年度までの入学生は、看護師と保健師の国家試験受験資格を同時に取得できる統合カリキュラムになっています。また、この受験資格を取得することが卒業要件となっています。詳細はカリキュラム（P.114～126）をご覧ください。

2012年度入学生からは、保健師国家試験の受験資格は選択制となります。保健師国家試験受験資格取得要件は、看護医療学科内規（P.282）をご覧ください。

▶トピックス<

看護師国家試験・保健師国家試験とは

看護師国家試験と保健師国家試験は毎年2月に行われ、3月に合格者が発表されます。試験は全てマークシートによる客観式です。

看護師国家試験合格状況

実施回数	本学				全国			
	合格者数	/	受験者数	(合格率)	合格者数	/	受験者数	(合格率)
第102回(2013年:2期生)	92	/	93	(98.9%)	50,224	/	56,530	(88.8%)
第101回(2012年:1期生)	71	/	71	(100.0%)	48,400	/	53,702	(90.1%)

保健師国家試験合格状況

実施回数	本学				全国			
	合格者数	/	受験者数	(合格率)	合格者数	/	受験者数	(合格率)
第99回(2013年:2期生)	85	/	89	(95.5%)	2,072	/	2,113	(98.1%)
第98回(2012年:1期生)	60	/	69	(87.0%)	13,555	/	15,758	(86.0%)

【第102回（2013年2月実施）看護師国家試験】

必修問題50問/一般問題130問/状況設定問題60問

必修問題および一般問題を1問1点、状況設定問題を1問2点とし、次の①②をすべて満たすものが合格となりました。

①必修問題 40点以上/50点満点

②一般問題・状況設定問題 160点以上/250点満点

①の80%以上という基準は毎年同じで、②の合格ラインは毎年変動します。

【第99回（2013年2月実施）保健師国家試験】

一般問題75問/状況設定問題34問

一般問題を1問1点、状況設定問題を1問2点とし、143点満点の86点以上が合格ラインでした。

看護師国家試験について

看護師国家試験の分野別の出題は以下のようになっています。分野別の設問数があらかじめ決まっているわけではありませんが、毎年の傾向はほとんど同じなので、全分野にわたった学習が必要です。とりわけ状況設定問題に正解するためには実践的で総合的な力が求められます。

第102回看護師国家試験

【出題分野】

分野	出題数		
	午前	午後	合計
必修問題	25	25	50
人体の構造と機能	6	6	12
疾病の成り立ちと回復の促進	7	7	14
健康支援と社会保障制度	5	4	9
基礎看護学	10	12	22
在宅看護論	5 (1)	4 (2)	9 (3)
成人看護学	9 (3)	9 (2)	18 (5)
老年看護学	7 (1)	7 (2)	14 (3)
小児看護学	5 (2)	5 (1)	10 (3)
母性看護学	6 (1)	5 (2)	11 (3)
精神看護学	5 (2)	6 (1)	11 (3)
合計	90 (10)	90 (10)	180 (20)

※（ ）内は状況設定問題の事例数

【必修問題出題範囲】

出題範囲		午前	午後
目標Ⅰ	看護の社会的側面および倫理的側面に関する看護知識を問う	7	4
目標Ⅱ	看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う	4	5
目標Ⅲ	看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う	7	8
目標Ⅳ	看護技術の基本を問う	7	8
計		25	25

〔出題方式〕

形式	出題数		
	午前	午後	計
誤っているものを選ぶ (適切でない、可能性が低いなど、否定形を選ぶ)	1	2	3
組合せ問題	4	4	8
図・表を用いた問題	3	3	6
写真を用いた問題	3	0	3
五肢択一問題	17	13	30 (配点31)
五肢択二問題	11	9	20 (配点28)
計算問題 (非選択式)	0	2	2

保健師国家試験について

保健師国家試験の出題方式、出題数、時間は以下のようになっています。

第99回試験

	方式	出題数	時間
午前	客観式一般問題	40問	75分
	客観式状況設定問題	15問 (2連問又は3連問)	
午後	客観式一般問題	35問	80分
	客観式状況設定問題	20問 (2連問又は3連問)	



養護教諭一種免許状

健康科学部看護医療学科に所属し、教育職員免許法、同施行規則に規定する下表の要件を充足した者は、養護教諭一種免許状を取得できます。なお、「保健師」の資格取得者は教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（日本国憲法2単位、体育2単位、外国語コミュニケーション2単位及び情報機器の操作2単位）の単位を修得した上で、申請をすると養護教諭二種免許状取得が可能です。その点もふまえて一種免許状の取得について、よく検討した上で、チャレンジしてください。

※2012年度以降の入学生は、「保健師国家試験受験資格」と「養護教諭一種免許状」の両方を取得することはできません。

養護教諭一種免許状 1回生（2014年度入学生）

この資格を取得するためには、

- ①「養護に関する科目」から35単位以上
- ②「教職に関する科目」から25単位以上
- ③「教免法施行規則第66条の6に定める科目」から8単位以上

↓
総計68単位以上（①+②+③）の単位を修得する必要があります。

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	基準 単 位 数	対応する開設授業科目						備 考
			資格取得要件			受 教 育 実 習	科目名	配当 年次	
			必修	必修 選択	選択				
養護に関する科目	衛生学及び公衆衛生学 （予防医学を含む）	4	2			◇	地域看護学概論	2	
			1				保健医療福祉システム論Ⅰ	4	
			2			◇	保健行動学	1	
	学校保健	2	2			◇	学校保健	2	
	養護概説	2	2			◇	養護概説	2	
	健康相談活動の理論及び方法	2	2				健康相談	4	
	栄養学（食品学を含む）	2	2			◇	食と栄養	1	
			1			◇	生命活動と代謝	1	
	解剖学及び生理学	2	2			◇	人体構造・機能学Ⅰ	1	
			2			◇	人体構造・機能学Ⅱ	1	
	「微生物、免疫学、薬理概論」	2	2			◇	感染・免疫学	1	
			2			◇	薬と健康	2	
	精神保健	2	2			◇	精神保健学	1	
	看護学（臨床実習及び救急処置を含む）	10	2			◇	看護学原論	1	
			1			◇	看護技術基礎論	1	
			2			◇	療養生活援助技術	1	
			1			◇	診療過程援助技術	2	
1					◇	フィジカルアセスメント	1		
2					◇	基礎看護学実習	1		
1					◇	急性期看護学援助論Ⅰ	2		
1					◇	急性期看護学援助論Ⅱ	3		
「養護に関する科目」の要件単位数		28	35						

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目		基準 単 位 数	対応する開設授業科目							備 考
				資格取得要件			受 講 資 格	教育 実 習	科目名	配当 年次	
				必 修	必 選 択	選 択					
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	2			◇	教職概論	2		
		教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）									
		進路選択に資する各種の機会の提供等									
	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	4	2		2	◇	教育原理	2		
								教育史	1		
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）						◇	教育心理学		2
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項						2	教育法制論		1
	教育課程に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	4	2			◇	教育課程論（中等）	3		
		道徳及び特別活動に関する内容						2	道徳・特別活動論（中等）		3
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）						2	教育方法・技術論（中等）		2
生徒指導及び教育相談に関する科目	生徒指導の理論及び方法	4	2			◇	生徒指導論	3			
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法						2	教育相談（学校カウンセリングを含む）	2		
教育実習		5	1	4		◇	養護実習指導	4			
		4	養護実習				4				
教職実践演習		2	2				教職実践演習（養護教諭）	4			

② 「教職に関する科目」の要件単位数 21 25

さらに「養護に関する科目」「教職に関する科目」から選択(①②以外) 7 ←上記①②の要件を充足することでクリアされます

第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	2				日本国憲法	2	2単位 選択必修
	体育	2	1				スポーツ実習Ⅰ	1	
			1				スポーツ実習Ⅱ	1	
	外国語コミュニケーション	2	2				運動の科学	1	
			2				英語コミュニケーションⅠ	1	
情報機器の操作	2	2	1				情報処理演習Ⅰ	1	
			1				情報処理演習Ⅱ	1	

③ 「教員免許法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数 8 8

必要な単位数の総計 (①+②+③) 64 68

「教育実習受講資格」の見方

◇ すべて履修済であること

養護教諭一種免許状 2・3 回生（2012・2013年度入学生）

この資格を取得するためには、

- ①「養護に関する科目」から35単位以上
- ②「教職に関する科目」から25単位以上
- ③「教免法施行規則第66条の6に定める科目」から8単位以上

↓
総計68単位以上（①+②+③）の単位を修得する必要があります。

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	基準 単 位 数	対応する開設授業科目					備 考
			資格取得要件		受講資格	科目名	配当 年次	
			必修	選択 必修	選択 修習			
養護に関する科目	衛生学及び公衆衛生学 （予防医学を含む）	4	2		◇	地域看護学概論	2	
			1			保健医療福祉システム論Ⅰ	4	
			2		◇	保健行動学	1	
	学校保健	2	2		◇	学校保健	2	
	養護概説	2	2		◇	養護概説	2	
	健康相談活動の理論及び方法	2	2			健康相談	4	
	栄養学（食品学を含む）	2	2		◇	食と栄養	1	
			1		◇	生命活動と代謝	1	
	解剖学及び生理学	2	2		◇	人体構造・機能学Ⅰ	1	
			2		◇	人体構造・機能学Ⅱ	1	
	「微生物、免疫学、薬理概論」	2	2		◇	感染・免疫学	1	
			2		◇	薬と健康	2	
	精神保健	2	2		◇	精神保健学	1	
	看護学（臨床実習及び救急処置を含む）	10	2		◇	看護学原論	1	
			1		◇	看護技術基礎論	1	
			2		◇	療養生活援助技術	1	
			1		◇	診療過程援助技術	2	
			1		◇	フィジカルアセスメント	1	
			2		◇	基礎看護学実習	1	
			1		◇	急性期看護学援助論Ⅰ	2	
			1		◇	急性期看護学援助論Ⅱ	3	
「養護に関する科目」の要件単位数		28	35					

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目		基準 単 位 数	対応する開設授業科目						備考
				資格取得要件			受 講 実 習 資格	科目名	配当 年次	
				必修	必修 選択	選択				
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	2			◇	教職概論	2	いずれか 選択必修
		教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）								
		進路選択に資する各種の機会の提供等								
	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	4	2		2	◇	教育原理	2	
		教育史						1		
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）		2		2	◇	教育心理学	2	
		臨床発達心理学						3		
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		2	2		教育社会学	1		
	教育行政学	1								
	教育課程に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	4	2			◇	教育課程論（中等）	3	
		道徳及び特別活動に関する内容						道徳・特別活動論（中等）	3	
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）						教育方法・技術論（中等）	2	
	生徒指導及び教育相談に関する科目	生徒指導の理論及び方法	4	2			◇	生徒指導論	3	
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法						教育相談（学校カウンセリングを含む）	2	
	教育実習		5	1			◇	養護実習指導	4	
				4				養護実習	4	
	教職実践演習		2	2				教職実践演習（養護教諭）	4	

② 「教職に関する科目」の要件単位数 21 25

さらに「養護に関する科目」「教職に関する科目」から選択(①②以外) 7 ←上記①②の要件を充足することでクリアされます

第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	2				日本国憲法	2	2単位 選択必修
	体育	2		1			スポーツ実習Ⅰ	1	
				1			スポーツ実習Ⅱ	1	
	外国語コミュニケーション	2	2				運動の科学	1	
	情報機器の操作	2	1				英語コミュニケーションⅠ	1	
			1				情報処理演習Ⅰ	1	
③	「教免法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数	8	8				情報処理演習Ⅱ	1	

必要な単位数の総計 (①+②+③) 64 68

「教育実習受講資格」の見方
◇ すべて履修済であること

養護教諭一種免許状 4 回生（2011年度入学生）

この資格を取得するためには、

- ①「養護に関する科目」から33単位以上
- ②「教職に関する科目」から25単位以上
- ③「教免法施行規則第66条の6に定める科目」から8単位以上

↓
総計66単位以上（①+②+③）の単位を修得する必要があります。

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	基準 単 位 数	対応する開設授業科目					備 考
			資格取得要件			科目名	配当 年次	
			必修	必修 選択	選択 教育実習 資格			
養護に関する科目	衛生学及び公衆衛生学 （予防医学を含む）	4	2		◇	地域看護学概論	2	
			1			保健医療福祉システム論	4	
			1		◇	保健行動学	1	
	学校保健	2	2		◇	学校保健	2	
	養護概説	2	2		◇	養護概説	2	
	健康相談活動の理論及び方法	2	2			健康相談	4	
	栄養学（食品学を含む）	2	1		◇	食と栄養	1	
			1		◇	生命活動と代謝	1	
	解剖学及び生理学	2	2		◇	人体構造・機能学Ⅰ	1	
			2		◇	人体構造・機能学Ⅱ	1	
	「微生物、免疫学、薬理概論」	2	2		◇	感染・免疫学	1	
			2		◇	薬と健康	2	
	精神保健	2	2		◇	精神保健学	1	
	看護学（臨床実習及び救急処置を含む）	10	2		◇	看護学原論	1	
			1		◇	看護技術基礎論	1	
			2		◇	療養生活援助技術	1	
			1		◇	診療過程援助技術	2	
			1		◇	フィジカルアセスメント	1	
			2		◇	基礎看護学実習	1	
1				◇	急性期看護学援助論Ⅰ	2		
1				◇	急性期看護学援助論Ⅱ	3		
「養護に関する科目」の要件単位数		28	33					

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目		基準 単 位 数	対応する開設授業科目							備 考
				資格取得要件			教育 実習 資格	科目名	配当 年次		
				必修	必修 選択	選択					
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	2			◇	教職概論	2	いずれか 選択必修	
		教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）									
		進路選択に資する各種の機会の提供等									
	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	4	2		◇	教育原理	2			
				2		教育史	1				
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）		2		◇	教育心理学	2			
				2		臨床発達心理学	3				
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		2		教育社会学	1				
	教育課程に関する科目		2		教育行政学	1	◇	教育課程論（中等）	3		
		教育課程の意義及び編成の方法	2		道徳・特別活動論（中等）	3					
		道徳及び特別活動に関する内容	2		教育方法・技術論（中等）	2					
	生徒指導及び教育相談に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）	4	2			生徒指導論	3			
		生徒指導の理論及び方法		2		◇	教育相談（学校カウンセリングを含む）	2			
	教育実習	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法	5	1		◇	養護実習指導	4			
				4		養護実習	4				
教職実践演習		2	2			教職実践演習（養護教諭）	4				
「教職に関する科目」の要件単位数			21	25							

さらに「養護に関する科目」「教職に関する科目」から選択(①②以外)	7	←上記①②の要件を充足することでクリアされます
-----------------------------------	---	-------------------------

第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	2			日本国憲法	2	2単位 選択必修
	体育	2		1	2	スポーツ実習Ⅰ	1	
						スポーツ実習Ⅱ	1	
						運動の科学	1	
	外国語コミュニケーション	2	2			英語コミュニケーションⅠ	1	
	情報機器の操作	2	2			情報処理演習Ⅰ	1	
「教免法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数		8	8					

必要な単位数の総計（①+②+③）	64	66
------------------	----	----

「教育実習受講資格」の見方
◇ すべて履修済であること

健康科学部 健康栄養学科

管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な科目一覧

健康栄養学科の専門基礎科目・専門科目のほとんどが管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な必修科目となっています。ということは、指定された必修科目のうち1つでも単位を修得できなければ、国家試験受験資格が取得できないことになります。詳細はカリキュラム（P.127～142）をご覧ください。

栄養士免許取得に必要な科目一覧

健康栄養学科の専門基礎科目・専門科目のうち、指定された科目の単位を修得すれば「栄養士免許」が取得できます。詳細はカリキュラム（P.127～142）をご覧ください。

▶トピックス◀

管理栄養士国家試験とは

管理栄養士国家試験は毎年3月に行われ、5月に合格が発表されます。試験は午前105問（2時間40分）、午後95問（2時間25分）で行われ、配点は1問1点です。正答率60%が合格基準なので、120点以上の者が合格ということになります。つまり問題が易しければ合格率が上がり、難しければ下がるということになります。

分野別の設問数は下表の通りですが、広い分野にわたって相当の受験準備が必要です。しかし、この配分は毎年変わらないので、早くから学修を積み重ねることで合格を確実にすることができます。

管理栄養士国家試験出題科目

	分野	出題数	試験時間
午前	社会・環境と健康	20	105 2時間40分
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	30	
	食べ物と健康	25	
	基礎栄養学	14	
	応用栄養学	16	
午後	栄養教育論	15	95 2時間25分
	臨床栄養学	30	
	公衆栄養学	20	
	給食経営管理論	20	
	応用力試験	10	
合計		200	

管理栄養士国家試験合格状況

実施回数（年度）	本学				全国			
	合格者数 / 受験者数（合格率）				合格者数 / 受験者数（合格率）			
第27回（2013年：7期生）	77	/	85	（90.6%）	7,885	/	20,455	（38.5%）
第26回（2012年：6期生）	68	/	68	（100.0%）	10,480	/	21,268	（49.3%）
第25回（2011年：5期生）	52	/	60	（86.7%）	8,067	/	19,923	（40.5%）
第24回（2010年：4期生）	60	/	65	（92.3%）	8,058	/	25,047	（32.2%）

※第25回は東日本大震災の発生に伴う7月追加実施試験を含みず。

フードスペシャリスト

フードスペシャリストとして必要とされる下表の科目の単位を修得（履修中を含む）すれば受験資格が取得でき、3回生の12月に実施される社団法人日本フードスペシャリスト協会の認定試験を受験することができます。

フードスペシャリスト 1回生（2014年度入学生）

この資格を取得するためには、以下の科目の単位をすべて修得する必要があります。

区 分	単位数	対応する授業科目名			
		資格取得要件		科目名	配年次
		必修	選択		
フードスペシャリスト論	2	2		食文化論	1
食品の官能評価・鑑別論	2	2		給食経営管理論Ⅰ	1
		1		調理科学実験	2
食物学に関する科目	5	2		食品学総論	1
		2		食品機能論	2
		1		食品設計開発学実習	3
食品の安全性に関する科目	2	2		食品衛生学	2
調理学に関する科目	4	2		調理学	1
		1		調理学実習Ⅰ	1
		1		調理学実習Ⅱ	1
栄養と健康に関する科目	2	2		基礎栄養学Ⅰ	2
		2		基礎栄養学Ⅱ	2
食品流通・消費に関する科目	2	2		フードシステム経済学	2
		2		給食経営管理論Ⅱ	2
フードコーディネイト論	2	2		フードコーディネイト論	3
必要な単位数の総計	21	26			

フードスペシャリスト 2～4回生（2011～2013年度入学生）

この資格を取得するためには、以下の科目の単位をすべて修得する必要があります。

区 分	協 会 指 定 単 位 数	対応する授業科目名		
		資格取得要件		配 当 年 次
		必 修	選 択	科 目 名
フードスペシャリスト論	2	2		食文化論 2
食品の官能評価・鑑別論	2	2		給食経営管理論Ⅰ 2
		1		調理科学実験 2
食物学に関する科目	5	2		食品学総論 1
		2		食品機能論 1
		2		食品設計開発学演習 2
食品の安全性に関する科目	2	2		食品衛生学 2
調理学に関する科目	4	2		調理学 2※
		2		調理学実習Ⅰ 1
		2		調理学実習Ⅱ 1
栄養と健康に関する科目	2	2		基礎栄養学Ⅰ 2
		2		基礎栄養学Ⅱ 2
食品流通・消費に関する科目	2	2		フードシステム経済学 3
		2		給食経営管理論Ⅱ 2
フードコーディネイト論	2	2		フードコーディネイト論 3
必要な単位数の総計	21	29		

※2013年度入学生は1回生配当

栄養教諭一種免許状

健康栄養学科に所属し、管理栄養士養成課程を修了し、かつ栄養士免許を取得した者で、教育職員免許法、同施行規則に規定する下表の科目及び単位数を修得した者は、栄養教諭一種免許状を取得できます。

※詳細は次頁より

栄養教諭一種免許状 1 回生（2014年度入学生）

- この資格を取得するためには、
- ①「栄養に係る教育に関する科目」から4単位以上
 - ②「教職に関する科目」から22単位以上
 - ③「教免法施行規則第66条の6に定める科目」から8単位以上

↓
総計34単位以上（①+②+③）の単位を修得する必要があります。

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	基準 単 位 数	対応する開設授業科目					備 考		
			資格取得要件		受講資格	科目名	配当 年次			
栄養に係る教育に関する科目	栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項	2	2			◇	栄養教諭論	3		
	幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項									
	食生活に関する歴史的及び文化的事項	2	2				◇	食に関する指導論		3
	食に関する指導の方法に関する事項									

①「栄養に係る教育に関する科目」の要件単位数 4 4

教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	2	◇	教職概論	2	
		教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）						
		進路選択に資する各種の機会の提供等						
	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	2			教育原理	2	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）		2		教育史	1	
				2		教育心理学	2	
				2		教育法制論	1	
	教育課程に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	2		◇	教育課程論（中等）	3	
		道徳及び特別活動に関する内容	4	2		道徳・特別活動論（中等）	3	
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）	2			教育方法・技術論（中等）	2	
	生徒指導及び教育相談に関する科目	生徒指導の理論及び方法	4	2		◇	生徒指導論	3
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法		2		◇	教育相談（学校カウンセリングを含む）	2
	教育実習		2	2			栄養教育実習	4
	教職実践演習		2	2			教職実践演習（栄養教諭）	4

事前事後指導含む						
----------	--	--	--	--	--	--

②「教職に関する科目」の要件単位数 18 22

第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	2			日本国憲法	2	2単位 選択必修
	体育	2		1 1 2		スポーツ実習Ⅰ	1	
						スポーツ実習Ⅱ	1	
						運動の科学	1	
	外国語コミュニケーション	2	2			英語コミュニケーションⅠ	1	
	情報機器の操作	2	1 1			情報処理演習Ⅰ	1	
						情報処理演習Ⅱ	1	

③「教免法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数 8 8

必要な単位数の総計（①+②+③）	30	34
------------------	----	----

「教育実習受講資格」の見方 ◇ すべて履修済であること

栄養教諭一種免許状 2・3 回生 (2012・2013年度入学生)

この資格を取得するためには、

- 「栄養に係る教育に関する科目」から4単位以上
- 「教職に関する科目」から22単位以上
- 「教免法施行規則第66条の6に定める科目」から8単位以上

↓
 総計34単位以上 (①+②+③) の単位を修得する必要があります。

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	基準 単 位 数	対応する開設授業科目					備 考	
			資格取得要件		受 教 育 実 習	科目名	配当 年次		
			必 修	必 選 修	選 択				
栄養に係る科目	栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項	2	2			◇	栄養教諭論	3	
	幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項								
	食生活に関する歴史的及び文化的事項	2	2			◇	食に関する指導論	3	
	食に関する指導の方法に関する事項								
「栄養に係る教育に関する科目」の要件単位数		4	4						

教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	2	◇	教職概論	2	いずれか 選択必修	
		教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）							
		進路選択に資する各種の機会の提供等							
	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	4	2	2	教育原理	2		
		教育史				1			
		教育心理学				2			
		臨床発達心理学				3			
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項				2 2	教育社会学		1
	教育課程に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	4	2	2	◇	教育課程論（中等）		3
		道徳及び特別活動に関する内容					道徳・特別活動論（中等）		3
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）					2		教育方法・技術論（中等）
	生徒指導及び教育相談に関する科目	生徒指導の理論及び方法	4	2		◇	生徒指導論		3
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法					◇		教育相談（学校カウンセリングを含む）
	教育実習	2	2				栄養教育実習		4
	教職実践演習	2	2				教職実践演習（栄養教諭）		4
「教職に関する科目」の要件単位数			18	22					

教免法施行規則第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	2			日本国憲法	2	2単位 選択必修
	体育	2		1		スポーツ実習Ⅰ	1	
				1		スポーツ実習Ⅱ	1	
			2		運動の科学	1		
	外国語コミュニケーション	2	2			英語コミュニケーションⅠ	1	
	情報機器の操作	2		1		情報処理演習Ⅰ	1	
			1		情報処理演習Ⅱ	1		
「教免法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数		8	8					

必要な単位数の総計 (①+②+③)	30	34
-------------------	----	----

「教育実習受講資格」の見方 ◇ すべて履修済であること

栄養教諭一種免許状
 4 回生（2011年度入学生）

- この資格を取得するためには、
- ①「栄養に係る教育に関する科目」から4単位以上
 ②「教職に関する科目」から22単位以上
 ③「教免法施行規則第66条の6に定める科目」から8単位以上

総計34単位以上（①+②+③）の単位を修得する必要があります。

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	基準 単 位 数	対応する開設授業科目					備 考
			資格取得要件		受教育 講習	科目名	配当 年次	
			必修	必修 選択	選択			
栄養に係る教育に関する科目	栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項	2	2			◇	栄養教諭論	3
	幼児・児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項							
	食生活に関する歴史的及び文化的事項	2	2			◇	食に関する指導論	3
	食に関する指導の方法に関する事項							
①	「栄養に係る教育に関する科目」の要件単位数	4	4					

教職に関する科目	教 職 の 意 義 等 に 関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	2		◇	教職概論	2	いずれか 選択必修
		教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）							
		進路選択に資する各種の機会の提供等							
	教 育 の 基 礎 理 論 に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	4	2		2	教育原理	2	
							教育史	1	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）					教育心理学	2	
							臨床発達心理学	3	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項					教育社会学	1	
	教 育 課 程 に 関 する 科目						教育行政学	1	
		教育課程の意義及び編成の方法					教育課程論（中等）	3	
		道德及び特別活動に関する内容					道德・特別活動論（中等）	3	
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）					教育方法・技術論（中等）	2	
	生 徒 指 導 及 び 教 育 相 談 に 関 する 科目	生徒指導の理論及び方法	4	2		◇	生徒指導論	3	
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法					教育相談（学校カウンセリングを含む）	2	
	教 育 実 習		2	2			栄養教育実習	4	事前事後指導含む
	教 職 実 践 演 習		2	2			教職実践演習（栄養教諭）	4	
②	「教職に関する科目」の要件単位数	18	22						

第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	2				日本国憲法	2	2単位 選択必修
	体育			1			スポーツ実習Ⅰ	1	
				1			スポーツ実習Ⅱ	1	
				2			運動の科学	1	
	外国語コミュニケーション	2	2				英語コミュニケーションⅠ	1	
③	情報機器の操作	2	2				情報処理演習Ⅰ	1	
	「教免法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数	8	8						

必要な単位数の総計（①+②+③）	30	34
------------------	----	----

「教育実習受講資格」の見方
 ◇ すべて履修済であること

健康科学部 人間環境デザイン学科

一級建築士・二級建築士受験資格

「建築・まちづくりコース」において、建築士法施行規則に基づき資格に必要な下表の要件を充足すれば、卒業と同時に二級建築士の受験資格、実務経験2年を経て、一級建築士の受験資格が取得できます。

一級建築士・二級建築士受験資格（建築・まちづくりコース）

1・2 回生(2013・2014年度入学生)

この資格を取得するためには、以下の要件をすべて充足させる必要があります。

建築士法施行規則指定科目の分類 (単位数)		対応する開設授業科目			
二級	一級 実務経験：2年以上	必修	選択	科目名	配当年次
①建築設計製図 実務 0～2年 5単位以上 実務 3～5年 3単位以上	①建築設計製図 7単位以上	2		建築設計演習Ⅰ	2
		2		建築設計演習Ⅱ	2
			2	建築CADⅠ	2
			2	インテリアデザイン演習Ⅰ	2
		2		建築設計演習Ⅲ	3
		2		建築設計演習Ⅳ	3
②～④建築計画、建築環境工学又は建築設備 実務 0～2年 7単位以上 実務 3～5年 2単位以上	②建築計画 7単位以上	2		住環境計画Ⅰ	1
		2		住環境計画Ⅱ	2
		2		景観・まちづくり演習	1
		2		建築学概論	1
			2	住生活史	2(※1)
			2	日本建築史	2
			2	西洋・東洋建築史	2
			2	福祉のまちづくり（地域計画論）	3
	③建築環境工学 2単位以上	2		建築環境工学	3
	④建築設備 2単位以上	2		建築設備学演習	3
⑤～⑦構造力学、建築一般構造又は建築材料 実務：0～2年 6単位以上 実務：3～5年 3単位以上	⑤構造力学 4単位以上	2		構造力学Ⅰ	1
		2		構造力学Ⅱ	2
	⑥建築一般構造 3単位以上	2		建築一般構造Ⅰ	2
		2		建築一般構造Ⅱ	3
	⑦建築材料 2単位		2	生活環境素材論	1
		2		建築材料学	3
		2		建築材料実験	3
⑧建築生産 1単位以上	⑧建築生産 2単位以上	2		建築施工	4
⑨建築法規 1単位以上	⑨建築法規 1単位以上	2		建築法規	4
①～⑨計 実務：0～2年 20単位以上 実務：3～5年 10単位以上	①～⑨計 30単位以上				

建築士法施行規則指定科目の分類 (単位数)		対応する開設授業科目			
二級	一級 実務経験：2年以上	必修	選択	科目名	配当年次
⑩その他	⑩その他	2		建築図学	1
		2		立体表現 I	1
		2		人間工学	1
		2		環境心理学	2 (※2)
		2		インテリアデザイン	2
		2		人間工学実験	2
		2		ユニバーサルデザイン (環境)	3
		2		建築CAD II	3
		2		測量実習	3
		2		色彩論 I	1
		2		色彩論 II	2
①～⑨+⑩ 実務：0年 40単位以上 実務：1年 30単位以上 実務：2年 20単位以上	①～⑨+⑩ 60単位以上				

※1 2012年度入学生は1回生配当

※2 2014年度入学生は3回生配当

一級建築士・二級建築士受験資格（建築・まちづくりコース）
3 回生(2012年度入学生)

この資格を取得するためには、以下の要件をすべて充足させる必要があります。

建築士法施行規則指定科目の分類 (単位数)		対応する開設授業科目			
二級	一級 実務経験：2年以上	必修	選択	科目名	配当年次
①建築設計製図 実務 0～2 年 5 単位以上 実務 3～5 年 3 単位以上	①建築設計製図 7 単位以上	2		建築設計演習Ⅰ	2
		2		建築設計演習Ⅱ	2
			2	建築CADⅠ	2
			2	インテリアデザイン演習Ⅰ	2
		2		建築設計演習Ⅲ	3
		2		建築設計演習Ⅳ	3
②～④建築計画、建築環境工学又は建築設備 実務 0～2 年 7 単位以上 実務 3～5 年 2 単位以上	②建築計画 7 単位以上	2		住環境計画Ⅰ	1
		2		住環境計画Ⅱ	2
		2		景観・まちづくり演習	1
		2		建築学概論	1
			2	住生活史	2(※1)
		2		日本建築史	2
		2		西洋・東洋建築史	2
		2		福祉のまちづくり（地域計画論）	3
	③建築環境工学 2 単位以上	2		建築環境工学	3
	④建築設備 2 単位以上		2	人体感覚計測実験	3
		2		建築設備学演習	3
⑤～⑦構造力学、建築一般構造又は建築材料 実務：0～2 年 6 単位以上 実務：3～5 年 3 単位以上	⑤構造力学 4 単位以上	2		構造力学Ⅰ	1
		2		構造力学Ⅱ	2
	⑥建築一般構造 3 単位以上	2		建築一般構造Ⅰ	2
		2		建築一般構造Ⅱ	3
	⑦建築材料 2 単位		2	生活環境素材論	1
		2		建築材料学	3
		2		建築材料実験	3
⑧建築生産 1 単位以上	⑧建築生産 2 単位以上	2		建築施工	4
⑨建築法規 1 単位以上	⑨建築法規 1 単位以上	2		建築法規	4
①～⑨計 実務：0～2 年 20 単位以上 実務：3～5 年 10 単位以上	①～⑨計 30 単位以上				

建築士法施行規則指定科目の分類 (単位数)		対応する開設授業科目			
二級	一級 実務経験：2年以上	必修	選択	科目名	配当 年次
⑩その他	⑩その他	2		建築図学	1
		2		立体表現 I	1
		2		人間工学	1
		2		環境心理学	2 (※2)
		2		インテリアデザイン	2
		2		人間工学実験	2
		2		ユニバーサルデザイン (環境)	3
		2		建築CAD II	3
		2		測量実習	3
		2		色彩論 I	1
			2	色彩論 II	2
①～⑨+⑩ 実務：0年 40単位以上 実務：1年 30単位以上 実務：2年 20単位以上	①～⑨+⑩ 60単位以上				

※1 2012年度入学生は1回生配当

※2 2014年度入学生は3回生配当

一級建築士・二級建築士受験資格（建築・まちづくりコース）
4 回生(2011年度入学生)

この資格を取得するためには、以下の要件をすべて充足させる必要があります。

建築士法施行規則指定科目の分類 (単位数)		対応する開設授業科目			
二級	一級 実務経験：2年以上	必修	選択	科目名	配当年次
①建築設計製図 実務 0～2 年 5 単位以上 実務 3～5 年 3 単位以上	①建築設計製図 7 単位以上	2		住環境設計製図Ⅰ	2
		2		住環境設計製図Ⅱ	2
			2	住環境CADⅠ	2
			2	インテリアデザイン演習Ⅰ	2
		2		建築設計製図Ⅰ	3
		2		建築設計製図Ⅱ	3
②～④建築計画、建築環境工学又は建築設備 実務 0～2 年 7 単位以上 実務 3～5 年 2 単位以上	②建築計画 7 単位以上	2		住環境計画Ⅰ	1
		2		住環境計画Ⅱ	2
		2		景観・まちづくり演習	1
		2		建築学概論	1
			2	住生活史	1
			2	健康と住生活	1
			2	日本建築史	2
			2	西洋・東洋建築史	2
			2	福祉のまちづくり（地域計画論）	3
	③建築環境工学 2 単位以上	2		住環境工学演習	3
			2	人体感覚計測実験	3
	④建築設備 2 単位以上	2		建築設備学演習	3
⑤～⑦構造力学、建築一般構造又は建築材料 実務：0～2 年 6 単位以上 実務：3～5 年 3 単位以上	⑤構造力学 4 単位以上	2		力の流れと安全Ⅰ	1
		2		力の流れと安全Ⅱ	2
	⑥建築一般構造 3 単位以上	2		構造のデザインⅠ	2
		2		構造のデザインⅡ	3
	⑦建築材料 2 単位		2	生活環境素材論	1
		2		建築材料学 建築材料実験	3
⑧建築生産 1 単位以上	⑧建築生産 2 単位以上	2		建築の工法・生産	4
⑨建築法規 1 単位以上	⑨建築法規 1 単位以上	2		環境づくりと法律	4
①～⑨計 実務：0～2 年 20 単位以上 実務：3～5 年 10 単位以上	①～⑨計 30 単位以上				

建築士法施行規則指定科目の分類 (単位数)		対応する開設授業科目			
二級	一級 実務経験：2年以上	必修	選択	科目名	配当年次
⑩その他	⑩その他	2		建築図学	1
			2	立体表現 I	1
		2		人間工学	1
			2	環境心理学	2
			2	インテリアデザイン	2
			2	人間工学実験	2
			2	ユニバーサルデザイン（環境）	3
			2	住環境CAD II	3
		2		測量実習	3
		2		色彩論 I	1
			2	色彩論 II	2
①～⑨+⑩ 実務：0年 40単位以上 実務：1年 30単位以上 実務：2年 20単位以上	①～⑨+⑩ 60単位以上				

インテリアプランナー登録資格

「インテリアデザインコース」において、インテリアプランナー資格制度要綱に基づき認定された下表の要件を充足することでインテリアプランナー試験合格後に、インテリアプランナーとして登録できる資格を得ることができます。

インテリアプランナー登録資格(インテリアデザインコース) 1～3回生(2012～2014年度入学生)

この資格を取得するためには、

- ① A「インテリア関連科目」から12単位以上
- ② B「インテリアデザイン専門科目」から24単位以上



総計36単位以上（①+②）の単位を修得する必要があります。

区分	科目の種類		資格要件取得	単位数	科目名	配当年次
A インテリア関連科目	美術基礎	意匠	① 12	2	文化芸術論	1
		基本技法		2	デッサンⅠ	1
				2	デッサンⅡ	1
				2	建築図学	1
				2	立体表現Ⅰ	1
				2	立体表現Ⅱ	1
				2	コンピュータグラフィック	2
				2	ユニバーサルデザイン（環境）	3
	2			ユニバーサルデザイン（プロダクト）	4	
	デザイン基礎	歴史		2	住生活史	1
				2	日本建築史	2
				2	西洋・東洋建築史	2
				2	ユニバーサルデザイン	1
	生活			2	景観・まちづくり演習	1
		2	住生活論	1		
B インテリアデザイン専門科目	インテリア（建築）計画	計画・基礎概論	2	建築学概論	1	
			2	インテリアデザイン	2	
		人間工学	2	人間工学	1	
			2	人間工学実験	2	
		室内環境	2	建築環境工学	3	
			2	建築設備学演習	3	
		設備設計	2	構造力学Ⅰ	1	
			2	構造力学Ⅱ	2	
		防災・安全計画	2	環境心理学	2※	
			2	色彩心理学	2	
		インテリア演出計画	2	認知心理学	2	
			2	色彩論Ⅰ	1	
		2	色彩論Ⅱ	2		

区分	科目の種類		資格 要件 取得	単 位 数	科目名	配当 年次
B インテリアデザイン専門科目	インテリア (建築)の装飾・ 施行	材料	② 24	2	生活環境素材論	1
		構法		2	建築材料学	3
				2	建築一般構造Ⅰ	2
		施行		2	建築一般構造Ⅱ	3
	エレメント	2		建築施工	4	
		2		インテリア商品と販売知識	2	
	インテリア（建築）法規			2	福祉機器論	2
	インテリア（建 築）設計〔講義〕	製図技法		2	建築法規	4
				2	建築CADⅠ	2
		計画～管理全般		2	建築CADⅡ	3
				2	住環境計画Ⅰ	1
		各種インテリア		2	住環境計画Ⅱ	2
	2			インテリアデザイン演習Ⅰ	2	
	インテリア（建築）設計〔実技〕			2	インテリアデザイン演習Ⅱ	3
				2	建築設計演習Ⅰ	2
				2	建築設計演習Ⅱ	2
必要な単位数の総計（①＋②）			36			

※2014年度入学生は3回生配当

インテリアプランナー登録資格(インテリアデザインコース) 4 回生(2011年度入学生)

この資格を取得するためには、

- ① A「インテリア関連科目」から12単位以上
- ② B「インテリアデザイン専門科目」から24単位以上



総計36単位以上 (①+②) の単位を修得する必要があります。

区分	科目の種類		資格 要件 取得	単 位 数	科目名	配当 年次
A インテリア関連科目	美術基礎	意匠	① 12	2	くらしと美術	2
		基本技法		2	デッサンⅠ	1
				2	デッサンⅡ	1
				2	建築図学	1
				2	立体表現Ⅰ	1
				2	立体表現Ⅱ	1
				2	コンピュータグラフィック	2
				2	ユニバーサルデザイン（環境）	3
	関連デザイン			2	ユニバーサルデザイン（プロダクト）	4
	デザイン 基礎	歴史		2	住生活史	1
				2	日本建築史	2
		2		西洋・東洋建築史	2	
	生活			2	ユニバーサルデザイン	1
				2	景観・まちづくり演習	1
				2	健康と住生活	1
B インテリアデザイン専門科目	インテリア （建築）計画	計画・基礎概論	② 24	2	建築学概論	1
		人間工学		2	インテリアデザイン	2
				2	人間工学	1
				2	人間工学実験	2
				2	住環境工学演習	3
				2	建築設備学演習	3
		防災・安全計画		2	力の流れと安全Ⅰ	1
				2	力の流れと安全Ⅱ	2
				2	環境心理学	2
				2	色彩心理学	2
	2			認知心理学	2	
	インテリア （建築）の装飾・ 施行	インテリア 演出計画		2	色彩論Ⅰ	1
				2	色彩論Ⅱ	2
				2	生活環境素材論	1
				2	建築材料学	3
		材料		2	構造のデザインⅠ	2
				2	構造のデザインⅡ	3
				2	建築の工法・生産	4
2			インテリア商品と販売知識	2		
エレメント			2	福祉機器論	2	

区分	科目の種類		資格 要件 取得	単 位 数	科目名	配当 年次
B インテリアデザイン 専門科目	インテリア（建築）法規		② 24	2	環境づくりと法律	4
	インテリア（建築）設計〔講義〕	製図技法		2	住環境CADⅠ	2
				2	住環境CADⅡ	3
		計画～管理全般		2	住環境計画Ⅰ	1
				2	住環境計画Ⅱ	2
		各種インテリア		2	インテリアデザイン演習Ⅰ	2
				2	インテリアデザイン演習Ⅱ	3
	インテリア（建築）設計〔実技〕			2	住環境設計製図Ⅰ	2
				2	住環境設計製図Ⅱ	2
必要な単位数の総計（①＋②）			36			

認定心理士

人間環境デザイン学科において、以下の表の学会指定基準単位を充足した者は、社団法人日本心理学会に認定心理士の資格審査を申請できます。

認定心理士 1 回生 (2014年度入学生)

この資格を取得するためには、

- ① a～c領域から12単位以上 (ただしab各領域から4単位以上、c領域から3単位以上を含む)
- ② d～h領域から16単位以上 (ただし3領域×各4単位の12単位以上を含む)
- ③ 上記①②以外にd～h領域から8単位以上



総計36単位以上 (①+②+③) の単位を修得する必要があります。

学会で定められる領域等			対応する開設授業科目			
領域	基準 単位数	単位数 を 認め られ る 認 定	数上本 の学 単課 位程	科目名	配当 年次	
【基礎科目】 ab各領域 4 単位以上、 c領域 3 単位以上で a～c 領域の合計12単位以上						
a	心理学概論	4	2	2	心理学概論	1
			1	2	臨床心理学概論 (E)	1
			2	2	教育心理学 ※	2
			2	2	デザインのための心理学	2
b	心理学研究法	4	2	2	心理学研究法 (E)	2
			2	2	心理統計学 (E)	2
c	心理学実験・実習	3	2	2	心理学基礎実験 (E)	2
			1	2	心理検査法実習 (E)	3
a～c 3 領域から		1				
a～c 領域の合計		12				

【選択科目】 d～hの内3領域以上で各4単位以上の12単位以上、かつ5領域の合計16単位以上						
d	知覚心理学・学習心理学	3 領域 各 4 ↓ 12	1	2	人間工学	1
			2	2	認知心理学	2
			1	2	色彩心理学	2
			2	2	学習心理学 (E)	2
e	生理心理学・比較心理学		1	2	発達脳科学 (E)	3
			2	2	児童心理学	1
f	教育心理学・発達心理学		2	2	高齢者心理学	1
			2	2	発達心理学 (E)	2
			1	2	精神保健学	1
g	臨床心理学・人格心理学		2	2	障害者心理学	1
			2	2	人格心理学 (E)	2
			2	2	教育相談 ※	3
h	社会心理学・産業心理学	1	2	人間関係論	2	
		2	2	環境心理学	3	
		2	2	社会心理学 (E)	3	
		2	2	家族心理学 (E)	3	
d～h 5 領域から		4				
d～h領域の合計		16				

学会で定められる領域等			対応する開設授業科目		
領域	基準 単位数	単位数 学会で 認めら れる認	数上本 の学 単課 位程	科目名	配当 年次
その他の科目		4	4	卒業研究 (心理学関連科目を担当する教員の指導による 心理学に関連するテーマが必要)	4

③ 上記①②以外にd～h領域から 8

必要な単位数の総計 (①+②+③) 36

注1) 科目名の(E)は教育学部開講科目を示します。

注2) 「本学課程上の単位数」と「学会で認められる単位数」とが異なる科目がありますので、注意してください。

たとえば「臨床心理学概論」は本学では2単位の科目ですが、学会では1単位の科目として扱われます。

注3) ※印のついている科目は卒業要件単位に含まれません。

●認定心理士資格の取得を目指す学生へ

登録申請時に以下の情報が必要になりますので、必ず把握しておいてください。

(1) 各科目を履修した年度のシラバス

(2) 各科目を履修した年度の担当教員名及び職階(教授、准教授、講師など)

認定心理士 2・3回生（2012・2013年度入学生）

この資格を取得するためには、

- ① a～c領域から12単位以上（ただしab各領域から4単位以上、c領域から3単位以上を含む）
- ② d～h領域から16単位以上（ただし3領域×各4単位の12単位以上を含む）
- ③ 上記①②以外にa～h領域から8単位以上



総計36単位以上（①+②+③）の単位を修得する必要があります。

学会で定められる領域等			対応する開設授業科目		
領域	基準 単位数	単位数 を認 める	数上 本の 学課 位程	科目名	配当 年次
【基礎科目】 ab各領域 4 単位以上、 c領域 3 単位以上で a～c 領域の合計12単位以上					
a	4	2	2	心理学概論	1
		2	2	教育心理学 ※	2
		2	2	デザインのための心理学	2
b	4	2	2	心理学研究法 I (E)	2
		2	2	心理学研究法Ⅱ (E)	2
		2	2	心理統計学 (E)	2
c	3	2	2	心理学基礎実験 (E)	2
		2	2	心理学実験 (E)	2
		1	2	心理検査法実習 (E)	3
a～c 3 領域から		1			
a～c 領域の合計		12			

【選択科目】 d～hの内 3 領域以上で各 4 単位以上の12単位以上、かつ 5 領域の合計16単位以上						
d	知覚心理学・学習心理学	3 領域 各 4 ↓ 12	1	2	人間工学	1
			2	2	認知心理学	2
			1	2	色彩心理学	2
			2	2	学習心理学 (E)	2
e	生理心理学・比較心理学		1	2	発達脳科学 (E)	3
			2	2	児童心理学	2
			2	2	高齢者心理学	2
f	教育心理学・発達心理学		2	2	発達心理学 (E)	2
			2	2	学校心理学 (E)	4
			2	2	臨床発達心理学 ※	3
			1	2	精神保健学	1
g	臨床心理学・人格心理学		2	2	障害者心理学	1
			2	2	人格心理学 (E)	2
			2	2	教育相談 ※	3
			1	2	人間関係論	2
			2	2	環境心理学	2
h	社会心理学・産業心理学		2	2	社会心理学 (E)	3
			2	2	家族心理学 (E)	3
			2	2	コミュニケーション心理学 (E)	3
d～h 5 領域から		4				
d～h 領域の合計		16				

学会で定められる領域等			対応する開設授業科目		
領域	基準 単位数	単位数 学会で 認めら れる認	数上本 の学 単課 位程	科目名	配当 年次
その他の科目		4	4	卒業研究 (心理学関連科目を担当する教員の指導による 心理学に関連するテーマが必要)	4
		2	2	社会心理学調査演習 (マーケティングリサーチ) (E)	3

③ 上記①②以外にa～h領域から 8

必要な単位数の総計 (①+②+③) 36

注 1) 科目名の(E)は教育学部開講科目を示します。

注 2) 「本学課程上の単位数」と「学会で認められる単位数」とが異なる科目がありますので、注意してください。

たとえば「心理検査法演習」は本学では 2 単位の科目ですが、学会では 1 単位の科目として扱われます。

注 3) ※印のついている科目は卒業要件単位に含まれません。

● 認定心理士資格の取得を目指す学生へ

登録申請時に以下の情報が必要になりますので、必ず把握しておいてください。

(1) 各科目を履修した年度のシラバス

(2) 各科目を履修した年度の担当教員名及び職階 (教授、准教授、講師など)

認定心理士 4 回生 (2011年度入学生)

この資格を取得するためには、

- ① a～c領域から12単位以上 (ただしab各領域から4単位以上、c領域から3単位以上を含む)
- ② d～h領域から16単位以上 (ただし3領域×各4単位の12単位以上を含む)
- ③ 上記①②以外にa～h領域から8単位以上



総計36単位以上 (①+②+③) の単位を修得する必要があります。

学会で定められる領域等			対応する開設授業科目				
領域		基準 単位 数	単 位 数	学 会 で 認 め ら れ る	数 上 本 の 学 単 課 位 程	科目名	配 当 年 次
【基礎科目】 ab各領域 4 単位以上、c領域 3 単位以上でa～c領域の合計12単位以上							
a	心理学概論	4	2	2	心理学入門Ⅰ	1	
			2	2	心理学入門Ⅱ	1	
			2	2	教育心理学 ※	2	
			2	2	デザインのための心理学	2	
b	心理学研究法	4	2	2	心理学研究法Ⅰ (E)	2	
			2	2	心理学研究法Ⅱ (E)	2	
			2	2	心理統計学 (E)	2	
c	心理学実験・実習	3	2	2	心理学基礎実験 (E)	2	
			2	2	心理学実験 (E)	2	
			1	2	心理検査法実習 (E)	3	
a～c 3 領域から		1					
a～c領域の合計		12					

【選択科目】 d～hの内 3 領域以上で各 4 単位以上の12単位以上、かつ 5 領域の合計16単位以上						
d	知覚心理学・学習心理学	3 領域 各 4 ↓ 12	1	2	人間工学	1
			2	2	認知心理学	2
			1	2	色彩心理学	2
			2	2	学習心理学 (E)	2
e	生理心理学・比較心理学		1	2	発達脳科学 (E)	3
			2	2	児童心理学	2
			2	2	高齢者心理学	2
f	教育心理学・発達心理学		2	2	発達心理学 (E)	2
			2	2	学校心理学 (E)	4
			2	2	臨床発達心理学 ※	3
			1	2	精神保健学	1
			2	2	障害者心理学	1
g	臨床心理学・人格心理学		2	2	人格心理学 (E)	2
			2	2	教育相談 ※	3
			2	2	人格と発達	2
			1	2	人間関係論	2
			2	2	環境心理学	2
h	社会心理学・産業心理学		2	2	社会心理学 (E)	3
			2	2	家族心理学 (E)	3
			2	2	コミュニケーション心理学 (E)	3
d～h 5 領域から		4				
d～h領域の合計		16				

学会で定められる領域等			対応する開設授業科目		
領域	基準 単位数	単位数 学会で 認めら れる認	数上本 の学 単課 位程	科目名	配当 年次
その他の科目		4	4	卒業研究 (心理学関連科目を担当する教員の指導による 心理学に関連するテーマが必要)	4
		2	2	社会心理学調査演習 (マーケティングリサーチ) (E)	3

③ 上記①②以外にa～h領域から 8

必要な単位数の総計 (①+②+③) 36

注 1) 科目名の(E)は教育学部開講科目を示します。

注 2) 「本学課程上の単位数」と「学会で認められる単位数」とが異なる科目がありますので、注意してください。

たとえば「心理検査法演習」は本学では 2 単位の科目ですが、学会では 1 単位の科目として扱われます。

注 3) ※印のついている科目は卒業要件単位に含まれません。

● 認定心理士資格の取得を目指す学生へ

登録申請時に以下の情報が必要になりますので、必ず把握しておいてください。

(1) 各科目を履修した年度のシラバス

(2) 各科目を履修した年度の担当教員名及び職階 (教授、准教授、講師など)

中学校教諭一種免許状（家庭）・高等学校教諭一種免許状（家庭）

人間環境デザイン学科に所属し、教育職員免許法、同施行規則に規定する下表の要件を充足した者は、中学校教諭一種免許状（家庭）・高等学校教諭一種免許状（家庭）を取得できます。

中学校教諭一種免許状(家庭)・高等学校一種免許状(家庭) 1 回生(2014年度入学生)

この資格を取得するためには、

- ①「教科に関する科目」から20単位以上
- ②「教職に関する科目」から中学校は29単位以上、高等学校は25単位以上
- ③さらに「教科に関する科目」または「教職に関する科目」から①②以外に中学校は10単位以上、高等学校は14単位以上
- ④「教免法施行規則第66条の6に定める科目」から8単位以上

↓
総計67単位以上(①+②+③+④)の単位を修得する必要があります。

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	基準 単 位 数	対応する開設授業科目								備 考	
			資格取得要件						教育 実習 資格	科目名		年 次 配 当
			中			高						
			必修	必修 選択	選択	必修	必修 選択	選択				
教科に関する科目	家庭経営学（家族関係及び家庭経済学含む）	20	20	2		2			△	家庭経営学	3	高免のみ
					2			2	人間関係論	2		
	被服学（被服製作実習を含む）			2		2			△	アパレル構成論	1	
						2				アパレル構成実習Ⅰ	2	
						2		2		アパレル構成実習Ⅱ	2	
						2		2		ユニバーサルデザイン(ファッション)	4	
	食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む）					2		2		衣生活論	1	
						2		2	△	健康と食生活	3	
						2		2	△	調理実習	3	
	住居学（製図を含む）					2			△	住生活論	1	
						2		2		建築学概論	1	
						2		2		住環境計画Ⅰ	1	
						2		2		住環境計画Ⅱ	2	
	保育学（実習及び家庭看護を含む）					2			△	保育学	3	
	家庭電気・機械及び情報処理							2		△	家庭電気・機械	
「教科に関する科目」の要件単位数			20	20	20							

教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	2	2		2		◇	教職概論	2	
				2		2				
	教育の基礎理論に関する科目	6	2		2		◇	教育原理	2	
				2		2		教育史	1	
			2		2		◇	教育心理	2	
			2		2			教育法制論	3	

区 分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	基準 単 位 数	対応する開設授業科目										備 考
			資格取得要件					教育 実 習	科目名	年 次 配 当			
			中		高								
			必修	選択	必修	選択	必修						
教 職 に 関 る 科 目	教育課程及び指導法に関する科目	12	6	教育課程の意義及び編成の方法					◇	教育課程論（中等）	3		
				各教科の指導法					△	家庭科指導法Ⅰ	3		
									△	家庭科指導法Ⅱ	3		
									2	家庭科指導法Ⅲ	3		
									2	家庭科指導法Ⅳ	3		
				道徳の指導法					2	道徳指導法（中等）	3		
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4		特別活動の指導法					◇	特別活動指導法（中等）	3		
				教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）					2	教育方法・技術論（中等）	2		
				生徒指導の理論及び方法					◇	生徒・進路指導論（中等）	3		
				進路指導の理論及び方法					◇	教育相談 （学校カウンセリングを含む）	2		
	教育実習	5	3	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法					◇	家庭科教育実習指導	4		
									▲	家庭科教育実習（中）	4		
	教職実践演習	2							▲	家庭科教育実習（高）	4		
										教職実践演習（中・高）	4		
「教職に関する科目」の要件単位数			31	23	29		25						

③	さらに「教科に関する科目」「教職に関する科目」から選択(①②以外)	8	16	10	14									
---	-----------------------------------	---	----	----	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--

教 免 法 施 行 規 則 第 66 条 の 6 に 定 め る 科 目	日本国憲法	2	2		2		日本国憲法	2	2単位 選択必修	
	体育	2		1		1		スポーツ実習Ⅰ		1
				1		1		スポーツ実習Ⅱ		1
				2		2		運動の科学		1
	外国語コミュニケーション	2	2		2		英語コミュニケーションⅠ	1		
	情報機器の操作	2		1		1		情報処理演習Ⅰ		1
				1		1		情報処理演習Ⅱ		1
「教免法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数		8	8							

必要な単位数の総計（①+②+③+④）	67	67												
--------------------	----	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

「教育実習受講資格」の見方

- ◇ すべて履修済であること
- △ ここから8科目以上履修済であること
- ▲ 「家庭科教育実習事前指導」履修済であること

中学校教諭一種免許状(家庭)・高等学校一種免許状(家庭)
 2・3 回生(2012・2013年度入学生)

- この資格を取得するためには、
- ①「教科に関する科目」から20単位以上
 - ②「教職に関する科目」から中学校は29単位以上、高等学校は25単位以上
 - ③さらに「教科に関する科目」または「教職に関する科目」から①②以外に中学校は10単位以上、高等学校は14単位以上
 - ④「教免法施行規則第66条の6に定める科目」から8単位以上
- ↓
- 総計67単位以上(①+②+③+④)の単位を修得する必要があります。

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	基準 単 位 数	対応する開設授業科目										備 考
			資格取得要件						教育 実習 資格	科目名	年次 配当		
			中			高							
			必修	必修 選択	選択	必修	必修 選択	選択					
教科に関する科目	家庭経営学（家族関係及び家庭経済学を含む）	20	20	2			2			△	家庭経営学	3	高免のみ
					2			2			人間関係論	2	
	被服学（被服製作実習を含む）			2			2			△	アパレル構成論	1	
				2			2				アパレル構成実習Ⅰ	2	
					2			2			アパレル構成実習Ⅱ	2	
					2			2			ユニバーサルデザイン(ファッション)	4	
					2			2	△		衣生活論	1	
	食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む）			2			2			△	健康と食生活	3	
				2			2			△	調理実習	3	
				2			2			△	住生活論	1	
	住居学（製図を含む）					2			2		建築学概論	1	
						2			2		住環境計画Ⅰ	1	
						2			2		住環境計画Ⅱ	2	
	保育学（実習及び家庭看護を含む）			2			2			△	保育学	3	
	家庭電気・機械及び情報処理						2			△	家庭電気・機械	3	
「教科に関する科目」の要件単位数			20	20	20								

教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	2				◇	教職概論	2	いずれか 選択必修
		教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）									
		進路選択に資する各種の機会の提供等									
	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	2		2		◇	教育原理	2		
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む)	2		2		◇	教育心理学	2		
				2		2		臨床発達心理学	3		
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		2		2		教育社会学	1		
				2		2		教育行政学	1		

区 分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	基準 単 位 数	対応する開設授業科目										備 考
			資格取得要件					受 講 資 格	教育 実 習	科目名	年 次 配 当		
			中		高								
			必修	選択	必修	選択	必修						
		中	高										
教職に関する科目	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	12	6	2		2		◇	教育課程論（中等）	3		
		各教科の指導法			2		2		△	家庭科指導法Ⅰ	3		
		道徳の指導法				2		2	△	家庭科指導法Ⅱ	3		
		特別活動の指導法				2		2		家庭科指導法Ⅲ	3		
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）				2		2		家庭科指導法Ⅳ	3		
		生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目			2		2		2	道徳指導法（中等）	3		
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法	4		2		2		◇	特別活動指導法（中等）	3		
		進路指導の理論及び方法			2		2		◇	教育方法・技術論（中等）	2		
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法			2		2		◇	生徒・進路指導論（中等）	3		
	教育実習	教育実習	5	3	1		1		◇	教育相談（学校カウンセリングを含む）	2		
		教職実践演習			4		2		◇	家庭科教育実習指導	4		
		教職実践演習			4		2		▲	家庭科教育実習（中）	4		
		教職実践演習	2		2		▲	家庭科教育実習（高）	4				
		教職実践演習	2		2			▲	家庭科教育実習（中・高）	4			
「教職に関する科目」の要件単位数			31	23	29		25						

③	さらに「教科に関する科目」「教職に関する科目」から選択(①②以外)	8	16	10	14
---	-----------------------------------	---	----	----	----

教免法施行規則第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	2		2			日本国憲法	2	2単位 選択必修
	体育	2		1		1		スポーツ実習Ⅰ	1	
				1		1		スポーツ実習Ⅱ	1	
				2		2		運動の科学	1	
	外国語コミュニケーション	2	2		2			英語コミュニケーションⅠ	1	
	情報機器の操作	2		1		1		情報処理演習Ⅰ	1	
				1		1		情報処理演習Ⅱ	1	
「教免法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数		8	8							

必要な単位数の総計（①+②+③+④）	67	67
--------------------	----	----

「教育実習受講資格」の見方

- ◇ すべて履修済であること
- △ ここから8科目以上履修済であること
- ▲ 「家庭科教育実習事前指導」履修済であること

中学校教諭一種免許状(家庭)・高等学校一種免許状(家庭)
 4 回生(2011年度入学生)

- この資格を取得するためには、
- ①「教科に関する科目」から20単位以上
 ②「教職に関する科目」から中学校は29単位以上、高等学校は25単位以上
 ③さらに「教科に関する科目」または「教職に関する科目」から①②以外に中学校は10単位以上、高等学校は14単位以上
 ④「教免法施行規則第66条の6に定める科目」から8単位以上
- ↓
- 総計67単位以上(①+②+③+④)の単位を修得する必要があります。

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	基準 単 位 数	対応する開設授業科目										備 考
			資格取得要件						受講 資格	科目名	年次 配当		
			中			高							
			必修	必修 選択	選択	必修	必修 選択	選択					
教科に関する科目	家庭経営学（家族関係及び家庭経済学含む）	20	20	2			2			△	家庭経営学	3	高免のみ
					2		2		人間関係論	2			
	被服学（被服製作実習を含む）			2		2		△	アパレル構成論	1			
				2		2			アパレル構成実習Ⅰ	2			
					2		2		アパレル構成実習Ⅱ	2			
					2		2		ユニバーサルデザイン(ファッション)	4			
				2		2	△	健康と衣生活	1				
	食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む）			2		2		△	健康と食生活	3			
				2		2		△	調理実習	3			
				2		2		△	健康と住生活	1			
	住居学（製図を含む）				2		2		建築学概論	1			
					2		2		住環境計画Ⅰ	1			
					2		2		住環境計画Ⅱ	2			
	保育学（実習及び家庭看護を含む）			2		2		△	保育学	3			
	家庭電気・機械及び情報処理					2		△	家庭電気・機械	3			
							2		情報処理演習Ⅱ	1			
							2		情報処理演習Ⅲ	2			
①	「教科に関する科目」の要件単位数	20	20	20									

教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	2						◇	教職概論	2	いずれか 選択必修
		教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）				2							
		進路選択に資する各種の機会の提供等											
	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	2			2			◇	教育原理	2	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む)				2			◇	教育心理学	2		
					2			2		臨床発達心理学	3		
					2		2			教育社会学	1		
		2		2			教育行政学	1					

区 分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	基準 単 位 数	対応する開設授業科目										備 考
			資格取得要件						受 講 資 格	教育 実 習	科目名	年 次 配 当	
			中			高							
			必修	選択 必修	選択 必修	必修	選択 必修	選択 必修					
教 職 に 関 る 科 目	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	2			2			◇	教育課程論（中等）	3		
		各教科の指導法	2			2			△	家庭科指導法Ⅰ	3		
						2			△	家庭科指導法Ⅱ	3		
						2				家庭科指導法Ⅲ	3		
						2				家庭科指導法Ⅳ	3		
		道徳の指導法	2					2	道徳指導法（中等）	3			
		特別活動の指導法	2			2			◇	特別活動指導法（中等）	3		
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）	2			2				教育方法・技術論（中等）	2			
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法	2			2			◇	生徒・進路指導論（中等）	3		
		進路指導の理論及び方法											
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法	2			2			◇	教育相談 （学校カウンセリングを含む）	2		
	教育実習		5	3	1			1		◇	家庭科教育実習指導		4
					4					▲	家庭科教育実習（中）		4
教職実践演習		2			2			▲	家庭科教育実習（高）	4			
「教職に関する科目」の要件単位数			31	23	29		25						

③	さらに「教科に関する科目」「教職に関する科目」から選択(①②以外)	8	16	10	14
---	-----------------------------------	---	----	----	----

6に定める科目	日本国憲法	2	2		2		日本国憲法	2	2単位 選択必修
	体育	2		1		1	スポーツ実習Ⅰ	1	
				1		1	スポーツ実習Ⅱ	1	
				2		2	運動の科学	1	
	外国語コミュニケーション	2	2		2		英語コミュニケーションⅠ	1	
	情報機器の操作	2	2		2		情報処理演習Ⅰ	1	
「教免法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数		8	8						

④	必要な単位数の総計（①+②+③+④）	67	67
---	--------------------	----	----

「教育実習受講資格」の見方

- ◇ すべて履修済であること
- △ ここから8科目以上履修済であること
- ▲ 「家庭科教育実習事前指導」履修済であること

教育学部 現代教育学科

教育学部現代教育学科では、必要な課程を履修すれば小学校・幼稚園・中学校（英語）・高等学校（英語）・養護教諭・特別支援学校教諭*の一種免許状に加えて、保育士・認定心理士や社会教育主事の資格が卒業と同時に取得できます。ただし所属するコース、入学年度により取得できる免許状、資格が異なります。また、複数の資格取得をめざすことで、負担が大きくなる場合もあります。よく検討したうえで、将来必要な資格をめざしてください。

小学校教諭一種免許状

小学校教諭一種免許状 1 回生（2014年度入学生）

この資格を取得するためには、

- ①「教科に関する科目」から8単位以上
- ②「教職に関する科目」から45単位以上
- ③さらに「教科に関する科目」または「教職に関する科目」から①②以外に6単位以上
- ④「教免法施行規則第66条の6に定める科目」から8単位以上

↓
総計67単位以上（①+②+③+④）の単位を修得する必要があります。

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	基準 単 位 数	対応する開設授業科目				備 考
			資格取得要件			科目名	
			必修	必修 選択	選択		年配 次当
教科に関する科目	国語（書写を含む）	8	2			△ 国語科概論	1
	社会		2			△ 社会科概論	2
	算数		2			△ 算数科概論	1
	理科		2			△ 理科概論	2
	生活			2		△ 生活科概論	1
	音楽			2		△ 音楽科概論	1
				1		ピアノ実践演習A	3
				1		ピアノ実践演習B	4
	図画工作			2		△ 図工科概論	1
	家庭			2		△ 家庭科概論	2
	体育			2		△ 体育科概論	1
①	「教科に関する科目」の要件単位数	8	8				

教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	2		◇	教職概論	1	
		教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）							
		進路選択に資する各種の機会の提供等							
	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		2		◇	教育原理	1	
					2		教育史	1	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）		2		◇	教育心理学	1	
					2		発達心理学	2	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		2			教育法制論	3	

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目		等 教員 基準 免許 単位 数	対応する開設授業科目					備 考		
				資格取得要件			受 教 育 実 習 格 育	科目名		年 配 次 当	
			必 修	必 選 修 択	選 択						
教職に関する科目	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	22	2			◇	教育課程論（初等）	1		
		各教科の指導法		2			☆	国語科指導法	2		
				2			☆	社会科指導法	3		
				2			☆	算数科指導法	2		
				2			☆	理科指導法	3		
				2			☆	生活科指導法	2		
				2			☆	音楽科指導法	3		
				2			☆	図工科指導法	2		
				2			☆	家庭科指導法	2		
				2			☆	体育科指導法	2		
		道徳の指導法		2			☆	道徳指導法（初等）	3		
		特別活動の指導法		2			☆	特別活動指導法（初等）	2		
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）		2			☆	教育方法・技術論（初等）	2		
	生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目	生徒指導の理論及び方法	4	2			◇	生徒・進路指導論（初等）	3		
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法		2				教育相談 （学校カウンセリングを含む）	3		
	教育実習		5		1		◇	小学校教育実習指導A	3		いずれか 選択必修
					1			小学校教育実習指導B	4		
					4			小学校教育実習A	3		いずれか 選択必修
					2(4)			小学校教育実習B	4		
	教職実践演習	2	2	2			教職実践演習（幼・小）	4			
「教職に関する科目」の要件単位数			41	45							

③	さらに「教科に関する科目」「教職に関する科目」から選択（①②以外）	10	6
---	-----------------------------------	----	---

第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	2			日本国憲法	2	2単位選択必修
	体育	2		1		スポーツ実習A	1	
				1		スポーツ実習B	1	
				2		運動の科学	1	
	外国語コミュニケーション	2	2			英語コミュニケーションA	1	
	情報機器の操作	2	1			情報処理演習Ⅰ	1	
			1			情報処理演習Ⅱ	1	
「教免法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数		8	8					

必要な単位数の総計（①+②+③+④）	67	67
--------------------	----	----

上記以外に単位取得が必要な科目	2			◇	現代教育論	1	いずれか 選択必修
		－			小学校一日見学	1	
		－		◇	幼稚園一日見学	1	
		1			（幼稚園見学実習 A）	1	
		1			（幼稚園見学実習 B）	2	

「教育実習受講資格」の見方

- ◇ すべて履修済であること
- △ ここから7科目以上履修済であること
- ☆ ここから8科目以上履修済であること

注）「小学校教育実習指導 B」及び「小学校教育実習 B」は、「幼稚園教育実習 A」または「英語科教育実習（中）」履修済の者のみ履修可とします。

小学校教諭一種免許状
 2 回生（2013年度入学生）

この資格を取得するためには、

- ①「教科に関する科目」から8単位以上
- ②「教職に関する科目」から45単位以上
- ③さらに「教科に関する科目」または「教職に関する科目」から①②以外に6単位以上
- ④「教免法施行規則第66条の6に定める科目」から8単位以上

↓
 総計67単位以上（①+②+③+④）の単位を修得する必要があります。

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	基準 単 位 数	対応する開設授業科目						備 考
			資格取得要件			受講資格 実習	科目名	年 配 次 当	
			必修	必修 選択	選択				
教科に関する科目	国語（書写を含む）	8	2			△	国語科概論	1	
	社会		2			△	社会科概論	2	
	算数		2			△	算数科概論	1	
	理科		2			△	理科概論	2	
	生活				2	△	生活科概論	1	
					2	△	音楽科概論	1	
	音楽				1		ピアノ演習A	1	
					1		ピアノ演習B	1	
	図画工作				2	△	図工科概論	1	
	家庭				2	△	家庭科概論	2	
	体育				2	△	体育科概論	1	
①	「教科に関する科目」の要件単位数	8	8						

教職に関する科目	教 職 の 意 義 等 に 関 す る 科 目	教職の意義及び教員の役割	2	2		◇	教職概論	1	いずれか 選択必修
		教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）							
		進路選択に資する各種の機会の提供等							
	教 育 の 基 礎 理 論 に 関 す る 科 目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	2		◇	教育原理	1	
					2		教育史	1	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む)		2		◇	教育心理学	1	
					2		学校心理学	4	
					2		児童心理学	1	
					2		発達心理学	2	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		2			教育社会学	1	
				2			教育行政学	1	

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目		教員免許法等 等基準単 位	対応する開設授業科目					備 考		
				資格取得要件			受 教 育 講 義 実 習 格 習	科目名		年 配 次 当	
			必 修	必 選 修 択	選 択						
教職に関する科目	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	22	2			◇	教育課程論（初等）	1		
		各教科の指導法		2			☆	国語科指導法	2		
				2			☆	社会科指導法	3		
				2			☆	算数科指導法	2		
				2			☆	理科指導法	3		
				2			☆	生活科指導法	2		
				2			☆	音楽科指導法	3		
				2			☆	図工科指導法	2		
				2			☆	家庭科指導法	2		
				2			☆	体育科指導法	2		
		道徳の指導法		2			☆	道徳指導法（初等）	3		
		特別活動の指導法		2			☆	特別活動指導法（初等）	2		
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）		2			☆	教育方法・技術論（初等）	2		
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法	4	2			◇	生徒・進路指導論（初等）	3		
		進路指導の理論及び方法		2			教育相談 （学校カウンセリングを含む）	2			
	教育実習		5		1		◇	小学校教育実習指導A	3		いずれか 選択必修
					1			小学校教育実習指導B	4		
					4			小学校教育実習A	3		いずれか 選択必修
					2(4)			小学校教育実習B	4		
	教職実践演習	2	2	2			教職実践演習（幼・小）	4			
	「教職に関する科目」の要件単位数			41	45						

③ さらに「教科に関する科目」「教職に関する科目」から選択（①②以外） 10 6

第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	2			日本国憲法	2	2単位選択必修
	体育	2		1		スポーツ実習A	1	
				1		スポーツ実習B	1	
				2		運動の科学	1	
	外国語コミュニケーション	2	2			英語コミュニケーションA	1	
	情報機器の操作	2	1			情報処理演習Ⅰ	1	
1					情報処理演習Ⅱ	1		
「教免法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数		8	8					

必要な単位数の総計（①+②+③+④） 67 67

上記以外に単位取得が必要な科目	2			◇	現代教育論	1	いずれか 選択必修
	-				小学校一日見学	1	
	-			◇	幼稚園一日見学	1	
	1				（幼稚園見学実習A）	1	
	1				（幼稚園見学実習B）	2	

「教育実習受講資格」の見方

- ◇ すべて履修済であること
- △ ここから7科目以上履修済であること
- ☆ ここから8科目以上履修済であること

注）「小学校教育実習指導B」及び「小学校教育実習B」は、「幼稚園教育実習A」または「英語科教育実習（中）」履修済の者のみ履修可とします。

小学校教諭一種免許状
 3 回生（2012年度入学生）

この資格を取得するためには、

- ①「教科に関する科目」から8単位以上
- ②「教職に関する科目」から45単位以上
- ③さらに「教科に関する科目」または「教職に関する科目」から①②以外に6単位以上
- ④「教免法施行規則第66条の6に定める科目」から8単位以上

↓
 総計67単位以上（①+②+③+④）の単位を修得している必要があります。

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	基準 単 位 数	対応する開設授業科目						備 考
			資格取得要件			受 講 資 格 習	科目名	年 配 次 当	
			必修	必修 選択	選択				
教科に関する科目	国語（書写を含む）	8	2			◇	国語科概論	1	
	社会		2			◇	社会科概論	2	
	算数		2			◇	算数科概論	1	
	理科		2			◇	理科概論	2	
	生活				2	△	生活科概論	1	
					2	△	音楽科概論	1	
	音楽				1		ピアノ演習A	1	
					1		ピアノ演習B	1	
	図画工作				2	△	図工科概論	1	
	家庭				2	△	家庭科概論	2	
	体育				2	△	体育科概論	1	
①	「教科に関する科目」の要件単位数	8	8						

教職に関する科目	教 職 の 意 義 等 に 関 す る 科 目	教職の意義及び教員の役割	2	2		◇	教職概論	1	
		教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）							
		進路選択に資する各種の機会の提供等							
	教 育 の 基 礎 理 論 に 関 す る 科 目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		2		◇	教育原理	1	
					2		教育史	1	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む)		2		◇	教育心理学	1	
					2		学校心理学	4	
					2		児童心理学	1	
					2		発達心理学	2	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		2			教育社会学	1	
				2			教育行政学	1	

いずれか
 選択必修

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目		教員免許法 基準単位	対応する開設授業科目					備考		
				資格取得要件			科目名	年配 次当			
				必修	必修 選択	選択					
教職に関する科目	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	22	2			◇	教育課程論（初等）	1		
		各教科の指導法		2			☆	国語科指導法	2		
				2			☆	社会科指導法	3		
				2			☆	算数科指導法	2		
				2			☆	理科指導法	3		
				2			☆	生活科指導法	2		
				2			☆	音楽科指導法	3		
				2			☆	図工科指導法	2		
				2			☆	家庭科指導法	2		
				2			☆	体育科指導法	2		
		道徳の指導法		2			☆	道徳指導法（初等）	3		
		特別活動の指導法		2			☆	特別活動指導法（初等）	2		
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）		2			☆	教育方法・技術論（初等）	2		
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法	4	2			◇	生徒・進路指導論（初等）	3		
		進路指導の理論及び方法									
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法		2			教育相談 （学校カウンセリングを含む）	2			
	教育実習		5		1		◇	小学校教育実習指導 A	3		いずれか 選択必修
					1			小学校教育実習指導 B	4		
					4			小学校教育実習 A	3		いずれか 選択必修
					2(4)			小学校教育実習 B	4		
	教職実践演習	2	2	2			教職実践演習（幼・小）	4			
②	「教職に関する科目」の要件単位数		41	45							

② 「教職に関する科目」の要件単位数 41 45

③ さらに「教科に関する科目」「教職に関する科目」から選択（①②以外） 10 6

第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	2			日本国憲法	2	2単位選択必修
	体育	2		1		スポーツ実習 A	1	
				1		スポーツ実習 B	1	
	外国語コミュニケーション	2	2			運動の科学	1	
	情報機器の操作	2	1			英語コミュニケーション A	1	
			1			情報処理演習Ⅰ	1	
						情報処理演習Ⅱ	1	
④ 「教職法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数	8	8						

④ 「教職法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数 8 8

必要な単位数の総計（①+②+③+④） 67 67

上記以外に単位取得が必要な科目	2			◇ 現代教育論	1	いずれか 選択必修
		－		◇ 小学校一日見学	1	
		－		◇ 幼稚園一日見学	1	
	1			◇ (幼稚園見学実習 A)	1	
	1			◇ (幼稚園見学実習 B)	2	

「教育実習受講資格」の見方

- ◇ すべて履修済であること
- △ ここから3科目以上履修済であること
- ☆ ここから8科目以上履修済であること

注)「小学校教育実習指導B」及び「小学校教育実習B」は、「幼稚園教育実習A」または「英語科教育実習（中）」履修済の者のみ履修可とします。

小学校教諭一種免許状
 4 回生（2011年度入学生）

- この資格を取得するためには、
- ①「教科に関する科目」から8単位以上

②「教職に関する科目」から45単位以上

③さらに「教科に関する科目」または「教職に関する科目」から①②以外に6単位以上

④「教免法施行規則第66条の6に定める科目」から8単位以上

総計67単位以上（①+②+③+④）の単位を修得する必要があります。

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	基準 単 位 数	対応する開設授業科目					備 考	
			資格取得要件			受講資格	科目名		年 配 次 当
			必修	必修 選択	選択				
教科に関する科目	国語（書写を含む）	8	2			◇	国語科概論	1	
	社会		2			◇	社会科概論	2	
	算数		2			◇	算数科概論	1	
	理科		2			◇	理科概論	2	
	生活				2	△	生活科概論	1	
	音楽				2	△	音楽科概論	1	
					1		ピアノ演習A	1	
					1		ピアノ演習B	1	
	図画工作				2	△	図工科概論	1	
	家庭				2	△	家庭科概論	2	
	体育				2	△	体育科概論	1	
「教科に関する科目」の要件単位数		8	8						

教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	2		◇	教職概論	1	いずれか 選択必修
	教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）							
	進路選択に資する各種の機会の提供等							
教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	2		◇	教育原理	1	
				2	教育史	1		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）		2		◇	教育心理学	1	
				2	学校心理学	4		
				2	児童心理学	1		
				2	発達心理学	2		
				2	教育社会学	1		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項			2		教育行政学	1	

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目		等 基 準 単 位 数	教 員 免 許 法	対応する開設授業科目						備 考
					資格取得要件			受 教 育 実 習 資 格	科目名	年 次 配 当	
					必 修	必 選 修 択	選 択				
教職に関する科目	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	22	2			◇	教育課程論（初等）	1		
				2			☆	国語科指導法	2		
				2			☆	社会科指導法	3		
				2			☆	算数科指導法	2		
				2			☆	理科指導法	3		
				2			☆	生活科指導法	2		
				2			☆	音楽科指導法	3		
				2			☆	図工科指導法	2		
				2			☆	家庭科指導法	2		
				2			☆	体育科指導法	2		
				2			☆	道徳指導法（初等）	3		
				2			☆	特別活動指導法（初等）	2		
				2			☆	教育方法・技術論（初等）	2		
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法	4	2			◇	生徒・進路指導論（初等）	3		
		進路指導の理論及び方法		2			教育相談 （学校カウンセリングを含む）	2			
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法									
	教育実習		5		1		◇	小学校教育実習指導A	3		いずれか 選択必修
					1			小学校教育実習指導B	4		
					4			小学校教育実習A	3		いずれか 選択必修
	教職実践演習	2	2	2			小学校教育実習B	4			
									2(4)		
「教職に関する科目」の要件単位数			41	45							

③	さらに「教科に関する科目」「教職に関する科目」から選択（①②以外）	10	6
---	-----------------------------------	----	---

第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	2			日本国憲法	1	2単位選択必修
	体育	2		1		スポーツ実習 A	1	
				1		スポーツ実習 B	1	
				2		運動の科学	1	
	外国語コミュニケーション	2	2			英語コミュニケーションA	1	
情報機器の操作	2	2			情報処理演習 I	1		
「教員法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数		8	8					

上記以外に単位取得が必要な科目	2			◇	現代教育論	1	いずれか選択必修
	—				小学校一日見学	1	
	—				幼稚園一日見学	1	
	1			◇	（幼稚園見学実習 A）	1	
	1				（幼稚園見学実習 B）	2	

「教育実習受講資格」の見方
 ◇ すべて履修済であること
 △ ここから3科目以上履修済であること
 ☆ ここから8科目以上履修済であること
 注）「小学校教育実習指導 B」及び「小学校教育実習 B」は、「幼稚園教育実習 A」または「英語科教育実習（中）」履修済者のみ履修可とします。

幼稚園教諭一種免許状

幼稚園教諭一種免許状 1 回生（2014年度入学生）

この資格を取得するためには、

- ①「教科に関する科目」から 6 単位以上
- ②「教職に関する科目」から 37 単位以上
- ③さらに「教科に関する科目」または「教職に関する科目」から①②以外に 8 単位以上
- ④「教免法施行規則第66条の6 に定める科目」から 8 単位以上



総計59単位以上（①+②+③+④）の単位を修得する必要があります。

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	基準 単 位 数	対応する開設授業科目					備 考	
			資格取得要件			受 教 育 資 格 習	科目名		年 次 配 当
			必 修	必 選 修	選 択				
教科に関する科目	国語	8	2			◇	国語科概論	1	
	算数		2			◇	算数科概論	1	
	生活				2		生活科概論	1	
	音楽				2		音楽科概論	1	
					1		ピアノ実践演習A	3	
					1		ピアノ実践演習B	4	
					1		音楽実技演習	2	
	図画工作				2		図工科概論	1	
	体育				2		体育科概論	1	
「教科に関する科目」の要件単位数		6	6						

教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	2		◇	教職概論（幼保）	1	
		教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む） 進路選択に資する各種の機会の提供等							
	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	2		◇	教育原理	1	
							教育史	1	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）		2		◇	教育心理学	1	
							発達心理学	2	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		2			教育法制論	3	

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目		等 基 準 単 位 法	対応する開設授業科目					備 考		
				資格取得要件		受 教 育 講 義 実 習 格 育	科目名	年 配 次 当			
			必 修	必 選 修 択 択	選 修 択						
教職に関する科目	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	18	2			◇	教育課程論（幼保）	3	いずれか 選択必修	
		保育内容の指導法		2			☆	保育内容の研究「健康」	2		
				2			☆	保育内容の研究「人間関係」	2		
				2			☆	保育内容の研究「環境」	1		
				2			☆	保育内容の研究「言葉」	1		
				2			☆	保育内容の研究「音楽表現」	2		
				2			☆	保育内容の研究「造形表現」	2		
				2			☆	保育内容の研究「運動遊び」	2		
		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)		2				教育方法・技術論（初等）	2		
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	幼児理解の理論及び方法	2	2				幼児理解論	3		
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)の理論及び方法		2				教育相談 (学校カウンセリングを含む)	3		
	教育実習		5		1		◇	幼稚園教育実習指導A	3		いずれか 選択必修
					1			幼稚園教育実習指導B	4		
					4			幼稚園教育実習A	3		
					2(4)			幼稚園教育実習B	4		
	教職実践演習		2		2			保育・教職実践演習（幼稚園）	4		いずれか 選択必修
					2			教職実践演習（幼・小）	4		
②	「教職に関する科目」の要件単位数		35	37							

③	さらに「教科に関する科目」「教職に関する科目」から選択（①②以外）	10	8
---	-----------------------------------	----	---

第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	2				日本国憲法	2	2単位選択必修
	体育	2		1			スポーツ実習A	1	
				1			スポーツ実習B	1	
				2			運動の科学	1	
	外国語コミュニケーション	2	2				英語コミュニケーションA	1	
④	「教免法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数	8	8				情報処理演習Ⅰ	1	
							情報処理演習Ⅱ	1	

必要な単位数の総計（①+②+③+④）	59	59
--------------------	----	----

上記以外に単位取得が必要な科目	2			◇	現代教育論	1	いずれか 選択必修
		1		◇	幼稚園見学実習A	1	
		1			幼稚園見学実習B	2	

「教育実習受講資格」の見方

◇ すべて履修済であること

☆ ここから4科目以上履修済であること

注）「幼稚園教育実習指導B」及び「幼稚園教育実習B」は、「小学校教育実習A」履修済の者のみ履修可とします。

幼稚園教諭一種免許状 2 回生（2013年度入学生）

この資格を取得するためには、

- ①「教科に関する科目」から 6 単位以上
- ②「教職に関する科目」から 37 単位以上
- ③さらに「教科に関する科目」または「教職に関する科目」から①②以外に 8 単位以上
- ④「教免法施行規則第66条の 6 に定める科目」から 8 単位以上

↓
総計59単位以上（①+②+③+④）の単位を修得する必要があります。

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	基準 単 位 数	対応する開設授業科目					備 考	
			資格取得要件			受 講 資 格	科目名		年 配 次 当
			必修	必 選 修 択	選 択				
教科に関する科目	国語	6	2			◇	国語科概論	1	
	算数		2			◇	算数科概論	1	
	生活				2		生活科概論	1	
	音楽				2		音楽科概論	1	
					1		ピアノ演習A	1	
					1		ピアノ演習B	1	
					1		ピアノ演習C	3	
					1		ピアノ演習D	4	
					1		実践的音楽演習A	1	
					1		実践的音楽演習B	2	
	図画工作				2		図工科概論	1	
	体育				2		体育科概論	1	
「教科に関する科目」の要件単位数		6	6						

教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	2		◇	教職概論（幼保）	2	
		教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）							
		進路選択に資する各種の機会の提供等							
	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	2	◇	教育原理	1		
						教育史	1		
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）		2	◇	教育心理学	1		
						学校心理学	4		
						児童心理学	1		
						発達心理学	2		
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		2		教育社会学	1		
	教育行政学		1						

いずれか選択必修

いずれか
選択必修

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目		教員免許法 等基準単位	対応する開設授業科目						備 考	
				資格取得要件			教育 実習 資格	科目名	年 配 次 当		
				必修	必修 選択	選択					
教職に関する科目	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	18	2			◇	教育課程論（幼保）	1		
		保育内容の指導法		2			☆	保育内容の研究「健康」	2		
				2			☆	保育内容の研究「人間関係」	1		
				2			☆	保育内容の研究「環境」	1		
				2			☆	保育内容の研究「言葉」	1		
				2			☆	保育内容の研究「音楽表現」	2		
				2			☆	保育内容の研究「造形表現」	2		
				2			☆	保育内容の研究「運動遊び」	2		
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）		2				教育方法・技術論（初等）	2		
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	幼児理解の理論及び方法	2	2				幼児理解論	1		
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法		2				教育相談 （学校カウンセリングを含む）	2		
	教育実習		5		1		◇	幼稚園教育実習指導A	3		いずれか 選択必修
					1			幼稚園教育実習指導B	4		
					4			幼稚園教育実習A	3		いずれか 選択必修
					2(4)			幼稚園教育実習B	4		
	教職実践演習	2		2			保育・教職実践演習（幼稚園）	4	いずれか 選択必修		
				2			教職実践演習（幼・小）	4			
「教職に関する科目」の要件単位数			35	37							

③	さらに「教科に関する科目」「教職に関する科目」から選択（①②以外）	10	8
---	-----------------------------------	----	---

第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	2			日本国憲法	2	2単位選択必修
	体育	2		1		スポーツ実習A	1	
				1		スポーツ実習B	1	
		2			運動の科学	1		
	外国語コミュニケーション	2	2			英語コミュニケーションA	1	
	情報機器の操作	2	1			情報処理演習Ⅰ	1	
1					情報処理演習Ⅱ	1		
「教免法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数		8	8					

必要な単位数の総計（①+②+③+④）				59	59		
--------------------	--	--	--	----	----	--	--

上記以外に単位取得が必要な科目	2			◇	現代教育論	1	いずれか 選択必修
		1		◇	幼稚園見学実習A	1	
		1			幼稚園見学実習B	2	

「教育実習受講資格」の見方

◇ すべて履修済であること

☆ ここから4科目以上履修済であること

注）「幼稚園教育実習指導B」及び「幼稚園教育実習B」は、「小学校教育実習A」履修済の者のみ履修可とします。

幼稚園教諭一種免許状 3 回生（2012年度入学生）

この資格を取得するためには、

- ①「教科に関する科目」から 6 単位以上
- ②「教職に関する科目」から 37 単位以上
- ③さらに「教科に関する科目」または「教職に関する科目」から①②以外に 8 単位以上
- ④「教免法施行規則第66条の 6 に定める科目」から 8 単位以上

↓
総計59単位以上（①+②+③+④）の単位を修得する必要があります。

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	基準 単 位 数	対応する開設授業科目					備 考		
			資格取得要件			受 講 資 格	科目名		年 配 次 当	
			必修	必 選 修 修	選 選 修 修					
教科に関する科目	国語	6	2			△	国語科概論	1		
	算数		2			△	算数科概論	1		
	生活				2	△	生活科概論	1		
	音楽					2	△	音楽科概論		1
						1	◇	ピアノ演習A		1
						1	◇	ピアノ演習B		1
						1		ピアノ演習C		3
						1		ピアノ演習D		4
						1		実践的音楽演習A		1
						1		実践的音楽演習B		2
	図画工作					2	△	図工科概論		1
	体育					2	△	体育科概論		1
「教科に関する科目」の要件単位数		6	6							

教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	2		◇	教職概論（幼保）	2	
		教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）							
		進路選択に資する各種の機会の提供等							
	教育の基礎に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	2		◇	教育原理	1	
					2		教育史	1	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）		2		◇	教育心理学	1	
					2		学校心理学	4	
					2		児童心理学	1	
					2		発達心理学	2	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項			2		教育社会学	1	
	2			教育行政学	1				

いずれか
選択必修

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目		教育免許法 等基準単位	対応する開設授業科目					備 考		
				資格取得要件			教育実習 受講資格	科目名		年 配 次 当	
				必修	必修 選択	選択					
教職に関する科目	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	18	2			◇	教育課程論（幼保）	1		
		保育内容の指導法		2			☆	保育内容の研究「健康」	2		
				2			☆	保育内容の研究「人間関係」	1		
				2			☆	保育内容の研究「環境」	1		
				2			☆	保育内容の研究「言葉」	1		
				2			☆	保育内容の研究「音楽表現」	2		
				2			☆	保育内容の研究「造形表現」	2		
				2			☆	保育内容の研究「運動遊び」	2		
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）		2				教育方法・技術論（初等）	2		
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	幼児理解の理論及び方法	2	2				幼児理解論	1		
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法		2		◇	教育相談 （学校カウンセリングを含む）	2			
	教育実習		5		1		◇	幼稚園教育実習指導A	3		いずれか 選択必修
					1			幼稚園教育実習指導B	4		
					4			幼稚園教育実習A	3		いずれか 選択必修
					2(4)			幼稚園教育実習B	4		
	教職実践演習	2		2			保育・教職実践演習（幼稚園）	4	いずれか 選択必修		
				2			教職実践演習（幼・小）	4			
「教職に関する科目」の要件単位数			35	37							

③	さらに「教科に関する科目」「教職に関する科目」から選択（①②以外）	10	8
---	-----------------------------------	----	---

第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	2			日本国憲法	2	2単位選択必修
	体育	2		1		スポーツ実習A	1	
				1		スポーツ実習B	1	
				2		運動の科学	1	
	外国語コミュニケーション	2	2			英語コミュニケーションA	1	
	情報機器の操作	2	1			情報処理演習Ⅰ	1	
			1			情報処理演習Ⅱ	1	
「教免法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数		8	8					

必要な単位数の総計（①+②+③+④）	59	59
--------------------	----	----

上記以外に単位取得が必要な科目	2			◇	現代教育論	1	いずれか選択必修
		1		◇	幼稚園見学実習A	1	
		1			幼稚園見学実習B	2	

「教育実習受講資格」の見方

◇ すべて履修済であること

△ ここから3科目以上履修済であること

☆ ここから4科目以上履修済であること

注）「幼稚園教育実習指導B」及び「幼稚園教育実習B」は、「小学校教育実習A」履修済の者のみ履修可とします。

幼稚園教諭一種免許状 4 回生（2011年度入学生）

- この資格を取得するためには、
- ①「教科に関する科目」から 6 単位以上
 - ②「教職に関する科目」から 37 単位以上
 - ③さらに「教科に関する科目」または「教職に関する科目」から①②以外に 8 単位以上
 - ④「教免法施行規則第66条の 6 に定める科目」から 8 単位以上

↓
総計59単位以上（①+②+③+④）の単位を修得する必要があります。

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	基準 単 位 数	対応する開設授業科目						備 考	
			資格取得要件			受 講 資 格	科目名	年 配 次 当		
			必修	必修 選択	選択					
教科に関する科目	国語	6	2			△	国語科概論	1		
	算数		2			△	算数科概論	1		
	生活				2	△	生活科概論	1		
	音楽					2	△	音楽科概論		1
						1	◇	ピアノ演習A		1
						1	◇	ピアノ演習B		1
						1		ピアノ演習C		3
						1		ピアノ演習D		4
						1		実践的音楽演習A		1
						1		実践的音楽演習B		2
	図画工作					2	△	図工科概論		1
	体育					2	△	体育科概論		1
①	「教科に関する科目」の要件単位数	6	6							

教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	2		◇	教職概論（幼保）	2	
		教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）							
		進路選択に資する各種の機会の提供等							
	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	2		◇	教育原理	1	
					2		教育史	1	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）		2		◇	教育心理学	1	
					2		学校心理学	4	
					2		児童心理学	1	
					2		発達心理学	2	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		2			教育社会学	1	
2				教育行政学	1				

いずれか選択必修

いずれか
選択必修

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目		等 基 準 単 位	対応する開設授業科目					備 考		
				資格取得要件			受 教 育 実 習	科目名		年 配 次 当	
			必 修	必 選 修 択	選 択						
教職に関する科目	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	18	2			◇	教育課程論（幼保）	1	いずれか 選択必修	
		保育内容の指導法		2			☆	保育内容の研究「健康」	2		
				2			☆	保育内容の研究「人間関係」	1		
				2			☆	保育内容の研究「環境」	1		
				2			☆	保育内容の研究「言葉」	1		
				2			☆	保育内容の研究「音楽表現」	2		
				2			☆	保育内容の研究「造形表現」	2		
				2			☆	保育内容の研究「運動遊び」	2		
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）		2				教育方法・技術論（初等）	2		
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	幼児理解の理論及び方法	2	2				幼児理解論	1		
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法		2			◇	教育相談 （学校カウンセリングを含む）	2		
	教育実習		5		1		◇	幼稚園教育実習指導A	3		いずれか 選択必修
					1			幼稚園教育実習指導B	4		いずれか 選択必修
					4			幼稚園教育実習A	3		
					2(4)			幼稚園教育実習B	4		
	教職実践演習		2		2			保育・教職実践演習（幼稚園）	4		いずれか 選択必修
					2			教職実践演習（幼・小）	4		
「教職に関する科目」の要件単位数			35	37							

③	さらに「教科に関する科目」「教職に関する科目」から選択（①②以外）	10	8
---	-----------------------------------	----	---

第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	2			日本国憲法	2	2単位選択必修
	体育	2		1		スポーツ実習A	1	
				1		スポーツ実習B	1	
			2			運動の科学	1	
	外国語コミュニケーション	2	2			英語コミュニケーションA	1	
情報機器の操作	2	2			情報処理演習Ⅰ	1		
「教免法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数		8	8					

上記以外に単位取得が必要な科目	2			◇	現代教育論	1	いずれか 選択必修
		1			幼稚園見学実習A	1	
		1		◇	幼稚園見学実習B	2	

「教育実習受講資格」の見方

- ◇ すべて履修済であること
- △ ここから3科目以上履修済であること
- ☆ ここから4科目以上履修済であること

注）「幼稚園教育実習指導B」及び「幼稚園教育実習B」は、「小学校教育実習A」履修済の者のみ履修可とします。

養護教諭一種免許状

養護教諭一種免許状 1 回生 (2014年度入学生)

この資格を取得するためには、

- ①「養護に関する科目」から28単位以上
- ②「教職に関する科目」から25単位以上
- ③さらに「養護に関する科目」または「教職に関する科目」から①②以外に3単位以上
- ④「教員法施行規則第66条の6に定める科目」から8単位以上

↓
総計64単位以上 (①+②+③+④) の単位を修得する必要があります。

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	基準 単 位 数	対応する開設授業科目					備 考		
			資格取得要件			受 教 育 実 格 習	科目名		年 配 次 当	
			必 修	必 選 修 択	選 択					
養護に関する科目	衛生学及び公衆衛生学（予防医学を含む）	4	2			△	衛生学	2	いずれか 選択必修	
			2			△	公衆衛生学	1		
	学校保健	2	2			◇	学校保健	1		
	養護概説	2	2			◇	養護概説	2		
	健康相談活動の理論及び方法	2	2			◇	健康相談	2		
	栄養学（食品学を含む）	2	2			△	栄養学（食品学を含む）	2		
	解剖学及び生理学	2	2			△	解剖生理学	1		
	「微生物、免疫学、薬理概論」	2		2			微生物学	1		
				2			薬理概論	2		
	精神保健	2	2			△	精神保健学	2		
	看護学（臨床実習及び救急処置を含む）	10		2			◇	学校看護Ⅰ		1
				2			◇	学校看護Ⅱ		2
			2			◇	学校看護Ⅲ	2		
			2				養護臨床実習	2		
			2			△	救急医学	2		
「養護に関する科目」の要件単位数		28	28							

教職に関する科目	教 職 の 意 義 等 に 関 す る 科 目	教職の意義及び教員の役割	2	2		◇	教職概論	1	
		教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）							
		進路選択に資する各種の機会の提供等							
	教 育 の 基 礎 理 論 に 関 す る 科 目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	4	2		◇	教育原理	1	
					2		教育史	1	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）		2		◇	教育心理学	1	
					2		発達心理学	2	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		2			教育法制論	3	

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目		等 基 準 単 位	教 員 免 許 法	対応する開設授業科目						備 考
					資格取得要件			受 教 育 実 習 格	科目名	年 配 次 当	
					必修	必修 選択	選択				
教職に関する科目	教育課程に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	4	2			◇	教育課程論（中等）	1		
		道徳及び特別活動に関する内容		2				道徳・特別活動論	3		
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）		2				教育方法・技術論（中等）	2		
	生徒指導及び教育相談に関する科目	生徒指導の理論及び方法	4	2				生徒指導論	3		
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法		2				教育相談 （学校カウンセリングを含む）	3		
	教育実習	5	1 4			◇	養護実習指導 養護実習	3 3			
	教職実践演習	2	2				教職実践演習（養護教諭）	4			

② 「教職に関する科目」の要件単位数 21 25

③ さらに「養護に関する科目」「教職に関する科目」から選択（①②以外） 7 3

第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	2			日本国憲法	2	2単位選択必修
	体育	2		1		スポーツ実習A	1	
				1		スポーツ実習B	1	
				2		運動の科学	1	
	外国語コミュニケーション	2	2			英語コミュニケーションA	1	
	情報機器の操作	2	1			情報処理演習Ⅰ	1	
			1			情報処理演習Ⅱ	1	

④ 「教免法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数 8 8

必要な単位数の総計（①+②+③+④） 64 64

上記以外に単位取得が必要な科目	2			◇	現代教育論	1	いずれか選択必修
		－			小学校一日見学	1	
		－			幼稚園一日見学	1	
	1			◇	幼稚園見学実習A	1	
	1				幼稚園見学実習B	2	

「教育実習受講資格」の見方

◇ すべて履修済であること

△ ここから3科目以上履修済であること

養護教諭一種免許状 2 回生（2013年度入学生）

- この資格を取得するためには、
- ①「養護に関する科目」から28単位以上
 - ②「教職に関する科目」から25単位以上
 - ③さらに「養護に関する科目」または「教職に関する科目」から①②以外に3単位以上
 - ④「教免法施行規則第66条の6に定める科目」から8単位以上

↓
総計64単位以上（①+②+③+④）の単位を修得する必要があります。

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	基準 単 位 数	対応する開設授業科目						備 考
			資格取得要件			受 教 講 義 実 習	科目名	年 配 次 当	
			必修	必修 選択	選択				
養護に関する科目	衛生学及び公衆衛生学（予防医学を含む）	4	2			△	衛生学	2	いずれか 選択必修
			2			△	公衆衛生学	1	
	学校保健	2	2			◇	学校保健	1	
	養護概説	2	2			◇	養護概説	2	
	健康相談活動の理論及び方法	2	2			◇	健康相談	2	
	栄養学（食品学を含む）	2	2			△	栄養学（食品学を含む）	2	
	解剖学及び生理学	2	2			△	解剖生理学	1	
	「微生物、免疫学、薬理概論」	2		2			微生物学	1	
				2			薬理概論	2	
	精神保健	2	2			△	精神保健学	2	
	看護学（臨床実習及び救急処置を含む）	10				◇	学校看護Ⅰ	1	
						◇	学校看護Ⅱ	2	
						◇	学校看護Ⅲ	2	
							養護臨床実習	2	
						△	救急医学	2	
「養護に関する科目」の要件単位数		28	28						

教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	2	2			◇	教職概論	1	いずれか 選択必修
	教育の基礎理論に関する科目	4	2		2	◇	教育原理	1	
							教育史	1	
			2			◇	教育心理学	1	
					2		臨床発達心理学	3	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		2				教育社会学	1	いずれか 選択必修
			2				教育行政学	1	

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目		等 教員 基準 単位	対応する開設授業科目						備 考
				資格取得要件			受 教 育 実 習 資 格	科目名	年 配 次 当	
				必修	必修 選択	選択				
教職に関する科目	教育課程に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	4	2			◇	教育課程論（中等）	1	
		道徳及び特別活動に関する内容		2				道徳・特別活動論（中等）	3	
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）		2				教育方法・技術論（中等）	2	
	生徒指導及び教育相談に関する科目	生徒指導の理論及び方法	4	2				生徒指導論	3	
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法			2			教育相談 （学校カウンセリングを含む）	2	
	教育実習	5	1 4			◇	養護実習指導 養護実習	3 3		
	教職実践演習	2	2				教職実践演習（養護教諭）	4		

② 「教職に関する科目」の要件単位数 21 25

③ さらに「養護に関する科目」「教職に関する科目」から選択（①②以外） 7 3

第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	2				日本国憲法	2	2単位選択必修
	体育	2		1			スポーツ実習A	1	
				1			スポーツ実習B	1	
	外国語コミュニケーション	2	2				運動の科学	1	
			2	1			英語コミュニケーションA	1	
	情報機器の操作	2	1				情報処理演習Ⅰ	1	
			1				情報処理演習Ⅱ	1	

④ 「教免法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数 8 8

必要な単位数の総計（①+②+③+④） 64 64

上記以外に単位取得が必要な科目	2				◇	現代教育論	1	いずれか選択必修
		－				小学校一日見学	1	
		－				幼稚園一日見学	1	
	1				◇	幼稚園見学実習A	1	
	1					幼稚園見学実習B	2	

「教育実習受講資格」の見方

◇ すべて履修済であること

△ ここから3科目以上履修済であること

養護教諭一種免許状 3 回生（2012年度入学生）

この資格を取得するためには、

- ①「養護に関する科目」から28単位以上
- ②「教職に関する科目」から25単位以上
- ③さらに「養護に関する科目」または「教職に関する科目」から①②以外に3単位以上
- ④「教免法施行規則第66条の6に定める科目」から8単位以上

↓
総計64単位以上（①+②+③+④）の単位を修得する必要があります。

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	基準 単 位 数	対応する開設授業科目					備 考		
			資格取得要件			受 講 実 習	科目名		年 配 次 当	
			必修	必修 選択	選択					
養護に関する科目	衛生学及び公衆衛生学（予防医学を含む）	4	2 2			△ △	衛生学 公衆衛生学	2 1	いずれか 選択必修	
	学校保健	2	2			◇	学校保健	1		
	養護概説	2	2			◇	養護概説	2		
	健康相談活動の理論及び方法	2	2			◇	健康相談	2		
	栄養学（食品学を含む）	2	2			△	栄養学（食品学を含む）	2		
	解剖学及び生理学	2	2			△	解剖生理学	1		
	「微生物、免疫学、薬理概論」	2		2 2			微生物学 薬理概論	1 2		
			2	2		△	精神保健学	2		
	看護学（臨床実習及び救急処置を含む）	10		2			◇	学校看護Ⅰ		1
				2			◇	学校看護Ⅱ		2
				2			◇	学校看護Ⅲ		2
				2			◇	養護臨床実習		2
				2			△	救急医学		2
	「養護に関する科目」の要件単位数		28	28						

教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	2	2			◇ 教職概論	1	いずれか 選択必修
	教育の基礎理論に関する科目	4	2		2	◇ 教育原理	1	
						教育史	1	
			2			◇ 教育心理学	1	
					2	臨床発達心理学	3	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		2			教育社会学	1	いずれか 選択必修
			2			教育行政学	1	

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目		教 育 職 員 免 許 法 等 規 定 単 位	対応する開設授業科目						備 考
				資格取得要件			受 教 育 実 習 資 格	科目名	年 配 次	
				必 修	必 選 修 択	選 択				
教職に関する科目	教育課程に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	4	2			◇	教育課程論（中等）	1	
		道徳及び特別活動に関する内容		2				道徳・特別活動論（中等）	3	
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）		2				教育方法・技術論（中等）	2	
	生徒指導及び教育相談に関する科目	生徒指導の理論及び方法	4	2				生徒指導論	3	
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法		2			◇	教育相談 （学校カウンセリングを含む）	2	
				1			◇	養護実習指導	3	
	教育実習	5	4				養護実習	3		
教職実践演習	2	2				教職実践演習（養護教諭）	4			

② 「教職に関する科目」の要件単位数 21 25

③ さらに「養護に関する科目」「教職に関する科目」から選択（①②以外） 7 3

第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	2				日本国憲法	2	2単位選択必修
	体育	2		1			スポーツ実習A	1	
				1			スポーツ実習B	1	
	外国語コミュニケーション	2		2			運動の科学	1	
							英語コミュニケーションA	1	
	情報機器の操作	2		1			情報処理演習Ⅰ	1	
				1			情報処理演習Ⅱ	1	

④ 「教免法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数 8 8

必要な単位数の総計（①+②+③+④） 64 64

上記以外に単位取得が必要な科目	2				◇	現代教育論	1	いずれか選択必修
		－				小学校一日見学	1	
		－				幼稚園一日見学	1	
		1			◇	幼稚園見学実習A	1	
		1				幼稚園見学実習B	2	

「教育実習受講資格」の見方

◇ すべて履修済であること

△ ここから3科目以上履修済であること

養護教諭一種免許状 4 回生（2011年度入学生）

この資格を取得するためには、

- ①「養護に関する科目」から28単位以上
- ②「教職に関する科目」から25単位以上
- ③さらに「養護に関する科目」または「教職に関する科目」から①②以外に3単位以上
- ④「教免法施行規則第66条の6に定める科目」から8単位以上

↓
総計64単位以上（①+②+③+④）の単位を修得する必要があります。

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	基準 単 位 数	対応する開設授業科目						備 考
			資格取得要件			受 教 講 習 格 習	科目名	年 配 次 当	
			必修	必修 選択	選択				
養護に関する科目	衛生学及び公衆衛生学（予防医学を含む）	4	2 2			△ △	衛生学 公衆衛生学	2 1	いずれか 選択必修
	学校保健	2	2			◇	学校保健	1	
	養護概説	2	2			◇	養護概説	2	
	健康相談活動の理論及び方法	2	2			◇	健康相談	2	
	栄養学（食品学を含む）	2	2			△	栄養学(食品学を含む)	2	
	解剖学及び生理学	2	2			△	解剖生理学	1	
	「微生物、免疫学、薬理概論」	2		2 2			微生物学 薬理概論	1 2	
			2			△	精神保健学	2	
	看護学（臨床実習及び救急処置を含む）	10	2			◇	看護学Ⅰ	1	
			2			◇	看護学Ⅱ	2	
			2			◇	看護学Ⅲ	2	
			2			◇	養護臨床実習	2	
			2			△	救急医学	2	
「養護に関する科目」の要件単位数		28	28						

教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	2	2			◇ 教職概論	1	いずれか 選択必修
	教育の基礎理論に関する科目	4	2		2	◇ 教育原理 教育史	1 1	
			2			◇ 教育心理学	1	
					2	臨床発達心理学	3	
				2		教育社会学 教育行政学	1 1	

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目		等 基 準 単 位	対応する開設授業科目						備 考
				資格取得要件			受 教 育 実 習	科目名	年 配 次 当	
				必修	必 選 修	選 択				
教職に関する科目	教育課程に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	4	2			◇	教育課程論（中等）	1	
		道徳及び特別活動に関する内容		2				道徳・特別活動論	3	
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）		2				教育方法・技術論（中等）	2	
	生徒指導及び教育相談に関する科目	生徒指導の理論及び方法	4	2				生徒指導論	3	
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む）の理論及び方法			2		◇	教育相談 （学校カウンセリングを含む）	2	
	教育実習	5	1			◇	養護実習指導	3		
			4				養護実習	3		
教職実践演習	2	2				教職実践演習（養護教諭）	4			

② 「教職に関する科目」の要件単位数 21 25

③ さらに「養護に関する科目」「教職に関する科目」から選択（①②以外） 7 3

第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	2			日本国憲法	2	2単位選択必修
	体育	2		1		スポーツ実習A	1	
				1		スポーツ実習B	1	
	外国語コミュニケーション	2	2			運動の科学	1	
	情報機器の操作	2	2			英語コミュニケーションA	1	
④	「教免法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数		8	2		情報処理演習 I	1	
				8				

必要な単位数の総計（①+②+③+④） 64 64

上記以外に単位取得が必要な科目	2			◇	現代教育論	1	いずれか選択必修
		－			小学校一日見学	1	
		－			幼稚園一日見学	1	
		1		◇	幼稚園見学実習A	1	
		1			幼稚園見学実習B	2	

「教育実習受講資格」の見方

◇ すべて履修済であること

△ ここから3科目以上履修済であること

中学校教諭・高等学校教諭一種免許状(英語)

中学校教諭一種免許状(英語)・高等学校教諭一種免許状(英語) 1回生(2014年度入学生)

この資格を取得するためには、

- ①「教科に関する科目」から20単位以上
- ②「教職に関する科目」から 中学校は27単位以上、高等学校は23単位以上
- ③さらに「教科に関する科目」または「教職に関する科目」から①②以外に中学校は12単位以上、高等学校は16単位以上
- ④「教免法施行規則第66条の6に定める科目」から8単位以上

↓
総計67単位以上(①+②+③+④)の単位を修得する必要があります。

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	単位 基準 数	対応する開設授業科目										備考
			資格取得要件						受 講 資 格	科目名	配 当 年 次		
			中			高							
			必修	必修 選択	選択	必修	必修 選択	選択					
		中	高										
教科に関する科目	英語学	20	2			2			◇	英語のしくみ	1	6単位以上	
			2			2			◇	英語の歴史	1		
			2			2			■	英語学講読A	2		
			2			2			■	英語学講読B	2		
			2			2				英語学演習	4		
	英米文学		2			2			★	英米文学史A	3	6単位以上	
			2			2			★	英米文学史B	3		
			2			2			☆	英米文学と子ども	2		
			2			2			☆	英米文学と教育	2		
			2			2				英米文学演習	4		
	英語コミュニケーション		2			2			◇	英語A	1		
				2				2	◇	英語B	1		
					2			2	◇	特級英語A	2		
					2			2	◇	特級英語B	2		
					2			2	◇	オーラルコミュニケーションA	2		
	異文化理解				2			2	◇	オーラルコミュニケーションB	2	4単位以上	
			2			2			#	欧米の文化と社会A	2		
			2			2			#	欧米の文化と社会B	2		
			2			2				欧米文化と子ども	3		
			2			2			◇	異文化コミュニケーション論A	3		
2				2			◇	異文化コミュニケーション論B	3				
2				2				文化理論講読	2				
「教科に関する科目」の要件単位数		20	20										

教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	2	2			2			◇	教職概論	1
		教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む) 進路選択に資する各種の機会の提供等										
	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	2			2			◇	教育原理	1	
					2					教育史	1	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む)	2					◇	教育心理学	1		
		2			2			発達心理学	2			
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	2			2				教育法制論	3		

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目		単位数	基準	対応する開設授業科目							備考	
					資格取得要件					教育実習 受講資格	科目名		年配 次当
					中		高						
				必修 必修	選択 必修	必修 必修	選択 必修						
教職に関する科目	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	12	6	2		2		◇	教育課程論(中等)	1		
		各教科の指導法				2		2	△	英語科指導法Ⅰ	3		
						2		2	△	英語科指導法Ⅱ	3		
						2		2	△	英語科指導法Ⅲ	4		
						2		2	△	英語科指導法Ⅳ	4		
		道徳の指導法			2					道徳指導法(中等)	3		
		特別活動の指導法	2		2			特別活動指導法(中等)	3				
		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)	2		2		◇	教育方法・技術論(中等)	2				
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法	4		2		2			生徒・進路指導論(中等)	3		
		進路指導の理論及び方法											
		教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)の理論及び方法			2		2		◇	教育相談 (学校カウンセリングを含む)	3		
		教育実習	5	3	5					英語科教育実習(中)	4		
		教職実践演習	2		2					英語科教育実習(高)	4		
					2					教職実践演習(中・高)	4		
「教職に関する科目」の要件単位数				31	23	27		23					

③ さらに「教科に関する科目」「教職に関する科目」から選択(①②以外)	8	16	12		16	
-------------------------------------	---	----	----	--	----	--

第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	2		2		日本国憲法	2	2単位 選択必修
	体育	2		1		1	スポーツ実習A	1	
				1		1	スポーツ実習B	1	
	外国語コミュニケーション	2		2		2	運動の科学	1	
				2		2	英語コミュニケーションA	1	
				1		1	情報処理演習Ⅰ	1	
④ 「教免法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数	情報機器の操作	2		1		1	情報処理演習Ⅱ	1	
			1		1				
④ 「教免法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数		8		8					

必要な単位数の総計(①+②+③+④)	67	67				
--------------------	----	----	--	--	--	--

上記以外に単位取得が必要な科目	2		2		◇	現代教育論	1	
-----------------	---	--	---	--	---	-------	---	--

「教育実習受講資格」の見方

◇ すべて履修済であること

☆#★■ それぞれ1科目以上履修済であること(★■は高等学校のみ)

△ ここから2科目以上履修済であること

中学校教諭一種免許状(英語)・高等学校教諭一種免許状(英語)
 2・3 回生(2012・2013年度入学生)

- この資格を取得するためには、
- ①「教科に関する科目」から20単位以上
 - ②「教職に関する科目」から 中学校は27単位以上、高等学校は23単位以上
 - ③さらに「教科に関する科目」または「教職に関する科目」から①②以外に中学校は12単位以上、高等学校は16単位以上
 - ④「教免法施行規則第66条の 6 に定める科目」から 8 単位以上
- ↓
- 総計67単位以上 (①+②+③+④) の単位を修得する必要があります。

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	単 位 数 基準 中 高	対応する開設授業科目							備 考	
			資格取得要件					教育 実習 資格	科目名		配 当 年 次
			中 必修	中 必修 選択	高 必修	高 必修 選択	選択				
教科に関する科目	英語学	20	2		2		◇	英語のしくみ	1	6単位以上	
			2		2		◇	英語の歴史	1		
			2		2			英語学講読A	3		
			2		2			英語学講読B	3		
			2		2			英語学演習	4		
	英米文学		2		2		★	英米文学史A	3	6単位以上	
			2		2		★	英米文学史B	3		
			2		2		☆	英米文学と子ども	2		
			2		2		☆	英米文学と教育	2		
			2		2			英米文学演習	4		
	英語コミュニケーション		2		2		◇	英語A	2	4単位以上	
				2		2	◇	英語B	2		
				2		2	◇	オーラルコミュニケーションA	2		
				2		2	◇	オーラルコミュニケーションB	2		
	異文化理解		2		2		#	欧米の文化と社会A	2	4単位以上	
				2		2	#	欧米の文化と社会B	2		
					2			欧米文化と子ども	3		
					2			文化理論講読	2		
「教科に関する科目」の要件単位数		20	20								

教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	2	2		2		◇	教職概論	1	いずれか 選択必修
	教育の基礎理論に関する科目	6	2		2		◇	教育原理	1	
				2		2		教育史	1	
			2		2		◇	教育心理学	1	
				2		2		臨床発達心理学	3	
			2		2			教育社会学	1	
			2		2			教育行政学	1	

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	単位 数	基準 中 高	対応する開設授業科目										備考
				資格取得要件						教育 実習 受講 資格	科目名	年 次 配 当		
				中		高								
				必修	選択	必修	選択							
教職に関する科目	教育課程及び指導法に関する科目	12	6	2		2			◇	教育課程論(中等)	1	いずれか 選択必修		
						2		2	△	英語科指導法Ⅰ	3			
						2		2	△	英語科指導法Ⅱ	3			
						2		2	△	英語科指導法Ⅲ	4			
						2		2	△	英語科指導法Ⅳ	4			
				2						道徳指導法(中等)	3			
				2		2				特別活動指導法(中等)	3			
	生徒指導、 教育相談及び 進路指導等に関する 科目	4		2		2				生徒・進路指導論(中等)	3			
				2		2			◇	教育相談 (学校カウンセリングを含む)	2			
				5	3	5				英語科教育実習(中)A	3			
	教育実習	5	3			3				英語科教育実習(中)B	4			
						3				英語科教育実習(高)	4			
	教職実践演習	2		2		2				教職実践演習(中・高)	4			
	②	「教職に関する科目」の要件単位数		31	23	27	23							

③	さらに「教科に関する科目」「教職に関する科目」から選択(①②以外)	8	16	12	16						
---	-----------------------------------	---	----	----	----	--	--	--	--	--	--

第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	2		2			日本国憲法	2	2単位選択必修
	体育	2		1			1	スポーツ実習A	1	
				1			1	スポーツ実習B	1	
				2			2	運動の科学	1	
	外国語コミュニケーション	2	2			2		英語コミュニケーションA	1	
	情報機器の操作	2		1			1	情報処理演習Ⅰ	1	
				1			1	情報処理演習Ⅱ	1	
④「教免法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数	8	8								

必要な単位数の総計(①+②+③+④)	67	67									
--------------------	----	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--

上記以外に単位取得が必要な科目	2			2			◇	現代教育論	1		
-----------------	---	--	--	---	--	--	---	-------	---	--	--

「教育実習受講資格」の見方

◇ すべて履修済であること

☆ ★ それぞれ1科目以上履修済であること(★は高等学校のみ)

△ ここから中学校は1科目以上、高等学校は2科目以上履修済であること

注) 「英語科教育実習(中)B」は、「小学校教育実習A」履修済の者のみ履修可とします。

中学校教諭一種免許状(英語)・高等学校教諭一種免許状(英語)
 4 回生(2011年度入学生)

- この資格を取得するためには、
- ①「教科に関する科目」から20単位以上
 - ②「教職に関する科目」から 中学校は27単位以上、高等学校は23単位以上
 - ③さらに「教科に関する科目」または「教職に関する科目」から①②以外に中学校は12単位以上、高等学校は16単位以上
 - ④「教免法施行規則第66条の 6 に定める科目」から 8 単位以上
- ↓
- 総計67単位以上 (①+②+③+④) の単位を修得する必要があります。

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目	単位数 基準	対応する開設授業科目										備 考	
			資格取得要件					科目名	配当年次					
			中	高	必修	必修	選択			受講資格				
		中	高	必修	必修	選択	必修	必修	選択					
教科に関する科目	英語学	20		2			2			◇	英語のしくみ	1	6単位以上	
				2			2			◇	英語の歴史	1		
				2			2				英語学講読A	3		
				2			2				英語学講読B	3		
	英米文学			2			2					英語学演習	4	6単位以上
				2			2		★		英米文学史A	3		
				2			2		★		英米文学史B	3		
				2			2		☆		英米文学と子ども	2		
				2			2		☆		英米文学と教育	2		
				2			2				英米文学演習	4		
	英語コミュニケーション			2			2				◇	英語A	2	4単位以上
					2				2		◇	英語B	2	
					2				2		◇	オーラルコミュニケーションA	2	
					2				2		◇	オーラルコミュニケーションB	2	
	異文化理解			2			2		#		#	欧米の文化と社会A	2	
					2			2		#		欧米の文化と社会B	2	
					2			2				欧米文化と子ども	3	
					2			2				文化理論講読	2	
「教科に関する科目」の要件単位数		20	20											

教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	2	2			2			◇	教職概論	1	いずれか 選択必修
	教育の基礎理論に関する科目	6	2			2			◇	教育原理	1	
					2			2		教育史	1	
			2			2			◇	教育心理学	1	
					2			2		臨床発達心理学	3	
			2			2				教育社会学	1	
			2			2				教育行政学	1	

区分	教育職員免許法施行規則に規定する科目		単位 数	基準 中 高	対応する開設授業科目										備 考
					資格取得要件						教育 実習 受講 資格	科目名	年配 次当		
					中		高								
				必修	必修 選択	必修	必修 選択								
教職に関する科目	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	12	6	2		2		◇	教育課程論(中等)	1	いずれか 選択必修			
		各教科の指導法					2		2	△	英語科指導法Ⅰ		3		
							2		2	△	英語科指導法Ⅱ		3		
							2		2	△	英語科指導法Ⅲ		4		
							2		2	△	英語科指導法Ⅳ		4		
		道徳の指導法			2					道徳指導法(中等)	3				
	特別活動の指導法	2		2			特別活動指導法(中等)	3							
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)	2		2		◇	教育方法・技術論(中等)	2							
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法	4		2		2			生徒・進路指導論(中等)	3				
		進路指導の理論及び方法													
	教育実習	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)の理論及び方法	5	3	5					教育相談 (学校カウンセリングを含む)	2				
					3(5)				英語科教育実習(中)A	3					
教職実践演習		2		2		2			英語科教育実習(中)B	4					
					3			英語科教育実習(高)	4						
				2		2			教職実践演習(中・高)	4					
②	「教職に関する科目」の要件単位数			31	23	27		23							

③	さらに「教科に関する科目」「教職に関する科目」から選択(①②以外)	8	16	12	16
---	-----------------------------------	---	----	----	----

第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	2		2		日本国憲法	2	2単位選択必修
	体育	2		1		1	スポーツ実習A	1	
				1		1	スポーツ実習B	1	
	外国語コミュニケーション	2	2		2		運動の科学	1	
	情報機器の操作	2	2		2		英語コミュニケーションA	1	
④	「教員免許法施行規則第66条の6に定める科目」の要件単位数	8	8				情報処理演習Ⅰ	2	

必要な単位数の総計(①+②+③+④)	67	67
--------------------	----	----

上記以外に単位取得が必要な科目	2		2		◇	現代教育論	1
-----------------	---	--	---	--	---	-------	---

「教育実習受講資格」の見方

◇ すべて履修済であること

☆ ★ それぞれ1科目以上履修済であること(★は高等学校のみ)

△ ここから中学校は1科目以上、高等学校は2科目以上履修済であること

注) 「英語科教育実習(中)B」は、「小学校教育実習A」履修済の者のみ履修可とします。

特別支援学校教諭一種免許状

特別支援学校教諭一種免許状 1 回生(2014年度入学生)

この資格を取得するためには、以下の科目の単位をすべて修得する必要があります。

教育職員免許法施行規則に規定する科目		基準 単 位 数	対応する開設授業科目				年 配 次 当
			資格取得要件		受 教 育 実 習 格 賞	科 目 名	
			必 修	選 択			
特別支援教育の基礎理論に関する科目		2	2		○	特別支援教育論	2
特別支援教育領域に関する 科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	16	2		○	知的障害者の心理	2
			2		○	知的障害者の生理・病理	2
			2		○	肢体不自由者の心理・生理・病理	2
			2		○	病弱者の心理・生理・病理	2
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		2		○	知的障害者教育論Ⅰ	2
			2		○	知的障害者教育論Ⅱ	2
			2		○	肢体不自由者教育論	2
			2		○	病弱者教育論	2
免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	5	2			視覚障害者教育総論	3	
		2			聴覚障害者教育総論	3	
		2			重複障害等教育総論	3	
		2			LD等教育総論	3	
		2			発達障害教育特論	3	
心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習		3	3			特別支援教育実習	4
必要な単位数の総計		26	31				

「教育実習受講資格」の見方

- すべて履修済であること

注) 特別支援学校教諭一種免許状は小学校、中学校・高等学校、幼稚園いずれかの免許状と併せて取得する必要があります。



保育士

保育士 1 回生(2014年度入学生)

この資格を取得するためには、

①「教養科目」から11単位以上

②「保育の本質・目的に関する科目」～「総合演習」から64単位以上

↓
総計75単位以上(①+②)の単位を修得する必要があります。

告示による教科目		基準 単 位 数	対応する開設授業科目						備 考
系列	教科目		資格取得要件			受 保 講 育 資 格	科目名	年 配 次 当	
			必修	必修 選択	選択				
教 養 科 目	外国語・体育以外の科目	6		2			日本国憲法	2	いずれか 選択必修
				2			人権教育	1	
					2		心理学概論	1	
					2		人間関係論	3	
			1				情報処理演習Ⅰ	1	
			1				情報処理演習Ⅱ	1	
	外国語	2	2				英語コミュニケーションA	1	
			2				英語コミュニケーションB	1	
	体育	2	2				運動の科学	1	
			1				スポーツ実習A	1	
「教養科目」の要件単位数		10	11						

保育の本質・ 目的に関する 科目	保育原理	2	2			△	保育原理	1	
					2		幼児理解論	3	
	教育原理	2	2			△	教育原理	1	
	児童家庭福祉	2	2				児童家庭福祉論	3	
	社会福祉	2	2				社会福祉論	3	
	相談援助	1	1				相談援助演習	2	
	社会的養護	2	2				社会的養護	2	
保育の対象の 理解に関する 科目	保育者論	2	2			△	教職概論(幼保)	1	
					2		発達心理学	2	
	保育の心理学Ⅰ	2	2			△	保育の心理学A	1	
			2				教育心理学	1	
	保育の心理学Ⅱ	1				△	保育の心理学B	2	
	子どもの保健Ⅰ	4	2			△	子どもの保健A	1	
			2			△	子どもの保健B	1	
	子どもの保健Ⅱ	1	1				子どもの保健演習	3	
	子どもの食と栄養	2	2				子どもの食と栄養演習	3	
	家庭支援論	2	2				家庭支援論	2	

告示による教科目			基準 単位数	対応する開設授業科目						備 考
系列	教科目	資格取得要件			受講資格	科目名	年配 次当			
		必修		必修 選択				選択		
保育の内容・ 方法に関する 科目	保育課程論	2	2				教育課程論(幼保)	3		
	保育内容総論	1	1				保育内容総論	3		
	保育内容演習	5	2			△	保育内容の研究「健康」	2		
			2				保育内容の研究「人間関係」	2		
			2			△	保育内容の研究「環境」	1		
			2			△	保育内容の研究「言葉」	1		
				2		△	保育内容の研究「音楽表現」	2		
					2	△	保育内容の研究「造形表現」	2		
					2		保育内容の研究「運動遊び」	2		
					2		保育実践研究A	3		
					2		保育実践研究B	4		
	乳児保育	2	2			△	乳児保育演習	1		
	障害児保育	2	2			△	障害児保育演習	2		
社会的養護内容	1	1			△	社会的養護内容演習	2			
保育相談支援	1	1				保育相談支援演習	3			
保育の表現技術		4	2				レクリエーション活動	3		
					1		音楽実技演習	2		
			1				ピアノ実践演習A	3		
					1		ピアノ実践演習B	4		
			2				児童文化演習	2		
			2			△	絵画演習	1		
保育実習	保育実習Ⅰ	6	4				保育実習Ⅰ	2	A・B いずれかの 組合せ で必修 3単位	
	保育実習指導Ⅰ		2			◇	保育実習指導Ⅰ	2		
	保育実習Ⅱ			2			保育実習ⅡA	2		
	保育実習指導Ⅱ			1			保育実習指導ⅡA	2		
	保育実習Ⅲ			2			保育実習ⅡB	2		
	保育実習指導Ⅲ			1			保育実習指導ⅡB	2		
総合演習	保育実践演習	2	2				保育・教職実践演習(幼稚園)	4		
「保育の本質・目的に関する科目」～「総合演習」の要件単位数			51	64						

さらに「保育の本質・目的に関する科目」「保育対象の理解に関する科目」「保育の内容・方法に関する科目」「保育の表現技術」「保育実習」から選択	9	←上記②の要件を充足することでクリアできます。
---	---	-------------------------

必要な単位数の総計(①+②)	70	75
----------------	----	----

上記以外に単位取得が必要な科目	1	◇	幼稚園見学実習A	1	いずれか 選択必修
	1		幼稚園見学実習B	2	

「保育実習受講資格」の見方

◇ 履修済であること

△ ここから26単位以上履修済であること

保育士 2 回生(2013年度入学生)

- この資格を取得するためには、
- ①「教養科目」から12単位以上
 - ②「保育の本質・目的に関する科目」～「総合演習」から64単位以上
 - ③さらに「保育の本質・目的に関する科目」～「保育実習」から②以外に 5 単位以上
- ↓
- 総計81単位以上(①+②+③)の単位を修得する必要があります。

告示による教科目			基準 単 位 数	対応する開設授業科目					備 考	
系列	教科目	資格取得要件			受 講 資 格	保 育 実 習	科目名	年 配 次 当		
		必修		必修 選択						選択
教 養 科 目	外国語・体育以外の科目	6			2			法学概論	1	いずれか 選択必修
				2				日本国憲法	2	
				2				人権教育	1	
					2			心理学概論	1	
					2			人間関係論	1	
					1			日本語と表現	1	
			1					情報処理演習Ⅰ	1	
			1					情報処理演習Ⅱ	1	
			1					ベーシックセミナー	1	
			外国語	2	2				英語コミュニケーションA	
	2						英語コミュニケーションB	1		
	体育	2	2				運動の科学	1		
1						スポーツ実習A	1			
「教養科目」の要件単位数			10	12						

保育の本質・ 目的に関する 科目	保育原理	2	2			△	保育原理	1	
					2		幼児理解論	1	
	教育原理	2	2			△	教育原理	1	
	児童家庭福祉	2	2				児童家庭福祉論	3	
	社会福祉	2	2				社会福祉論	3	
	相談援助	1	1				相談援助演習	2	
	社会的養護	2	2				社会的養護	2	
保育の対象の 理解に関する 科目	保育者論	2	2			△	教職概論(幼保)	2	
	保育の心理学Ⅰ	2			2		発達心理学	2	
					2		児童心理学	1	
			2			△	保育の心理学A	1	
			2				教育心理学	1	
	保育の心理学Ⅱ	1	1			△	保育の心理学B	2	
	子どもの保健Ⅰ	4	2			△	子どもの保健A	1	
			2			△	子どもの保健B	1	
	子どもの保健Ⅱ	1	1				子どもの保健演習	3	
	子どもの食と栄養	2	2				子どもの食と栄養演習	3	
	家庭支援論	2	2				家庭支援論	2	

告示による教科目			基準 単位数	対応する開設授業科目					備 考
系列	教科目	資格取得要件			受 講 資 格	科目名	年 配 次 当		
		必修		必修 選択				選択	
保育の内容・ 方法に関する 科目	保育課程論	2	2				教育課程論(幼保)	1	
	保育内容総論	1	1				保育内容総論	3	
	保育内容演習	5	2			△	保育内容の研究「健康」	2	
			2				保育内容の研究「人間関係」	2	
			2			△	保育内容の研究「環境」	1	
			2			△	保育内容の研究「言葉」	1	
				2		△	保育内容の研究「音楽表現」	2	
			2			△	保育内容の研究「造形表現」	2	
					2		保育実践研究A	3	
					2		保育実践研究B	4	
乳児保育	2	2			△	乳児保育演習	1		
障害児保育	2	2			△	障害児保育演習	2		
社会的養護内容	1	1			△	社会的養護内容演習	2		
保育相談支援	1	1				保育相談支援演習	2		
保育の表現技術		4	1				スポーツ実習B	1	
			2			△	絵画演習	1	
			1				ピアノ演習A	1	
			1				ピアノ演習B	1	
				1			ピアノ演習C	3	
				1			ピアノ演習D	4	
				2			レクリエーション活動	1	
			2				児童文化演習	2	
				1			実践的音楽演習A	1	
				1			実践的音楽演習B	2	
保育実習	保育実習Ⅰ	6	4				保育実習Ⅰ	2	A・B いずれかの 組合せ で必修 3単位
	保育実習指導Ⅰ		2			◇	保育実習指導Ⅰ	2	
	保育実習Ⅱ			2			保育実習ⅡA	2	
	保育実習指導Ⅱ			1			保育実習指導ⅡA	2	
	保育実習Ⅲ			2			保育実習ⅡB	2	
	保育実習指導Ⅲ			1			保育実習指導ⅡB	2	
総合演習	保育実践演習	2	2				保育・教職実践演習(幼稚園)	4	
「保育の本質・目的に関する科目」～「総合演習」の要件単位数			51	64					

③	さらに「保育の本質・目的に関する科目」「保育対象の理解に関する科目」「保育の内容・方法に関する科目」「保育の表現技術」「保育実習」から選択(②以外)	18	5
---	--	----	---

必要な単位数の総計(①+②+③)	79	81
------------------	----	----

上記以外に単位取得が必要な科目		1		◇	幼稚園見学実習A	1	いずれか 選択必修
		1			幼稚園見学実習B	2	

「保育実習受講資格」の見方

- ◇ 履修済であること
- △ ここから26単位以上履修済であること

保育士 3 回生(2012年度入学生)

この資格を取得するためには、

①「教養科目」から12単位以上

②「保育の本質・目的に関する科目」～「総合演習」から64単位以上

③さらに「保育の本質・目的に関する科目」～「保育実習」から②以外に 5 単位以上

↓
総計81単位以上(①+②+③)の単位を修得する必要があります。

告示による教科目			基準 単位数	対応する開設授業科目					備 考
系列	教科目	資格取得要件			受 保 講 育 資 格 習	科目名	年 配 次 当		
		必修		必修 選択				選択	
教 養 科 目	外国語・体育以外の科目	6			2		法学概論	1	いずれか 選択必修
				2			日本国憲法	2	
				2			人権教育	1	
					2		心理学概論	1	
					2		人間関係論	1	
					1		日本語と表現	1	
			1				情報処理演習Ⅰ	1	
			1				情報処理演習Ⅱ	1	
			1				ベーシックセミナー	1	
	外国語	2	2				英語コミュニケーションA	1	
			2				英語コミュニケーションB	1	
	体育	2	2				運動の科学	1	
			1				スポーツ実習A	1	
「教養科目」の要件単位数			10	12					

保育の本質・ 目的に関する 科目	保育原理	2	2			△	保育原理	1	
					2		幼児理解論	1	
	教育原理	2	2			△	教育原理	1	
	児童家庭福祉	2	2				児童家庭福祉論	3	
	社会福祉	2	2				社会福祉論	3	
	相談援助	1	1				相談援助演習	2	
	社会的養護	2	2				社会的養護	2	
保育の対象の 理解に関する 科目	保育者論	2	2			△	教職概論(幼保)	2	
	保育の心理学Ⅰ	2			2		発達心理学	2	
					2		児童心理学	1	
			2			△	保育の心理学A	1	
			2				教育心理学	1	
	保育の心理学Ⅱ	1	1			△	保育の心理学B	2	
	子どもの保健Ⅰ	4	2			△	子どもの保健A	1	
			2			△	子どもの保健B	1	
	子どもの保健Ⅱ	1	1				子どもの保健演習	3	
	子どもの食と栄養	2	2				子どもの食と栄養演習	3	
	家庭支援論	2	2				家庭支援論	2	

告示による教科目		基準 単 位 数	対応する開設授業科目					備 考	
系列	教科目		資格取得要件			受 講 実 習	科目名		年 配 次 当
			必修	必修 選択	選択				
保育の内容・ 方法に関する 科目	保育課程論	2	2			△	教育課程論(幼保)	1	
	保育内容総論	1	1				保育内容総論	3	
	保育内容演習	5	2			△	保育内容の研究「健康」	2	
			2			△	保育内容の研究「人間関係」	2	
			2			△	保育内容の研究「環境」	1	
			2			△	保育内容の研究「言葉」	1	
				2		△	保育内容の研究「音楽表現」	2	
					2	△	保育内容の研究「造形表現」	2	
					2		保育実践研究A	3	
					2		保育実践研究B	4	
	乳児保育	2	2			△	乳児保育演習	1	
障害児保育	2	2			△	障害児保育演習	2		
社会的養護内容	1	1			△	社会的養護内容演習	2		
保育相談支援	1	1			△	保育相談支援演習	2		
保育の表現技術		4	1			△	スポーツ実習B	1	
			2			△	絵画演習	1	
			1			△	ピアノ演習A	1	
			1			△	ピアノ演習B	1	
				1			ピアノ演習C	3	
				1			ピアノ演習D	4	
				2			レクリエーション活動	1	
			2				児童文化演習	2	
				1			実践的音楽演習A	1	
		1			実践的音楽演習B	2			
保育実習	保育実習Ⅰ	6	4				保育実習Ⅰ	2	A・B いずれかの 組合せ で必修 3単位
	保育実習指導Ⅰ		2			◇	保育実習指導Ⅰ	2	
	保育実習Ⅱ			2			保育実習ⅡA	2	
	保育実習指導Ⅱ			1			保育実習指導ⅡA	2	
	保育実習Ⅲ			2			保育実習ⅡB	2	
保育実習指導Ⅲ		1				保育実習指導ⅡB	2		
総合演習	保育実践演習	2	2				保育・教職実践演習(幼稚園)	4	

② 「保育の本質・目的に関する科目」～「総合演習」の要件単位数 51 64

③ さらに「保育の本質・目的に関する科目」「保育対象の理解に関する科目」「保育の内容・方法に関する科目」「保育の表現技術」「保育実習」から選択(②以外) 18 5

必要な単位数の総計(①+②+③) 79 81

上記以外に単位取得が必要な科目	1		◇	幼稚園見学実習A	1	いずれか 選択必修
	1			幼稚園見学実習B	2	

「保育実習受講資格」の見方

◇ 履修済であること

△ ここから35単位以上履修済であること

保育士 4 回生(2011年度入学生)

この資格を取得するためには、

①「教養科目」から15単位以上

②「保育の本質・目的に関する科目」～「総合演習」から64単位以上

③さらに「保育の本質・目的に関する科目」～「保育実習」から②以外に 5 単位以上



総計84単位以上(①+②+③)の単位を修得する必要があります。

告示による教科目		基準 単 位 数	対応する開設授業科目					備 考	
系列	教科目		資格取得要件			受 保 講 育 資 実 格 習	科目名		年 配 次 当
			必修	必修 選択	選択				
教 養 科 目	外国語・体育以外の科目	6			2		くらしと法律	1	いずれか 選択必修
				2			日本国憲法	1	
				2			人権教育	1	
					2		基礎心理学	1	
					2		人間関係論	1	
					2		日本語と表現	1	
			2				情報処理演習Ⅰ	1	
			2				情報処理演習Ⅱ	1	
			2				ベーシックセミナー	1	
	外国語	2	2				英語コミュニケーションA	1	
			2				英語コミュニケーションB	1	
	体育	2	2				運動の科学	1	
1						スポーツ実習A	1		
「教養科目」の要件単位数		10	15						

保育の本質・ 目的に関する 科目	保育原理	2	2		2	△	保育原理	1	
							幼児理解論	1	
	教育原理	2	2			△	教育原理	1	
	児童家庭福祉	2	2				児童家庭福祉論	3	
	社会福祉	2	2				社会福祉論	3	
	相談援助	1	1				相談援助演習	2	
	社会的養護	2	2				社会的養護	2	
保育の対象の 理解に関する 科目	保育者論	2	2			△	教職概論(幼保)	2	
	保育の心理学Ⅰ	2			2		発達心理学	2	
					2		児童心理学	1	
			2			△	保育の心理学A	1	
			2				教育心理学	1	
	保育の心理学Ⅱ	1	1			△	保育の心理学B	2	
	子どもの保健Ⅰ	4	2			△	子どもの保健A	1	
			2			△	子どもの保健B	1	
	子どもの保健Ⅱ	1	1				子どもの保健演習	3	
	子どもの食と栄養	2	2				子どもの食と栄養演習	3	
	家庭支援論	2	2				家庭支援論	2	

告示による教科目			基準 単位数	対応する開設授業科目						備 考
系列	教科目	資格取得要件			受 講 資 格	科目名	年 配 次 当			
		必修		必修 選択				選択		
保育の内容・ 方法に関する 科目	保育課程論	2	2			△	教育課程論(幼保)	1		
	保育内容総論	1	1				保育内容総論	3		
	保育内容演習	5	2				△	保育内容の研究「健康」		2
			2				△	保育内容の研究「人間関係」		1
			2				△	保育内容の研究「環境」		1
			2				△	保育内容の研究「言葉」		1
					2		△	保育内容の研究「音楽表現」		2
						2	△	保育内容の研究「造形表現」		2
						2		保育実践研究A		3
						2		保育実践研究B		4
	乳児保育	2	2			△	乳児保育演習	1		
	障害児保育	2	2			△	障害児保育演習	2		
社会的養護内容	1	1			△	社会的養護内容演習	2			
保育相談支援	1	1			△	保育相談支援演習	2			
保育の表現技術		4	1				△	スポーツ実習B	1	
			2				△	絵画演習	1	
			1				△	ピアノ演習A	1	
			1				△	ピアノ演習B	1	
					1			ピアノ演習C	3	
					1			ピアノ演習D	4	
					2			レクリエーション活動	1	
			2					児童文化演習	2	
					1			実践的音楽演習A	1	
					1			実践的音楽演習B	2	
保育実習	保育実習Ⅰ	6	4				保育実習Ⅰ	2	A・B いずれか の組合せ で必修 3単位	
	保育実習指導Ⅰ		2			◇	保育実習指導Ⅰ	2		
	保育実習Ⅱ			2			保育実習ⅡA	2		
	保育実習指導Ⅱ			1			保育実習指導ⅡA	2		
	保育実習Ⅲ			2			保育実習ⅡB	2		
	保育実習指導Ⅲ			1			保育実習指導ⅡB	2		
総合演習	保育実践演習	2	2				保育・教職実践演習(幼稚園)	4		

②

「保育の本質・目的に関する科目」～「総合演習」の要件単位数

51

64

③

さらに「保育の本質・目的に関する科目」「保育対象の理解に関する科目」「保育の内容・方法に関する科目」「保育の表現技術」「保育実習」から選択(②以外)

18

5

必要な単位数の総計(①+②+③)

79

84

上記以外に単位取得が必要な科目	1	◇	幼稚園見学実習A	1	いずれか 選択必修
	1		幼稚園見学実習B	2	

「保育実習受講資格」の見方

◇ 履修済であること

△ ここから35単位以上履修済であること

認定心理士

教育学部現代教育学科において、以下の表の学会指定基準単位を充足した者は、社団法人日本心理学会に認定心理士の資格審査を申請できます。

認定心理士 1 回生(2014年度入学生)

この資格の審査を申請するためには、

- ① a～c領域から12単位以上(ただしab各領域から4単位以上、c領域から3単位以上を含む)
- ② d～h領域から16単位以上(ただし3領域×各4単位の12単位以上を含む)
- ③ 上記①②以外にd～h領域から8単位以上

↓
総計36単位以上(①+②+③)の単位を修得する必要があります。

学会で定められる領域等				対応する開設授業科目			
領域		単位数 基準	単位数 学会で認 められる	上の単 位数 本学課 程	科目名	配当 年次	
【基礎科目】ab各領域 4 単位以上、c領域 3 単位以上でa～c領域の合計12単位以上							
a	心理学概論	4	2	2	心理学概論	1	
			1	2	臨床心理学概論	1	
			2	2	教育心理学	1	
b	心理学研究法	4	2	2	心理学研究法	2	
			2	2	心理統計学	2	
c	心理学実験・実習	3	2	2	心理学基礎実験	2	
			1	2	心理検査法実習	3	
a～c 3領域から		1					
①	a～c領域の合計		12	※上記の科目はすべて単位修得が必要です。			

※上記の科目はすべて単位修得が必要です。

【選択科目】d～hの内3領域以上で各4単位以上の12単位以上、かつ5領域の合計16単位以上						
d	知覚心理学・学習心理学	3領域 各4 ↓ 12	2	2	認知心理学	3
e	生理心理学・比較心理学		2	2	学習心理学	2
			1	2	発達脳科学	3
f	教育心理学・発達心理学		2	2	発達心理学	2
			1	2	保育の心理学A	1
			1	1	保育の心理学B	2
g	臨床心理学・人格心理学		2	2	臨床心理学	3
			2	2	人格心理学	2
			2	2	カウンセリング	3
			2	2	教育相談	3
			1	2	精神保健学	2
h	社会心理学・産業心理学		2	2	社会心理学	3
			2	2	人間関係論	3
			2	2	家族心理学	3
d～h 5領域から		4				
② d～h領域の合計		16				

その他の科目	2	2	卒業研究 (心理学関連科目を担当する教員の指導による心理学に関連するテーマが必要)	4
--------	---	---	--	---

③	上記①②以外にd～h領域から	8
---	----------------	---

必要な単位数の総計(①+②+③)	36
------------------	----

注)「本学課程上の単位数」と「学会で認められる単位数」とが異なる科目がありますので、注意してください。

たとえば「臨床心理学概論」は本学では2単位の科目ですが、学会では1単位の科目として扱われます。

●認定心理士資格の取得を目指す学生へ

登録申請時に以下の情報が必要になりますので、必ず把握しておいてください。

(1)各科目を履修した年度のシラバス

(2)各科目を履修した年度の担当教員名及び職階(教授、准教授、講師など)

認定心理士 2・3 回生(2012・2013年度入学生)

この資格の審査を申請するためには、

- ① a～c領域から12単位以上(ただしab各領域から4単位以上、c領域から3単位以上を含む)
- ② d～h領域から16単位以上(ただし3領域×各4単位の12単位以上を含む)
- ③ 上記①②以外にa～h領域から8単位以上



総計36単位以上(①+②+③)の単位を修得する必要があります。

学会で定められる領域等				対応する開設授業科目			
領域		単位数 基準	単位数 学会で められる	単位数 本学 課程 上の単位	科目名	配当 年次	
【基礎科目】ab各領域 4 単位以上、c領域 3 単位以上でa～c領域の合計12単位以上							
a	心理学概論	4	2	2	心理学概論	1	
			1	2	臨床心理学概論	1	
			2	2	教育心理学	1	
b	心理学研究法	4	2	2	心理学研究法Ⅰ	2	
			2	2	心理学研究法Ⅱ	2	
			2	2	心理統計学	2	
c	心理学実験・実習	3	2	2	心理学基礎実験	2	
			2	2	心理学実験	2	
			1	2	心理検査法実習	3	
a～c 3領域から		1					
a～c領域の合計		12					

【選択科目】d～hの内3領域以上で各4単位以上の12単位以上、かつ5領域の合計16単位以上						
d	知覚心理学・学習心理学	3領域 各4 ↓ 12	2	2	認知心理学	3
			2	2	学習心理学	2
e	生理心理学・比較心理学		1	2	発達脳科学	3
f	教育心理学・発達心理学		1	2	教育心理学演習	2
			2	2	発達心理学	2
			2	2	児童心理学	1
			2	2	学校心理学	4
			2	2	臨床発達心理学	3
			1	2	保育の心理学A	1
g	臨床心理学・人格心理学		1	1	保育の心理学B	2
			2	2	臨床心理学	3
			2	2	人格心理学	2
			2	2	カウンセリング	3
			2	2	教育相談	2
			1	2	精神保健学	2
h	社会心理学・産業心理学		2	2	社会心理学	3
			2	2	人間関係論	1
			2	2	家族心理学	3
			2	2	コミュニケーション心理学	3
d～h 5領域から		4				
d～h領域の合計		16				

その他の科目	2	2	卒業研究 (心理学関連科目を担当する教員の指導による心理学に関連するテーマが必要)	4
	2	2	学習心理学演習	2
	2	2	社会心理学調査演習(マーケティングリサーチ)	3

③	上記①②以外にa～h領域から	8
---	----------------	---

必要な単位数の総計(①+②+③)	36
------------------	----

注)「本学での単位数」と「学会に認められる単位数」とが異なる科目がありますので、注意してください。

たとえば「臨床心理学概論」は本学では2単位の科目ですが、学会では1単位の科目として扱われます。

●認定心理士資格の取得を目指す学生へ

登録申請時に以下の情報が必要になりますので、必ず把握しておいてください。

(1)各科目を履修した年度のシラバス

(2)各科目を履修した年度の担当教員名及び職階(教授、准教授、講師など)

認定心理士 4 回生(2011年度入学生)

この資格の審査を申請するためには、

- ① a～c領域から12単位以上(ただしab各領域から4単位以上、c領域から3単位以上を含む)
- ② d～h領域から16単位以上(ただし3領域×各4単位の12単位以上を含む)
- ③ 上記①②以外にa～h領域から8単位以上



総計36単位以上(①+②+③)の単位を修得する必要があります。

学会で定められる領域等				対応する開設授業科目			
領域		単位数 基準	単位数 学会で認められる	上の単位数 本学課程	科目名	配当年次	
【基礎科目】ab各領域 4 単位以上、c領域 3 単位以上でa～c領域の合計12単位以上							
a	心理学概論	4	2	2	基礎心理学	1	
			1	2	臨床心理学概論	1	
			2	2	教育心理学	1	
b	心理学研究法	4	2	2	心理学研究法Ⅰ	2	
			2	2	心理学研究法Ⅱ	2	
			2	2	心理統計学	2	
c	心理学実験・実習	3	2	2	心理学基礎実験	2	
			2	2	心理学実験	2	
			1	2	心理検査法実習	3	
a～c 3領域から		1					
a～c領域の合計		12					

【選択科目】d～hの内3領域以上で各4単位以上の12単位以上、かつ5領域の合計16単位以上						
d	知覚心理学・学習心理学	3領域 各4 ↓ 12	2	2	認知心理学	3
			2	2	学習心理学	2
e	生理心理学・比較心理学		1	2	発達脳科学	3
			1	2	教育心理学演習	2
f	教育心理学・発達心理学		2	2	発達心理学	2
			2	2	児童心理学	1
			2	2	学校心理学	4
			2	2	臨床発達心理学	3
			1	2	保育の心理学A	1
			1	1	保育の心理学B	2
g	臨床心理学・人格心理学		2	2	臨床心理学	3
			2	2	人格心理学	2
			2	2	カウンセリング	3
			2	2	教育相談	2
			1	2	精神保健学	2
			2	2	社会心理学	3
h	社会心理学・産業心理学		2	2	人間関係論	1
			2	2	家族心理学	3
			2	2	コミュニケーション心理学	3
d～h 5領域から		4				
d～h領域の合計		16				

その他の科目	2	2	卒業研究 (心理学関連科目を担当する教員の指導による心理学に関連するテーマが必要)	4
	2	2	学習心理学演習	2
	2	2	社会心理学調査演習(マーケティングリサーチ)	3

③	上記①②以外にa～h領域から	8
---	----------------	---

必要な単位数の総計(①+②+③)	36
------------------	----

注)「本学での単位数」と「学会に認められる単位数」とが異なる科目がありますので、注意してください。

たとえば「臨床心理学概論」は本学では2単位の科目ですが、学会では1単位の科目として扱われます。

●認定心理士資格の取得を目指す学生へ

登録申請時に以下の情報が必要になりますので、必ず把握しておいてください。

(1)各科目を履修した年度のシラバス

(2)各科目を履修した年度の担当教員名及び職階(教授、准教授、講師など)

社会教育主事

教育学部現代教育学科に所属し、社会教育法及び社会教育主事講習会等規定に定める下表の要件を充足した者は、社会教育主事となる資格を取得できます。

社会教育主事 2・3・4回生(2011～2013年度入学生)

この資格を取得するためには、

- ・各領域の基準単位数を充足すること。
 - ・「社会教育特講」領域はⅠ・Ⅱ・Ⅲから最低1科目ずつの単位を修得すること。
- この要件を満たした上で総計24単位以上の単位を修得する必要があります。

領域	単 位 数 基 準	対応する開設授業科目		
		単 位 数	科目名	配 当 年 次
生涯学習概論	4	2	生涯学習概論A	1
		2	生涯学習概論B	1
社会教育計画	4	2	社会教育計画Ⅰ	3
		2	社会教育計画Ⅱ	3
社会教育演習	4	2	地域教育課題演習A	4
社会教育実習		2	地域教育実習	4
社会教育課題研究		2	地域教育課題演習B	4
社会教育特講Ⅰ (現代社会と社会教育)	12	2	社会教育特論A	3
		2	社会教育特論B	3
2		地域社会教育施設	2	
2		学校外活動論	2	
社会教育特講Ⅲ (その他必要な科目)		2	現代教育論	1
		2	教育原理	1
		2	教育社会学	1
必要な単位数の総計	24			

規 程 集

畿央大学学則	272
理学療法学科 内規	281
看護医療学科 内規	282
健康栄養学科 内規	283
人間環境デザイン学科 内規	284
現代教育学科 内規	286
履修に関する規則	290
授業に関する規則	291
試験に関する規則	294
学納金納入規則	297
転学部及び転学科に関する規則	298
再入学規則	298
学生懲戒規程	299
図書館規則	302
情報ネットワークシステム利用規則	305
情報セキュリティ実施細則	306
ハラスメントの防止等に関する指針	309
ハラスメントの防止等に関する規則	313
畿友会 会則	316
畿桜会 会則	319

畿 央 大 学 学 則

第1章 総 則

第1節 目 的

(目的)

第1条 本学は、「徳をのぼす」「知をみがく」「美をつくる」を教育の基本理念に置き、高潔な人格と幅広く高度な学識・技術を身につけ、以て地域社会の福祉と文化の創造に貢献できる有為な人材を育成することを目的とする。

2 健康科学部においては、人間の身体と健康についての科学的視点や高い専門技術を養うことと合わせて、建学の精神に則り、豊かな人間性を持ち、人の心の痛みに共感することができる人材を育成する。

3 健康科学部理学療法学科においては、理学療法の深い専門的知識と高い技術を修得すると同時に、医療従事者として人間の尊厳、生命への畏敬を理解し、人間を総合的に理解できる幅広い教養と倫理観を持った徳性のある人材を育成する。

4 健康科学部健康栄養学科においては、食物と食生活を取り巻く問題を総合的にとらえ、健康のために望ましい食生活と、ライフスタイルの在り方を解明する教育研究を行ない、高度な専門知識を有し、総合的な問題解決型の人材を育成する。

5 健康科学部人間環境デザイン学科においては、幼児や高齢者、障害者をはじめすべての人間が健康で豊かに生活できる環境を創造する人材を育成する。

6 健康科学部看護医療学科においては、理学療法学科、健康栄養学科、人間環境デザイン学科とのコラボレーションによって、幅広い視点で健康を支える看護師および保健師を育成し、乳幼児から高齢者までの健康な暮らしの実現に貢献する。

7 教育学部においては、教育の現代的課題に取り組む専門的知識とスキルを持つ教育の専門家としての人材育成を行ない、個人、家庭、学校および職域を含む地域社会全体の教育力の向上発展に寄与すること

をめざす。

(自己評価等)

第2条 本学は、教育研究の向上を図り、前条の目的および社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行なう。

2 前項の点検・評価の結果については、学外者による評価・検証を行なうように努める。

3 本学は、教育研究活動等の状況、自己点検・評価等の結果について、刊行物等により、積極的に情報を公開するものとする。

4 本条第1項および第2項に関する事項は別に定める。

第2節 教育研究の組織

(大学の名称)

第3条 本学は畿央大学と称する。

(学部および学科)

第4条 本学に次の学部、学科を置く。

健康科学部

理学療法学科

健康栄養学科

人間環境デザイン学科

看護医療学科

教育学部

現代教育学科

2 前項の各学科の入学定員および収容定員は、別表第1のとおりとする。

(大学院)

第4条の2 本学に大学院を置く。

2 大学院に関する規則は別に定める。

(専攻科)

第4条の3 本学に次の専攻科を置く。

助産学専攻科

2 専攻科に関する規則は別に定める。

(付置機関)

第4条の4 本学に次の付置機関を置く。

畿央大学図書館

畿央大学健康科学研究所

畿央大学現代教育研究所

ニューロリハビリテーション研究 センター

2 前項の付置機関に関する規則は別に定める。

第3節 教職員組織

(教職員組織)

第5条 本学に学長、副学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員およびその他の必要な職員を置く。

(事務局)

第6条 本学に、事務局を置く。

第4節 教授会

(教授会)

第7条 本学の重要な事項を審議するために教授会を置く。

2 教授会は学長、副学長、学部長、学科長および専任教授で構成する。ただし、必要な場合は准教授その他の教職員を加えることができる。

3 教授会は次の事項を審議する。

- (1) 教育研究の基本方針に関すること
- (2) 教育課程および履修方式に関すること
- (3) 学則その他重要な規程等に関すること
- (4) 教育職員の人事等についての学長の諮問事項に関すること
- (5) 学生の入学、退学、転学、留学、休学、復学および卒業に関すること
- (6) 定期試験および追・再試験等に関すること
- (7) 学生の指導、賞罰および除籍に関すること
- (8) その他本学の運営に関する重要な事項

4 その他、教授会に関する必要な事項は、別に定める。

第5節 学年、学期および休業日

(学年)

第8条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第9条 前条の学年は、次の2学期に分ける。

前学期 4月1日より9月15日まで

後学期 9月16日より翌年3月31日まで

(休業日)

第10条 本学の休業日は次のとおりとする。

- (1) 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- (2) 日曜日
- (3) 学校法人冬木学園創立記念日
- (4) 春期休業日
- (5) 夏期休業日
- (6) 冬期休業日

2 前項第4号から第6号の各年度の休業日については、教授会の議を経て、学長が定める。

3 学長が必要と認めたときは、教授会の議を経て、前2項の休業日を臨時に変更し、または臨時に休業日を定めることができる。

第6節 修業年限および在学年限

(修業年限)

第11条 本学の修業年限は4年とする。

(在学年限)

第12条 在学年数は8年を超えてはならない。

2 編入学、転入学および再入学した学生は、その者の在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。

3 教授会の議を経て、学長がやむを得ないと認めた場合は在学年限を超えて在学できる。

第2章 入 学

(入学)

第13条 入学の時期は毎学年始めとする。

2 前項の他にも、学長が必要と認めた場合は、学期の区分に従い入学することができる。

(入学資格)

第14条 本学に入学を許可される者は、次の各号の一に該当し、かつ入学試験に合格した者に限る。

- (1) 高等学校または中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

（入学志願）

第15条 本学への入学を志願する者は、本学所定の書類に入学検定料を添えて、定められた期日までに提出しなければならない。

2 入学検定料の金額は別に定める。

（入学者の選考）

第16条 試験は高等学校卒業程度により行なう。選考方法に関しては別に定める。

（入学手続きおよび入学許可）

第17条 入学試験の合格者は、本学所定の書類に、所定の納付金を添えて定められた期日までに入学手続きをしなければならない。

2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に対して入学を許可する。

（保証人）

第18条 入学を許可された者は、保証人を定めなければならない。

（編入学）

第19条 健康科学部の理学療法学科、健康栄養学科、人間環境デザイン学科は、次の各

号の一に該当する者について、欠員がある場合に限り、所定の審査を経て第2年次または第3年次への編入学を許可することができる。

- (1) 短期大学を卒業した者または大学の2年修了者で、本学の各学科の教育課程に準じる課程を履修した者
- (2) 専修学校の2年修了者で、本学の各学科の教育課程に準じる課程を履修した者ただし、健康栄養学科にあっては、厚生労働大臣の指定する管理栄養士または栄養士養成施設を卒業または修了した者、理学療法学科にあっては、厚生労働大臣の指定する理学療法士養成施設または文部科学大臣が指定する理学療法士養成校を卒業または修了した者に限る。

2 健康科学部の看護医療学科にあっては、次の各号の一に該当する者について、欠員がある場合に限り、所定の審査を経て第2年次または第3年次への編入学を許可することができる。

- (1) 保健師助産師看護師法（昭和23年法律第203号）第21条第1号の規定する文部科学大臣の指定した短期大学を卒業した者
- (2) 保健師助産師看護師法（昭和23年法律第203号）第21条第2号の規定する厚生労働大臣の指定した看護師養成所のうち、文部科学大臣の定める基準を満たす専修学校の専門課程を修了した者（学校教育法第56条に規定する入学資格を有する者に限る）

3 教育学部は、短期大学を卒業した者またはそれに準ずる者で、3年次編入学を希望する者に対して、所定の審査を経て3年次からの編入学を許可することができる。

4 本条第1項から第3項の所定の審査に関しては、別に定める。

第3章 学籍

（休学）

第20条 疾病その他やむを得ない事由により3か月以上修学することができない者は、

本学所定の休学願に保証人連署の上、医師の診断書または、その事由を証明する書類を添えて提出し、学長の許可を得て休学することができる。

2 疾病、その他の事由により修学することが適当でないと認められる者については、学長は、休学を命ずることができる。

3 休学の期間は、休学を許可された日から当該学期末または当該年度末までとする。ただし、特別の事由がある場合は、連続して2年まで認めることがある。

4 休学の期間は通算して3年を超えることはできない。

5 休学の期間は第12条に定める在学年数に算入しない。

(退学、転学)

第21条 疾病その他やむを得ない事由により退学しようとする者は、本学所定の退学願を保証人連署の上提出し、学長の許可を得なければならない。

2 他の大学等に転学を希望する者は、学長の許可を得なければならない。

(留学)

第22条 本学が協定または認定した外国の大学または短期大学で学修することを志願する者は、本学所定の留学願を保証人連署の上提出し、学長の許可を得なければならない。

2 前項の許可を得て留学した期間は、第11条に定める修業年限に含めることができる。

(転学部および転学科)

第23条 本学の学生が、転学部または転学科を志願する場合は、選考の上、転学部または転学科を許可することがある。転学部および転学科に関し必要な事項については、別に定める。

(除籍)

第24条 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て学長が除籍する。

- (1) 第12条に定める在学年限を超えた者、ただし学長が所定の年限を超えて在学することもやむをえないと認めたものを除く。
- (2) 第20条3項に定める休学の期間を超

えた者

- (3) 授業料および教育充実費（以下「授業料等」という）の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

- (4) 死亡および長期にわたり行方不明の者

(復学および再入学)

第25条 休学している者が、その事由の消滅により復学する場合は、本学所定の復学願を保証人連署の上提出し、学長の許可を得なければならない。

2 転学した者、退学した者および除籍となった者が、在籍した学部・学科への再入学を希望する場合は、教授会の議を経て学長の許可を得なければならない。再入学に関し必要な事項については、別に定める。

(異動の届出)

第26条 学生または保証人に死亡、転居または改名等の異動が生じたときおよび保証人がその資格を失ったときは、直ちに届出なければならない。

第4章 教育課程および履修方法

(教育課程および授業科目)

第27条 本学の教育課程は別表第2のとおりとする。

(教育課程の編成)

第28条 学部および学科の設置の趣旨に従い、教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成にあたっては、当該学部・学科に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するように配慮する。

3 本学は、授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修および研究の実施に努めるものとする。

(授業科目)

第29条 授業科目は、教養科目、専門基礎科目、専門科目および教育職員免許状に関する科目に区分して配置する。

2 授業科目を必修科目、選択科目に分

け、各年次に配当して編成する。

3 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修できる科目については別に定める。

(履修科目の登録)

第30条 学生は、履修する授業科目を選択し、学期ごとに本学が指定する期間内に履修登録しなければならない。

(履修登録の上限)

第31条 各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、一学期に履修科目として登録することができる単位数を定めるものとする。単位数の上限は別に定める。

(単位の計算方法)

第32条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義および演習については15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験・実習および実技については30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 卒業研究における成果に対してもその成果を評価して単位を与えることができる。

(成績の評価)

第33条 成績の評価は、秀、優、良、可、不可または、合、否で行ない、秀、優、良、可、合の者に対しては、それぞれの科目について定められた単位を与える。

(一年間の授業期間)

第34条 一年間の授業を行なう期間は、定期試験等の期間を含めて35週にわたることを原則とする。

(試験の時期)

第34条の2 試験は学期末または学年末にその履修した科目について行なう。

2 前項にかかわらず試験は随時これを行なうことがある。

(資格の取得)

第35条 本学において取得できる資格および

その要件は、別に定める。

(他の大学または短期大学における授業科目の履修等)

第35条の2 教授会が、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、学生が外国の大学または短期大学に留学する場合に準用する。この場合修得したものとみなすことのできる単位数は、前項、第35条の3および第35条の4の単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(大学または短期大学以外の教育施設等における学修)

第35条の3 教授会が、教育上有益と認めるときは、学生が行なう短期大学または高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第1項により修得したものとみなした単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位の認定)

第35条の4 教授会が、教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に大学、短期大学、高等専門学校、または専修学校専門課程等において修得した単位を、入学後本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 学生が入学する前に行なった前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、または与えることができる単位数は、編入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えないものとする。

第5章 卒業および学位

第36条 削除

(卒業の認定)

第37条 本学に4年(第19条の規定により入学した者は別に定める年数)以上在学し、所定の授業科目を履修し、別表第2に定める卒業要件単位を取得した者は教授会の議を経て学長が卒業を認め学士の学位を授与する。

(学位)

第38条 学士の学位は卒業した学部学科に応じて、次のとおりとする。

健康科学部

理学療法学科

学士(理学療法学)

健康栄養学科

学士(健康栄養学)

人間環境デザイン学科

学士(人間環境デザイン学)

看護医療学科

学士(看護学)

教育学部

現代教育学科

学士(教育学)

第39条 削除

第40条 削除

第41条 削除

第42条 削除

第6章 学納金

(学納金)

第43条 学納金は、入学金、授業料、教育充実費、その他の納付金とする。

2 入学金、授業料、教育充実費は、別表第3に定める。

3 その他の納付金は、諸費用、手数料等としその金額は別に定める。

(納入方法)

第44条 入学する者は入学手続きの際に入学金を納めなければならない。

2 授業料等は年額の2分の1ずつを前期、後期に分けて納入するものとする。

3 その他の納付金の納入方法は別に定

める。

(学期の途中で休学・復学する場合)

第45条 学期の途中において休学または復学した者は、当該学期の授業料等を納付しなければならない。

(学年の途中で卒業する場合の授業料)

第46条 学年の途中で卒業する見込みの者は、卒業する見込みの月までの授業料等を納付するものとする。

(退学および停学の場合の授業料)

第47条 前期または後期の途中で退学または除籍された者の当該学期の授業料等は徴収する。

2 停学期間中の授業料等は徴収する。

(休学中の場合)

第48条 休学を許可されまたは命じられた者の在籍料については別に定める。

(学納金の返還)

第49条 いったん納入された学納金は返還しないことを原則とする。

第7章 科目等履修生、研究生等

(科目等履修生)

第50条 本学の学生以外の者で、本学の一または複数の授業科目を志願する者があるときは、授業に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

(研究生)

第51条 本学において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、研究教育に支障のない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可することがある。

2 研究生を志願することのできる者は、大学を卒業した者またはこれと同等以上の学力があると認められた者とする。

3 研究期間は1年とする。ただし、特別の理由がある場合は、その期間を更新することができる。

(特別聴講生)

第52条 他の大学の学生で、本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該他大学との協議に基づき、特

別聴講生として入学を許可することがある。
(外国人留学生)

第53条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入学し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することがある。

2 前項の外国人留学生に対しては、第27条に掲げる授業科目のほか、日本語科目および日本事情に関する科目を置くことができる。

第54条 科目等履修生、研究生、特別聴講生および外国人留学生に関する規則は、別に定める。

第8章 奨学制度

(奨学制度)

第55条 本学には、奨学のため、別に定める奨学制度を設ける。

第9章 賞罰

(表彰)

第56条 学生として表彰に値する行為があった者は、教授会の議を経て、学長が表彰することができる。

(懲戒)

第57条 本学の規則に違反し、または学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学および戒告とする。

3 停学期間は、在学年限に算入し、修業年限に算入しない。ただし、停学期間が3か月以内の場合には、修業年限に算入することができる。

4 懲戒に関する事項は、別にこれを定める。

第10章 公開講座

(公開講座)

第59条 社会人の教養を高め、地域の文化の向上と発展に資するため、公開講座を開設

するものとする。公開講座の実施については、別に定める。

第11章 細則および改廃

(学則細則その他)

第60条 本学則施行についての細則その他必要な事項は、別に定める。

(改廃)

第61条 本学則の改廃は、教授会の議を経て学長が行なう。

附 則

この学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成20年8月21日から施行する。

附 則

この学則は、平成20年11月20日から施行する。

附 則

この学則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成21年11月19日から施行する。

附 則

この学則は、平成22年3月18日から施行する。

附 則

この学則は、平成22年10月21日から施行する。

附 則

この学則は、平成23年2月17日から施行する。

附 則
この学則は、平成23年 4月1日から施行する。

附 則
この学則は、平成24年 4月1日から施行する。

附 則
この学則は、平成25年 4月1日から施行する。

附 則
この学則は、平成26年 4月1日から施行する。

別表第1－1（平成26年度以降入学者）入学定員・収容定員（人）

学 部	学 科	入学定員	収容定員
健 康 科 学 部	理学療法学科	70	280
	健康栄養学科	90	360
	人間環境デザイン学科	50	200
	看護医療学科	90	360
教 育 学 部	現代教育学科	195 3年次より編入学5	790

別表第1－2（平成24年度、平成25年度入学者）入学定員・収容定員（人）

学 部	学 科	入学定員	収容定員
健 康 科 学 部	理学療法学科	60	240
	健康栄養学科	70	280
	人間環境デザイン学科	45	180
	看護医療学科	90	360
教 育 学 部	現代教育学科	145 3年次より編入学5	590

別表第1－3（平成20年度以降平成23年度までの入学者）入学定員・収容定員（人）

学 部	学 科	入学定員	収容定員
健 康 科 学 部	理学療法学科	60	240
	健康栄養学科	70	280
	人間環境デザイン学科	45	180
	看護医療学科	80 3年次より編入学20	360
教 育 学 部	現代教育学科	145 3年次より編入学5	590

別表第3－1（平成25年度以降入学者） 入学金、授業料、教育充実費（円）

学 部	学 科	入学金	授業料	教育充実費
健 康 科 学 部	理学療法学科	190,000	860,000	680,000
	健康栄養学科	190,000	860,000	400,000
	人間環境デザイン学科	190,000	860,000	250,000
	看護医療学科	190,000	860,000	680,000
教 育 学 部	現代教育学科	190,000	860,000	250,000

別表第3－2（平成20以降24年度までの入学者）入学金、授業料、教育充実費（円）

学 部	学 科	入学金	授業料	教育充実費
健 康 科 学 部	理学療法学科	260,000	850,000	660,000
	健康栄養学科	260,000	850,000	380,000
	人間環境デザイン学科	260,000	850,000	220,000
	看護医療学科	260,000	850,000	610,000
教 育 学 部	現代教育学科	260,000	850,000	220,000

健康科学部 理学療法学科 内規

(総則)

第1条 本内規は、畿央大学（以下「本学」という。）学則（以下「学則」という。）第1条に掲げる教育の目的に従い、本学健康科学部理学療法学科（以下「本学科」という。）に所属する教員及び学生が学校教育、学校生活等を円滑かつ効率的に授受するために必要な事項を定める。

2 本学科に所属する教員及び学生は、学校法人冬木学園及び本学の各種規則に加えて、本内規に従わなければならない。

(学習の評価)

第2条 学習の評価方法は、学則第33条及び本学履修に関する規則第10条による他は、原則として当該科目担当教員に一任する。

2 合格の最低基準は評価方法によらず60点とする。

(試験、出席等)

第3条 試験は本学試験に関する規則に従う。

2 実習及び演習科目については、出席時数が4／5に満たない場合は、その授業科目の試験を受けることができない。

(臨床実習)

第4条 臨床実習は以下の通り行う。

- (1) 「臨床指導」を2年次に行い、その期間は1週間とする。
- (2) 「臨床評価実習」を3年次に行い、その期間は3週間とする。
- (3) 「総合臨床実習」を4年次に行い、8週間で2期行う。

2 次の各号に該当する者に対して臨床実習の履修を認める。

- (1) 「臨床評価実習」の履修は、3年次後期までに開講される専門基礎科目及び専門科目のすべての必修単位を修得している者。
- (2) 「総合臨床実習」の履修は、「臨床評価実習」の単位を修得している者。

3 実習は全日出席とする。少なくとも各実習において出席時数が4／5に満たない場合は原則として実習の単位を与えない。

4 実習の単位認定は、実習指導者の評

価及びセミナー（実習報告会）を含め、本学科会議で総合的に判定し決定する。

5 その他、実習にかかる規則等は、原則として臨床実習の手引きに従う。

(実習補習)

第5条 実習において、次の各号のいずれかに該当する者は実習補習を受ける事ができる。

- (1) 試験に関する規則第8条の追試験該当事項により出席時数を満たさなかった者。
- (2) 前号以外の理由により本学科会議で実習補習が必要であると認められた者。

(科目の履修)

第6条 3年次に開講される専門基礎科目及び専門科目を履修するためには、次の科目の単位をすべて修得していなければならない。

「解剖学（骨格・筋・神経）Ⅰ」、「解剖学（骨格・筋・神経）Ⅱ」、「解剖学（内臓）」
「解剖学実習」、「生理学Ⅰ」、「生理学Ⅱ」、「生理学実習」

2 「理学療法総合演習」は、「総合臨床実習」の単位を修得した者のみ履修できる。

3 「卒業研究」は「理学療法研究法」、「理学療法研究法演習」の単位を修得した者のみ履修できる。

4 本条第1項及び第3項は平成22年度入学生より適用する。

(改廃)

第7条 この内規の改廃は、本学教務委員会の議を経て教授会において行う。

附 則 この内規は、平成15年12月1日から施行する。

附 則 この内規は、平成17年7月1日から施行する。

附 則 この内規は、平成19年5月10日から施行する。

附 則 この内規は、平成19年12月20日から施行する。

附 則 この内規は、平成20年2月21日か

ら施行する。

附 則 この内規は、平成22年 4 月 1 日から施行する。

附 則 この内規は、平成24年 4 月 1 日か

ら施行する。

附 則 この内規は、平成24年10月18日から施行する。

健康科学部 看護医療学科 内規

(総則)

第 1 条 本内規は、畿央大学（以下「本学」という。）学則（以下「学則」という。）第 1 条に掲げる教育の目的に従い、本学健康科学部看護医療学科（以下「本学科」という。）に所属する教員および学生が学校教育、学校生活等を円滑かつ効率的に授受するために必要な事項を定める。

2 本学科に所属する教員および学生は、学校法人冬木学園および本学の各種規則に加えて、本内規に従わなければならない。

(成績の評価)

第 2 条 成績の評価方法は、学則第33条および本学履修に関する規則第10条による他は、原則として当該科目担当教員に一任する。

2 合格の最低基準は評価方法によらず 60点とする。

(出席等)

第 3 条 全ての講義・演習・実習科目は、原則全日出席しなければならない。臨地実習において出席時数が 4 / 5 に満たない場合は、原則として単位は修得できない。

(看護学実習科目の履修制限)

第 4 条 看護学実習科目については、次の要件を満たさなければ、履修することができない。

2 「基礎看護学実習」を履修するためには、専門科目の「専門分野Ⅰ」に含まれる科目のうち、1 年次に配当されている必修科目の単位をすべて修得または履修していること。

3 3 年次後期の各看護学実習科目を履修するためには、3 年次前期までに開講される専門基礎科目および専門科目の必修科目の単位をすべて修得していること。

4 4 年次前期の「病院インターンシッ

プ」、「離島・へき地医療体験実習」、「地域看護学実習」を履修するためには、「在宅看護学実習」をのぞく各看護学実習科目の単位をすべて修得していること。

5 本条第 4 項は平成24年度入学生より適用する。

(看護学実習)

第 5 条 看護学臨地実習の実施詳細については、別に定める。

2 「病院インターンシップ」「地域看護学実習」のうち 1 科目を選択すること。

3 本条第 2 項は平成24年度入学生より適用する。

(養護実習)

第 6 条 養護実習は、4 年次以降に行い、事前・事後指導を除くその期間は 4 週間とする。

2 「養護実習」を履修するためには、養護教諭資格必修科目のうち 4 年次後期開講「教職実践演習（養護教諭）」以外の科目を履修していること。ただし、平成21年度以前の入学生および平成23年度以前の編入学生は、養護教諭資格必修科目のすべてを履修していること。

(保健師国家試験受験資格取得要件)

第 7 条 保健師国家試験の受験資格を得ようとする者は、次の要件を満たさなければならない。

(1) 「地域看護学概論」の単位を修得した者のみが、地域看護学領域の選択科目を履修することができる。

(2) 4 年次前期に実施される「地域看護学実習」の単位を修得していること。

(3) 「公衆衛生看護学実習」を履修するためには、地域看護学の区分にある 4 年次前期までの全科目の単位を修得していること。

2 本条の規定は平成24年度入学生より適用する。

(科目の履修)

第8条 第4条、第6条、第7条に関わらない科目の履修における先修条件は、本学科会議の議を経てシラバスに明示するものとする。

(3年次編入学生の単位認定)

第9条 3年次編入生の単位認定は、本学入学前既修得単位等の認定に関する規程により、単位認定を行うものとする。

2 認定できる単位数は、96単位以内とする。

(改廃)

第10条 この内規の改廃は、本学教務委員会の議を経て教授会において行う。

附 則 この内規は、平成20年8月21日から施行する。

附 則 この内規は、平成22年4月1日から施行する。

附 則 この内規は、平成24年4月1日から施行する。

附 則 この内規は、平成25年8月22日から施行する。

附 則 この内規は、平成26年4月1日から施行する。

健康科学部 健康栄養学科 内規

(総則)

第1条 本内規は、畿央大学（以下「本学」という。）学則（以下「学則」という。）第1条に掲げる教育の目的に従い、本学健康科学部健康栄養学科（以下「本学科」という。）に所属する教員及び学生が学校教育、学校生活等を円滑かつ効率的に授受するために必要な事項を定める。

2 本学科に所属する教員及び学生は、学校法人冬木学園及び本学の各種規則に加えて、本内規に従わなければならない。

(授業の出席と遅刻)

第2条 全ての授業科目に対し、原則全日出席とする。

2 実験・実習・演習科目については、出席時数が4/5に満たない場合は、原則として単位は修得できない。ただし、「特別演習Ⅰ・Ⅱ」及び「総合対策演習Ⅰ・Ⅱ」は、講義科目と同じ扱いにする。

3 授業科目によっては、遅刻を認めないことがある。

(臨地実習)

第3条 臨地実習に参加するためには、以下の条件をすべて満たしていなければならない。

(1) 2年次終了までに、60単位以上を修得していること。

(2) 1・2年次に開講される専門基礎科目及び専門科目の必修科目のうち、単位を修得できていない科目が2科目以下であること。

(3) 各臨地実習について、次に示す科目の単位を修得または履修中であること。「臨地実習Ⅰ」については、「給食経営管理論Ⅰ」、「給食経営管理論実習Ⅰ」、「給食経営管理論実習Ⅱ」、「総合演習」

「臨地実習Ⅱ・Ⅲ」については、「給食経営管理論Ⅰ」、「給食経営管理論Ⅱ」、「給食経営管理論実習Ⅰ」、「給食経営管理論実習Ⅱ」、「臨床栄養学Ⅰ」、「臨床栄養学Ⅱ」、「臨床栄養学Ⅲ」、「臨床栄養学実習Ⅰ」、「総合演習」

「臨地実習Ⅳ」については、「公衆栄養学」、「総合演習」

(科目の履修)

第4条 専門科目の「総合演習」を履修するためには、1・2年次に開講される専門基礎科目及び専門科目の必修科目のうち、単位を修得できていない科目が2科目以下であること。

(通年科目の単位認定)

第5条 「総合演習」を再履修する場合に限り、その単位認定を前期終了時に行うことがで

きる。

(管理栄養士国家試験)

第6条 管理栄養士国家試験受験資格を取得するためには、「特別演習Ⅱ」の単位を修得済みであること。ただし、平成23年度の入学生は「総合対策演習Ⅰ」、「総合対策演習Ⅱ」、「特別演習Ⅰ」、「特別演習Ⅱ」の4科目の単位を修得済みであること。

(栄養教育実習)

第7条 栄養教育実習に参加するためには、次の栄養教諭免許課程の単位を修得または履修中であること。

「教職概論」、「教育課程論(中等)」、「生徒指導論」、「教育相談」、「栄養教諭論」、「食に関する指導論」、「栄養教育実習」

(改廃)

第8条 この内規の改廃は、本学教務委員会

の議を経て教授会において行う。

附則 この内規は、平成19年4月12日から施行する。

附則 この内規は、平成20年4月1日から施行する。

附則 この内規は、平成22年4月1日から施行する。

附則 この内規は、平成23年4月1日から施行する。

附則 この内規は、平成24年4月1日から施行する。

附則 この内規は、平成25年4月1日から施行する。

附則 この内規は、平成26年4月1日から施行する。

健康科学部 人間環境デザイン学科 内規

(総則)

第1条 本内規は、畿央大学(以下「本学」という。)学則(以下「学則」という。)第1条に掲げる教育の目的に従い、本学健康科学部人間環境デザイン学科(以下「本学科」という。)に所属する教員及び学生が学校教育、学校生活等を円滑かつ効率的に授受するために必要な事項を定める。

2 本学科に所属する教員及び学生は、学校法人冬木学園及び本学の各種規則に加えて、本内規に従わなければならない。

(コースの所属)

第2条 本学科に入学した者は次のいずれかのコースに所属しなければならない。

平成20年度入学生	① 建築・まちづくりコース
	② インテリア・ものづくりコース
	③ 福祉住環境コース
平成21年度以降入学生	① 建築・まちづくりコース
	② インテリアデザインコース
	③ 造形デザインコース

第3条 各コースの選択は一年次終了時とする。

2 履修科目とその扱いについては別に定めるところによる。

3 所属するコース以外の科目については履修できないことがある。

4 コース変更は、申し出により学科会議の議を経て、認める場合がある。

(科目履習)

第4条 I～Ⅳに分割されている科目のうち、Ⅱ～Ⅳの科目を履修するためには、原則としてそれぞれの科目の前のローマ数字の科目の単位を修得しておかなければならない。

(教育実習)

第5条 家庭科教諭免許課程取得に必要な教育実習は以下のとおり行うことを原則とする。

2 実習は4年次に行い、その期間は原則として4週間とする。

3 実習に参加するためには次の各号に掲げる条件をすべて満たしていなければならない。

(1) 以下の科目の単位をすべて修得済み

であること。

平成20年度以前入学生

「教職概論」「教育原理」「教育心理学」
「特別活動指導法」「教育課程論」「生徒・
進路指導論」「教育相談」「総合演習」

平成21年度以降入学生

「教職概論」「教育原理」「教育心理学」
「特別活動指導法（中等）」「教育課程
論（中等）」「生徒・進路指導論（中等）」
「教育相談」

(2) 以下の科目より 8 科目以上の単位を
修得済みであること。

平成23年度以前入学生

「家庭経営学」「アパレル構成論」「健康
と衣生活」「健康と食生活」「健康と住
生活」「調理実習」「保育学」「家庭電
気・機械」「家庭科指導法Ⅰ」「家庭科
指導法Ⅱ」

平成24年度以降入学生

「家庭経営学」「アパレル構成論」「衣生
活論」「健康と食生活」「住生活論」「調
理実習」「保育学」「家庭電気・機械」
「家庭科指導法Ⅰ」「家庭科指導法Ⅱ」

(3) 「家庭科教育実習指導」を履修済みで

あること。

4 家庭科教諭免許取得のために履修し
た教科及び教職に関する科目の単位は卒業
要件の単位として認めない。

(卒業研究)

第 6 条 原則として、「卒業研究」を履修する
ためには修得単位数が 3 年次終了時点で90
単位以上でなければならない。

(通年科目の単位認定)

第 7 条 「卒業研究」を再履修する場合に限り、
その単位認定を前期終了時に行うことがで
きる。

(改廃)

第 8 条 この内規の改廃は、本学教務委員会
の議を経て教授会において行う。

附 則 この内規は、平成19年 7 月12日から
施行する。

附 則 この内規は、平成21年 4 月 1 日から
施行する。

附 則 この内規は、平成22年 4 月 1 日から
施行する。

附 則 この内規は、平成24年 4 月 1 日から
施行する。

教育学部 現代教育学科 内規

(総則)

第1条 本内規は、畿央大学（以下「本学」という。）学則（以下「学則」という。）第1条に掲げる教育の目的に従い、本学教育学部現代教育学科（以下「本学科」という。）に所属する教員および学生が学校教育、学校生活等を円滑かつ効率的に授受するために必要な事項を定める。

2 本学科に所属する教員および学生は、学校法人冬木学園および本学の各種規則に加えて、本内規に従わなければならない。

(成績の評価)

第2条 成績の評価方法は、学則第33条および履修に関する規則第10条による他は、原則として当該科目担当教員に一任する。

2 合格の最低基準は評価方法によらず60点とする。

(出席等)

第3条 全ての講義・実習・演習科目に対し、原則全日出席とする。教育実習、保育実習、病院実習、幼稚園見学実習において出席時数が4/5に満たない場合は、原則として単位は取得できない。

(教育実習)

第4条 教育実習は以下のとおり行なうことを原則とする。

(1) 「小学校教育実習A」は3年次に行ない、事前・事後指導を除くその期間は4週間とする。また、幼稚園教諭、中学校教諭の各免許状のいずれかにあわせて小学校教諭の免許状取得を希望する者は、4年次に「小学校教育実習B」を行ない、その期間は2週間とする。

(2) 「幼稚園教育実習A」は3年次に行ない、事前・事後指導を除くその期間は4週間とする。また、小学校教諭の免許状にあわせて幼稚園免許状の取得を希望する者は、4年次に「幼稚園教育実習A」を行ない、その期間は4週間とする。

(3) 「養護実習」は3年次または4年次に行ない、事前・事後指導を除くその期間は4週間とする。

(4) 「英語科教育実習（中）」は4年次に行ない、事前・事後指導を除くその期間は4週間とする。ただし、平成23～25年度の入学生および平成25～27年度の編入学生においては「英語科教育実習（中）A」を3年次に行ない、その期間は4週間とする。また、

i 小学校教諭の免許状にあわせて中学校教諭の免許状の取得を希望する者は、4年次に「英語科教育実習（中）」を行ない、事前・事後指導を除くその期間は4週間である。ただし、平成23～25年度の入学生および平成25～27年度の編入学生においては「英語科教育実習（中）B」を4年次に行ない、その期間は2週間とする。

ii 幼稚園教諭にあわせて中学校教諭の免許状の取得を希望する者は、4年次に「英語科教育実習（中）」を行ない、その期間は4週間とする。ただし、平成23～25年度の入学生および平成25～27年度の編入学生においては「英語科教育実習（中）B」を行ない、その期間は4週間とする。

(5) 「英語科教育実習（高）」は4年次に行ない、事前・事後指導を除くその期間は2週間とする。

(6) 「特別支援教育実習」は4年次に行ない、事前・事後指導を除くその期間は2週間とする。

2 実習に参加するための条件は以下のとおりとする。

(1) 小学校教育実習に参加するためには、以下のア～オの条件をすべて満たしていなければならない。

ア 「教職概論」、「教育原理」、「教育心理学」、「教育課程論（初等）」、「生徒・進路指導論（初等）」「現代教育論」のす

べてを履修済み（「履修中による見込みを含む」、以下同じ）であること。

イ 「国語科概論」、「社会科概論」、「算数科概論」、「理科概論」、「生活科概論」、「音楽科概論」、「図工科概論」、「家庭科概論」、「体育科概論」から7科目以上履修済みであること。ただし、平成23年度または平成24年度の入学生および平成25年度または平成26年度の編入学生は「国語科概論」、「社会科概論」、「算数科概論」、「理科概論」の4科目をすべて履修済みで、加えて「生活科概論」、「音楽科概論」、「図工科概論」、「家庭科概論」、「体育科概論」から3科目以上履修済みであること。

ウ 「国語科指導法」、「社会科指導法」、「算数科指導法」、「理科指導法」、「生活科指導法」、「音楽科指導法」、「図工科指導法」、「家庭科指導法」、「体育科指導法」、「道徳指導法（初等）」、「特別活動指導法（初等）」、「教育方法・技術論（初等）」から8科目以上履修済みであること。

エ 「小学校教育実習A」に参加する場合には「小学校教育実習指導A」を、「小学校教育実習B」に参加する場合には「小学校教育実習指導B」を履修済みであること。

オ 「小学校一日見学」または「幼稚園一日見学」を履修済みであること。ただし、「幼稚園見学実習A」または「幼稚園見学実習B」をもってこれに代えることができる。

(2) 幼稚園教育実習に参加するためには、以下のア～オの条件をすべて満たしていなければならない。

ア 「教職概論（幼保）」、「教育原理」、「教育心理学」、「教育課程論（幼保）」、「現代教育論」のすべてを履修済みであること。ただし、平成23年度または平成24年度の入学生および平成25年度または平成26年度の編入学生は、「教職概論（幼保）」、「教育原理」、「教育心理学」、「教育課程論（幼保）」、「教育相談（学校カウンセリングを含む）」、「ピアノ

演習A」、「ピアノ演習B」、「現代教育論」のすべてを履修済みであること。

イ 「国語科概論」および「算数科概論」を履修済みであること。ただし、平成24年度以前の入学生および平成26年度以前の編入学生は「国語科概論」、「算数科概論」、「生活科概論」、「音楽科概論」、「図工科概論」、「体育科概論」から3科目以上履修済みであること。

ウ 「保育内容の研究『健康』」、「保育内容の研究『人間関係』」、「保育内容の研究『環境』」、「保育内容の研究『言葉』」、「保育内容の研究『音楽表現』」、「保育内容の研究『造形表現』」、「保育内容の研究『運動遊び』」から4科目以上履修済みであること。

エ 「幼稚園教育実習A」に参加する場合には「幼稚園教育実習指導A」を、「幼稚園教育実習B」に参加する場合には「幼稚園教育実習指導B」を履修済みであること

オ 「幼稚園見学実習A」または「幼稚園見学実習B」を履修済みであること。

(3) 養護実習に参加するためには、以下のア～エの条件をすべて満たしていなければならない。

ア 「教職概論」、「教育原理」、「教育心理学」、「教育課程論（中等）」、「現代教育論」のすべてを履修済みであること。ただし、平成23年度または平成24年度の入学生および平成25年度または平成26年度の編入学生は「教職概論」、「教育原理」、「教育心理学」、「教育課程論（中等）」、「教育相談（学校カウンセリングを含む）」、「現代教育論」のすべてを履修済みであること。

イ 養護に関する科目「学校保健」、「養護概説」、「健康相談」、「学校看護Ⅰ」、「学校看護Ⅱ」、「学校看護Ⅲ」のすべてを履修済みであること。ただし、

い 平成24年度の入学生および平成26年度の編入学生は養護に関する科目「学校保健」、「養護概説」、「健康相談」、「学校看護Ⅰ」、「学校看護Ⅱ」、「学校看護Ⅲ」、「養護臨床実習」の

すべてを履修済みであること。

- ii 平成23年度の入学生および平成25年度の編入学生は「学校看護Ⅰ」に代えて「看護学Ⅰ」を、「学校看護Ⅱ」に代えて「看護学Ⅱ」を、「学校看護Ⅲ」に代えて「看護学Ⅲ」をそれぞれ履修済みであること。

ウ 「衛生学」、「公衆衛生学」、「栄養学（食品学を含む）」、「解剖生理学」、「精神保健学」、「救急医学」から3科目以上履修済みであること。

エ 「養護実習指導」を履修済みであること。

オ 「小学校一日見学」または「幼稚園一日見学」を履修済みであること。ただし、「幼稚園見学実習A」または「幼稚園見学実習B」をもってこれに代えることができる。

- (4) 英語科教育実習（中・高）に参加するためには、以下のア～ウの条件をすべて満たしていなければならない。

ア 「教職概論」、「教育原理」、「教育心理学」、「教育課程論（中等）」、「教育方法・技術論（中等）」、「教育相談（学校カウンセリングを含む）」、「現代教育論」のすべてを履修済みであること。

イ 英語に関する科目「英語A」、「英語B」、「オーラルコミュニケーションA」、「オーラルコミュニケーションB」、「英語のしくみ」、「英語の歴史」、「特級英語A」、「特級英語B」、「異文化コミュニケーション論A」、「異文化コミュニケーション論B」のすべてを履修済みであること（ただし、平成25年度以前の入学生は「英語A」、「英語B」、「オーラルコミュニケーションA」、「オーラルコミュニケーションB」、「英語のしくみ」、「英語の歴史」を履修済みであること）。「欧米の文化と社会A」、「欧米の文化と社会B」から1科目以上履修済みであること。「英米文学と子ども」、「英米文学と教育」から1科目以上履修済みであること。「英米文学史A」、「英米文学史B」から1科目以上履修済みであること（平

成25年度以前の入学生が「英語科教育実習（中）A・B」に参加するためにはその限りではない）。「英語学講読A」、「英語学講読B」から1科目以上履修済みであること（平成25年度以前の入学生が「英語科教育実習（中）A・B」に参加するためにはその限りではない）。

ウ 「英語科指導法Ⅰ」、「英語科指導法Ⅱ」、「英語科指導法Ⅲ」、「英語科指導法Ⅳ」から2科目以上履修済みであること。（ただし、平成25年度以前の入学生が「英語科教育実習（中）A・B」に参加する場合は「英語科指導法Ⅰ」、「英語科指導法Ⅱ」、「英語科指導法Ⅲ」、「英語科指導法Ⅳ」から1科目以上履修済みであること。「英語科教育実習（高）」に参加する場合は以上の科目から2科目以上履修済みであること）。

- (5) 特別支援教育実習に参加するためには、以下のア、イの条件をすべて満たしていなければならない。

ア 「教職概論」（または「教職概論（幼保）」）、「教育原理」、「教育心理学」、「教育課程論（中等）」（または「教育課程論（幼保）」または「教育課程論（初等）」）、「教育方法・技術論（中等）」（または「教育方法・技術論（初等）」）、「教育相談（学校カウンセリングを含む）」、「現代教育論」のすべてを履修済みであること。

イ 特別支援教育に関する科目「特別支援教育論」、「知的障害者の心理」、「知的障害者の生理・病理」、「肢体不自由者の心理・生理・病理」、「病弱者の心理・生理・病理」、「知的障害者教育論Ⅰ」、「知的障害者教育論Ⅱ」、「肢体不自由者教育論」、「病弱者教育論」のすべてを履修済みであること。

（保育実習）

第5条 保育実習は以下のとおり行なうことを原則とする。

- (1) 「保育実習Ⅰ」は2年次に行ない、その期間は保育所10日間、施設10日間の20日

間とする。

- (2) 「保育実習Ⅱ A」もしくは「保育実習Ⅱ B」のいずれかは2年次に行ない、その期間は10日間とする。

2 保育実習に参加するためには以下の(1)～(3)の条件をすべて満たしていなければならない。

- (1) 保育士資格に必要な科目「保育原理」、「教育原理」、「教職概論(幼保)」、「保育の心理学 A」、「保育の心理学 B」、「子どもの保健 A」、「子どもの保健 B」、「保育内容の研究『健康』」、「保育内容の研究『言葉』」、「保育内容の研究『音楽表現』」、「保育内容の研究『環境』」、「保育内容の研究『造形表現』」、「乳児保育演習」、「障害児保育演習」、「社会的養護内容演習」、「絵画演習」から合計26単位以上を2年次前期終了までに履修済みであること。ただし、平成23年度または平成24年度の入学生および平成25年度または平成26年度の編入学生は保育士資格に必要な科目「保育原理」、「教育原理」、「教職概論(幼保)」、「保育の心理学 A」、「保育の心理学 B」、「子どもの保健 A」、「子どもの保健 B」、「教育課程論(幼保)」、「保育内容の研究『健康』」、「保育内容の研究『言葉』」、「保育内容の研究『音楽表現』」、「保育内容の研究『人間関係』」、「保育内容の研究『環境』」、「保育内容の研究『造形表現』」、「乳児保育演習」、「障害児保育演習」、「社会的養護内容演習」、「保育相談支援演習」、「スポーツ実習 B」、「絵画演習」、「ピアノ演習 A」、「ピアノ演習 B」から合計35単位以上を履修済みであること。
- (2) 保育実習Ⅰに参加する場合には「保育実習指導Ⅰ」を履修済みであること。また、保育実習Ⅱ Aに参加する場合には「保育実習指導Ⅱ A」を、保育実習Ⅱ B

に参加する場合には「保育実習指導Ⅱ B」を履修済みであること。

- (3) 「幼稚園見学実習 A」または「幼稚園見学実習 B」を履修済みであること。

(通年科目の単位認定)

第6条 休学・留学等により特に必要が認められる場合、「卒業研究指導ゼミⅠ」および「卒業研究指導ゼミⅡ」は、その履修を後期からとすることができる。

2 「卒業研究指導ゼミⅠ」および「卒業研究指導ゼミⅡ」は、休学・留学などの期間を除いた通算1年間の履修後に単位認定を受けることができる。

(「卒業研究」)

第7条 「卒業研究」の履修にはそれまでに通算3年半以上の在学が必要である。

2 「卒業研究」について、これを再履修する場合、および前期末で在学期間が通算4年以上となる場合、その単位認定を前期終了時に行なうことができる。

(編入学生の既修得単位の認定)

第8条 現代教育学科3年次に編入学した者が本学入学前の他の教育機関において修得した単位等の認定は、畿央大学入学前既修得単位等の認定に関する規程に則り行なう。

2 認定できる単位数は、80単位以内とする。

(改廃)

第9条 この内規の改廃は、本学教務委員会の議を経て教授会において行なう。

附 則 この内規は、平成18年5月11日から施行する。

(中略)

附 則 この内規は、平成26年4月1日から施行する。ただし平成22年度以前の入学生および平成24年度以前の編入学生については、従前の内規による。

畿央大学 履修に関する規則

(目的)

第1条 この規則は、畿央大学（以下「本学」という。）の授業科目の履修に関し、必要な事項を定める。

2 本学の授業科目の履修については、本学学則に別段の定めがある場合のほかこの規則に定めるところによる。

(履修登録)

第2条 本学の学生は単位を修得しようとする授業科目について、各学期の本学が指定する期間に履修登録をしなければならない。

2 履修登録をしていない授業科目については単位を与えない。

3 単位を修得した授業科目の再履修はできない。また、同一年度に同一の授業科目を重複して履修することはできない。

(履修科目の制限)

第3条 本学の学生が、各学期に履修できる単位数は原則として30単位以下とする。

2 学生が、資格・免許の取得等の理由により30単位を超えて履修することを希望する場合は、申請し許可を受けなければならない。

(履修登録の配当年次制限)

第4条 上級年次に配当されている授業科目を、下級年次の学生が履修することはできない。

(クラス指定科目の履修登録)

第5条 クラス指定のある授業科目は、指定のクラスで履修登録することとする。

2 やむをえない事情で異なるクラスでの履修を希望する場合は、申請し許可を受けなければならない。

3 再履修の場合ならびに編入学生の場合は第1項の規定は適用しない。

(授業科目の受講制限)

第6条 授業科目により、受講定員を設ける場合がある。この場合には、選考又は抽選により受講者を決定する。

(授業科目の開講取消)

第7条 履修登録者数が2名以下の授業科目は、開講を取り消すことがある。

2 前項により授業科目の開講取消があった場合、当該授業科目を履修登録していた者は、その単位数内で追加の履修登録をすることができる。

(履修登録の変更・取消)

第8条 履修登録の変更・取消は、各学期の本学の定める期間に限り、学生本人の申請により認める。

2 通年科目の履修の変更・取消は前期にのみ認める。

(単位の授与)

第9条 各科目の成績は、試験の成績または平常の成績、あるいは両方を総合して評価するものとし合格した者に対して、その授業科目の単位を与える。

(成績評価)

第10条 第9条の規定による授業科目の成績評価は、100点満点で60点以上を合格とし、60点未満を不合格とする。

2 成績評価は以下の成績基準によって行う。

秀：90点以上、優：80点以上89点以下、良：70点以上79点以下、可：60点以上69点以下、不可：60点未満

3 前項の成績基準によることができない授業科目については、「合格」（60点以上）、「不合格」（60点未満）の2段階判定とすることができる。対象の授業科目については別に定める。

(GPA)

第11条 前条の成績評価をもとに、単位あたりの成績評価の平均値を示すGPA（Grade Point Average）を算出して成績通知書に記載する。

2 前項のGPAの算出方法は、別に定める。

(成績の通知と成績確認申立)

第12条 学生の成績評価については、成績通知書を所定の日に保証人へ送付する。

2 学生の成績評価について疑問がある場合は、成績通知後一か月以内に学生本人が成績の確認を学生支援センターに申請す

ることができる。

(改廃)

第13条 この規則の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

畿央大学 授業に関する規則

(目的)

この規則は、畿央大学（以下「本学」という。）の授業に関し、必要な事項を定める。

2 本学の授業については、本学学則に別段の定めがある場合のほかこの規則の定めるところによる。

(授業時間)

第2条 本学の通常の授業時間は、次のとおりとする。ただし、集中講義および変則での授業時間は、当該学部・学科でこれを定める。

時限	授業時間
第1時限	9：00～10：30
第2時限	10：40～12：10
第3時限	13：00～14：30
第4時限	14：40～16：10
第5時限	16：20～17：50
第6時限	18：00～19：30

(暴風警報、特別警報が発令された場合の授業の取扱い)

第3条 奈良県北葛城郡広陵町を含む地域に暴風警報または特別警報が発令された場合の授業の取扱いは、別表1のとおりとする。

(交通機関が不通になった場合の授業の取扱い)

第4条 自然災害等で交通機関が不通となった場合の授業の取扱いは、別表2のとおりとする。

(出欠等の定義)

第5条 出席、欠席、遅刻、早退、欠課の定義は、次のとおりとする。

出席：授業開始時から終了時まで受講した場合

欠席：出席確認時に出席を確認できず、

かつ受講しなかった場合または講義開始後20分を経過した以降に入室した場合

遅刻：出席確認時に出席を確認できなかった者が講義開始後20分以内に入室した場合。ただし、授業担当教員により一切の遅刻を認めないことがある。

早退：理由に関わらず授業中に受講を中断した場合。ただし、授業時間の3分の2を超えてからの受講中断であることを原則とする。

欠課：遅刻、早退あわせて2回になった場合、欠課（欠席）1回とみなす。

(公欠・忌引の定義)

第6条 公欠または忌引とは、別表3に定める要件に該当し、かつ所定の手続きを行った者について、当該授業を欠席扱いとしないことをいう。

(公欠・忌引の手続き)

第7条 公欠または忌引を許可する期間・申請方法は、別表3に定める。

(公欠・忌引による授業の取扱い)

第8条 公欠または忌引を許可された期間の授業は欠席扱いとせず、授業日数から減じて出席率の算定を行なう。

(学生証による出席確認の取扱い)

第9条 学生証使用による出欠記録については、授業担当教員が特別に認める場合を除いて一切の修正は行なわない。

2 出席確認時において次各号の一に該当する学生証の不正利用を行なった者は、学部長の厳重注意に処する。学生証の不正利用が同一科目で複数回におよぶ者は、当該の科目を失格とする。また、本学学則第57条に基づき懲戒処分を行なうことがある。

- (1) 出席確認後授業担当教員の許可無く退室し、かつ所定の届け出をしていない場合
 - (2) 出席確認を目的とし、他人に学生証を貸与した場合
 - (3) 代人として他人の学生証を出席確認に使用した場合
 - (4) 前3号に準じる行為を行なったと授業担当教員または大学が認めた場合
- (改廃)

第10条 この規則の改廃は、教授会の議を経て学長が行なう。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

別表1 暴風警報または特別警報が発令された場合の授業の取扱い（その他の警報は対象としない。）

暴風警報または特別警報の解除時刻	授業の取扱い
6：00以前に解除された場合	平常通り1時限から授業を実施する
8：00以前に解除された場合	2時限から授業を実施する
10：00以前に解除された場合	3時限から授業を実施する
12：00以前に解除された場合	4時限から授業を実施する
12：00の時点で解除されていない場合	全日休講とする

※ 授業開始後に暴風警報が発令された場合は、その時限終了までは授業を実施する。

※ 授業開始後に特別警報が発令された場合は、ただちに授業を中止する。

※ 連続時限で実施している授業については、途中時限からの授業開始は行なわない。

別表2 交通機関が不通になった場合の授業の取扱い

対象とする交通機関	近鉄大阪線の鶴橋駅～大和八木駅間が全面的に不通の場合	
交通機関の運行再開に伴う授業の実施	1. 対象交通機関が運行を再開した場合は、次のとおりの運行再開時刻にもとづき、授業を開始する。	
	運行再開時刻	授業の取扱い
	6：00以前	平常通り1時限から授業を実施する
	8：00以前	2時限から授業を実施する
	10：00以前	3時限から授業を実施する
	12：00以前	4時限から授業を実施する
	12：00の時点で再開していない場合	全日休講とする
	2. 連続時限で開講している授業については、途中時限からの授業開始は行なわない。	

別表3 公欠・忌引に関する事項

	事由	必要な書類	公欠・忌引期間	申請期限※
公欠	公欠の対象となる実習科目 (別表4参照)	公欠届	各実習や体験に要する日程 ならびに実習事前(または事後)訪問1日	事前申請 公欠処理 は実習の出席確認後 事務局で行なう
	学校保健安全法施行 規則第19条に定めら れた感染症	公欠届+医師の診断書 等	医師の診断による治療に要 する期間	登学可能日から3日 以内
	裁判員選任	公欠届+裁判所からの呼出状	裁判所から指定された期間	事前申請
	学科長の申請により 教務委員会が特別に 認める場合	公欠届+事情を証明す る書類	教務委員会が認めた期間	事前申請
忌引		忌引届+死亡に関する 公的証明書、または会 葬礼状等証明となるも の	一親等:告別式または通夜の 日を含み連続した5日間以 内(本学の休業日を含む) 二親等:告別式または通夜の 日を含み連続した3日間以 内(本学の休業日を含む)	登学可能日から3日 以内

※申請は学生支援センターにて受付ける。窓口の受付終了時刻を期限とする。

(月～金:18時まで、土:17時まで、本学の休業日を除く。)

※申請期限には本学の休業日は含まない。

別表4 公欠の対象となる実習科目

学 科	実習名
理学療法学科	チーム医療ふれあい実習
	臨床指導
	臨床評価実習
	総合臨床実習
看護医療学科	チーム医療ふれあい実習
	基礎看護学実習
	看護学実習(急性期・慢性期・老年・精神・母子・在宅)
	公衆衛生看護学実習
	離島・へき地医療体験実習
	地域看護活動論実習
	病院インターンシップ
健康栄養学科	チーム医療ふれあい実習
	臨地実習
現代教育学科	幼稚園見学実習
	小学校(または幼稚園)一日見学
	保育実習
	養護臨床実習
教 職	教育実習(小学校/幼稚園/養護/特別支援/中・高英語/中・高家庭 科/栄養教諭)
	介護等体験

畿央大学 試験に関する規則

(目的)

この規則は、畿央大学（以下「本学」という。）の試験に関し、必要な事項を定める。

2 本学の試験については、本学学則に別段の定めがある場合のほかこの規則の定めるところによる。

(試験の種類)

第2条 本学の試験の種類は、平常試験、定期試験、追試験および再試験とする。

(試験の方法)

第3条 本学の試験の方法は、筆記試験、レポート試験または実技試験によるものとする。

2 前項の規定にかかわらず、実験、実習、演習および卒業研究等の科目については、成果物の提出をもって定期試験に代えることができる。

3 科目ごとの試験の方法は、授業担当教員が定める。

(平常試験)

第4条 平常試験は、授業期間中に授業担当教員が随時に行なうことができる。

2 平常試験の実施は、全て授業担当教員の責任で行なう。

(定期試験)

第5条 定期試験とは、前学期末及び後学期末の大学が定める期間に行なうものをいう。ただし、集中講義の試験については適宜に行なうことができる。

2 定期試験の時間割、関連事項はすべて試験開始の2週間前までに所定の掲示板に掲示する。

3 定期試験の試験時間は、60分間から90分間の間で授業担当教員が定める。

(定期試験の受験資格)

第6条 定期試験は履修登録を行なった科目についてのみ受験資格を有する。

2 出席時数が定期試験前の授業時間数の3分の2に満たない者は、その授業科目の試験を受けることができない。ただし、専門科目・実習科目等の受験資格については各学科で別に定めることができる。

3 前項の規定に関わらず、試験日当日に停学中の者には受験資格を与えない。

4 試験室では、受験者本人の学生証（または仮学生証）を、机上に提示しなければならない。

5 定期試験において、試験開始時刻に20分を超えて遅刻した者は、受験資格を失なう。

(定期試験の途中退室)

第7条 定期試験において、試験開始後40分を経過したのちは退室することができる。ただし、試験形態等により途中退室を認めない場合がある。

(追試験)

第8条 定期試験を別表1に定める事由により受験できなかった者に対し追試験を行なう。

2 追試験の受験を必要とする者は、別表1に定める期間内に本人がその授業科目ごとに受験を願出しなければならない。

3 追試験の受験料は、無料とする。

4 追試験の試験結果は、当該授業科目の定期試験の成績とする。

5 授業担当教員が認めた場合、事前に定められた追試験期間を超えて追試験を実施することができる。この場合の追試験実施期限は、当該学期成績提出締切日の前日とする。

6 追試験による不合格科目についての再試験は行なわない。

7 追試験の再度の追試験は実施しない。ただし、学校保健安全法施行規則第19条に定められた感染症で受験できなかった場合、授業担当教員の判断で再度の追試験を実施できる。

(再試験)

第9条 定期試験の結果が不合格であった者に対して再試験を行なうことができる。再試験の実施の有無は、授業担当教員が定める。

2 再試験を実施する授業科目について、その受験を必要とする者は、別表2に定め

る期間内に本人が授業科目ごとに受験を願出なければならない。

3 再試験の受験資格は、定期試験その他の成績により決定する。

4 再試験の受験料は、1科目につき1,500円とする。

5 再試験の試験結果により単位認定される者の成績評価は、すべて60点として可与え、60点未満の者は不可とする。

6 再試験の追試験、再試験は行なわない。再試験の欠席者にはいかなる理由があっても単位を与えない。

(追試験および再試験における受験許可証等の取扱い)

第10条 追試験および再試験の受験においては、所定の受験許可証を携帯し、受験者本人の学生証（または仮学生証）を、机上に提示しなければならない。

(答案の無効)

第11条 定期試験、追試験および再試験において次の各号の一に該当する答案を無効とする。

- (1) 第6条第1項から第3項および同条第5項に規定する受験資格を有しない者の答案
- (2) 受験者が特定できない答案
- (3) 持ち帰り、破棄または紛失等により提出されていない答案
- (4) その他授業担当教員によって無効とせざるを得ないと判断された答案

(不正行為の種類)

第12条 定期試験、追試験および再試験における不正行為とは次の各号の一に該当する行為をいう。

- (1) 代人に受験させる、または代人になって受験する行為
- (2) 持込を許可されていない図書類、ペーパー類またはノート類等を使用する行為
- (3) 机、壁または所持品等への書き込み。許可されていない情報源を使用する行為
- (4) 答案の交換および答案を他人に見せる行為
- (5) 同室受験者の答案作成または同室

受験者に答案を作成してもらう行為

(6) 不正行為をする目的をもったの準備行為

(7) その他公正な試験の実施を阻害すると認められる行為

(不正行為の取扱い)

第13条 定期試験、追試験または再試験において不正行為を行なった者は、原則として当該学期全履修科目を失格とする。また、学則第57条に基づき懲戒処分を行なうことがある。

(暴風警報、特別警報、交通機関の不通による試験の取扱い)

第14条 暴風警報および特別警報の発令ならびに自然災害の発生等により交通機関が不通になった場合の試験の取扱いは、本学授業に関する規則第3条および第4条の規定に準じる。

(改廃)

第15条 この規則の改廃は、教授会の議を経て学長が行なう。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年12月20日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年8月21日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年3月5日から施行する。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成24年6月21日から施行する。

附 則

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

別表 1 追試験該当事項および手続き一覧

試験欠席の事由	必要な書類	申請期限※
病気・負傷・不慮の事故等	追試験願＋医師の診断書等	当該科目の定期試験実施日の翌日まで
二親等内親族の死亡	追試験願＋死亡に関する公的証明書または会葬礼状等証明となるもの 一親等：告別式または通夜の日を含み連続した5日間以内（本学の休業日を含む） 二親等：告別式または通夜の日を含み連続した3日間以内（本学の休業日を含む）	
公共交通機関の延着	追試験願＋事故・延着証明（20分以上の延着時間が記載されたもの）	当該科目の定期試験実施日の当日中
本学の正課授業との重複（学外実習・介護等体験を含む）	追試験願	当該科目の定期試験実施日の前日まで
就職試験・教員採用試験	追試験願＋試験日を証明する書類（追試験願にキャリアセンターの認印を受けること）	
裁判員選任	追試験願＋裁判所からの呼出状	
その他やむをえない事由	追試験願＋事由を証明できるもの（届出により教務委員長が判断する）	当該科目の定期試験実施日の翌日まで

※申請は学生支援センターにて受け付ける。窓口の受付終了時刻を期限とする。（月～金：18時まで、土：17時まで、本学の休業日を除く。）

※申請期限に本学の休業日は含まない。

※病気・負傷・不慮の事故、二親等内親族の死亡、その他やむをえない事由により申請期間中に窓口への申請ができない場合は、期限内に学生支援センターに連絡し、後日すみやかに手続きを行なうものとする。

別表 2 再試験の手続き

必要な書類	申請期限※
再試験願	当該科目の再試験実施日の前日まで

※申請は学生支援センターにて受け付ける。窓口の受付終了時刻を期限とする。（月～金：18時まで、土：17時まで、本学の休業日を除く。）

※申請期限に本学の休業日は含まない。

畿央大学学納金納入規則

(趣旨)

第1条 畿央大学学則第44条に基づく学納金納入方法に関しては、別に定めるものを除き、この規則に定めるところによる。

(納入期日)

第2条 授業料および教育充実費（以下「授業料等」という。）は前期および後期の2回に分けて、次の期日までに納入しなければならない。

前期分 4月20日

後期分 10月20日

2 新入学生（編・転入学生を含む）の入学時における入学金、授業料等は、別に定める期日までに納入しなければならない。

3 その他の納付金はその定められた期限内に納入しなければならない。

(延納)

第3条 特別の事情により前条の期日までに授業料等の全額を納入できない者は、次に定める期日までにその事情を詳記し、保証人連署捺印の上、「延納許可願」を提出し、学長の許可を受けなければならない。

前期分延納願い 4月20日

後期分延納願い 10月20日

2 延納を許可された者は、次の期日までに納入しなければならない。

前期分 6月30日

後期分 12月20日

(分納)

第4条 特別の事情により第2条第1項の期日までに授業料等の一部を納入できない者は、次に定める期日までにその事情を詳記し、保証人連署捺印の上、「分納許可願」を提出し、学長の許可を受けなければならない。

前期分分納願 4月20日

後期分分納願 10月20日

2 分納は2回均等分割納入とする。

3 分納を許可された者は、次の期日までに納入しなければならない。

前期分（第1回）5月31日

（第2回）6月30日

後期分（第1回）11月20日

（第2回）12月20日

4 分納を許可された者が、前項に規定する期日までに納入しないときは、その翌日をもって分納の許可を取り消す。

(未納者の措置)

第5条 前項に規定する納入期日までに授業料等を納入しなかった者は、畿央大学学則第24条により、教授会の議を経て学長が除籍する。

2 前項に関わらず、やむを得ない事情があると学長が認めた場合の扱いは、別に定める。

(休学中の在籍料)

第6条 休学が認められた者又は休学を命ぜられた者は、その休学期間中は学期を単位として授業料等の納入に代え、在籍料を納入するものとする。在籍料は、授業料の半額とする。

2 学期途中から又は学期の途中までの休学期間については、当該学期に関して、在籍料ではなく、学費等を全額納入するものとする。

(学部修業年限を超えて在学する者の特例)

第7条 単位の未修得により学部の修業年限を超えて在学する者の授業料等は半額とする。

(改廃)

第8条 この規則の改廃は、教授会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。これにより、学納金の納入時期・方法に関する内規は廃する。

畿央大学における転学部及び転学科に関する規則

(目的)

第1条 この規則は、畿央大学（以下「本学」という。）学則の規定に基づき、転学部及び転学科（以下「転学科」という。）に関し必要な事項を定める。

(志願資格)

第2条 転学科を志願できる者は、原則として本学学生のうち公募制推薦入試及び一般入試、センター試験利用入試のいずれかにより入学した者とする。ただし、転学科をした者は、再度の転学科を志願することができない。

(転学科の時期)

第3条 転学科の時期は4月1日とする。

(志願)

第4条 転学科を志願する者は、保証人連署の上、「転学部・転学科願」を転学科を希望する前年の10月1日から10月末日までに在籍学科の学科長に提出しなければならない。

2 志願を受けた在籍学科の学科長は、当該学生との担任とともに面接を実施する。

(転学科の審査)

第5条 入学者選抜委員会は、次の各号により速やかに審査を行わなければならない。

- (1) 転学科を志願する理由
- (2) 入学試験の成績
- (3) 入学後の成績及び単位取得状況
- (4) 面接審査

(許可または不許可の決定及び通知)

第6条 入学者選抜委員会は、前条に基づき転学科の許可または不許可を判定し、新たに所属することとなる学部及び学科の卒業要件単位数により、認定が見込まれる既修

得単位数とを比較考慮のうえ、受入年次を相当と認める年次を付記し、教授会の議を経て学長に上申するものとする。

2 転学科の許可の決定は学長が行う。

3 学長は、転学科の許可を決定した場合、11月末日までに当該学生に通知する。不許可の決定の場合も同様とする。

(既修得単位の取扱)

第7条 転学科を許可された者の本学において取得した単位については、教授会の議を経て、その全部または一部を転学科先の卒業に必要な単位として認定することができる。

(履修)

第8条 転学科した者は、転学科後の属する学科及び年次の教育課程を履修する。

(学納金)

第9条 転学科をした者の学納金は、当該年次の転学科先の在学者に係る金額と同額とする。

(在学期間)

第10条 転学科をした者の在学期間は、入学後8年を超えることはできない。

(事務所の管)

第11条 この規則に関する事務は、学生支援センターが行う。

(改廃)

第12条 この規則の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

附 則

この規則は、平成22年10月21日から施行する。

畿央大学再入学規則

(目的)

第1条 この規則は、畿央大学（以下「本学」という。）学則（以下「学則」という。）の規定に基づき、再入学に関し必要な事項を

定める。

(出願資格)

第2条 本学に再入学を出願できる者は、本学を転学、退学または学費未納により除籍

となった者で、転学日、退学日または除籍日より経過年月が8年以内の者とする。ただし、退学者に関しては、次の場合を除くものとする。

- (1) 学則に定める懲戒による退学者
- (2) 学則に定める最長在学年限での卒業が不可能となることによる退学者

(出願できる学部学科)

第3条 再入学を出願できる学部学科は、原則として転学、退学又は除籍時に在籍していた学部学科とする。

2 出願時に、前項に該当する学部学科が廃止もしくは募集停止になっている場合又は改組転換により他の学部学科となっている場合は、出願できないことがある。

(再入学の時期)

第4条 再入学の時期は、学期の始めとする。

(出願の時期)

第5条 再入学を志願する者は、所定の期日までに再入学願を提出しなければならない。

2 再入学を出願できる時期は、次の各号のとおりとする。

- (1) 前期に再入学を希望する場合は、前年度の1月末まで。
- (2) 後期に再入学を希望する場合は、当

該年度の7月末まで。

(再入学の許可)

第6条 再入学の許可は、当該学科による書類審査及び面接審査のうえ、教授会の議を経て学長が行う。

(再入学年次及び既修得単位)

第7条 再入学年次及び既修得単位の取扱い、教授会の議を経て学長が決定する。

(再入学手続)

第8条 再入学を許可された者は、指定の期日までに所定の書類を提出し、学費を納入しなければならない。

2 除籍となった者が、再入学の手続きを行う際には、未納であった学費を納付しなければならない。

(規則の適用)

第9条 再入学を許可された者には、再入学年次の学則及び諸規則を適用する。

(改廃)

第10条 この規則の改廃は、教授会の議を経て行う。

附 則

この規則は、平成22年3月18日から施行する。

畿央大学学生懲戒規程

(目 的)

第1条 この規程は、畿央大学学則第57条および畿央大学大学院学則第44条（以下「学則」という。）に規定する学生の懲戒に関して必要な事項を定める。

(懲戒の基本方針)

第2条 懲戒は、学生が第4条の懲戒の対象となる行為を行った場合に、学校教育法第11条および学校教育法施行規則第26条に基づき行うものである。

2 懲戒は、その対象となる行為の態様、結果、影響等を総合的に検討し、教育的配慮に基づいて行うものとする。

(懲戒の対象となる者)

第3条 この規程において懲戒の対象となる

者は、畿央大学および畿央大学大学院（以下「本学」という。）に在籍する学部学生および大学院生（以下「学生」という。）とする。

2 本学の科目等履修生、研究生、特別聴講生については別に定める。

(懲戒の事由)

第4条 懲戒の対象となりうる行為は、次の各号に掲げるものとする。

- (1) 犯罪行為
- (2) 人権を侵害する行為
- (3) ハラスメント行為
- (4) 試験等における不正行為および論文等の作成における学問的倫理に反する行為

(5) 学生の学習、研究および教職員の教育研究活動等の正当な活動を妨害する行為

(6) 本学の規則に違反する行為

(7) その他学生の本分に反する行為

(懲戒の種類)

第5条 懲戒は、次のとおりとする。

(1) 退学は、学生としての身分を剥奪し、再入学は認めない。

(2) 停学は、一定期間の登学を禁止する。停学の期間は、無期または1か月以上6か月以下の有期とする。

(3) 戒告は、文書により注意を与える。

(嚴重注意)

第6条 学部長または研究科長は、懲戒に相当しない場合でも、文書または口頭により嚴重注意を行うことができる。

(事実関係の調査)

第7条 学生に懲戒の対象となる行為またはその疑いの生じたときは、学部長または研究科長は、速やかに調査委員会を設置する。

2 調査委員会は次に掲げる者をもって構成し、委員長は学部長または研究科長が指名する。

(1) 当該学生が所属する学科または研究科の教員 若干名

(2) 事務局長が推薦する事務職員若干名

(3) その他、学部長または研究科長が必要と認めた教員 若干名

3 調査委員会は、当該学生に対する面談を含め、事実関係の調査および確認を行う。なお、面談による事実確認が行えない場合、文書等によって行うことができる。

4 前項の調査にあたり、調査委員会委員長は、事前に学生に対して、調査する旨を口頭または文書で告知し、当該事実に関する弁明の機会を与えなければならない。

5 前二項の定めにかかわらず、行為が重大犯罪であり、事実が明白と認められる等特段の事情がある場合はこの限りではない。

6 調査委員会は調査の結果を文書により可及的速やかに学部長または研究科長に報告する。

7 第4条に定める懲戒の対象となる行

為のうちハラスメント行為に該当する場合の事実関係の調査等は「学校法人冬木学園ハラスメントの防止等に関する規則」に定める手続きによるものとする。

(自宅待機)

第8条 学部長または研究科長は、懲戒が決定するまでの間、当該学生に対して自宅待機の措置をとることができる。

2 教育的観点から特に必要があると認められるときは、自宅待機の期間の全部または一部を停学期間に算入することができるものとする。

(懲戒決定までの手続き)

第9条 学部長または研究科長は、調査委員会の報告を受け、懲戒が相当と判断した場合、学生懲戒委員会に発議し、懲戒手続きを開始する。

2 学生懲戒委員会は、当該学生の懲戒を必要と認めた場合、適切な懲戒内容を教授会または研究科委員会の審議に付す。

3 懲戒は、教授会または研究科委員会の議を経て学長が決定する。

4 ハラスメント行為にかかる懲戒の場合は「学校法人冬木学園 ハラスメントの防止等に関する規則」17条2項にもとづき、理事長が学生懲戒委員会に付託することにより懲戒手続きを開始する。

(学生懲戒委員会)

第10条 学生懲戒委員会は、次に掲げる者をもって構成する。

(1) 学部長

(2) 研究科長

(3) 学科長

(4) 事務局長

(5) 学生支援部長

(6) 学長が指名する者 若干名

2 委員の互選により選出された委員長は、委員会を招集し、その議長となる。ただし、委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

3 委員会は、委員の3分の2の出席をもって成立する。

4 委員会の議事は、出席委員の3分の2をもって決する。

5 委員会が必要と認めたときは、当該学生その他関係者、専門家の出席を求めて事情を聴取し、または意見を求めることができる。

(通告および通知)

第11条 学長は、学生に対し懲戒の内容を文書により通告する。

2 学長は、学生の保証人に対し懲戒の内容を文書により通知する。

(告示)

第12条 懲戒を行った場合、学長は遅滞なく告示を行う。

2 告示する事項は、学部または研究科、学科、回生、懲戒の種類、懲戒理由とする。

3 告示期間は、1か月とする。

4 特段の事情がある場合、教授会または研究科委員会の議を経て、当該告示の一部または全部を告示しないことができる。

(不服申し立て)

第13条 懲戒を受けた学生は、告知日より30日以内に、文書により学長に不服申し立てを行うことができる。

2 学長は、申し立ての趣旨、理由等を勘案の上再審議を決定したときは、学生懲戒委員会に対して再審議を命じるとともに、その旨を当該学生に通知する。なお再審議は、本規程第9条の規定を準用する。

3 学長は当該学生からの異議申し立てを却下する場合、その旨を当該学生に通知する。

(懲戒対象者の退学申し出の取扱い)

第14条 第7条において事情聴取等調査の対

象となった学生が、懲戒の決定前に退学の申し出をした場合、懲戒が決定するまでこの申し出を受理しない。

(停学中の指導)

第15条 停学期間中は、担任等が必要に応じて面接等により教育的指導を行う。

2 学部長または研究科長は、必要と判断される場合、学生の施設利用等を認めることができる。

(無期停学の解除)

第16条 無期停学は、懲戒の発効日から6か月を経過した後でなければ解除できない。

2 学部長または研究科長が、6か月を経過した後に、無期停学の解除が適当であると認めたときは、その解除を発議する。

3 無期停学の解除は、教授会または研究科委員会の議を経て学長が行う。

4 無期停学解除の学生への通告、保証人への通知は、文書で行う。

(懲戒に関する記録)

第17条 学部長または研究科長は、懲戒の事実を学籍簿に記録する。

(事務処理)

第18条 学生の懲戒に関する事務は、学生支援センターにおいて処理する。

(改廃)

第19条 この規程の改廃は、教授会および研究科委員会の議を経て学長が決定する。

附 則

この規程は、平成23年2月17日から施行する。

畿央大学図書館規則

第1章 総則

(目的)

第1条 この規則は、畿央大学学則に基づき、畿央大学図書館に関し必要な事項を定める。

(設置)

第2条 畿央大学（以下「本学」という。）に、本学図書館（以下「図書館」という。）を置く。

(設置の目的)

第3条 図書館は、図書、雑誌、逐次刊行物、視聴覚資料、電子情報及びその他学術情報（以下「図書等」という。）を収集及び管理し、これを本学学生、本学教職員及び地域住民等の利用に供するとともに、国内外の教育研究機関等との学術交流の拠点として、学術情報を発信し、本学の教育及び研究の発展と充実に寄与することを目的とする。

第2章 組織・運営

(館長)

第4条 図書館に館長を置く。館長は、図書館を代表し業務を統括する。

2 館長は、本学専任教員の中から学校法人冬木学園（以下「学園」という。）理事長が任命する。

3 館長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 館長が任期中に退任した場合は、後任者の任期は前任者の残任期間とする。

(学術情報委員会)

第5条 図書館の運営等の審議に関しては、本学学術情報委員会（以下「委員会」という。）がこれにあたる。

(運営業務)

第6条 図書館の運営業務は、本学総務部（以下「総務部」という。）がこれにあたる。

2 運営業務に関し、総務部の管理のもと、業務の一部を第三者に委託することができる。

第3章 利用

(利用者)

第7条 図書館を利用できる者（以下「利用者」という。）は、次の通りとする。

(1) 本学及び本学大学院の学生（科目等履修生、聴講生、研究生を含む。）

(2) 本学の教職員及び非常勤講師

(3) 本学及び本学大学院の卒業生で利用証発行手続きを済ませた者

(4) 本学以外の学園の設置する学校の生徒及び教職員

(5) その他館長が許可した者

(利用証)

第8条 利用者は、図書館の利用に際しては、利用者であることを確認できる学生証、職員証又は所定の手続きを経て発行した証明書（以下「利用証」という。）を携帯しなければならない。

2 利用者は、図書館の職員（以下「館員」という。）から利用証の提示を求められたときは、これに応じなければならない。

3 利用者が利用証を携帯していなかった場合の図書館の利用方法については、別に定める。

4 利用者は、利用証を他人に譲渡し、又は貸与してはならない。

5 利用者は、利用証を紛失し、又は破損したときは、速やかに図書館に届け出なければならない。

6 利用証の紛失の届けを怠ったことにより事故が発生した場合、当該利用証の名義人がその責を負うものとする。

(休館日)

第9条 図書館の休館日は、次の通りとする。

(1) 国民の祝日に関する法律に規定する休日

(2) 日曜日

(3) 学園創立記念日

(4) 本学の入試試験当日並びに大学入試センター試験の前日及び当日

(5) 畿央祭前日、当日及び翌日

- (6) 夏期及び冬期休業中の一定期間
- (7) 館内整理日及び蔵書点検期間

2 館長が必要と認めた場合は、臨時に休館又は開館することができる。この場合、事前に掲示等により公示する。

(開館時間)

第10条 図書館の開館時間は、次の通りとする。

- (1) 授業が行われる日
平日 午前9時～午後8時まで
土曜日 午前9時～午後6時まで
- (2) 授業が行われない日
平日 午前9時～午後6時まで
土曜日 午前9時～午後6時まで

2 館長が必要と認めた場合は、臨時に開館時刻及び閉館時刻を変更することができる。この場合、事前に掲示等により公示する。

(館内閲覧)

第11条 利用者は、図書等を図書館内で閲覧しようとするときは、所定の場所で自由に閲覧することができる。ただし、一部の図書等については、所定の手続きを経なければならない。

(貸出・返却)

第12条 図書等の貸出を受けることができる利用者は、第7条第1項第1号、第2号、第3号の利用者（以下「貸出許可者」という。）とする。貸出許可者が図書等の貸出を受けようとするときは、所定の手続きをとらなければならない。貸出許可者のうち大学院生については、本人からの申し出により、館員が貸出手続きを行い郵送等による貸出図書等の授受を行うことができる。ただしこの場合、雑誌の貸出は行わない。

2 貸出を受けた図書等（以下「貸出図書等」という。）は、貸出許可者がその保管の責任を負うものとし、他人に転貸してはならない。

3 貸出を受けられる上限冊数（以下「貸出冊数」という。）及び貸出を受けられる最長の期間（以下「貸出期間」という。）は、別表1の通りとする。

4 貸出禁止図書等は、別表2の通りとする。

5 館長が必要と認めた場合は、貸出冊数、貸出期間及び貸出禁止図書について、本条前2項にかかわらず、変更することができる。

6 貸出を受けた利用者（以下「貸出者」という。）は、貸出図書等を貸出期間満了日（以下「所定の期日」という。）までに返却しなければならない。

7 貸出者が貸出図書等を所定の期日までに返却しないときは、当該貸出図書等返却後、延滞日数のうち図書館開館日数分の期間、貸出を停止することを原則とする。なお、本項についての取扱いの詳細については、別に定める。

8 貸出者は、貸出を受ける資格を失った場合、速やかに貸出図書等を返却しなければならない。

9 館長が必要と認めた場合は、貸出期間中であっても貸出者に貸出図書等の返却を求めることができる。

(相互利用)

第13条 第7条第1項第1号及び第2号の利用者は、教育又は研究のために必要がある場合は、所定の手続きにより、他の機関等が所蔵する資料の閲覧、文献複写及び借用について依頼することができる。第3号及び理学療法学科実習先登録機関の利用者は、所定の手続きにより、文献複写について依頼することができる。相互利用による利用者は、この場合において、本学及び相互利用依頼先の指示に従わなければならない。

2 他の機関等から本学図書館所蔵の図書等の複写その他の利用について依頼があった場合は、所定の手続きにより、学内の利用に支障のない範囲内でこれに応じることができる。

第4章 図書等の整備

(図書等の整備)

第14条 図書等は、各年度承認された予算の範囲内で、学園稟議規則にもとづく決裁を受け、整備する。

2 各予算における選書及び購入方法については、別に定める。

(リクエストによる整備)

第15条 第7条第1項第1号及び第2号に該当する利用者は、図書の整備希望を図書館に申請することができる。

2 本条前項による整備は、原則図書館に所蔵していない教育又は研究を支援する図書等を対象とし、内容・蔵書バランス・予算等を勘案し、稟議決裁の上、整備する。

(寄贈図書)

第16条 図書館は、申し入れにより図書等の寄贈を受けることができる。その場合の手続きについては、別に定める。

(図書等の除却)

第17条 図書館は、図書等を学園資産から除却すべき事由がある場合、稟議決裁の上、除却処理を行うことができる。

第5章 資産の保全

(蔵書点検)

第18条 原則として年1回、図書館所蔵図書等の蔵書点検を行い、図書等の管理状況の適否及び図書原簿等の正否を確かめることとする。

2 蔵書点検の結果、図書原簿等と現品の照合に差異を認めた場合には、その原因を調査し対策を講じるとともに再発の防止に努めるものとする。

3 連続して3回、現品の確認ができな

かった図書等については、稟議決裁の上、除却処理を行うものとする。

(弁償責任)

第19条 利用者は、図書等を紛失、汚損若しくは破損した場合、又は機器その他の設備を毀損した場合は、直ちに館長等に届け出なければならない。

2 館長等は、紛失、汚損、破損、又は毀損した者に対し、弁償を求めることができる。

第6章 雑則

(規則等の遵守)

第20条 館長は、この規則及び館長等の指示に従わなかった利用者に対し、図書館の利用を停止又は禁止することができる。

(雑則)

第21条 この規則に定めるもののほか、図書館の利用に関し必要な事項は、別に定める。

2 電子情報に関する運用等については、別に定める。

(改廃)

第22条 この規則の改廃は、委員会の議を経て本学学長が行う。

附 則

この規則は、平成23年4月1日より施行する。

別表1 貸出冊数及び貸出期間（第12条関係）

利用者区分	図書		視聴覚資料(一部除く)		雑誌	
学部生(科目等履修生、聴講生、研究生を含む。)および生徒等	5冊	2週間	不可		不可	
大学院生	10冊	3週間	5点	2週間	5冊	翌開館日まで
教職員	10冊	4週間	10点	2週間	無制限	翌開館日まで
利用証発行手続きを済ませた卒業生(第7条第1項第3号に該当する者)	2冊	2週間	不可		不可	

別表2 貸出禁止図書等（第12条関係）

- | | |
|----------|------------------|
| (1) 貴重資料 | (4) 新聞 |
| (2) 参考資料 | (5) その他館長が指定したもの |
| (3) 製本雑誌 | |

畿央大学情報ネットワークシステム利用規則

(目的)

第1条 この規則は、畿央大学（以下「本学」という。）の情報ネットワークシステム（以下「システム」という。）の円滑な運用を確保するために、その利用について必要な事項を定める。

(用語の定義)

第2条 本規則において、システムとは、本学内に保有するコンピュータ等情報端末、それらに関わる周辺装置、オペレーティングシステム（OS）、アプリケーションソフトウェア、ネットワークシステム及びネットワークシステムに付随するシステム等を用いる。

(利用目的)

第3条 システムの利用目的は、本学の教育・研究の推進及び事務の効率化・向上を原則とする。

(利用可能な者)

第4条 システムを利用できる者は、次のとおりとする。

- (1) 本学の教職員（非常勤講師を含む）
- (2) 本学の学生（本学大学院生、科目等履修生、聴講生、研究員等を含む。）
- (3) その他情報センター長が認めた者

(免責等)

第5条 システムの故障等により生じた利用者の損害に対して本学はその責を負わない。

2 利用者は、システムの利用にあたり、利用者本人が行った操作が原因でシステム及び本学外のネットワークシステム等の障害並びに第三者とのトラブルが生じた場合は、利用者本人の責任において損害賠償の責を負うものとする。

3 利用者は想定できる障害等に対して、利用者本人が防衛策をとるように努めなければならない。

(個人情報の保護)

第6条 個人情報の保護については、個人情報の保護に関する法律及び学校法人冬木学園個人情報保護に関する規程の定めるとこ

ろによる。

(禁止事項)

第7条 システムの利用にあたり、次の各号に該当する行為を禁止する。

- (1) 他人のプライバシーを侵害する行為
- (2) 他人を誹謗・中傷する行為
- (3) 著作権法等の関連法規に違反する行為
- (4) 本学のシステムに損害または不利益を与える行為
- (5) 営利及び売買行為を目的とした行為
- (6) 本学及び他のネットワークに対する不正アクセス行為
- (7) 違法行為を支援、助長する行為
- (8) ユーザID及びパスワードの譲渡・貸与及び第三者への開示行為
- (9) 公序良俗、建学の精神に反する行為
- (10) 法令、学則、本学規則に反する行為
- (11) その他情報センター長が不適当と判断する行為

(利用の取消・停止)

第8条 次の各号に該当する事実あるいは行為が発生もしくは発生する可能性があると判断された場合には、情報センター長は、システムの利用を制限（取消・停止など）することができる。

- (1) 本規則に違反すると判断される行為
- (2) 本学の学生資格を失った場合（卒業を含む）
- (3) 本学の教職員資格を失った場合（退職を含む）

(規則の改廃)

第9条 この規則の改廃は、学校法人冬木学園情報化推進委員会および教授会に諮問し、理事長が行う。

附 則

この規則は、平成18年6月8日から施行する。

学校法人冬木学園 情報セキュリティ実施細則

制定 平成19年12月25日

情報セキュリティポリシーに定められた趣旨に則って情報を利活用するために、学生・生徒、教員、職員、情報システム管理者別に以下のような細則を定める。

①学生・生徒（教育利用）向け実施細則

<位置付け>

この実施細則は、本法人内の学生・生徒が各教育機関においてコンピュータやネットワークを利用するにあたって遵守すべき事項をまとめたものである。

<一般利用>

1. インターネットの利用において、やり取りする情報の内容については、本法人及び各教育機関は基本的には関知せず、利用者が良識を持って判断しなければならない。
2. コンピュータやネットワークの利用のために発行されたIDとパスワードは本人のみが利用できる。そのため、他の利用者IDを用いて身分を隠してはならない。また、他人に自分のIDを貸与してはならない。
3. 掲示板やニュースグループなど公的な場所で学内から意見を表明するときは、関与者の人権やプライバシーを尊重すると共に、知的所有権（著作権、商標権、特許権など）に配慮しなければならない。
4. コンピュータやネットワークを本来の目的以外に使ってはならず、特に商業目的に使ってはならない。

<電子メール利用時>

1. 第三者のプライバシーや知的所有権には十分尊重しなければならない。
2. 機密情報を学外に流してはならない。
3. 不必要な相手にまで送付したり、不必要なファイルを添付するなどにより、計

算機やネットワークに不要な負担をかけるてはならない。特に、チェーンメールに協力することがないように注意しなければならない。

4. 通信相手を罵倒したり、誹謗中傷してはならない。
5. ネズミ講やマルチ商法などに荷担してはならない。
6. 教育機関内の電子メールを外のメールサーバへ転送することは基本的に妨げないが、転送先の設定などに十分注意しなければならない。
7. 添付ファイルにウイルスが内在する可能性を考慮しなければならない。
8. 安全を確保するためには暗号メールを必要に応じて使用することが望ましい。

<Webアクセス>

1. Web運用者からプライバシーを守りたい場合にはCookieをOFFに指定しておかなければならない。
2. 署名のないActiveXやJava、JavaScript、などのコードを実行する場合はウイルス対策などに十分注意しなければならない。
3. 不適切なサイトにアクセスしてはならない。また、信頼できないサイトへアクセスする場合は、取引時のトラブルなどに十分注意しなければならない。

<ファイル転送>

1. 出所が不明なファイルや内容に確証がもてないファイルをダウンロードしてはならない。
2. 大きなサイズのファイルをダウンロードするときは、他の利用者への影響を考慮しなければならない。

<公開情報に関する遵守事項>

1. Webサーバの管理者は設置目的以外の

利用をしてはならない。例えば学術目的に設置したサーバを、業務目的に利用してはならない。

2. 公開サーバで公序良俗に反する情報を発信してはならない。
3. Webサーバなどにより情報を公開する場合は、関与者の人権やプライバシーなどに十分配慮しなければならない。
4. Webに掲載する事項に関しては他人の知的所有権（著作権、商標権、特許権など）に十分配慮しなければならない。
5. 学生団体、個人ごとのWebページの開設を認める場合は、その内容に関しては団体・個人が責任を負うものとするが、上記の各項目に記した条項は団体・個人のページにもあてはまる。

＜ウイルス対策＞

1. 万一のウイルス被害に備えるためデータのバックアップを行わなければならない。
2. ウイルスの兆候を見逃さず、ウイルス感染の可能性が考えられる場合ウイルス検査を行わなければならない。
3. メールの添付ファイルはウイルス検査後開く。
4. ウイルス感染の可能性のあるファイルを扱う時は、マクロ機能の自動実行は行わない。
5. 外部から持ち込まれたFD及ダウンロードしたファイルはウイルス検査後使用する。
6. コンピュータの共同利用時の管理を徹底する。
7. メールの本文で済むものを添付ファイルにしない。
8. ウイルス発見時・感染時には所属教育機関の情報システム管理者に報告しなければならない。

＜報告義務＞

1. コンピュータを利用中に不正アクセスの痕跡（知らないファイルがある、起動したつもりがないプロセスが動いている）などを発見した場合は、速やかに所属教育機関の情報システム管理者に報告しなければならない。

2. ネットワークを利用中に障害を検知した場合は、速やかに所属教育機関の情報システム管理者に報告しなければならない。

＜法律上の義務＞

ネットワークシステムの利用に関連する法令は次のとおりである。なお、これらに違反する行為は、いずれも犯罪行為であり、処罰される行為である。システムの利用者は、これらの義務を遵守すべきであるのはもちろんのこと、同システムの利用に際して、法令に触れる行為をしてはならない。

1. コンピュータで使用するファイルを不正に作成してはならない（刑法161条の2）
2. コンピュータを破壊したり不正の指令を与えるなどしてコンピュータによる業務を妨害してはならない（刑法234条の2）
3. コンピュータに不正の指令を与えるなどしてコンピュータを誤作動させ、不正の利益を得てはならない（刑法246条の2）
4. コンピュータで使用するファイルを破壊してはならない（刑法258条、259条）
5. 他人の特許権を侵害してはならない（特許法196条）
6. 特許がないのに特許とまぎらわしい表示をしてはならない（特許法198条）
7. 他人の商標権を侵害してはならない（商標法78条）
8. 登録商標でないのにこれと紛らわしい商標を使用してはならない（商標法80条）
9. 他人の著作権、著作人格権、出版権、著作隣接権を侵害してはならない（著作権法119条）
10. 著作者でない者の実名または周知の変名を著作者であるとして表示して著作物を頒布してはならない（著作権法121条）
11. 商業用レコード（音楽テープ、CD等を含む。）を複製し、その複製物を頒布してはならない（著作権法121条の2）
12. 他人の商品と誤認するような商品表示をしたり、国際機関の標章と誤認させるような標章を使用して不正競争をしては

ならない（不正競争防止法13条）

13. 郵政大臣の許可を得ないで第1種電気通信事業を営んではない（電気通信事業法100条）
14. みだりに電気通信事業者の設備を操作してネットワークサービスの提供を妨害してはならない（電気通信事業法102条）
15. 電気通信事業者が取扱中の通信の秘密を侵してはならない（電気通信事業法104条）
16. 他人の名誉を毀損してはならない（刑法230条）
17. 公然と他人を侮辱してはならない（刑法231条）
18. 他人の生命、身体、自由、名誉または財産に対して危害を加える旨を告知して脅迫してはならない（刑法222条）
19. 虚偽の風説を流布するなどして、他人の信用を毀損し、または、他人の業務を妨害してはならない（刑法233条）
20. 他人の物を盗んではならない（刑法235条）
21. 他人を欺いて物を交付させたり、財産上の利益を得たりしてはならない（刑法246条）
22. 未成年者の知慮浅薄または他人の心神耗弱を利用して物を交付させたり、財産上の利益を得たりしてはならない（刑法248条）
23. 他人を恐喝して物を交付させてはならない（刑法249条）
24. 自分が占有する他人の物を横領してはならない（刑法252条）
25. 賭博をしてはならない（刑法185条）
26. 富くじを発売してはならない（刑法187条）
27. わいせつな文書、図画その他の物を頒布したり、公然と陳列してはならない（刑法175条）
28. 営利の目的で、淫行の常習のない女子を勧誘して姦淫させてはならない（刑法182条）

<違反行為に対する措置>

情報システム管理者は、情報セキュリティポリシーの違反行為をした者（アカウントを

盗まれた場合の盗まれた者を含む）に対し、利用資格の取消ないしその他の教育的措置をとることができる。ただし、利用資格の停止、利用資格の変更については、情報システム管理者は、いつでも解除することができる。

なお、利用資格取消の措置を解除した時は、新規アカウントを付与するか、取り消したアカウントを復活して利用を再開することとする。

アカウント取消中または停止中の電子メールの消滅、不到達、ファイル等の削除等が発生しても、本法人は、その責任を一切負わない。

情報システム管理者が情報セキュリティポリシーに違反する行為をした者に対してとることができる措置は以下のとおり。

1. 利用資格の取消
2. 利用資格の停止（1年を超えない期間内に限る）
3. 利用資格の変更
4. 違反行為に使用され、または、違反行為の結果として生じたファイル、データ、プログラム等の削除
5. 違反行為に使用され、または、違反行為の結果として生じたファイル、データ、プログラム等への一般的もしくは個別的なアクセス制限
6. アカウントの停止・変更
7. その他の教育的措置

<違反行為に対する措置の適用手続>

畿央大学における違反行為に対する措置として以下のような手続で行う。なお、他の教育機関においては畿央大学規程を準用するが、各教育機関において定めてもよい。

1. 情報システム管理者が措置を講じようとするときは、違反行為の疑いのある利用者から事前に事情を聴取しなければならない。ただし、緊急を要し、事前に聴取をすることができない場合には、この限りでない。
2. また、違反行為に対する措置を講じたときは、24時間以内に、違反者が学生である場合には学生支援センターに対し、それ以外の者である場合には総務部に対し、その措置を講じたこと及びその内容

を通知しなければならない。

3. 学生支援センターが情報システム管理者からの通知を受けたときは、その通知を受けた時から24時間以内に、当該学生所属の学部に対し、措置が講じられたこと及びその内容を通知しなければならない。
4. 通知を受けた教授会は、30日以内に当該学生に対する学則に基づく処分の要否、

または、既に講じられた措置の解除の要否を決定しなければならない。

5. 教授会が措置の解除を決定したときは、情報システム管理者に対し、その決定の時から24時間以内に措置解除決定及びその内容を通知しなければならない。

以下 略

学校法人冬木学園 ハラスメントの防止等に関する指針

平成22年2月13日制定

学校法人冬木学園は建学の精神「徳をのばす」「知をみがく」「美をつくる」に基づいた教育研究活動を行っています。その実現のために、学園のすべての学生及び教職員は公正、安全で快適な環境の下に、学習、教育、研究及び就業の機会と権利を保障されています。本学園では教職員や学生・生徒等すべての構成員が互いの立場を尊重しあう人間関係を作りあげ、維持することをめざしますが、もしハラスメントが発生した場合、厳正、迅速な手続きによって公正かつ適正に対処します。

I ハラスメントとは

ここでいうハラスメントはセクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント及びその他のハラスメントをさしています。

ハラスメントは、構成員が快適な環境の下で教育・研究活動や管理的業務を行う場合に大きな障害となり、個人の尊厳や人格を侵害する行為です。ハラスメントに当たるか否かは、行為者の意識に関わらず、「私にとって望まない行動である」という受け手の判断基準が重要です。

1. セクシュアル・ハラスメント

セクシュアル・ハラスメントとは、他の者

の意に反する性的な言動であって、他の者に不快感その他の不利益を与え、又は学習、教育、研究及び就業環境を悪化させるものをいいます。セクシュアル・ハラスメントが発生しないようにするために、教職員は他の教職員、学生及び関係者と接する時には、一人ひとりが次の内容を大切にすることがあります。

- ・お互いの人格を尊重しあうこと。
- ・お互いが大切なパートナーであるという意識を持つこと。
- ・相手を性的な関心の対象としてのみ見る意識をなくすこと。
- ・異性を劣った性として見る意識をなくすこと。

セクシュアル・ハラスメントを行わないための心構えは次の通りです。

- (1) 性的な言動に対する受け止め方には個人間や男女間、その人物の立場等により差があり、セクシュアル・ハラスメントに当たるか否かについては、相手の判断が重要になります。具体的には、次の点について注意する必要があります。

- ・親しさを表すつもりと言動であったとしても、本人の意図とは関係なく相手を不快にさせてしまう場合があること。
- ・不快に感じるか否かには個人差があること。

- ・この程度のことは相手も許容するだろうという勝手な憶測をしないこと。
- ・相手との良好な人間関係ができていてと勝手な思い込みをしないこと。

- (2) 相手が拒否し、又は嫌がっていることが分かった場合には、同じ言動を決して繰り返さないことは大切です。
- (3) セクシュアル・ハラスメントを受けた者が、上司、教職員等との人間関係を考え、拒否することができないなど、相手からいつも明確な意志表示があるとは限りません。拒否の意志表示がないことを同意・合意と勘違いしてはいけません。
- (4) 勤務時間内又は職場内におけるセクシュアル・ハラスメントにだけ注意するのは不十分です。例えば、職場の人間関係がそのまま持続する歓迎会のような場合において、教職員が他の教職員、学生にセクシュアル・ハラスメントを行うことについても同様に注意しましょう。

2. アカデミック・ハラスメント

アカデミック・ハラスメントとは教育・研究活動上指導的立場にある者が、その指導を受ける者に対し、その意に反する差別的な発言や行動を行い、その指導を受ける者の自由で主体的な学修活動や研究活動、円滑な職務遂行活動を妨げ、個人の尊厳または人格を侵害することを言います。教育・研究活動上指導的立場にある者が、教育・研究上の指導に関連して、不適切な発言や行動をして指導を受ける者に不利益を与えることにより、学生や研究者の自由で主体的な学修活動や研究活動等を妨げることは許されません。高校生徒の学習活動や教員の教育・研究活動についても同様です。

アカデミック・ハラスメントにあたるかどうかは、客観的に判断されます。教育・研究活動上指導的立場にある者が、指導を受ける者の活動を妨げる意図を有しているかいないかは、アカデミック・ハラスメントの存在も不在の判断基準にはなりません。

3. パワー・ハラスメント

パワー・ハラスメントとは、管理上業務上

優越的な立場にある者が、その監督し、指導し、育成する権限を不当に行使し、または職務遂行上従属的立場にある者に対し就業の環境を悪化させることを示唆することにより、職務遂行上従属的立場にある者に対し、その意に反する不当な取り扱いを行い、不利益や損害を与え、または個人の尊厳もしくは人格を侵害することを言います。また就業の場で行われる言葉や態度による精神的な暴力で、特定の人の人格を傷つける行為も許されるものではありません。

このような行為は、弱い立場にある者の自由意志や自発性を抑圧し、職場のモラルダウン（勤労意欲の低下）等を引き起こすことになりかねません。

4. その他のハラスメント

就労、就学、教育又は研究の場におけるハラスメントについて、前述のセクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメントの他に、性別による差別意識に基づく言動であって、他の者に不快感その他の不利益を与える「ジェンダー・ハラスメント」等のケースも考えられます。このように、ハラスメントはこの前述の3つに限定されるものではありません。

また、ハラスメントはこの3つのいずれかに典型的にあてはまる場合もありますが、相互に複雑にからみあいながら発生することも多く、それぞれの境界は明確なものではありません。

II ハラスメント防止等に関する指針の対象範囲

(1) 本学園の構成員

学 生：本学園に設置する各学校の大学院生、学生、生徒、園児のほか、留学生、研究生、科目等履修生など、当該学校で教育及び研究指導を受ける全ての者。

教職員：常勤、非常勤を問わず、本学園に設置する学校において学生の教育及び研究指導に当たる者及び本学園の業務を担当する全ての者。

(2) 関係者

教育、研究、生活サービス等で広く本学に関係する者（学外機関との間に雇用契約を有し学内で就労する各種職員、臨床実習・教育実習・インターンシップなど学外実習の関係者、進路選択・就職などの関係者、食堂関係業者社員など）学生の課外活動（ボランティア活動、アルバイト、サークル活動など）に関係する者など

(3) ハラスメントについては生じた場所や時間を問わず対象とします。（過去の被害についても相談することができます。）

(4) 卒業生、講座修了生、退学あるいは除籍により離籍した学生など、現に在籍しているかどうかにかかわらず相談することができます。

Ⅲ 懲戒処分

ハラスメントの態様等によっては信用失墜行為、教職員もしくは学生・生徒たるにふさわしくない非行等に該当して、しかるべき対応の上で懲戒処分に付されることがあることを十分認識してください。

Ⅳ 就労上又は就学上の適正な環境を確保するために認識すべき事項

就労上又は就学上の環境は、教職員、学生及び関係者の協力の下に形成される部分が大いものです。ハラスメントにより就労上又は就学上の環境が害されることを防ぐため、教職員は、次の事項について積極的に意を尽くすように努めなくてはなりません。

1. 適正な環境の確保

ハラスメントについて問題提起をする教職員、学生及び関係者をいわゆるトラブルメーカーと見たり、ハラスメントに関する問題を当事者間の個人的な問題として片づけないこと。職場におけるミーティングを活用するこ

となどにより解決することができる問題については、問題提起を契機として、就労上又は就学上の適正な環境の確保のために皆で取り組むことを日頃から心がける必要があります。

2. 周囲に対する気配り

ハラスメントに関する問題の加害者や被害者を出さないようにするために、周囲に対する気配りをし、必要な行動をとること。具体的には、次の事項について十分留意して必要な行動をとる必要があります。

(1) ハラスメントが見受けられる場合は、注意を促すこと。

ハラスメントを契機として、就労上又は就学上の環境に重大な悪影響が生じたりしないうちに、機会をとらえて注意を促すなどの対応をとることが必要です。

(2) 被害を受けていることを見聞きした場合には、声をかけて相談に乗ること。

被害者は「恥ずかしい」、「トラブルメーカーとのレッテルを貼られたくない」「仕返しが怖い」などの考えから、他の人に対する相談をためらうことがあります。被害を深刻にしないように、気が付いたことがあれば、声をかけて気軽に相談に乗ることが大切です。

3. 環境づくり

職場においてハラスメントがある場合には、立場にかかわらず、気持ちよく就労や就学ができる環境づくりをするために相談窓口や相談員等に相談するなどの方法をとることをためらわないようにしましょう。

V ハラスメントに起因する問題が生じた場合

1. 基本的な心構え

ハラスメントを受けた場合にその被害を深刻にしないために、次の事項について認識しておくことが望まれます。

(1) 一人で我慢しているだけでは、問題は解決しないこと。ハラスメントを無視したり、受け流したりしているだけでは、必ずしも状況は改善されないということをまず認識

することが大切です。

- (2) ハラスメント防止の為に行動をためらわないこと。

「トラブルメーカーというレッテルを貼られたくない」、「恥ずかしい」などと考えがちですが、被害を深刻なものにしない、他に被害者をつくらない、さらにはハラスメントをなくすことは自分だけの問題ではなく就労上又は就学上の適正な環境の形成に重要であるとの考えに立って、勇気を出して行動することが求められます。

2. ハラスメントの被害を受けたと思うときに望まれる対応

教職員および学生はハラスメントを受けた場合、次のような行動をとるよう努めることが望めます。

- (1) 嫌なことは相手に対して明確に意志表示をすること。

ハラスメントに対しては毅然とした態度をとること、すなわち、はっきりと自分の意志を相手に伝えることが重要です。しかし、背景に上下関係等が存在する場合には直接相手に言いにくい場合が考えられます。そうした場合には相応する上司に報告し、措置してもらうことも考えられます。

- (2) 信頼できる人に相談すること。

まず、同僚や友人等身近な信頼できる人に相談することが大切です。また学園の各種相談窓口、相談員に相談してみましょう。

3. 苦情・相談や訴えに対する対応について

学校法人冬木学園では、万一、教職員・学

生へのハラスメントが起き、苦情・相談や訴えがあった時は、責任を持って次のような対応を取ります。

- (1) ハラスメントの相談窓口は、教職員、幼稚園関係者については法人総務部、学生については畿央大学学生支援センター、関西中央高校人権教育部です。
- (2) 学園では相談員を置き、公表しています。気軽に相談してください。
- (3) 教職員・学生からの苦情・相談や訴えが相談窓口や相談員に寄せられた場合には、速やかに実態を明らかにし、本人が同意した場合には、ハラスメント対策委員会に報告を行います。
- (4) ハラスメントの事実調査が必要と認めた場合は調査委員会を設けて事実関係を明らかにすると同時に、被害者の救済措置について対応し、また再発防止にかかる改善策を実施します。
- (5) 上記のようなハラスメントの訴えへの対応に際して、情報を知り得た者は関係者のプライバシーの保護を最優先にし、その内容について守秘義務を負います。

VI 指針の改訂

ハラスメント防止等に関する指針については、運用状況をふまえてハラスメント防止委員会およびハラスメント対策委員会で必要な見直しを行い、理事長が決定します。

以上

学校法人冬木学園

ハラスメントの防止等に関する規則

(目的)

第1条 この規則は、学校法人冬木学園（以下「学園」という。）において、セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント及びその他のハラスメント（以下「ハラスメント」という。）の防止のための措置並びにハラスメントに起因する問題が生じた場合に適切に対応するための措置について、必要な事項を定めることにより、学園のすべての学生及び教職員に、公正、安全で快適な環境の下に、学習、教育、研究及び就業の機会と権利を保障することを目的とする。

(定義)

第2条 この規則における用語の定義は、次の各号の定めるところによる。

- (1) 「セクシュアル・ハラスメント」とは、相手方の意に反する性的な言動により、相手方に不快感、その他の不利益を与え、学習、教育、研究又は就業環境を悪化させることをいう。
- (2) 「アカデミック・ハラスメント」とは、教育、研究の場における地位もしくは権力を利用し、又は逸脱して行う不適切な言動、指導もしくは待遇により、相手方に不快感、その他の不利益を与え、学習、研究意欲を低下させ、又は学習、研究環境を悪化させることをいう。
- (3) 「パワー・ハラスメント」とは、就労上における地位もしくは権力を利用し、又は逸脱して行う不適切な言動、指導もしくは待遇により、相手方に不快感、その他の不利益を与え、就労意欲を低下させ、又は労働環境を悪化させることをいう。
- (4) 「その他のハラスメント」とは、前各号以外の不適切な言動であって、相手方に不快感、その他の不利益を与えることをいう。

(対象者)

第3条 この規則の対象者は、次の各号の定めるところによる。

- (1) 学生とは、学園に設置する各学校（以下「当該学校」という。）に所属する大学院生、学生、生徒、園児のほか、留学生、研究生、科目等履修生など、当該学校で教育及び研究指導を受ける全ての者を指す。
- (2) 教職員とは、常勤、非常勤を問わず、当該学校において学生の教育及び研究指導に当たる者及び学園の業務を担当する全ての者を指す。
- (3) 当該学校の学生もしくは学園の教職員が訴えた、又は訴えられた場合には、その事案に関与したあらゆる関係者にも適用する。

(理事長等の責務)

第4条 理事長は、学園のハラスメントの防止及び対応に関する事務を総括する。

2 法人事務局長は、理事長を補佐し、学園のハラスメントの防止及び排除に努めるとともに、これに関連する問題が生じた場合に迅速、適切に対処するものとする。

3 当該学校の長は、当該学校の独自性を考慮し、学生、教職員及びそれぞれ相互間のハラスメントの防止及び排除に努めるとともに、これに関連する問題が生じた場合に迅速、適切に対処するものとする。

4 教職員を管理、監督する立場にある者及び学生を指導する立場にある者は、ハラスメントの防止に努めるとともに、これに関連する問題が生じた場合に迅速、適切に対処するものとする。

(教職員及び学生の責務)

第5条 学園の教職員及び学生は、ハラスメントに該当する行為をしてはならない。

(防止委員会)

第6条 ハラスメントの防止に関する具体的な施策を推進するため、ハラスメント防止委員会（以下「防止委員会」という。）を置く。

(防止委員会の任務)

第7条 防止委員会の任務は、次の各号に掲げる事項とする。

- (1) ハラスメント防止にかかる実態調査及び情報収集に関すること。
- (2) ハラスメント防止にかかる啓発及び研修の推進に関すること。
- (3) 前2号について当該学校の調整に関すること。
- (4) 相談員（第9条に定める相談員をいう。以下同じ。）の職務にかかる具体的事項の検討に関すること。
- (5) ハラスメントの再発防止にかかる改善策の検討及び実施に関すること。
- (6) その他、ハラスメントの防止に係る重要な事項に関すること。

（防止委員会の組織）

第8条 防止委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織し、理事長が任命する。

- (1) 法人事務局長が指名する法人事務局の事務職員1名
- (2) 畿央大学各学部長が推薦し、学長が指名する各学科の教育職員各1名
- (3) 畿央大学事務局長の指名する畿央大学事務職員2名
- (4) 関西中央高等学校校長の指名する関西中央高校教育職員2名
- (5) 関西中央高等学校校長の指名する関西中央高校事務職員1名
- (6) 畿央大学付属幼稚園長の指名する畿央大学付属幼稚園教職員1名

2 防止委員会委員の任期は2年とし、再任は妨げない。

3 防止委員会委員に欠員が生じた場合は速やかに補充するものとし、その場合の任期は、前任者の残任期間とする。

4 防止委員会に委員長と副委員長各1名を置き、それぞれ防止委員会委員の互選によって選出する。

5 防止委員会委員長は、防止委員会を招集し、その議長となる。

6 防止委員会副委員長は、防止委員会委員長を補佐し、当該委員長に事故あるときはその職務を行う。

7 会議は、防止委員会委員の過半数の出席を以て成立する。

8 議事は、出席した防止委員の過半数の賛成を以て成立する。

9 防止委員会は、防止委員会委員長が必要と認めた場合、本条第1項に掲げる委員以外の者を会議に出席させ、報告又は意見を聞くことができる。

（相談員の設置及び任務）

第9条 学園に、ハラスメント相談員（以下「相談員」という。）を置く。

2 相談員の任務は、次の各号に掲げる事項とする。

- (1) ハラスメントに関する相談に応じ、相談者に事後の対応についての助言及び支援を行うこと。
- (2) 前号の相談、事実確認等について、対策委員会（第11条に定める対策委員会をいう。以下同じ。）に報告すること。
- (3) 問題の解決が困難な事案については対策委員会委員長に報告し、その指示を受けること。

3 相談員は、相談及び面談に当たっては、相談、事実確認及び対応内容等についての記録を残しておくなければならない。

（相談員の選任）

第10条 相談員は、防止委員会からの推薦により、理事長が任命する。

2 相談員の男女構成は、原則半々とする。

3 相談員の任期は2年とし、再任を妨げない。

4 相談員に欠員が生じた場合は、速やかに補充するものとし、その場合の任期は前任者の残任期間とする。

5 相談員の氏名及び連絡先は、学園内掲示板等で公表する。

6 その他、相談員に必要なことは防止委員会において定める。

（対策委員会）

第11条 ハラスメントに関する問題が生じた場合に適切に対応するために、ハラスメント対策委員会（以下「対策委員会」という。）を置く。

（対策委員会の任務）

第12条 ハラスメントについての相談員からの報告について、対策委員会委員長が必要と認める場合には、直ちに対策委員会を開催し、公正・公平かつ中立的な立場で、迅

速かつ適切に問題の解決にあたるものとする。

2 対策委員会は、被害拡大防止等、緊急措置が必要と判断した場合は、関係機関と協議の上、直ちに対応策の決定を行う。

3 対策委員会が事実関係の調査を必要と判断した場合には、理事長に調査委員会の設置を進言することが出来る。

4 対策委員会は事実認定および被害者の救済措置について対応するとともに、再発防止にかかる改善策を検討する。

(対策委員会の組織)

第13条 対策委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織し、理事長が任命する。

- (1) 防止委員会委員長
- (2) 法人事務局長
- (3) 法人総務部長
- (4) 畿央大学大学院研究科長
- (5) 畿央大学健康科学部学部長
- (6) 畿央大学教育学部学部長
- (7) 畿央大学学生支援部長
- (8) 関西中央高等学校校長
- (9) 関西中央高等学校教頭
- (10) 畿央大学付属幼稚園副園長
- (11) その他、理事長が必要と認めた者

2 対策委員会の委員長と副委員長は、対策委員会委員の中から理事長が任命する。

3 対策委員会委員長は、対策委員会を招集し、その議長となる。

4 対策委員会副委員長は、対策委員会委員長を補佐し、当該委員長に事故あるときはその職務を行う。

5 会議は、対策委員会委員の過半数の出席を以て成立する。

6 議事は、出席した対策委員会委員の2/3以上の賛成を以て成立する。

7 対策委員会は、対策委員会委員長が必要と認めた場合、本条第1項に掲げる対策委員以外の者を会議に出席させ、報告又は意見を聞くことができる。

(調査委員会)

第14条 理事長は、対策委員会の進言に基づき当該事案の事実関係を調査するため、ハラスメント調査委員会（以下「調査委員会」という。）を設置することができる。

(調査委員会の任務)

第15条 調査委員会は、ハラスメントに関する調査を行うに当たっては、当事者、相談員及び関係者から公正な立場で事情聴取を行うものとし、必要に応じて関係書類等の提出を求めることができる。

2 調査委員会は、原則として調査開始後2ヶ月以内に調査を終了するものとする。

3 調査委員会は、その調査結果及び当事者に対する措置等について、書面をもって理事長に報告しなければならない。

(調査委員会の構成)

第16条 調査委員会は、調査委員会委員5名で構成し、対策委員会の進言を受け、理事長が任命する。ただし、任命に当たっては、相談員及び当事者に関係ある者を除外し、公正かつ中立な判断が阻害されないよう配慮し、人選を行うものとする。なお、推薦された教職員が自ら公正な判断を行えないと判断した場合は、理事長に申し出て委員への就任を辞退しなければならない。

2 理事長が必要と認めた場合、理事長は、学園外の専門家に調査委員会委員を委嘱することができる。

3 調査委員会委員の氏名は、公開しない。

(調査終了後の対応)

第17条 理事長は、調査委員会からの報告を対策委員会に伝達し、再発防止にかかる改善策を検討させるものとする。

2 理事長は、対策委員会又は調査委員会からの報告に基づき、懲戒に相当すると判断した場合は、就業規則に定める事故処理委員会等に付さなければならない。

(遵守事項)

第18条 当事者及び関係者は、相談、事情聴取等に際しては真実を述べ、偽りの申し出をしてはならない。

2 行為者又はその関係者は、いかなる場合においても相談及び苦情を申し出た者並びにその関係者に対して、報復的行為その他不利益な取扱いをしてはならない。

3 この規則に関わる委員、相談員、その他手続きにおいて関係する者は、その職務上知り得た情報を他に漏らしてはならな

い。

(人権への配慮)

第19条 防止委員会、対策委員会及び調査委員会の委員並びに相談員は、職務の遂行に当たって、当事者及び関係者の名誉、プライバシー等の人権を侵害しないよう配慮しなければならない。

(事務の所管)

第20条 この規則に関する事務は、法人事務

局総務部が行う。

(改廃)

第21条 この規則の改廃は、理事長が行う。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。なお、この規則の施行に伴い、学校法人冬木学園セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規則を廃止する。

畿央大学 畿友会会則

第一章 総則

(名称)

第1条 本会は、畿央大学畿友会と称する。

(構成)

第2条 本会は畿央大学の学部在籍の全学生をもって構成する。

(本部)

第3条 本会は本部を畿央大学内に置く。

(目的)

第4条 本会は、会員の自治と自主的な諸活動により会員相互の親睦をはかり、学生生活の発展向上に資すること、あわせて畿央大学の発展に寄与することを目的とする。

(機関)

第5条 本会に次の機関を置く。

- (1) クラス代表者会議
- (2) 執行委員会
- (3) 学生総会
- (4) 課外活動委員会

第二章 クラス代表者会議及びクラス代表者

(クラス代表者会議)

第6条 クラス代表者会議は、本会の最高議決機関である。ただし、本会則に特別の定めがある場合は、学生総会が本会の最高意思を決定する。

(構成)

第7条 クラス代表者会議は、クラス代表者と執行委員会により構成する。

(クラス代表者)

第8条 クラス代表者は、1回生時のクラス毎に互選により2名を選出する。

2 クラス代表者の任期は1年間とし、再選を妨げない。

(招集)

第9条 クラス代表者会議は毎年5月に執行委員会会長が招集する。

2 前項の他に、下記の場合に執行委員会会長はクラス代表者会議を招集しなければならない。

- (1) クラス代表者の5分の1以上の連名による要求があった場合。
- (2) 執行委員会が必要と認めた場合。

(議長・書記)

第10条 クラス代表者会議の議長及び書記は、その都度出席者より選出する。

(成立・議決)

第11条 クラス代表者会議はクラス代表者の4分の1以上の出席で成立し、出席クラス代表者の過半数をもって議決する。執行委員は、議決権を有しない。

(議決事項)

第12条 クラス代表者会議は、次の事項を審議決定する。

- (1) 本会運営に関する基本方針
- (2) 畿友会の予算、決算
- (3) 執行委員会役員の承認
- (4) 畿友会会則及び諸規則の制定、改廃

- (5) その他、執行委員会が必要と認めた事項

第三章 執行委員会及び役員、運営委員、部局等

(執行委員会)

第13条 執行委員会はクラス代表者会議の決議に基づいて本会の会務を執行する。

(役員)

第14条 執行委員会は、以下の役員によって構成される。

- | | |
|-----------|------|
| (1) 会長 | 1名 |
| (2) 副会長 | 1名以上 |
| (3) 書記 | 1名以上 |
| (4) 会計 | 1名以上 |
| (5) 課外活動部 | 1名以上 |
| (6) 企画 | 1名以上 |
| (7) 監査 | 1名以上 |

(運営委員)

第15条 運営委員は、執行委員会が会員より公募する。

(選出及び任期)

第16条 役員は、会員より公募した運営委員の互選により選出し、毎年5月のクラス代表者会議で承認されなければならない。

- 2 役員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(成立・議決)

第17条 執行委員会は、役員の過半数の出席をもって成立し、出席者の過半数をもって議決する。

(任務)

第18条 役員の任務は、以下のとおりとする。

- (1) 会長は、執行委員会を代表し、また、執行委員会を統括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。
- (3) 書記は、執行委員会の業務の補佐と事務を担当する。
- (4) 会計は、畿友会会計に関する諸般の事務を担当する。
- (5) 課外活動部は、クラブ・サークル等を統括する。
- (6) 企画は、行事の企画運営を担当する。

ただし、専門委員会、特別部局にかか
るものを除く。

- (7) 監査は、畿友会及び所属団体の会計
を監査する。

(専門部局)

第19条 執行委員会は、そのもとに次の専門
部局をおくことができる。

書記 会計 課外活動部
企画 監査

- 2 専門部局は、畿友会運営委員により
構成する。

(専門委員会・特別部局)

第20条 執行委員会は、本会の事業を推進す
るために、大学祭実行委員会等、必要な専
門委員会、特別部局を置くことができる。

- 2 専門委員会、特別部局は会員により
構成される。

第四章 学生総会

(学生総会)

第21条 学生総会による決定は、本会の最高
意思となる。

(招集)

第22条 執行委員会会長は、以下の場合に学
生総会を招集しなければならない。

- (1) 会員の10分の1以上の署名による要
求があった場合
- (2) クラス代表者会議が招集を議決した
場合

(成立・議決)

第23条 学生総会は、会員の5分の1以上の
出席（委任状を含む）をもって成立し、委
任状を除く出席の過半数により議決する。

(議長・書記)

第24条 学生総会の議長、書記は立候補を募
り、選出する。ただし、立候補がない場合
は、執行委員会役員がその任にあたること
を妨げない。

(告示)

第25条 学生総会の招集は、開催の7日前ま
でに会員に告示しなければならない。

第五章 課外活動委員会

(課外活動委員会)

第26条 執行委員会のもとに課外活動委員会を置く。

(構成)

第27条 課外活動委員会は、執行委員会課外活動部役員とクラブ・サークルの代表者各1名によって構成する。

(任務)

第28条 課外活動委員会は、課外活動委員会の規程に従い、各クラブ・サークルの活動等を調整し、クラブ・サークル活動の発展に貢献する。

(運営)

第29条 執行委員会課外活動部役員は課外活動委員会を統括する。

2 課外活動委員会の決定事項は、執行委員会の承認をもって有効となる。

第六章 会計

(経費)

第30条 本会の経費は、会費、寄付金、補助金等をもってこれに充てる。

(会計年度)

第31条 本会の会計年度は、毎年4月1日より3月31日までとする。

(予算・決算)

第32条 本会の予算・決算は、クラス代表者会議において決定する。

(会計監査)

第33条 本会及び本会所属団体は、監査役員による会計監査を受けなければならない。

第七章 顧問

(顧問)

第34条 本会に顧問を若干名置き、畿央大学の教職員に委託する。

第八章 改廃

(改廃)

第35条 本会則の改廃は、クラス代表者会議の議決を必要とする。

附 則

本会会則は、平成15年5月31日から施行する。

附 則

本会会則は、平成23年5月18日から施行する。

畿桜会 会則

(畿央大学、畿央大学短期大学部、桜井女子短期大学 同窓会)

(名称)

第1条 本会は畿桜会（きおうかい）と称する。

(目的)

第2条 本会は会員相互の親睦、協力をはかり、併せて母校の発展に寄与することを目的とする。

(事務局)

第3条 本会は事務局を畿央大学に置く。

(会員)

第4条 本会は正会員、準会員及び特別会員によって構成する。

2 正会員は畿央大学、畿央大学短期大学部、桜井女子短期大学の卒業生とする。

3 準会員は畿央大学の在学学生とする。

4 中途退学した者のうち本会への入会を希望する者は、役員会の承認を得た後、同窓会費を完納することにより正会員となることができる。

5 準会員は畿央大学の卒業と同時に自動的に正会員となる。

6 特別会員は畿央大学の現教職員、及び退職教職員で申請のあった者とする。

7 準会員及び特別会員は総会における議決権、選挙権を有しない。

(部会)

第5条 本会に理学療法部会、健康栄養部会、人間環境デザイン部会、教育学部会、看護医療部会及び短期大学部会の各部会を置くことができる。

2 部会は正会員及び準会員で構成する。

3 部会は部会規則を定めなければならない。

4 部会は1名以上の代表幹事を選出しなければならない。

(支部)

第6条 本会は10名以上の正会員により支部を置くことができる。

2 支部は支部規則を定めなければならない。

3 支部を設立した場合は遅滞なく総会

に報告し、承認を得なければならない。

4 支部は1名以上の代表幹事を選出しなければならない。

(事業)

第7条 本会は目的を達成するために次の事業を行う。

一 会誌、名簿等の発行

二 会員の親睦をはかるための事業

①ホームカミングデイの母校との共催

②会員の生涯学習と専門職としての交流・研鑽をすすめる研修会等の事業

③クラブ・サークル同窓会、年次同窓会、地域同窓会及び本学校法人内教育機関卒業生の同窓会との共同事業および支援

④その他会員親睦のための事業

三 母校発展のための諸事業

①在籍生の教育・就職・ボランティア活動等に対する協力

②母校の研究者との共同研究

③リカレント教育、公開講座等に対する協力および参加

④保護者懇談会、入試説明会等に関する協力および広報

⑤その他母校発展に寄与する事業

四 その他本会の目的達成に必要な事業

(会費)

第8条 正会員は終身会費として16,000円を納入しなければならない。但し、準会員として納付した金額は終身会費の全部または一部に充当することができる。

2 準会員は授業料と同時に、4年を限度に各年度の会費として4,000円を納付しなければならない。

3 特別会員は会費を免除する。

4 本会に納付した会費は原則として返却しない。

(会計)

第9条 本会の会計年度は毎年4月1日より始まり翌年3月31日に終わる。

2 本会の運営に要する経費は、会費、

寄付金及びその他の収入をもって充てる。

(役員)

第10条 本会は次の役員を置く。

- 一 会 長 1名 正会員より総会において選出する。
- 二 副会長 若干名 正会員より総会において選出する。
- 三 代表幹事 若干名 部会及び支部から選出された者の他、各卒業年次の幹事及び特別会員より総会において選出することができる。
- 四 会 計 2名 1名は正会員より、他の1名は特別会員より総会において選出する。
- 五 監 査 2名 正会員より総会において選出する。
- 六 幹 事 各卒業年次の学科ごとに幹事1名を選出する。
- 七 顧 問 若干名 特別会員より会長が依嘱する。

(役員の任務)

第11条 役員の任務は次のとおりとする。

- 一 会長は本会を代表し、会務を統括する。
- 二 副会長は会長を補佐するとともに、会長事故あるときはその職務を代行する。
- 三 代表幹事は本会の運営に関する会務の執行にあたる。
- 四 会計は本会の収支、会計を掌る。
- 五 監査は会計の監査を行う。
- 六 幹事は、各卒業年次の同窓会を適宜開催する。
- 七 顧問は、会長及び役員会の諮問に応じ、又これに意見を述べることができる。

(役員の任期)

第12条 役員の任期は1ヶ年とする。但し再任は妨げない。

2 役員は辞任又は任期満了の場合においても、後任者が就任するまでは、その職務を遂行しなければならない。

(総会)

第13条 総会は定期総会と臨時総会がある。

2 総会は会長が招集し、議長は会長が務める。

3 定期総会は毎事業年度終了後速やかに開催しなければならない。

4 臨時総会は会長が必要と認めた場合のほか、過半数の幹事から書面による開催要請があった場合には速やかに開催しなければならない。

5 総会の議事は議長を除く出席正会員の過半数によって決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

(総会の議決事項)

第14条 次に掲げる事項は、総会の議決を経なければならない。

- 一 会則の改定
- 二 事業計画及び予算
- 三 事業報告及び決算
- 四 役員の選出
- 五 本会の解散
- 六 その他役員会において必要と認めた事項

(役員会)

第15条 会長、副会長、代表幹事、会計、監査の役員をもって役員会を構成する。

2 役員会は会長が随時招集し、会務の企画及び実施に関する事項を協議する。

附 則

この会則は平成19年5月27日より施行する。

附 則

この会則は平成20年5月24日より施行する。

附 則

この会則は平成21年7月12日より施行する。

学歌・応援歌

畿央大学 学歌

作 詞 冬 木 智 子

作 曲 荒 井 敦 子

一 ^{あかね}茜さす ^ねふたかみの峯に ^{くもとお}雲遠く

^{もと}求めつづけし ^{き ぼう ひかり}希望の光

^{せ かい しあわ}世界に幸せ ^の伸ばしてゆかん

^{われ}我らここに輝け ^{かがや き おうだいがく}畿央大学

二 ^{はて}果てしなき ^{せいしゆん ゆめ}青春の夢を求めて

^{ひ び}たゆまぬ日々 ^のみのりのちから

^{しん り}真理のみちを ^のみがきてゆかん

^{われ いま かがや}我ら今ぞ輝け ^{き おうだいがく}畿央大学

三 ^あまなこ上げ ^{い の ち}ときめきて 生命きらめき

^{いずみ}つきせぬ泉 ^{い ごと}わき出でる如く

^{うる}美わしすがた ^{つく}創りてゆかん

^{われ と わ かがや}我ら永久に輝け ^{き おうだいがく}畿央大学

^{われ と わ かがや}我ら永久に輝け ^{き おうだいがく}畿央大学

畿央大学 学歌

作詞：冬木 智子
作曲：荒井 敦子

G Bm C C#dim D7sus4 D7

1:あか ね さ す ふ た か み の ね に く も と お く も と
2:はて し な き せ い し ゅ ん の ゆ め を も と め て た ゆ き
3:まな こ あ げ と き め き て い の ち き ら め き つ き

G Bm E7 Am6 D7 G

め つ づ け し き ぼ う の ひ か り
ま め ひ び に み の り の ひ ち か ら
せ め い ず み わ き い で る じ と く

B7 Em7 A7 D7 C#dim D7

せ し か い に し あ わ せ の ば し て > か ー ん わ れ
う る ゐ り の し み ち ー を み が き て > ゆ か ー ん わ れ
う る わ し す が ー た つ く り て > ゆ か ー ん わ れ

G G# F# Bm7 F E7 D7sus4 D7 G

ら こ こ に か が や け
ら い ま ぞ か が や け
ら と わ に か が や け
き お う だ い が く

畿央大学 応援歌

作 詞 冬 木 智 子

作 曲 大 中 恩

一 たぎり立つ ^{せいしゆん ちしお} 青春の血潮 さわかに

^{でんとう} 伝統きづく ^{われ ちから} 我らが力

いざ ^{わこうど} たけき若人

いざいざ^{しめ}示さん ^{き おうだいがく} 畿央大学

二 ^{ひかり} 光あり ^{いのち} 生命きらめく ^{おおぞら} 大空に

^{もろて} 両手をあげて ^{われ きが} 我らが気概

いざ ^{とうし むね} 闘志を胸に

いざいざ^む向かわん ^{き おうだいがく} 畿央大学

三 ^{えいこう} 栄光の ^{ゆめ} 夢にむかいて ^{たか} 高らかに

まなこ^{かがや}輝く ^{われ} 我らが願い

いざ ^{とわ あゆ} 永久なる歩み

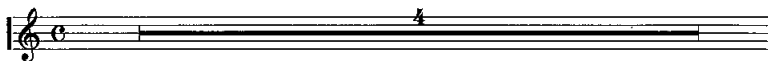
いざいざ^{きづ}築かん ^{き おうだいがく} 畿央大学

畿央大学 応援歌

冬木智子 作詞

大中 恩 作曲

♩ = 80



1. た ぎ り た つ せ い し ゅ ん の ち し お さ わ
2. (ひ) か り あ り い の ち き ら - め く お お
3. (え) い こ う の ゆ め に む か - い て た か



- や か に で ん と う き づ く わ れ ら が ち か
 ぞ ら に も ろ て を あ げ て き が
 ら か に ま な こ か が や く ね が



- ら い ざ た け き わ こ う ど い ざ い ざ し め さ ん
 い と う し を む ね に 向 か わ ん
 い と わ な る あ ゆ み 氣 づ か ん



き お う だ い が く

2. ひ

3. え

3. く

畿央大学 **学生ハンドブック2014**

2014年4月1日発行

編集・発行 畿央大学

〒635-0832 奈良県北葛城郡広陵町馬見中4-2-2

TEL 0745-54-1601 FAX 0745-54-1600

<http://www.kio.ac.jp/>



ロゴの解説

知的で清潔感のあるブルーに、爽やかなグリーンをプラス。

「健康」を科学するという新しい理念の大学にふさわしい、アカデミックで初々しいカラーリングで構成しています。

Kの一部とiの・を表わすグリーンの部分は、呼吸を司ることで植物の生命線ともいえる葉っぱを「健康」の象徴として使用し、それが未来に向って伸びやかに飛翔しているイメージを表現しています。



Handbook
for Students
2014